甲府市文化財調査報告 75

甲府城下町遺跡XIV

（甲府市相生２丁目 226 番地他）

－公共福祉施設建設に伴う旧相生小学校地点発掘調査報告書－

2015

甲府市
甲府市教育委員会
昭和測量株式会社

甲府市文化財調査報告 75

甲府城下町遺跡XIV

（甲府市相生２丁目 226 番地他）

－公共福祉施設建設に伴う旧相生小学校地点発掘調査報告書－

2015

甲府市
甲府市教育委員会
昭和測量株式会社

序

山梨県の中央部に位置する甲府市は、長野県境の秩父山系の金峰山を北辺とし、御坂山塊を南辺とする、南北約 42km、東西約 10km の細長い市域です。周囲は世界遺産に指定された富士山、南アルプスの山脈と秩父山系の山並が望め、国史跡甲斐銚子塚古墳、史跡武田氏館跡などの国史跡をはじめ、特別名勝御岳昇仙峡などが、歴史と自然豊かな山紫水明の土地です。

現在甲府には、旧石器時代から近世までの約４００地点の遺跡が確認されています。特に永正 16 年（1519）武田信虎が相川扇状地の躑躅ヶ崎の地に築いた武田氏の居館は、武田氏三代の政治・文化・経済の中心として栄え、「甲斐府中」として都市甲府の発展の礎となりました。この都市の発展は江戸時代の甲府城下町、そして近代から現代まで山梨県の県都として発展し、平成 31 年（2019）には「開府 500 年」の節目の年を迎えます。

本報告書は、平成 25 年度に実施した甲府市街地南部に位置する旧相生小学校跡地の発掘調査報告書です。当地は甲府城下町の南辺に位置する代官町であり、二の堀外の武家屋敷地でした。城下町南辺の大規模な調査としては嚆矢であり、建物跡・井戸・埋桶などの武家屋敷に関連する遺構と、大量の陶磁器が出土しています。

今後この検出された遺構・遺物が、開府 500 年を迎える甲府の歴史解明の一助となるとともに、生涯学習や今後の街づくりを考える上で活用され、より地域の歴史文化を再認識し深めていただければ幸甚です。

末筆ながら、ご協力を賜った関係機関各位並びに直接調査にあたられた方々に厚く御礼申し上げます。

平成 27 年３月

甲府市教育委員会
教育長　長谷川　義高

例　言

1．本書は、山梨県甲府市相生２丁目226番地他に所在する甲府城下町遺跡の発掘調査報告書である。
2．調査は、公共福祉施設建設に伴うものであり甲府市教育委員会が主体となり、業務委託を受けた昭和測量株式会社が実施した。
3．試掘調査は甲府市教育委員会文化課志村憲一が担当した。
4．発掘調査及び整理作業は甲府市教育委員会より委託を受けた昭和測量株式会社の泉英樹・髙野髙潔・小谷亮二が行った。整理作業にあたっては新津健の助言を受けた。
5．試掘調査は平成25年８月21日から８月23日まで実施した。発掘調査は平成25年11月11日から平成26年３月20日まで実施し、整理・報告書刊行業務は平成26年６月２日から平成27年３月13日まで実施した。
6．本書の執筆は、第１章第１節を志村憲一、第２章・第５章第１節を小谷亮二が担当し、第６章は株式会社パレオ・ラボに委託した。その他は泉英樹が担当した。
7．発掘調査の基準点測量は昭和測量株式会社が行った。出土遺物の保存処理は公益財団法人山梨文化財研究所が行い、自然科学分析は株式会社パレオ・ラボが行った。
8．遺跡におけるＸ・Ｙ座標は世界測地系座標を使用している。
9．発掘調査および報告書の作成にあたり次の方々にご教示とご協力を賜った。記して謝意を表する。（順不同、敬称略）
鈴木稔・畑大介・藤澤明（公益財団法人山梨文化財研究所）、堀内秀樹（東京大学埋蔵文化財調査室）
10．本調査における図面・写真・遺物はすべて甲府市教育委員会で保管している。

凡　例

本書における遺構・遺物の表示は以下の通りである。

1．遺構・遺物の挿図の縮尺は、各図にスケールバーで表示した。
2．遺構平面図の方位は原則的に図面上を座標北とした。
3．遺物番号は、出土地点ごとに連番で付した。遺物分布図・観察表および本文中の番号はそれぞれ対応している。
4．遺構及び遺物の色調は、『新版標準土色帖2010年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
5．断面図中の数値は、海抜高度（T.P.）を示す。
6．発掘調査で検出した遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに連番で番号を付した。本報告でも一部を除いては新たな番号を付与せず、発掘調査時点のものを使用した。そのため、井戸や埋桶についても略号はＳＫを使用している。報告文中では性格が判明した遺構についてはそれぞれ、「井戸」・「埋桶」などと明記した。
ＳＸ：遺物集中地点　ＳＢ：建物跡　ＳＫ：土坑　ＳＰ：柱跡・杭跡　ＳＤ：溝状遺構
7．遺物実測図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。
欠損部　　煤・炭化物

目　次

第１章　調査の経過
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の方法と基本層序
　第１節　調査の方法 …… 6
　第２節　基本層序 …… 6
第４章　遺構と遺物
　第１節　旧校舎基礎 …… 10
　第２節　遺物集中地点（ＳＸ１） …… 10
　第３節　建物跡（ＳＢ） …… 10
　第４節　土坑（ＳＫ） …… 12
　第５節　ピット列 …… 19
　第６節　溝状遺構（ＳＤ） …… 22
第５章まとめ
　第１節　土地利用の変遷 …… 154
　第２節　遺構について …… 158
引用・参考文献 …… 162
第６章自然科学分析
　第１節　土壌分析 …… 163
　第２節　微細物分析 …… 169
　第３節　元素マッピング分析 …… 172

挿図目次

第 1 図　遺跡の位置・周辺の遺跡分布図 …… 3
第 2 図　調査地点位置図 …… 4
第 3 図　試掘トレンチ位置図・グリッド設定図 7
第 4 図　基本層序 …… 8
第 5 図　遺構全体図 …… 9
第 6 図　旧校舎基礎（1） …… 25
第 7 図　旧校舎基礎（2） …… 26
第 8 図　旧校舎基礎（3） …… 27
第 9 図　遺物集中地点　SX1（1） …… 28
第 10 図　遺物集中地点　SX1（2） …… 29
第 11 図　建物跡（1）SB1 …… 30
第 12 図　建物跡（2）SB1 …… 31
第 13 図　建物跡（3）SB1 …… 32
第 14 図　建物跡（4）SB1 …… 33
第 14 図　建物跡（4）SB1 …… 33
第 15 図　建物跡（5）SB2 …… 34
第 16 図　建物跡（6）SB2 …… 35
第 17 図　建物跡（7）SB3 …… 36
第 18 図　建物跡（8）SB4 …… 37
第 19 図　建物跡（9）SB4 …… 38
第 20 図　土坑（1）SK1・27、SP67・70 …… 39
第 21 図　土坑（2）SK2・3（井戸）・4・5・17・20 …… 40
第 22 図　土坑（3）SK2・3（井戸）・4・5・17・20 …… 41
第 23 図　土坑（4）SK6 ～ 10 …… 42
第 24 図　土坑（5）SK11（井戸）～ 14 …… 43
第 25 図　土坑（6）SK16・18・19・21 …… 44

第26図　土坑(7) SK16・18・19・21 …… 45
第27図　土坑(8) SK22(埋桶) ～ 25・30… 46
第28図　土坑(9) SK26 …… 47
第29図　土坑(10) SK28・33(埋桶)・34・35(埋桶)・37・38 …… 48
第30図　土坑(11) SK36・50(井戸) …… 49
第31図　土坑(12) SK36・50(井戸) …… 50
第32図　土坑(13) SK39 ～ 41・44・45(埋桶)・SP35 …… 51
第33図　土坑(14) SK42・43(井戸)・46・47 …… 52
第34図　土坑(15) SK48・49・54 …… 53
第35図　土坑(16) SK51・53・55 …… 54
第36図　土坑(17) SK56(井戸) …… 55
第37図　ピット列(1) ピット列1～5 …… 56
第38図　ピット列(2) ピット列6～14 …… 57
第39図　ピット列(3) ピット列6～16 …… 58
第40図　溝状遺構(1) 溝状遺構位置図 …… 59
第41図　溝状遺構(2) 溝状遺構位置図 …… 60
第42図　溝状遺構(3) SD22 …… 61
第43図　溝状遺構(4) SD2 …… 62
第44図　溝状遺構(5) SD3・7～16 …… 63
第45図　溝状遺構(6) SD4～6・17・20～23 …… 64
第46図　遺構出土遺物(1) 旧校舎基礎・SX1 …… 65
第47図　遺構出土遺物(2) SX1 …… 66
第48図　遺構出土遺物(3) SX1 …… 67
第49図　遺構出土遺物(4) SX1 …… 68
第50図　遺構出土遺物(5) SX1 …… 69
第51図　遺構出土遺物(6) SX1 …… 70
第52図　遺構出土遺物(7) SX1 …… 71
第53図　遺構出土遺物(8) SX1 …… 72
第54図　遺構出土遺物(9) SX1 …… 73
第55図　遺構出土遺物(10) SX1 …… 74
第56図　遺構出土遺物(11) SX1 …… 75
第57図　遺構出土遺物(12) SX1 …… 76
第58図　遺構出土遺物(13) SX1 …… 77
第59図　遺構出土遺物(14) SX1 …… 78
第60図　遺構出土遺物(15) SX1 …… 79
第61図　遺構出土遺物(16) SX1 …… 80
第62図　遺構出土遺物(17) SX1 …… 81
第63図　遺構出土遺物(18) SX1 …… 82
第64図　遺構出土遺物(19) SX1 …… 83
第65図　遺構出土遺物(20) SX1 …… 84
第66図　遺構出土遺物(21) SX1 …… 85
第67図　遺構出土遺物(22) SX1 …… 86
第68図　遺構出土遺物(23) SB1・SB2・SK1 …… 87
第69図　遺構出土遺物(24) SK1 …… 88
第70図　遺構出土遺物(25) SK1・SK2 …… 89
第71図　遺構出土遺物(26) SK3(井戸) …… 90
第72図　遺構出土遺物(27) SK3(井戸) …… 91
第73図　遺構出土遺物(28) SK4～6・SK8・SK11(井戸) …… 92
第74図　遺構出土遺物(29) SK11(井戸)・SK12 …… 93
第75図　遺構出土遺物(30) SK13・SK17… 94
第76図　遺構出土遺物(31) SK18 …… 95
第77図　遺構出土遺物(32) SK18 …… 96
第78図　遺構出土遺物(33) SK18 …… 97
第79図　遺構出土遺物(34) SK18・SK19　98
第80図　遺構出土遺物(35) SK19 …… 99
第81図　遺構出土遺物(36) SK19・SK20・SK22(埋桶) …… 100
第82図　遺構出土遺物(37) SK22(埋桶) … 101
第83図　遺構出土遺物(38) SK23 …… 102
第84図　遺構出土遺物(39) SK23 …… 103
第85図　遺構出土遺物(40) SK23～25 …… 104
第86図　遺構出土遺物(41) SK26・SK31・SK33(埋桶) …… 105
第87図　遺構出土遺物(42) SK35(埋桶)・SK36(井戸)・SK38・SK40～SK42・SK43(井戸)・SK44・SK45(埋桶) …… 106
第88図　遺構出土遺物(43) SK46～48 …… 107
第89図　遺構出土遺物(44) SK48 …… 108
第90図　遺構出土遺物(45) SK48・SK50(井戸)・SK51・SK52 …… 109

第91図　遺構出土遺物(46) SK52……110
第92図　遺構出土遺物(47) SK52・SK55…111
第93図　遺構出土遺物(48) SK55・
ピット列9・ピット ……112
第94図　遺構出土遺物(49) ピット・SD2… 113
第95図　遺構出土遺物(50) SD2 ……114
第96図　遺構出土遺物(51) SD3・SD4 ……115
第97図　遺構出土遺物(52) SD4 ……116
第98図　遺構出土遺物(53) SD4 ……117
第99図　遺構出土遺物(54) SD5 ……118
第100図　遺構出土遺物(55) SD5・SD6 ……119
第101図　遺構出土遺物(56) SD10……120
第102図　遺構出土遺物(57) SD10・SD11・
SD19・SD20・SD21・SD23…… 121
第103図　遺構外出土遺物(1) ……122
第104図　遺構外出土遺物(2) ……123
第105図　遺構外出土遺物(3) ……124
第106図　遺構外出土遺物(4) ……125
第107図　遺構外出土遺物(5) ……126
第108図　遺構外出土遺物(6) ……127
第109図　遺構外出土遺物(7) ……128
第110図　遺構外出土遺物(8) ……129
第111図　木製品(1)
SX1・SK3(井戸)・SK18 ……130
第112図　木製品(2) SK19・SK21・
SK22(埋桶) ……131
第113図　木製品(3) SK22(埋桶)・
SK26・SK30 ……132
第114図　木製品(4) SK30・SK33(埋桶)　133
第115図　木製品(5) SK35(埋桶) ……134
第116図　木製品(6) SK35(埋桶) ……135
第117図　木製品(7) SK36(井戸)・SK41・
SK45(埋桶) ……136
第118図　木製品(8) SK45(埋桶) ……137
第119図　木製品(9) SK49・SK50(井戸)… 138
第120図　木製品(10) SK50(井戸) ……139
第121図　木製品(11) SK50(井戸)・SK53・
SK56(井戸) ……140
第122図　木製品(12) SP97・SP275・
SP276・SD4・SD5・SD11 ……141
第123図「甲斐府中(『諸国当城之図』)
トレース図……142
第124図「柳沢期ノ甲府ノ郭内郭外図」
トレース図……142
第125図「甲府城下絵図」トレース図 ……143
第126図「元文三年甲府城下町絵図」
トレース図……143
第127図『改正新刻甲府市街全図』
(明治29年)トレーズ図 ……143
第128図「相生尋常小学校落成記念」
絵はがき ……144
第129図「相生尋常小学校校舎地
六百分ノ一平面図(其一)」……144
第130図「相生子守学校　遊戯風景」(写真)
(大正武年) ……145
第131図「商都甲府市家屋図」と
調査区合成図 ……145
第132図　遺構間接合遺物・蓮月焼・碗形容器
出土位置 …… 160
第133図　遺構の時期変遷 …… 161

表目次

第1表　周辺の遺跡 …… 5
第2表　遺物観察表(1) ……142
第3表　遺物観察表(2) ……143
第4表　遺物観察表(3) ……144
第5表　遺物観察表(4) ……145
第6表　遺物観察表(5) ……146
第7表　遺物観察表(6) ……147
第8表　遺物観察表(7) ……148
第9表　遺物観察表(8) ……149
第10表　遺物観察表(9) ……150
第11表　遺物観察表(10)……151
第12表　遺物観察表(11)……152
第13表　遺物観察表(12)……153

写真図版

図版１　調査区全景
図版２　調査区全景
　　調査区近景
　　基本層序
図版３　旧校舎基礎検出
　　旧校舎基礎セクション面
　　旧校舎基礎　杭検出
　　旧校舎基礎杭セクション面
図版４　SX1 遺物出土状況
　　SX1 遺物・貝層出土状況
図版５　SB1　SB1 地鎮具
　　SB1 SP22
図版６　SB1 SP29　SB1 SP23
　　SB1 SP30　SB1 SP27
図版７　SB2 SP19　SB2 SP20
図版８　SB2 SP218 遺物出土状況
　　SB3　SB3 SP136
　　SB3 SP138　SB3 SP248
　　SB3 SP250　SB3 SP251
図版９　SB4　SB4 SP146
　　SB4 SP154　SB4 SP156
　　SB4 SP178　SB4 SP179
　　SK2　SK3
図版 10 SK3（井戸）SK4　SK5　SK7
　　SK8　SK9　SK10
図版 11 SK10　SK11（井戸）SK12　SK13
図版 12 SK13　SK16　SK17　SK18
図版 13 SK18　SK19　SK22
図版 14 SK22　SK23　SK24
図版 15 SK25　SK26　SK27
図版 16 SK28　SK30　SK33
図版 17 SK33　SK35（埋桶）SK36（井戸）
図版 18 SK36　SK37　SK38
図版 19 SK39　SK40・41　SK43（井戸）
図版 20 SK43　SK45（埋桶）SK46　SK47
図版 21 SK48　SK49　SK50（井戸）
図版 22 SK50（井戸）SK51　SK53　SK54
図版 23 SK55　SK56
　　ピット列１・２
　　ピット列４・５
図版 24 ピット列４・５
　　ピット列６・７
　　ピット列８・９
　　ピット列 10・11・12
　　ピット列 13・14・15
　　ピット列 16　SP52
図版 25 SD2　SD3　SD4
図版 26 SD4　SD5　SD6
図版 27 SD6　SD9　SD10　SD11
図版 28 SD15　SD16　SD17
　　SD21　SD22　SD23
図版 29 調査前風景
　　調査風景
　　調査後風景
図版 30 遺物写真　旧校舎基礎・SX1
図版 31 遺物写真　SX1
図版 32 遺物写真　SX1
図版 33 遺物写真　SX1
図版 34 遺物写真　SX1
図版 35 遺物写真　SX1
図版 36 遺物写真　SX1
図版 37 遺物写真　SX1
図版 38 遺物写真　SX1
図版 39 遺物写真　SX1
図版 40 遺物写真　SX1
図版 41 遺物写真　SX1
図版 42 遺物写真　SX1
図版 43 遺物写真　SX1
図版 44 遺物写真　SX1　SB1　SB2　SK1
図版 45 遺物写真　SK1・SK2
図版 46 遺物写真　SK3（井戸）SK4　SK5
図版 47 遺物写真　SK6　SK8　SK11（井戸）SK12
図版 48 遺物写真　SK13　SK17　SK18
図版 49 遺物写真　SK18　SK19
図版 50 遺物写真　SK19　SK20　SK22（埋桶）

図版 51　遺物写真　SK23
図版 52　遺物写真　SK24 ～ 26　SK31　SK33
SK35（埋桶）　SK36（井戸）　SK38
SK40 ～ 42　SK43（井戸）
SK45（埋桶）　SK46
図版 53　遺物写真　SK47　SK48
図版 54　遺物写真　SK50（井戸）～ 52
図版 55　遺物写真　SK55　ピット列 9 SP49
SP67　SP76　SP97　SP160
SP173　SP199　SP227
SP306　SP364
図版 56　遺物写真　SD2　SD3　SD4
図版 57　遺物写真　SD4
図版 58　遺物写真　SD4　SD5　SD6
図版 59　遺物写真　SD6　SD10
図版 60　遺物写真　SD11　SD19　SD20　SD21
SD23　遺構外
図版 61　遺物写真　遺構外
図版 62　遺物写真　遺構外
図版 63　遺物写真　遺構外
図版 64　遺物写真　遺構外
図版 65　遺物写真　木製品　SX1　SK3　SK18
SK19　SK21　SK22
図版 66　遺物写真　木製品　SK22（埋桶）
SK26　SK30
図版 67　遺物写真　木製品　SK33　SK35（埋桶）
図版 68　遺物写真　木製品　SK35（埋桶）
図版 69　遺物写真　木製品　SK36（井戸）
SK41　SK45（埋桶）
SK49　SK50（井戸）
図版 70　遺物写真　木製品　SK50（井戸）
図版 71　遺物写真　木製品　SK50（井戸）
SK53　SK56
SP97　SP275
SP276　SD4
SD5　SD11

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

平成 17 年３月、相生小学校は 100 年以上の歴史をとじ閉校となり、その後跡地は甲府市役所仮庁舎として使用されるなどしたが、跡地利用として公共福祉施設の建設が実施されることとなった。平成 25 年４月 18 日付け福発第 359 号で甲府市長宮島雅展より文化財保護法第 94 条第１項に基づく埋蔵文化財発掘通知が山梨県教育委員会宛に提出された。山梨県教育委員会から平成 25 年５月 13 日付け教学文第 584 号で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知に基づき、甲府市教育委員会文化課と甲府市福祉部高齢者福祉課は、埋蔵文化財の調査に関して協議を行い調査を実施することとなった。

試掘調査は、平成 25 年８月 21 日から 23 日の３日間をかけて実施し、遺跡の時代・内容、遺構の残存状況などの把握を行った。試掘調査の結果、近世を中心とする遺構・遺物が確認されたため、関係部局と協議を行い開発により遺跡に重大な影響を与える建物建設範囲及び基礎掘削範囲を含め 1,760㎡を対象として本調査を実施することとなった。

本調査は、甲府市教育委員会が事業の執行委任を受け、発掘調査予算の執行にあたった。調査に関しては、甲府市教育委員会文化課が主体となって、昭和測量株式会社に業務委託し、平成 25 年 11 月 11 日から平成 26 年３月 20 日の期間実施した。また整理作業及び報告書作成業務に関しては、平成 26 年６月２日から平成 27 年３月 13 日まで上記業者に業務委託を行い実施した。

第２節　調査の経過

発掘調査は平成 25 年 11 月 11 日から平成 26 年３月 20 日まで実施した。11 月 18 日に調査区の設定を行い、重機を搬入して表土掘削を開始した。表土掘削は 27 日までに終了し、人力による遺構の検出と掘削作業を開始した。遺構掘削は平成 26 年２月４日まで行い、５日に遺構面の清掃作業を行ってラジヘリによる空中写真撮影を行った。空撮終了後、９日に予定されていた現地説明会のための会場設営を行ったが、２月８日の大雪で場内は 50cm 近い積雪となり現地説明会は中止となった。その後、14 日から 15 日未明にかけて甲府市内に再び 100cmに及ぶ積雪があり、作業は中止を余儀なくされた。融雪を待って３月４日に作業を再開し、井戸の断割などの調査の後、19 日まで埋め戻しを行って、ガードフェンスを撤去し機材を片付けて、20 日に現場を明け渡した。

整理作業は、現場調査と並行して平成 26 年３月 19 日まで遺物の水洗・注記・接合等の基礎整理を行った。報告書刊行に向けた本格的な整理作業は、平成 26 年６月２日から開始した。遺物の写真撮影・実測・トレースなどから作業をはじめ、順次、遺構図の編集作業や図版・挿図の作成、報告書の本文執筆を進め、平成 27 年３月 13 日まで作業を行った。

【調査体制】

調査担当者　志村憲一（甲府市教育委員会）
　　泉　英樹・髙野高潔・小谷亮二（昭和測量株式会社文化財調査課）

整理作業助言　新津　健（昭和測量株式会社文化財調査課）

発掘補助員　池谷千代子・伊藤津真子・大森透江・長田秋文・小澤美幸・北野礼子・小池幹子・小林としみ・齊藤里美・田中孝雄・千野富子・内藤敏夫・広瀬ありさ・松本榮一・宮原雄二・望月一正・望月敏子・米山孝子・渡辺麗子

整理補助員　上島光子・大森透江・小澤美幸・栗田かず子・齊藤里美・広瀬ありさ・藤原由香・三木一恵・渡辺麗子

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境（第１図）

甲府城下町遺跡は、16 世紀末から造営された近世城下町である。甲府盆地の北部山地から注ぐ相川によって形成された扇状地の扇端部に位置し、西側に相川、南側に荒川、北東側に愛宕山の縁辺部を東へ走る藤川が流れ、それらの河川に囲まれた範囲に立地している。愛宕山（標高 423 m）から西南方向には、甲府城が築かれた一条小山（標高 304 m）が連なっている。

調査地点は、甲府城下町の南端部に位置し、甲府城の二の堀の外側の武家屋敷地に該当する。甲府城下町遺跡の扇状地斜面は、標高 260 m～ 300 mを測るが、調査地点の標高は、遺構検出面で 261.9 ～ 262.1 mである。

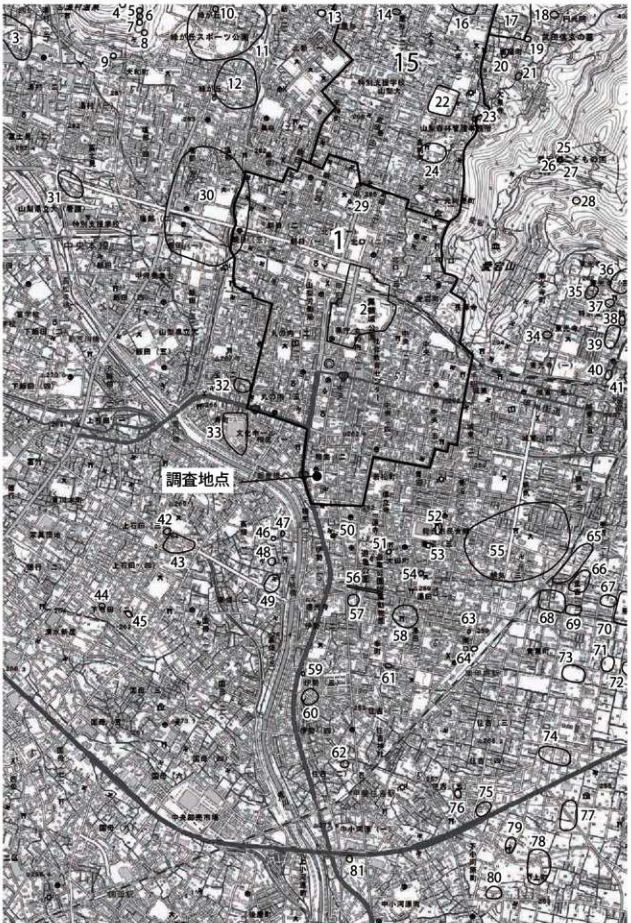
第２節　歴史的環境（第１・２図・第１表）

縄文時代～平安時代　甲府盆地および盆地の北から東に位置する丘陵には、縄文時代～近世に至るまで多くの遺跡が分布している。甲府城下町およびその周辺における調査では、縄文時代～平安時代の遺跡は部分的に確認されているものの数は多くない。ただし扇状地上の他の遺跡では、弥生時代から古墳時代あるいは平安時代までの複合遺跡があり、盆地の南側でも多くの古墳時代の遺跡が分布する。扇状地という立地条件や河川の流路の変動、中・近世における土地利用改革の影響を受けなければさらに多くの遺跡が分布していたと思われる。

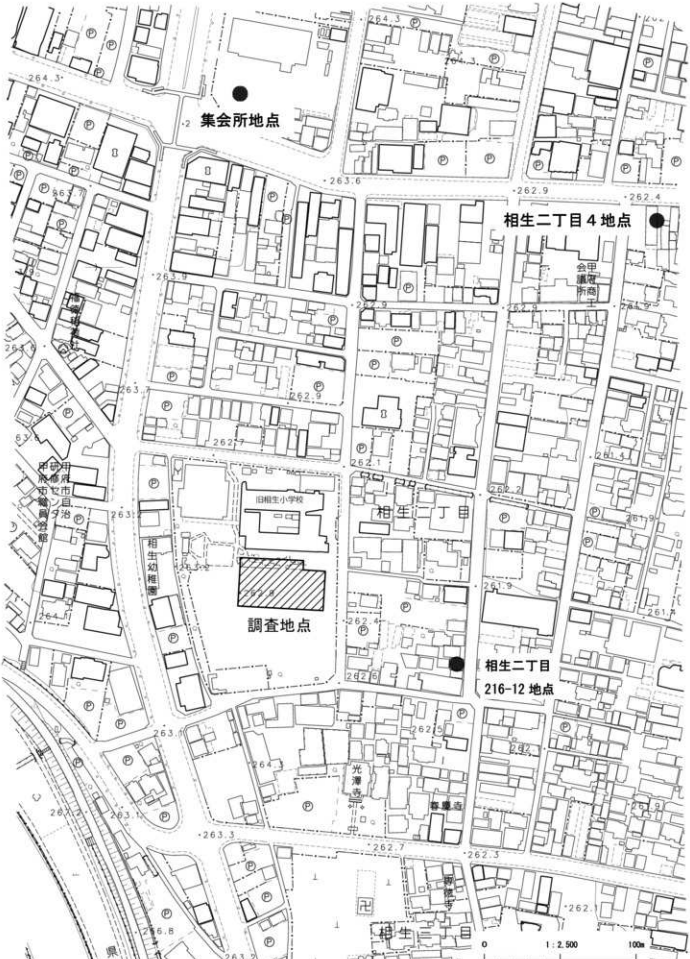
中世　武田城下町遺跡（15）は、武田信虎が石和から躑躅ヶ崎へ本拠地を移したことにより開かれ整備された城下町である。武田城下町の南側は、近世の甲府城下町遺跡と重なっている。緑ヶ丘二丁目遺跡（11）からは平成６年の第３次調査で人骨が検出された。人骨は屈葬で中世の土坑墓と想定される。遺跡の北に位置する法泉寺に関係する墓地の一つの可能性がある。山梨大学遺跡（22）は武田城下町遺跡の中でも南北基軸街路の一つである鍛冶小路に面している。秋山氏館跡（49）からは墓坑 23 基、茶毘状遺構２基、区画溝、井戸跡、建物跡が検出されている。15 世紀には墓域であったが、その後近世の屋敷地へ変化したと思われる。家之前遺跡（66）からは、平成 15 年の調査で 15 世紀後半の遺物が出土している。

近世　甲府城下町遺跡（１）は、一条小山に総石垣の平山城として整備された甲府城（２）の周囲に、三重の堀を巡らせて区画された城下町である。二の堀内は武家屋敷地、その外側は町人地とされた。また荒川より取水した甲府上水が敷設されていた。17 世紀代の幕府直轄領時代、18 世紀初めの柳沢支配の時代を経て、再び幕府の治めるところとなり、幕末まで甲府勤番が設置された。永慶寺跡（17）は、柳沢吉保の菩提寺として建立された。寿町遺跡（33）は江戸時代には甲州街道が区域内を東西に貫通しており、街道沿いは飯田新町などの町屋が存在していた。昭和 62 年の試掘調査では江戸期以降の敷石と遺物が出土している。

今回の調査地点は、甲府城下町遺跡の南端に位置し、二の堀の外側の武家屋敷地に該当する。近隣では、集会所地点や相生二丁目４地点、相生二丁目 216-12 地点で発掘調査が行われている。旧相生小学校地点の北約 300 m の位置にある集会所地点は、二の堀の南端部に該当する。上水跡や井戸、埋桶、埋甕、廃棄土坑、建物跡、二の堀など近世から近代を中心とした遺構が検出されている。



第１図　遺跡の位置・周辺の遺跡分布図　S=1/25000


集会所地点
相生二丁目４地点
相生二丁目
旧相生小学校
相生幼稚園
調査地点
相生二丁目
216-12 地点
光瀬寺
春運寺
相生
0
1：2,500
100m

第２図　調査地点位置図

第１表　周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代	種別
1	甲府城下町遺跡	近世	集落跡
2	甲府城跡	近世	城館跡
3	八幡東遺跡	弥生・古墳	散布地
4	湯村山５号墳	古墳時代	古墳
5	湯村山４号墳	古墳時代	古墳
6	湯村山３号墳	古墳時代	古墳
7	湯村山２号墳	古墳時代	古墳
8	湯村山１号墳	古墳時代	古墳
9	万寿森古墳	古墳時代	古墳
10	和田無名墳	古墳時代	古墳
11	緑ヶ丘二丁目遺跡	古墳～平安	古墳
12	緑ヶ丘一丁目遺跡	古墳時代	散布地
13	向田Ｂ遺跡		散布地
14	長関遺跡	中世	包蔵地
15	武田城下町遺跡	中世	集落跡
16	大手下遺跡	縄文時代	散布地
17	永慶寺跡	中世	寺院跡
18	岩窪Ｃ遺跡	古墳時代	散布地
19	中道東遺跡	近世	散布地
20	中道西遺跡	古墳時代	散布地
21	岩窪遺跡	奈良・平安・中世	包蔵地
22	山梨大学遺跡	奈良・平安	包蔵地
23	コツ塚古墳	古墳時代	古墳
24	八幡神社遺跡	縄文時代	散布地
25	二ッ塚２号墳	古墳時代	古墳
26	二ッ塚１号墳	古墳時代	古墳
27	二ッ塚３号墳	古墳時代	古墳
28	大笠山水の元遺跡	古墳時代～	散布地
29	新紺屋小学校遺跡	近世	散布地
30	塩部遺跡	弥生～平安	包蔵地
31	富士見遺跡	古墳・平安	散布地
32	宝町遺跡	縄文・平安	包蔵地
33	寿町遺跡	古墳時代～	包蔵地
34	御崎田遺跡	平安時代	散布地
35	亥ノ兎遺跡	平安時代～	散布地
36	地蔵北遺跡	古墳～平安	散布地
37	大六天遺跡	平安時代～	散布地
38	宮裏遺跡	平安時代～	散布地
39	銀杏之木遺跡	平安～近世	散布地
40	東光寺遺跡	平安時代～	散布地
41	宮の前遺跡	縄文時代	散布地
42	上石田Ｂ遺跡	平安時代	散布地
43	上石田遺跡	縄文時代	集落跡
44	上河原遺跡	平安時代～	散布地
45	渋沢遺跡	平安時代～	散布地
46	大北河原遺跡	平安時代	散布地
47	久保北河原遺跡	平安時代	散布地
48	渋沢遺跡	平安時代～	散布地
49	秋山氏館跡	中世	城館跡
50	千松院遺跡	中世～	散布地
51	太田町遺跡	古墳時代～	散布地
52	青沼遺跡	古墳時代	包蔵地
53	青沼三丁目遺跡	中世～	散布地
54	湯田一丁目遺跡	古墳時代	散布地
55	朝気遺跡	縄文～平安	集落跡
56	伊勢町遺跡	古墳時代	包蔵地
57	食糧工場遺跡	縄文・弥生	包蔵地
58	幸町Ａ遺跡	弥生時代	包蔵地
59	木保遺跡	近世	散布地
60	般舟院跡	中世	寺院跡
61	幸町Ｂ遺跡	古墳時代	散布地
62	住吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
63	南口町Ａ遺跡	平安時代	散布地
64	南口町Ｂ遺跡	平安時代	散布地
65	里吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
66	家之前遺跡	平安時代	散布地
67	字前Ａ遺跡	古墳時代	散布地
68	十丁遺跡	古墳時代	散布地
69	十丁Ｂ遺跡	古墳時代	散布地
70	字前Ｂ遺跡	古墳時代	散布地
71	北桜遺跡	平安時代	散布地
72	野村遺跡	古墳～平安	散布地
73	青葉町遺跡	平安時代	散布地
74	二又遺跡	古墳時代	包蔵地
75	宮田遺跡	弥生・平安	散布地
76	上ノ木遺跡	古墳～平安	散布地
77	明石西河原遺跡	平安時代	散布地
78	上町天神遺跡	古墳～平安	散布地
79	大土井遺跡	平安時代	散布地
80	土尻遺跡	中世	散布地
81	小宮氏館跡	中世	城館跡

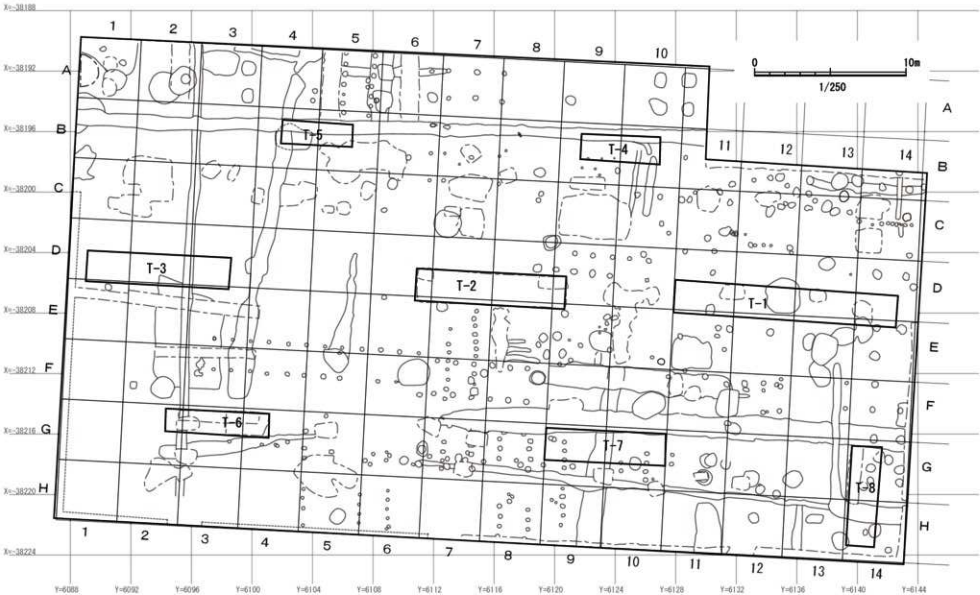
第３章　調査の方法と基本層序

第１節　調査の方法（第３図）

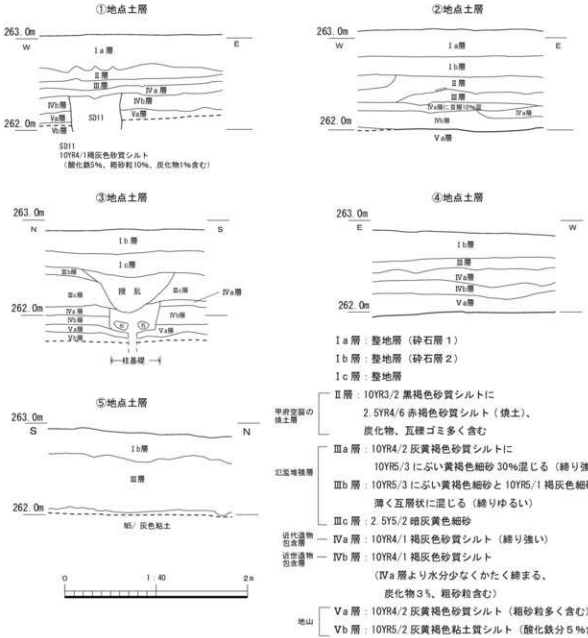
表土除去には重機を使用した。調査区は、旧相生小学校の校庭となっていた場所の北半部である。その整地層や昭和 20 年７月の甲府空襲による焼土層、明治時代の氾濫堆積層と考えられた砂層については、重機を使用して掘り下げ、試掘結果などから江戸時代の包含層とみられた層を 10cmほど残して掘削を止めた。排土は、校庭の南半部を排土置き場とし、ダンプを使用して搬出した。排土置き場は、近隣住民に配慮してシート養生を施し、砂塵の飛散防止に努めた。重機掘削後、場内にグリッド杭を打設した。グリッドは調査区の形状に沿った形の任意グリッドで４ｍメッシュとした。調査区の形状は現状の街路の軸に沿っているため、グリッドの軸方向は現状の街路の軸方向とほぼ同一となる。グリッド設定後、調査区の壁際にサブトレンチを設定し土層観察を行いながら、人力で包含層を掘り下げて遺構検出面を決定した。グリッドは、この包含層の掘り下げの際に出土した遺構外の遺物の取上げに主に使用している。遺構検出面の精査を行った後は、それぞれの遺構の土層断面の記録をとりつつ調査をすすめた。遺構の測量は、土層断面は手実測にて行い、平面図はトータルステーションによる測量と手実測、写真実測を併用した。遺物はトータルステーションを使用して位置を記録して取上げ、小片や遺構外出土の遺物については各遺構又はグリッドごとの一括取上げ遺物とした。トータルステーションは SOKIA CX105 を使用し、図化システムとして CUBIC 社「遺構くん」を用いた。また、遺構・遺物の写真撮影にはデジタル一眼レフカメラ（NikonD7000）を使用した。また、遺構完掘後には、ラジヘリによる空中写真撮影を実施し、その後、井戸や埋桶等の断割調査を行った。下層の層位については、調査区壁際に設定したサブトレンチや断割調査の際に確認した。

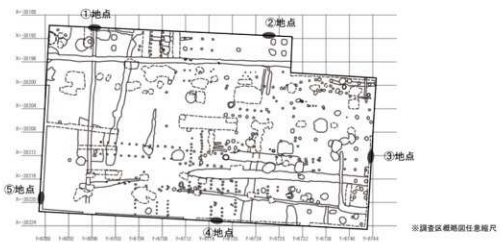
第２節　基本層序（第４図）

調査前の現況地盤の標高は 262.9 ～ 263.1 ｍで、遺構検出面の標高は 261.9 ～ 262.1 ｍを測る。基本層序は、調査区周りの壁を精査して観察した。東西南北の壁から５地点を図示した。現況地盤から 30 ～ 50cm ほどの厚さのⅠ層は、校庭又はアスファルト舗装下の整地層で、調査区北側では砕石層であった。Ⅱ層は、炭化物や瓦礫を多く含む焼土層で、昭和 20 年７月の甲府空襲によるものとみている。Ⅱ層は調査区の南側では確認されなかった。Ⅲ層は、にぶい黄褐色や暗灰黄色の細砂を基調とする砂層で、北側の①･②地点では 10 ～ 20cm ほどの層厚であるが、南西隅の⑤地点では約 60cm の厚さで堆積する。調査区の西には明治 39 年７月の水害を期とした築堤を記念した石碑が建っているが、Ⅲ層は水害による氾濫堆積層と考えられる。Ⅳ層は褐灰色砂質シルトを基調とする層で、上層をⅣａ層、下層をⅣｂ層とした。いずれも約 10cmほどの層厚で、硬く締まり、江戸時代から近代の遺物を包含している。Ⅳ層は調査区南西側では確認されず、Ⅲ層下がⅤ層または灰色粘土層となる。Ⅴ層は、灰黄褐色の砂質シルトまたは粘土質シルトである。Ⅴ層からは遺物の出土がなく、遺構検出は、Ⅳ層を精査しながら、遺構が確認できない場合はⅤ層の上面まで掘り下げて行った。Ⅴ層の下層は井戸の断割調査時等に確認した（第 22・24・31・36 図）。概観すると、Ⅴ層下には 30 ～ 40cm の層厚で黒褐色粘土層が堆積し、その下が灰白色粘土層となる。さらに検出面から 3.5 ｍほど下の砂礫層で湧水が確認でき、調査区内で検出した井戸は底面がこの深さに達している。

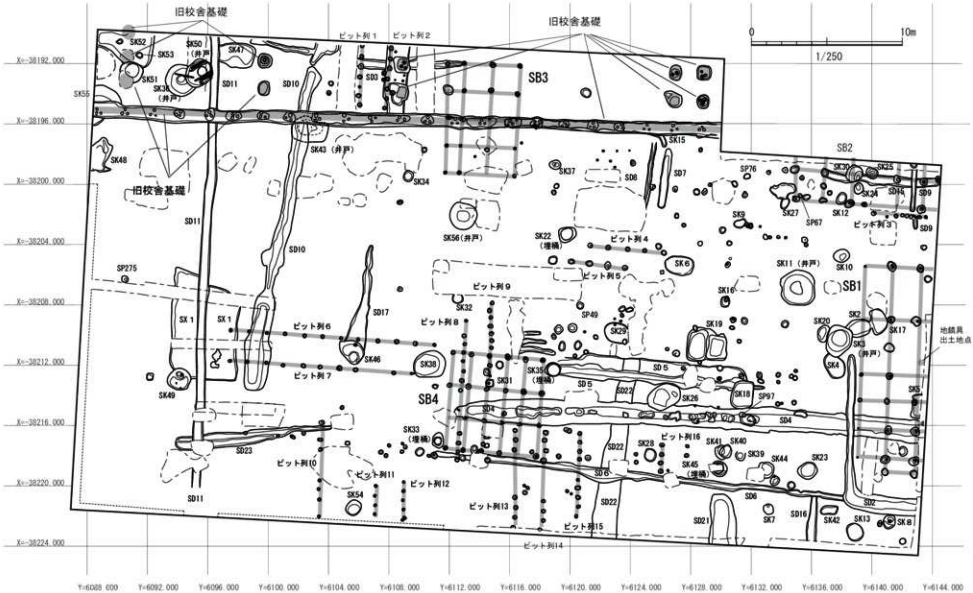


第３図　試掘トレンチ位置図・グリッド設定図


①地点土層
263.0m
W
E
Ⅰa層
Ⅱ層
Ⅲ層
Ⅳa層
Ⅳb層
Ⅳb層
Ⅴa層
Ⅴb層
SD11
262.0m
SD11
10YR4/1褐灰色砂質シルト
（酸化鉄5%、粗砂粒10%、炭化物1%含む）
②地点土層
263.0m
W
E
Ⅰa層
Ⅰb層
Ⅱ層
Ⅲ層
Ⅳa層に炭層10%混
Ⅳa層
Ⅳb層
Ⅴa層
262.0m
③地点土層
263.0m
N
S
Ⅰb層
Ⅰc層
第3層
第4層
第5層
第6層
掘 乱
Ⅳa層
Ⅳb層
Ⅳb層
Ⅴa層
Ⅴb層
Ⅴa層
262.0m
柱基礎
④地点土層
263.0m
E
W
Ⅰb層
Ⅲ層
Ⅳa層
Ⅳb層
Ⅴa層
262.0m
⑤地点土層
263.0m
S
N
Ⅰb層
Ⅲ層
262.0m
第5/ 灰色粘土
0
1:40
2m
Ⅰa層：整地層（砕石層1）
Ⅰb層：整地層（砕石層2）
Ⅰc層：整地層
甲府盆地の堆土層
Ⅱ層：10YR3/2黒褐色砂質シルトに
2.5YR4/6赤褐色砂質シルト（焼土）、
炭化物、瓦礫ゴミ多く含む
氾濫堆積層
Ⅲa層：10YR4/2灰黄褐色砂質シルトに
10YR5/3にぶい黄褐色細砂30%混じる（締り強い）
Ⅲb層：10YR5/3にぶい黄褐色細砂と10YR5/1褐灰色細砂が
薄く互層状に混じる（締りゆるい）
Ⅲc層：2.5Y5/2暗灰黄色細砂
近代遺物包含層
Ⅳa層：10YR4/1褐灰色砂質シルト（締り強い）
近世遺物包含層
Ⅳb層：10YR4/1褐灰色砂質シルト
（Ⅳa層より水分少なくかたく締まる、
炭化物3%、粗砂粒含む）
地山
Ⅴa層：10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（粗砂粒多く含む）
Ⅴb層：10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト（酸化鉄分5%含む）


①地点
②地点
③地点
④地点
⑤地点
※調査区概略図任意縮尺

第4図　基本層序


旧校舎基礎
旧校舎基礎
旧校舎基礎
0
10m
1/250
SB1
SB2
SB3
SB4
SB5
SB6
SB7
SB8
SB9
SB10
SB11
SB12
SB13
SB14
SB15
SB16
SB17
SB18
SB19
SB20
SB21
SB22
SB23
SB24
SB25
SB26
SB27
SB28
SB29
SB30
SB31
SB32
SB33
SB34
SB35
SB36
SB37
SB38
SB39
SB40
SB41
SB42
SB43
SB44
SB45
SB46
SB47
SB48
SB49
SB50
SB51
SB52
SB53
SB54
SB55
SB56
SB57
SB58
SB59
SB60
SB61
SB62
SB63
SB64
SB65
SB66
SB67
SB68
SB69
SB70
SB71
SB72
SB73
SB74
SB75
SB76
SB77
SB78
SB79
SB80
SB81
SB82
SB83
SB84
SB85
SB86
SB87
SB88
SB89
SB90
SB91
SB92
SB93
SB94
SB95
SB96
SB97
SB98
SB99
SB100
SB101
SB102
SB103
SB104
SB105
SB106
SB107
SB108
SB109
SB110
SB111
SB112
SB113
SB114
SB115
SB116
SB117
SB118
SB119
SB120
SB121
SB122
SB123
SB124
SB125
SB126
SB127
SB128
SB129
SB130
SB131
SB132
SB133
SB134
SB135
SB136
SB137
SB138
SB139
SB140
SB141
SB142
SB143
SB144
SB145
SB146
SB147
SB148
SB149
SB150
SB151
SB152
SB153
SB154
SB155
SB156
SB157
SB158
SB159
SB160
SB161
SB162
SB163
SB164
SB165
SB166
SB167
SB168
SB169
SB170
SB171
SB172
SB173
SB174
SB175
SB176
SB177
SB178
SB179
SB180
SB181
SB182
SB183
SB184
SB185
SB186
SB187
SB188
SB189
SB190
SB191
SB192
SB193
SB194
SB195
SB196
SB197
SB198
SB199
SB200
SB201
SB202
SB203
SB204
SB205
SB206
SB207
SB208
SB209
SB210
SB211
SB212
SB213
SB214
SB215
SB216
SB217
SB218
SB219
SB220
SB221
SB222
SB223
SB224
SB225
SB226
SB227
SB228
SB229
SB230
SB231
SB232
SB233
SB234
SB235
SB236
SB237
SB238
SB239
SB240
SB241
SB242
SB243
SB244
SB245
SB246
SB247
SB248
SB249
SB250
SB251
SB252
SB253
SB254
SB255
SB256
SB257
SB258
SB259
SB260
SB261
SB262
SB263
SB264
SB265
SB266
SB267
SB268
SB269
SB270
SB271
SB272
SB273
SB274
SB275
SB276
SB277
SB278
SB279
SB280
SB281
SB282
SB283
SB284
SB285
SB286
SB287
SB288
SB289
SB290
SB291
SB292
SB293
SB294
SB295
SB296
SB297
SB298
SB299
SB300
SB301
SB302
SB303
SB304
SB305
SB306
SB307
SB308
SB309
SB310
SB311
SB312
SB313
SB314
SB315
SB316
SB317
SB318
SB319
SB320
SB321
SB322
SB323
SB324
SB325
SB326
SB327
SB328
SB329
SB330
SB331
SB332
SB333
SB334
SB335
SB336
SB337
SB338
SB339
SB340
SB341
SB342
SB343
SB344
SB345
SB346
SB347
SB348
SB349
SB350
SB351
SB352
SB353
SB354
SB355
SB356
SB357
SB358
SB359
SB360
SB361
SB362
SB363
SB364
SB365
SB366
SB367
SB368
SB369
SB370
SB371
SB372
SB373
SB374
SB375
SB376
SB377
SB378
SB379
SB380
SB381
SB382
SB383
SB384
SB385
SB386
SB387
SB388
SB389
SB390
SB391
SB392
SB393
SB394
SB395
SB396
SB397
SB398
SB399
SB400
SB401
SB402
SB403
SB404
SB405
SB406
SB407
SB408
SB409
SB410
SB411
SB412
SB413
SB414
SB415
SB416
SB417
SB418
SB419
SB420
SB421
SB422
SB423
SB424
SB425
SB426
SB427
SB428
SB429
SB430
SB431
SB432
SB433
SB434
SB435
SB436
SB437
SB438
SB439
SB440
SB441
SB442
SB443
SB444
SB445
SB446
SB447
SB448
SB449
SB450
SB451
SB452
SB453
SB454
SB455
SB456
SB457
SB458
SB459
SB460
SB461
SB462
SB463
SB464
SB465
SB466
SB467
SB468
SB469
SB470
SB471
SB472
SB473
SB474
SB475
SB476
SB477
SB478
SB479
SB480
SB481
SB482
SB483
SB484
SB485
SB486
SB487
SB488
SB489
SB490
SB491
SB492
SB493
SB494
SB495
SB496
SB497
SB498
SB499
SB500
SB501
SB502
SB503
SB504
SB505
SB506
SB507
SB508
SB509
SB510
SB511
SB512
SB513
SB514
SB515
SB516
SB517
SB518
SB519
SB520
SB521
SB522
SB523
SB524
SB525
SB526
SB527
SB528
SB529
SB530
SB531
SB532
SB533
SB534
SB535
SB536
SB537
SB538
SB539
SB540
SB541
SB542
SB543
SB544
SB545
SB546
SB547
SB548
SB549
SB550
SB551
SB552
SB553
SB554
SB555
SB556
SB557
SB558
SB559
SB560
SB561
SB562
SB563
SB564
SB565
SB566
SB567
SB568
SB569
SB570
SB571
SB572
SB573
SB574
SB575
SB576
SB577
SB578
SB579
SB580
SB581
SB582
SB583
SB584
SB585
SB586
SB587
SB588
SB589
SB590
SB591
SB592
SB593
SB594
SB595
SB596
SB597
SB598
SB599
SB600
SB601
SB602
SB603
SB604
SB605
SB606
SB607
SB608
SB609
SB610
SB611
SB612
SB613
SB614
SB615
SB616
SB617
SB618
SB619
SB620
SB621
SB622
SB623
SB624
SB625
SB626
SB627
SB628
SB629
SB630
SB631
SB632
SB633
SB634
SB635
SB636
SB637
SB638
SB639
SB640
SB641
SB642
SB643
SB644
SB645
SB646
SB647
SB648
SB649
SB650
SB651
SB652
SB653
SB654
SB655
SB656
SB657
SB658
SB659
SB660
SB661
SB662
SB663
SB664
SB665
SB666
SB667
SB668
SB669
SB670
SB671
SB672
SB673
SB674
SB675
SB676
SB677
SB678
SB679
SB680
SB681
SB682
SB683
SB684
SB685
SB686
SB687
SB688
SB689
SB690
SB691
SB692
SB693
SB694
SB695
SB696
SB697
SB698
SB699
SB700
SB701
SB702
SB703
SB704
SB705
SB706
SB707
SB708
SB709
SB710
SB711
SB712
SB713
SB714
SB715
SB716
SB717
SB718
SB719
SB720
SB721
SB722
SB723
SB724
SB725
SB726
SB727
SB728
SB729
SB730
SB731
SB732
SB733
SB734
SB735
SB736
SB737
SB738
SB739
SB740
SB741
SB742
SB743
SB744
SB745
SB746
SB747
SB748
SB749
SB750
SB751
SB752
SB753
SB754
SB755
SB756
SB757
SB758
SB759
SB760
SB761
SB762
SB763
SB764
SB765
SB766
SB767
SB768
SB769
SB770
SB771
SB772
SB773
SB774
SB775
SB776
SB777
SB778
SB779
SB780
SB781
SB782
SB783
SB784
SB785
SB786
SB787
SB788
SB789
SB790
SB791
SB792
SB793
SB794
SB795
SB796
SB797
SB798
SB799
SB800
SB801
SB802
SB803
SB804
SB805
SB806
SB807
SB808
SB809
SB810
SB811
SB812
SB813
SB814
SB815
SB816
SB817
SB818
SB819
SB820
SB821
SB822
SB823
SB824
SB825
SB826
SB827
SB828
SB829
SB830
SB831
SB832
SB833
SB834
SB835
SB836
SB837
SB838
SB839
SB840
SB841
SB842
SB843
SB844
SB845
SB846
SB847
SB848
SB849
SB850
SB851
SB852
SB853
SB854
SB855
SB856
SB857
SB858
SB859
SB860
SB861
SB862
SB863
SB864
SB865
SB866
SB867
SB868
SB869
SB870
SB871
SB872
SB873
SB874
SB875
SB876
SB877
SB878
SB879
SB880
SB881
SB882
SB883
SB884
SB885
SB886
SB887
SB888
SB889
SB890
SB891
SB892
SB893
SB894
SB895
SB896
SB897
SB898
SB899
SB900
SB901
SB902
SB903
SB904
SB905
SB906
SB907
SB908
SB909
SB910
SB911
SB912
SB913
SB914
SB915
SB916
SB917
SB918
SB919
SB920
SB921
SB922
SB923
SB924
SB925
SB926
SB927
SB928
SB929
SB930
SB931
SB932
SB933
SB934
SB935
SB936
SB937
SB938
SB939
SB940
SB941
SB942
SB943
SB944
SB945
SB946
SB947
SB948
SB949
SB950
SB951
SB952
SB953
SB954
SB955
SB956
SB957
SB958
SB959
SB960
SB961
SB962
SB963
SB964
SB965
SB966
SB967
SB968
SB969
SB970
SB971
SB972
SB973
SB974
SB975
SB976
SB977
SB978
SB979
SB980
SB981
SB982
SB983
SB984
SB985
SB986
SB987
SB988
SB989
SB990
SB991
SB992
SB993
SB994
SB995
SB996
SB997
SB998
SB999
SB1000
ピット列1
ピット列2
ピット列3
ピット列4
ピット列5
ピット列6
ピット列7
ピット列8
ピット列9
ピット列10
ピット列11
ピット列12
ピット列13
ピット列14
ピット列15
ピット列16
地鎮具出土地点
X=-38192.000
X=-38196.000
X=-38200.000
X=-38204.000
X=-38208.000
X=-38212.000
X=-38216.000
X=-38220.000
X=-38224.000
Y=6088.000
Y=6092.000
Y=6096.000
Y=6100.000
Y=6104.000
Y=6108.000
Y=6112.000
Y=6116.000
Y=6120.000
Y=6124.000
Y=6128.000
Y=6132.000
Y=6136.000
Y=6140.000
Y=6144.000

第５図　遺構全体図

第４章　遺構と遺物

第１節　旧校舎基礎（第６～８・46 図）

調査区北側で検出した。ＳＤ１とＳＰ１～11 および３か所のコンクリート基礎からなる。ＳＤ１は調査区内を東西に走り、軸方向は現在の校舎の向きと同一である。10 ～ 20㎝の栗石が敷き詰められており、栗石を除くと３本一組の木杭をおおむね一間（1.8 m）の等間隔で検出した。断割確認したところ、一本の杭の長さは約 1.8 mであった。ＳＰ１～ 11 も同様に 10 ～ 20cm の栗石が込められていたが、栗石の下は木杭３本のもの、２本のもの、１本のもの、木杭がないものと様々であった。コンクリート基礎は、３か所で検出され、厚さ約 10cm のコンクリートの下に栗石が込められている。木杭は確認されなかった。ＳＤ１とコンクリート基礎は、それぞれ布掘り構造の基礎、ＳＰ１～ 11 は柱にあたる部分の基礎と推測する。調査区北壁の土層観察では、ＳＰ１とコンクリート基礎の上には、Ⅱ層の戦災焼土層が堆積する。

当地には明治 42 年に相生小学校が移転してきている。これらの基礎の上に建っていた構造物は、コンクリートが使用されていることから移転当時のものとは考えにくいが、昭和 20 年７月の甲府空襲で全焼した相生小学校の旧校舎に関わるものと考える。出土遺物は混入遺物と思われるが、陶器の碗を２点図示した（１・２）。

第２節　遺物集中地点　ＳＸ１（第９～ 10・46 ～ 67・111 図）

調査区西半部で検出した。平面形は不整形で、長軸７m、短軸 4.4 m、深さ 26㎝を測る。埋土は上層に暗灰黄色砂質シルト、下層に黄灰色砂質シルトが堆積する。遺構の立ち上がりは東肩が比較的明瞭であったのに対し西肩は不明瞭であった。また、ＳＸ１周辺は遺構が希薄で、特に南西方向に向かってはほとんど検出されなかった。これらの状況から調査時点では、南西の荒川方向に向かって、土地が低くなって湿地が広がり、その肩部から投棄された遺物が集中して検出された遺構と想定していたが、土壌分析の結果では池や湿地を示すような植生は確認されていない。

遺物の出土状況は、東半部に集中しており、磁器（１～ 135）、陶器（136 ～ 258）、土器（259 ～ 314）、土製品（315･316）、瓦（317 ～ 324）、石製品（325 ～ 333）、金属製品（334･335）、木製品（336 ～ 347）、シジミ貝が出土している。多様な日用雑器やシジミ貝が出土していること、瓦礫の出土は多くないことなどから、主に日常生活で使用したゴミが投棄された場所であったと考える。切り合いではＳＫ４９・ＳＤ 11・ピット列５・ピット列６に先行する。時期は、出土遺物から江戸時代後半と考える。

第３節　建物跡（ＳＢ）

柱の基礎と見られる木杭やその痕跡が検出され、ピットの並びが複数列にわたっていて建物を構成すると推定できるピット群を建物跡とした。調査区内で４軒検出している。ピットの並びが２列以下であったり、やや不規則なものはピット列として報告する。

ＳＢ１（第 11 ～ 14・68 図）

調査区東側で検出した。東側の調査区外へ延びていると推測するが、調査区内ではＳＰ 21 ～ 25・27 ～ 32・258・259・262 ～ 265・271 の 19 基のピットで建物を構成する。東西２間、南北７間で検出しており、南半部は東西、南北軸ともに１間（1.8 m）間隔の碁盤目状に並び、北半部では南北

軸の柱間が２間間隔となっている。主軸はＮ－2.5°－Ｅを指しており、現在の街路の軸方向と大きく変わらない。それぞれのピットには10～20cmの栗石が詰まっており、その下に杭痕が検出された。杭痕の深さは短いもので20cm、長いもので50cmである。これらのピットの栗石と杭痕は、柱の下部の基礎構造と考えられる。ＳＢ２の例などから、栗石の上に平らな石を置き、その上に柱を据えたものと推測するが、柱またはその痕跡の残る平石などは出土しなかった。

また、建物に伴うと考えられる遺構として、ＳＰ56と地鎮具、ＳＤ２があり、ここではＳＰ56と地鎮具について記載する。

ＳＰ56は、ＳＰ27～30に囲まれた空間で検出したもので、方形の扁平な切石が据えられていた。石の下には薄い炭化物層が確認されたが、その下部に杭痕はなかった。ＳＰ56の南側のＳＰ30・31でも、栗石は検出されたが杭痕は検出されなかった。ＳＢ１内で検出したピットの内、杭痕がみられなかったのはこの３基のみである。ＳＰ30・31は、ＳＢ１から半間ほど飛び出した位置で検出しており、位置関係や構造から比較的重量のかかからない玄関の庇などを支える柱部分で、ＳＰ56の切石は玄関の踏み石ではないかと想定している。

地鎮具とみられる遺物は、ＳＢ１の中央付近と推定される位置で出土している。掘り方は確認できず、Ⅳ層を掘り下げる過程で出土した。灯明受皿５枚が十字形に伏せられた状態で設置されており、皿を返すと４枚の中から水晶片が出土し（第68図２～６）、１枚の中からは木質遺物が出土した。木質遺物は腐食しており、何であったか不明である。

出土遺物は、ＳＰ24・27・28・30・31などで、磁器や陶器、土器などがあるが量は少なく、いずれも小片である。ＳＰ27で出土した磁器碗（１）を図示した。切り合いでは、ＳＤ４より新しく、ＳＫ２に先行する。建物の時期は、切り合いから近代と考える。

ＳＢ２（第15・16・68図）

調査区北東隅で検出した。調査区外へ延びると考えられるが、調査区内ではＳＰ12～17・218・19・20で建物を構成する。柱間は１間（1.8ｍ）で、東西５間・南北１間で検出されている。主軸はＮ－84°－Ｗを差す。検出したピットは柱の下部の基礎構造と考えられ、柱は検出されなかった。ＳＢ１ではほとんどのピットで杭痕が検出されたが、ＳＢ２では杭痕がないものもあり、構造がさまざまである。ＳＰ12・15は栗石が検出されず、ＳＰ13・14・16・218では栗石があるが杭痕はない。ＳＰ19・20では、栗石の下に扁平な石が据えられ、さらに下に木杭とその根固めをするように石が込められている。また、ＳＢ２のピットの軸線上からは外れるが、ＳＰ52も同様な構造である。ＳＰ19・20で検出された扁平な石は柱の直下に据えられた礎石で、栗石とみえる部分が柱の根固め石であった可能性もあるが、上部構造が遺存していないため、詳細は不明である。

出土遺物は、ＳＰ16・17・19・20・218などで磁器や陶器、土器がある。ＳＰ218出土の磁器の碗（１）・皿（２）、土器の火鉢（３）を図示した。切り合いでは、ＳＫ30、ＳＤ15より新しい。時期は、出土遺物や切り合いから近代と考える。

ＳＢ３（第17図）

調査区中央北側に位置する。ＳＰ247・136・251・137・248・252・250・138・249・254・255・256・178・180・(257)・185・179・183・189で建物を構成する。東西2.5間、南北４間で検出しており、西側の柱間のみ半間の間隔である。主軸はＮ－４°－Ｅを指す。ほとんどのピットに杭または杭痕が遺存する。杭の深さは、深いもので約60cmを測る。出土遺物が少なく、図示していないがＳＰ137やＳＰ248で陶器が出土している。切り合いでは、ＳＤ３より新しい。時期は建物の軸方向などからは近代の可能性がある。

ＳＢ４（第 18・19・122 図）

調査区中央南側に位置する。ＳＰ 153・154・146・268・267・276・274・156・273・272・269・266・280・281・282・283・284・322・323・338・343・277 で建物を構成する。東西６m、南北 6.4 m を測り、柱間は東西が 1.2 m、南北で 2.2 m である。主軸はＮ－ 6.5°－Ｅを指す。杭痕の深さは、深いもので約 60㎝を測る。出土遺物は、加工木（１）が出土している。他に図示していないが、ＳＰ 281 ～ 284 で磁器、陶器、土器が出土している。切り合いではＳＤ４より新しく、ＳＤ５・６との位置関係や軸方向などから、時期は近代と推測する。

第２節　土坑（ＳＫ）

ＳＫ１（第 20・68・69・70 図）

調査区北東部に位置する。平面形は不整形で、検出された長軸は 1.71 m、短軸 1.1 m、深さ 10㎝を測る。出土遺物は陶器の擂鉢（１）、土器の七輪（２・３・５）、火鉢（４）、丸瓦（６）、平瓦（７～ 11）、ガラス瓶（12）である。切り合いではＳＫ 27 より新しい。時期は近代である。

ＳＫ２（第 21・22・70 図）

調査区東側に位置する。平面形は楕円形で、長径 1.4 m、短径 1.2 m、深さ 84cm を測る。埋土はⅢ層のにぶい黄褐色細砂を主体とし、レンガや瓦などの瓦礫を含んでいる。

出土遺物は、磁器の碗（１）、陶器の煎茶器（２）・擂鉢（３）、土器の火消壺蓋（５）、桟瓦（７）、平瓦（８）、砥石（９）、ガラス製品（10）がある。（２）の煎茶器は蓮月焼またはその模倣品とみられ、幕末から明治にかけて活躍した女流歌人・陶芸家の太田垣蓮月の歌が刻まれている。別の歌を刻んだ同型品がＳＤ６からも出土している。

切り合いではＳＫ３に先行する。ＳＫ 17 との前後関係は不明である。時期は近代で、埋土から明治後期の水害による氾濫で埋没した可能性がある。

ＳＫ３（井戸）（第 21・22・71・72・111 図）

調査区東側に位置する。平面形は不整形で、長軸 2.08 m、短軸 1.66 m、深さは図示していないが断割確認では、検出面より 3.5 m下で湧水があり、井戸と考える。井戸側は遺存しておらず、構造は不明であるが、検出面より１m付近でタガ状の竹の残欠を検出している。その下は、径約 80cm の円形の穴が湧水層まで掘られている。埋土はⅢ層のにぶい黄褐色細砂を主体とする。出土遺物は、磁器の碗（１）、土器の火鉢類（２・３）・不明製品（４）、瓦（５～ 16）、木製品（17）がある。切り合いではＳＫ２・４より新しい。時期は近代で、明治後期の水害による氾濫で埋没した可能性がある。

ＳＫ４（第 21・22・73 図）

調査区東側に位置する。平面形は楕円形で長径は 1.9 m、短径 1.2 m、深さ 12cm を測る。埋土は灰黄褐色砂質シルトで炭化物・焼土を含む。出土遺物は、磁器・陶器・瓦があり、瓦（１）を図示した。切り合いでは、ＳＫ３に先行する。時期は近代である。

ＳＫ５（第 21・22・73 図）

調査区の東壁沿いに位置する。平面形は方形で、長軸 1.6 m、短軸 1.0 m で深さは調査区東壁の土層観察では１m を測る。埋土は黒褐色砂質シルトを主体とし、下層に瓦礫を多く含む炭化物層が堆積する。磁器・陶器・土器・瓦が出土しており、土器の鉢（１）、火鉢類（２）、瓦（３・４）を図示した。時期は近代である。

ＳＫ６（第 23・73 図）

調査区中央部に位置する。平面形は楕円形で、長径 1.94 m、短径 1.24 m、深さ 6 cmを測る。出土遺物は、磁器、陶器、土器、瓦の他、瓦やレンガが出土しており、瓦（１）と陶器の碍子（２）を図示した。時期は、出土遺物から近代である。

ＳＫ７（第 23 図）

調査区南東部に位置する。平面形は楕円形で、長径 70cm、短径 64cm、深さ 60cm を測る。埋土はⅢ層のにぶい黄褐色細砂などが堆積する。図示していないが磁器の皿や桟瓦が出土している。時期は、出土遺物と埋土の特徴から近代と考える。

ＳＫ８（第 23・73 図）

調査区南東部に位置する。平面形は楕円形で、長径 96cm、短径 80cm、深さ 30cm を測る。埋土はⅢ層のにぶい黄褐色細砂が主体である。棒状の部材が出土したが、調査時の観察では原位置を保つものではないと考えられた。他の出土遺物は磁器、陶器、土器、瓦、ガラス瓶などがあり、磁器の碗（１）を図示した。時期は、出土遺物と埋土の特徴から近代である。

ＳＫ９（第 23 図）

調査区北東部に位置する。平面形は不整形で、長軸 86cm、短軸 50cm、深さ 14cm を測る。出土遺物がなく、時期は不明である。

ＳＫ 10（第 23 図）

調査区北東部に位置する。平面形は楕円形で、長径 1.1 m、短径 84cm、深さ 44cm を測る。埋土は黒褐色砂を主体とし、上層部分では杭の痕跡と考えられる腐食した木質部分が観察された。出土遺物は、図示していないが、磁器と陶器がある。時期は不明である。

ＳＫ 11（井戸）（第 24・73・74 図）

調査区東側に位置する。平面形は円形で径 2.3 m、深さ 3.9 mを測る。断割確認したところ、底面は湧水層に達しており井戸と考えられるが、井戸側の構造は遺存しておらず不明である。検出面から１ｍほど下からは、径約 60cm の穴となり、底面に達する。出土遺物は陶器の碗（１～４）・皿（８～ 10）、鉢（11）、土器の皿（12 ～ 20）、古銭（５～７）、凹石（21 ～ 23）などがある。（５）は「政和通寶」、（６）は不明だが、（７）は大正九年銘の五銭銅貨である。出土遺物から、埋没時期は近代である。

ＳＫ 12（第 24・74 図）

調査区北東部に位置する。平面形は楕円形で、長径 84cm、短径 62cm、深さ 10cm を測る。埋土は黄灰色砂質シルトである。出土遺物は陶器の大甕（１）と図示していないが桟瓦が出土している。時期は不明である。

ＳＫ 13（第 24・75 図）

調査区南東隅に位置する。平面形は楕円形で、長径 1.22 m、短径 1.04 m、深さ 14cm を測る。埋土は黒褐色粗砂で炭化物を含む。出土遺物は、磁器の瓶（１）、土製の人面（２・３）・面摸（４）・碁石（５）、石筆（６・７）、瓦（８）などである。４の面摸は、土を詰めて形をぬく玩具で江戸時代後半以降のものである。また、図示したのはヤマ文の刻印のある１点のみだが、桟瓦をはじめとして瓦が多く出土している。埋土に炭化物を含むことなどから、火災などで生じたゴミを投棄した土坑である可能性がある。出土遺物から時期は近代である。

ＳＫ 14（第 24 図）

調査区東側のＳＢ１の範囲内に位置する。平面形は楕円形で、長径 70cm、短径 56cm、深さ 8cm を測る。埋土は黄灰色砂質シルトである。遺物は図示していないが磁器の小片がある。時期は不明である。

ＳＫ 16（第 25・26 図）

調査区東側のＳＫ 19 の北側に位置する。平面形は不整形で、長軸 72cm、短軸 60cm、深さ 72cm を測る。埋土は灰黄褐色砂である。痕跡は確認できなかったが、掘り方の形状から杭などが据えられていた可能性がある。出土遺物は図示していないが、陶器と瓦の小片がある。時期は不明である。

ＳＫ 17（第 21・22・75 図）

調査区東側のＳＫ２に隣接する。平面形は不整形で長軸 1.4 m、短軸 80cm、深さ 60cm を測る。埋土はⅢ層のにぶい黄褐色細砂を主体とする。出土遺物は、陶器の土瓶（１）、磁器の徳利（２）、平瓦（３～５）があり、図示していないがガラス瓶も出土している。埋土からＳＫ３などと同時期に埋没したと考えられ、近代の遺構である。

ＳＫ 18（第 25・26・76 ～ 79・111 図）

調査区東側で検出した。平面形は隅丸方形で、長軸 1.84 m、短軸 1.44 m、深さ 56cm を測る。埋土は、上層は黒褐色砂質シルトで瓦や腐食した木質遺物、炭化物を多く含み、締りは非常にゆるい。下層は暗灰色砂である。

出土遺物は非常に多く、磁器の碗（１～８）・皿（９～ 11）・蓋（12）、陶器の碗形容器（13 ～ 16）・土鍋（17）、土器の焙烙（18）・火鉢類（19・20）・炉形土器（21）・風炉（22）、瓦（23 ～ 35）、土笛（36）、硯（37）、ガラス製品（38 ～ 41）、木製品（42 ～ 47）を図示した。他に石筆や水晶片も出土している。13 ～ 16 の陶器の容器は、金属の熔融物が付着しており、蛍光Ｘ線による分析を試みている。高台部分が柱状を呈しており、金属加工用の専用容器として作られたものである可能性もある。24 の瓦には、手書きで文字が刻まれている。全て解読できないが、瓦葺きの際などに必要となる瓦の種類や枚数などの覚書とみられる。

埋土に炭化物が多いことから火災などで生じたゴミを投棄した土坑であると考える。切り合いではＳＤ４・５よりも新しい。出土遺物から時期は近代である。

ＳＫ 19（第 25・26・79 ～ 81・112 図）

調査区東側で検出した。平面形は不整形で、長軸 2.6 m、短軸 2.2 m を測る。埋土は褐灰色砂を主体とし、炭化物と瓦が非常に多く出土した。底面は二つに分かれており、ＳＫ 19 Ａとした土坑の深さは 66cm、ＳＫ 19 Ｂでは 60cm を測る。

出土遺物は非常に多く、磁器の碗（１～５）・皿（６）・蓋（７）、陶器の碗形容器（８）・蓋（９）・土瓶（10・11）、炉形土器（12）、瓦（13 ～ 16）、鎌の刃（17）、ガラス瓶（18・19）、木製品（20 ～ 22）などがあり、他に水晶片も出土している。

ＳＫ 18 とは遺構の形状が類似しており、接合関係にある出土遺物も多い。ＳＫ 18 と同時期に火災ゴミなどを片付けた土坑である可能性が高い。出土遺物から時期は近代である。

ＳＫ 20（第 21・22・81 図）

調査区東側のＳＫ３に隣接する。平面形は不整形で、長軸 1.12 m、短軸 68cm、深さ 36cm を測る。埋土はⅢ層のにぶい黄褐色細砂を主体とする。出土遺物は瓦の破片が数点出土しており、そのうちの１点の平瓦（１）を図示した。時期は近代で、埋土の特徴から隣接するＳＫ３などと同時期に埋没した可能性がある。

ＳＫ 21（第 25・26・112 図）　調査区東側のＳＫ 18 の南に位置する。平面形は楕円形で、長径 1.06 m、短径 72cm、深さ 78cm を測る。埋土は黄灰色粘土を主体とする。出土遺物は木製品（１）がある。また図示していないが、磁器、陶器、土器、瓦の小片がそれぞれ出土している。切り合いではＳＤ４より新しい。遺構の時期は近代と考える。

ＳＫ 22（埋桶）（第 27・81・82・112・113 図）

調査区中央部で検出した。平面形は楕円形で長径 1.16 m、短径 1.0 m、深さ 72cm を測る。最上層部分は撹乱されている。埋土は暗灰黄色砂・黒褐色粘土質シルト、暗灰色粗砂などが堆積する。底面に桶の底板が遺存しており、埋桶である。埋桶の径は 70cm を測る。側板は腐食して遺存しておらず、土層断面にその痕跡を確認した。出土遺物は磁器の皿（１）、土器の鉢（２）・焙烙（３）、フイゴ羽口（４）、瓦（５～９）、硯（10）、ガラス製品（11 ～ 14）、木製品（15 ～ 44）などである。出土遺物から時期は近代である。

ＳＫ 23（第 27・83 ～ 85 図）

調査区南東部で検出した。平面形は楕円形で、長径 1.32 m、短径 1.14 m、深さ 72cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトを主体とする。上層は瓦を多く含み、下層は腐食した植物遺体や炭化物が多量に含まれていた。出土遺物は、磁器の碗（１～３）・皿（４・５）・段重（６）・急須（７）、陶器の皿（８）・擂鉢（９）、土器の火消壺蓋（10）、火鉢類（11 ～ 15）、竈（16）、瓦（17 ～ 22）、熔融物塊（23）、ガラス瓶（24）があり、図示していないが陶器の土瓶や砥石も出土している。（16）の竈の掛け口にあたる部分には「三ツくト」の刻印があり、大小、径の異なる掛け口が３つある。本体は大きく４つの部品に分かれる構造となっている。３つの掛け口の中央に接合部を持っており、その接合部で４つの部品を組み合わせて１組の竈とする構造である。この竈はＳＫ 19 から出土した破片と接合している。他の遺物もＳＫ 18・26 などと接合関係が確認できたものがある。時期は近代である。

ＳＫ 24（第 27・85 図）

調査区北東部で検出した。平面形は楕円形で、長径 72cm、短径 60cm、深さ 24cm を測る。埋土は上層がにぶい黄褐色細砂、下層が褐灰色砂質シルトである。出土遺物は、磁器、陶器、土器、瓦があり、土器（１）を図示した。時期は近代と考える。

ＳＫ 25（埋甕）（第 27・85 図）

調査区北東部のＳＢ２の範囲内で検出した。平面形は円形で、長径 82cm、短径 68cm、深さ 24cm を測る。埋土は黒褐色粘土質シルトで締まりはゆるい。底部を打ち欠いた土器の甕が、掘り方の中央に据えられた形で出土し、埋甕とした。口縁部側についても打ち欠いたものと推測するが、削平されている可能性もある。甕の内面に付着した土壌試料を分析したが、寄生虫卵等は検出されていない。出土遺物は、据えられていた土器の甕（１）を図示した。切り合いでは、ＳＤ 15 より新しい。時期は、ＳＢ２に伴うものであれば近代、隣接するＳＫ 30 に伴うものであれば江戸時代の可能性があるが、土壌試料の花粉分析の結果から推定される古植生は、ＳＫ 36・43・56 など江戸時代と考えられる遺構から採取した試料と類似する。

ＳＫ 26（第 28・86・113 図）

調査区北東部で検出した。平面形は楕円形で、長径 2.3 m、短径 1.54 m、深さ 96cm を測る。埋土は、暗褐色や黒褐色の砂層と粘土質シルトが入り混じり、底面は粘性の強い粘土層である。埋土の特徴から、滞水していた可能性があるが、湧水層には達していない。埋土の上層では、竹筒が垂直方向に刺さった状態で出土している。水溜井戸のような機能を想定している。出土遺物は、陶器の碗（１）・土瓶（２）、土器の火鉢類（３・４）、戸車（５）、瓦（６・７）、木製品（８～ 14）などで、小片で図示していないが、磁器も出土している。切り合いではＳＤ４より新しく、ＳＤ５との新旧関係は不明である。ＳＫ 23 の遺物と接合関係が確認された。時期は近代である。

ＳＫ 27（第 20 図）

調査区北東部で検出した。平面形は楕円形で、長径 82cm、短径 54cm、深さ 12cm を測る。埋土は、褐灰色砂質シルトににぶい黄褐色細砂が混じる。出土遺物は、小片で図示していないが、磁器、土器、瓦がある。切り合いではＳＫ１に先行する。時期は、埋土や出土遺物から近代と考える。

ＳＫ 28（第 29 図）

調査区中央部南側で検出した。平面形は円形で、径 76cm、深さ 14cm を測る。埋土は黄灰色砂を主体とする。出土遺物と切り合いはなく、時期は不明である。

ＳＫ 30（第 15・27・113・114 図）

調査区北東部で検出した。平面形は楕円形で、長径 1.18 m、短径 1.02 m、深さ 82cm を測る。埋土は、褐灰色砂を主体とし、暗褐色砂がブロック状に含まれる。底面は黒色砂と黒色粘土が堆積する。出土遺物は、木製品（１～７）などで下駄（１～４）が４足出土している他、図示していないが、磁器、陶器、土器、瓦も少量出土している。また、埋土中で腐食した網カゴ状の木質遺物の残欠を確認している。湧水層に達しておらず掘り抜き井戸ではないが、水溜井戸として機能していた可能性がある。切り合いではＳＰ 16 に先行し、時期は江戸時代と考える。

ＳＫ 33（埋桶）（第 29・86・114 図）

調査区中央部のＳＢ４の南西側で検出した。平面形は楕円形で、長径 1.04 m、短径 72cm、深さ 34cm を測る。桶の側板の一部と底板が遺存しており、埋桶とした。埋桶の径は 38cm を測る。埋土は埋桶内が暗灰黄色砂質シルト、埋桶の外側が黒褐色粘土である。出土遺物は、磁器の碗（１～２）、徳利（３）、卸金（４）、木製品（５～ 24）の他、磁器の仏飯器、瓦、レンガ、ガラス片なども出土している。出土遺物から時期は近代で、ＳＢ４と同時期に機能していた可能性がある。

ＳＫ 34（第 29 図）

調査区中央部のＳＢ３の南西側で検出した。平面形は円形で、径 72cm、深さ 22cm を測る。埋土は黄灰色砂質シルトである。出土遺物は、図示していないが磁器の破片が１点ある。切り合いはなく、時期は不明である。

ＳＫ 35（埋桶）（第 29・87・115・116 図）

調査区中央部のＳＢ４の北東側で検出した。平面形は楕円形で、長径 1.26 m、短径 96cm、深さ 80cm を測る。埋土は暗灰黄色砂質シルトや黄灰色砂質シルト、黒褐色砂などが堆積する。桶の側板と底板が遺存しており、埋桶とした。埋桶の径は 80cm である。出土遺物は、磁器の碗（１）、煉瓦（２）、ガラス瓶（３）、木製品（４～ 40）を図示した。他に土器の火鉢や瓦なども出土している。切り合いではＳＤ５より新しい。出土遺物より時期は近代であるが、ＳＢ４やＳＤ５に位置的な制約を受けたような場所にあり、同時期に機能していた可能性がある。

ＳＫ 36（井戸）（第 30・31・87・117 図）

調査区北西部で検出した。平面形は円形で、径 2.2 m、深さ 3.8 m を測る。埋土は上層部分では灰黄褐色砂質シルトや黒褐色粘土質シルトが堆積する。断割確認したところ、底面は砂層の湧水層に達しており井戸と考える。井戸側は遺存しないが、検出面から１mほどの深さで、テラス状に段が設けられており、その段上でコの字状に仕口が切られた木材が出土した。段の中央では径 70cm ほどの穴が検出されており、ここから湧水層の砂層に達するまで、ほぼ垂直に穴が掘られている。出土遺物は、磁器の碗（１・２）、陶器の天目茶碗（３）、土器の皿（４）・焼塩壺（５）、木製品（６～８）などがある。（５）の焼塩壺は、輪積み成形とみられる。切り合いではＳＫ 50 に先行する。時期は江戸時代で、切り合いや出土遺物から調査区内でもっとも古い時期に属するの遺構である。土壌試料の花粉分析では、スギ属

やコナラ属コナラ亜属が優占する植生で、19 世紀以前の時期であることが示唆されている。

ＳＫ 37（第 29 図）

調査区中央部のＳＢ３の東側で検出した。平面形は楕円形で、長径 76cm、短径 60cm、深さ 54cm を測る。埋土は黄灰色砂質シルトである。出土遺物がなく、切り合いなどからも時期は不明である。

ＳＫ 38（第 29・87 図）

調査区中央部のＳＢ４の西側で検出した。平面形は楕円形で、長径 2.12 m、短径 1.7 m、深さ 34cm である。埋土は上層に黒褐色砂質シルト、下層に暗灰黄色砂質シルトなどが堆積する。出土遺物は、磁器、陶器、土器の小片と丸瓦が出土しており、丸瓦（１）を図示した。切り合いはないが、ピット列７のピットを撹乱していると考えられ、時期は近代と推測する。

ＳＫ 39（第 32 図）

調査区南東部で検出した。ＳＫ 40 に隣接する。平面形は円形で、径 62cm、深さ 20cm を測る。北側は撹乱されて遺存しない。埋土は黄灰色砂質シルトに暗灰黄色砂質シルトが互層状に混じる堆積である。出土遺物は図示していないが、陶器と瓦が出土している。時期は不明である。

ＳＫ 40（第 32・87 図）

調査区南東部で検出した。平面形は楕円形で、長径 88cm、短径 78cm、深さ 30cm を測る。埋土は黄灰色砂質シルトを主体とし、締まりは弱い。出土遺物は、陶器の碗形容器（１）・乗馬の人形（２）の他、石筆も出土している。（１）の碗は、ＳＫ 18 で出土している金属の熔融物が付着した碗に類似する形状で、高台部分が柱状を呈す。切り合いではＳＫ 41 より新しい。時期は近代と考える。

ＳＫ 41（第 32・87・117 図）

調査区南東部で検出した。平面形は楕円形で、長径 94cm、深さ 52cm を測る。ＳＫ 40 に切られるため、短径は不明である。埋土は黒褐色粘土質シルトを主体とする。出土遺物は、陶器の碗形容器（１・２）、木製品（３・４）の他、磁器、陶器の土瓶、瓦、板ガラス片なども出土している。碗形容器は、ＳＫ 18 やＳＫ 40 出土のものと類似しており、２には金属の熔融物が付着している。切り合いではＳＫ 40 に先行する。時期は近代である。

ＳＫ 42（第 33・87 図）

調査区南東部で検出した。平面形は不整形で、長軸 1.1 m、短軸 58cm、深さ 8 cm を測る。出土遺物は、泥面子（１）を図示した。ほかに磁器と陶器の小片がある。時期は不明である。

ＳＫ 43（井戸）（第 33・87 図）

調査区北西部で検出した。平面形は不整形で、長軸 1.56 m、短軸 1.7 m を測る。断割確認では、底面は検出面から 3.4 m の深さで、湧水層に達しており、井戸とした。井戸側は遺存しておらず、構造は不明である。検出面から約 1 m の深さで、径 80cm の穴となり底面まで達する。埋土上層で東側より投棄されたと考えられる約 50㎝の石が 3 個出土している。その少し下で木製の鞘状部分に挟まれた刃物（１）が出土している。木製の鞘状部分には皮が巻かれている。他に出土遺物は少なく、土器の火鉢とみられる破片が 1 点出土した。切り合いでは、ＳＤ 10 に先行する。

時期は、切り合いから江戸時代と推測する。土壌試料の花粉分析では、19 世紀以前とみられる植生が示唆されている。

ＳＫ 44（第 32・87 図）

調査区南東部で検出した。平面形は円形で、径 1.14 m、深さ 16cm を測る。南東部分は撹乱されて遺存しない。埋土は上層は暗灰黄色粘土、下層は黒褐色粘土・シルトなどが堆積する。出土遺物は、磁器の碗（１）、石板（２）の他、七輪の目皿が出土している。時期は近代である。

ＳＫ 45（埋桶）（第 32・87・117・118 図）

調査区南東部で検出した。ＳＫ 41 に隣接する。平面形は円形で、径 1.0 m、深さ 70cm を測る。桶の底板の一部と側板が遺存しており埋桶とした。桶の径は 68cm である。中央部分が西側から重機による撹乱を受けている。埋土は褐灰色粘土である。出土遺物は、磁器の碗（１～３）・蓋（４）、木製品（５～27）の他、陶器の擂鉢、土器の七輪の目皿、瓦などがあり、図示した碗はいずれも型紙摺りによるものである。時期は近代である。

ＳＫ 46（第 33・88 図）

調査区中央部で検出した。平面形は不整形で、長軸 1.84 m、短軸 1.2 m、深さ 28cm を測る。出土遺物は、磁器の端反形の碗（１）・コンニャク印判の碗（２）、陶器の擂鉢（３）、土器の皿（４）、煙管（５）があり、他に瓦が出土している。切り合いでは、ＳＤ 17 より新しくＳＰ 246 に先行するとみられる。
出土遺物より時期は、江戸時代後半と考える。

ＳＫ 47（第 33・88 図）

調査区北西部に位置する。平面形は不整形で、長軸 2.4 m、短軸 1.64 m、深さ 10cm を測る。埋土はオリーブ黒色粘土である。出土遺物は磁器の碗（１）、陶器の碗（２・３）・土瓶（４）・擂鉢（５・６）の他、土器の皿や焙烙が出土している。切り合いでは、ＳＤ 11 に先行する。時期は江戸時代後半と考える。

ＳＫ 48（第 34・88 ～ 90 図）

調査区北西部に位置する。平面形は不整形で、長軸 2.2 m、短軸 1.44 m、深さ 70cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトと黄褐色砂質シルト、灰色砂質シルトなどが堆積する。出土遺物は、磁器の碗（１・２）・皿（３）、煎茶器の鉢（４）、陶器の鉢（５）・土瓶（６）、土器の焼塩壺蓋（７・８）・七輪の目皿（９）、火鉢類（10）、焜炉（舟竈 11）、炉形土器（12）、瓦（13 ～ 20）、ガラス製品（21・22）などがある。４の煎茶器は蓮月焼またはその模倣品とみられ、ＳＫ２やＳＤ６などでも出土している。
時期は、出土遺物より近代である。

ＳＫ 49（第 34・119 図）

調査区南西部で検出した。平面形は円形で、径 1.44 m、深さ 1.2 mである。出土遺物は、木製品（１）の他に図示していないが、磁器、陶器、煉瓦などがあり、時期は近代である。

ＳＫ 50（井戸）（第 30・31・90・119 ～ 121 図）

調査区北西部で検出した。平面形は楕円形で、長径 1.96 m、短径 1.6 mを測る。埋土は、上層部分では黒褐色粘土や灰色粘土質シルトが堆積する。断割確認では底面は、検出面から 3.4 mの深さまで掘られている。湧水層に達しており、井戸である。井戸側の上部構造は、転用した桶を据え、その直下に 40cm 大の石を円形に並べている。さらにその下には３本一組の丸太材を井桁状に組んで沈下を防いでいる。その下は、径 60cm の穴が底面まで続く。断割確認では、締りのゆるい砂層に、廃絶時に投棄されたとみられる 50cm大の石が多く詰まっていた。出土遺物は、須恵器の蓋（１）、磁器の碗（２・３）、陶器の灯明受皿（４・５）・土瓶（６）、木製品（７～ 38）を図示した。他に磁器の徳利、瓦なども出土している。切り合いでは、ＳＫ 36 より新しく、ＳＤ 11 に先行する。時期は出土遺物より、江戸時代後半と考える。

ＳＫ 51（第 35・90 図）

調査区北西部で検出した。平面形は円形とみられ、径 1.50 m、深さ 68cm を測る。南側の一部は、旧校舎の基礎に撹乱されている。埋土は暗灰黄色砂に黒褐色粘土質シルトなどがブロック状に含まれる。出土遺物は、磁器の碗（１・２）、土師器の坏（３）、釘（４）などが出土している。切り合いでは、ＳＫ 52 より新しい。時期は江戸時代後半と考える。

ＳＫ 52（第 35・90 ～ 92 図）

調査区北西部で検出した。平面形は不整形で、長軸 3.8 m、短軸 2.36 m、深さ 35cm を測る。出土遺物は、磁器の碗（１～９）・蕎麦猪口（10）・皿（11 ～ 13）・瓶（14）、陶器の碗（15 ～ 19）・灯明受皿（20）・稜花皿（21）・擂鉢（22）、土器の火鉢（23・24）・土錘（25）・土人形（26・27）・土鈴（28 ～ 31）、寛永通寶（32 ～ 34）、煙管（35）、不明金具（36）がある。切り合いでは、ＳＫ 51 に先行する。時期は江戸時代後半と考える。

ＳＫ 53（埋桶）（第 35・121 図）

調査区北西部で検出した。平面形は不整形で、長軸 44cm、短軸 36cm、深さ 22cm を測る。桶の底板が出土しており、埋桶とした。埋桶の径は 34cm である。切り合いでは、ＳＫ 52 と重複するが新旧関係は不明である。出土遺物は、桶の他に木製品（１～３）がある。時期は不明である。

ＳＫ 55（第 35・92・93 図）

調査区北東部で検出した。大部分が旧校舎の基礎に切られており、平面形の全容は不明である。長軸 2.7 m、短軸 1.62 m、深さ 18cm を測る。出土遺物は、磁器の碗（１～７・９）・蓋（８）、陶器の碗（10）・土瓶？（11）・灯明受皿（12）・擂鉢（13）、土器の焙烙（14）・火鉢類（15）、土製品の碁石（16）などがある。時期は、江戸時代後半と考える。

ＳＫ 56（井戸）（第 36・121 図）

調査区中央部のＳＢ３の南側で検出した。平面形は円形で、径 3.62 m を測る。断割確認では、底面の深さは、検出面から 3.6 m で、湧水層に達する井戸である。井戸の上部構造は、50cm 大の石を円形に２～３段詰んだ石積みで構築し、その下部に桶を転用した井戸側が３段に据えられている。下部の径は約 60cm である。出土遺物は木製品（１～７）があり、他に図示していないが陶器や土器が出土している。土壌試料の花粉分析では、19 世紀以前の植生が示唆されている。時期は、江戸時代と推測する。

第５節　ピット列

４基以上のピットが同じ軸線上に並ぶものの中で、並びがやや不規則であったり、建物を構成すると判断できなかったものをピット列とした。調査区内で 16 列検出している。

ピット列１（第 37 図）

調査区中央部のＳＢ３の西側で検出した。北からＳＰ 225・217・226・174・175・220 の７基のピットが並ぶ。北側は調査区外に延びていると推測する。軸方向はＮ－４°－Ｅで、ピット列２とはほぼ平行に並ぶ。ピット間は 60 ～ 70cm を測り、それぞれのピットの深さは約 10cm である。平行に並ぶピット列２との間隔は、１間（約 1.8 m）である。出土遺物はない。切り合いではＳＤ３より新しい。時期は不明だが、軸方向はＳＢ３などとほぼ同一である。

ピット列２（第 37 図）

調査区中央部のＳＢ３の西側で検出した。北からＳＰ 224・222・223・221・214・215・219 の７基のピットが並ぶ。軸方向はピット列１とほぼ同じである。ピット間は 60 ～ 70cm を測り、それぞれのピットの深さは約 10cm である。出土遺物が少なく図示していないが、ＳＰ 215 で磁器と陶器、ＳＰ 219 で陶器、ＳＰ 223 で磁器、ＳＰ 224 で陶器と土器が出土している。いずれも小片である。切り合いではＳＤ 20 より新しい。時期は不明である。

ピット列３（第 37 図）

調査区北東部のＳＢ２の南側で検出した。ＳＰ 104 ～ 112 の９基のピットからなる。軸方向はＮ－84°－Ｗを指す。ピット間は不規則で、狭い所で 10cm、広い所で 60cm を測る。深さは、残りの良いも

のでも検出面から 14㎝しか遺存しておらず、上面が削平されているとみられる。出土遺物がなく、時期は不明だが、ＳＢ２の主軸方向に沿って並んでおり、ＳＢ２に伴う遺構の可能性がある。

ピット列４（第 37 図）

調査区中央部で検出した。西からＳＰ 36・38・40・42・44 の５基のピットが並ぶ。軸方向はＮ－84°－Ｗで、ピット列５とはほぼ平行に並んでいる。ピット間は約 1.2 ｍを測り、それぞれのピットの深さは、深いもので 40㎝を測るが、底面の深さはほぼ同じレベルである。平行に並ぶピット列５との間隔は、約 1.2 ｍである。出土遺物は図示していないが、ＳＰ 36 で磁器・陶器・土器・ガラス板・石筆、ＳＰ 38 で陶器、ＳＰ 42 で陶器、ＳＰ 44 で磁器・陶器・土器が出土している。また、軸方向はＳＤ５やＳＤ６などとほぼ同一である。時期は、出土遺物や軸方向から近代と考える。

ピット列５（第 37 図）

調査区中央部で検出した。西からＳＰ 37・39・41・43・45 の５基が並び、ＳＰ 37 を除いては、礎石又は杭や柱の根固め石と考えられる石が据えられている。軸方向はピット列４とほぼ同じである。ピット間は１．２ｍを測り、それぞれのピットの深さは約 10㎝である。出土遺物は図示していないが、ＳＰ 39 で土器、ＳＰ 41 で陶器、ＳＰ 43 で磁器と土器がある。時期はピット列４と同じ近代と考える。

ピット列６（第 38・39 図）

調査区中央部で検出した。西からＳＰ 212・206・207・210・231・232・235・236・239・240・242・243 の 12 基のピットが並ぶ。軸方向はＮ－ 86°－Ｗを指し、ピット列７とほぼ平行である。ピット間は約 1.2 ｍで、それぞれのピットの深さは約 20㎝である。平行に並ぶピット列７との間隔は約２ｍである。出土遺物が少なく図示していないが、ＳＰ 242 で陶器の小片が出土している。時期は不明だが、軸方向はＳＤ５・６と同一で、近代の可能性がある。

ピット列７（第 38・39 図）

調査区中央部で検出した。西からＳＰ 213・209・208・211・233・234・237・238・241・244 の 10 基のピットが並ぶ。ピット間は約 1.2 ｍで、それぞれのピットの深さは、深いもので 18㎝、浅いもので 4㎝である。遺物は図示していないが、ＳＰ 238 で陶器の破片が出土している。時期は不明だが、ピット列６と同じ時期に機能していたとみられ、近代の可能性がある。

ピット列８（第 38・39 図）

調査区中央部で検出した。南からＳＰ 321・320・319・318・158・157・155・169・170・152・151・150 の 12 基のピットが並ぶ。軸方向はＮ－４°－Ｅを指し、ピット列９とおおむね平行に並ぶ。ピット間は約 60cm であるが、ＳＰ 318 と 158 の間は、間隔が離れており、撹乱されているとみられる。平行に並ぶピット列９との間隔は約１間である。深さは、遺存状況が良いもので 10㎝ほどである。出土遺物はない。時期は不明だが、軸方向はＳＢ３などとほぼ同じである。

ピット列９（第 38・93 図）

調査区中央部で検出した。南からＳＰ 340・341・168・147・145・144・143・142・141・140・139 の 11 基のピットが並ぶ。ピット間は、約 50㎝の間隔で規則性を持つが、軸の通りはまっすぐではなく、東西にぶれる。軸方向はピット列８とほぼ平行である。出土遺物は、ＳＰ 144 で磁器の碗（１）が出土している。時期は不明だが、ピット列８と同じ時期に機能していたと考える。

ピット列 10（第 38・39 図）

調査区西側で検出した。北からＳＰ 329 ～ 331・302 ～ 305 の７基が並ぶ。軸方向はＮ－２°－Ｅを指す。ピット間は、規則的に並ぶところで約 60cm で、それぞれのピットの深さは約 10㎝である。対となって並ぶピット列はない。出土遺物がなく、時期は不明である。

ピット列 11（第 38・39 図）

調査区中央部で検出した。北からＳＰ 298 ～ 301 の４基が並ぶ。ピットの数が少なく、軸方向は計測していないが、ピット列８～ 10 などと同様と思われる。ピット間は 60 ～ 70㎝である。ピット列 12 とは約１間の間隔で平行に並ぶ。それぞれのピットの深さは、深いもので 18㎝である。出土遺物がなく、ピット列 12 とは同時期に機能していたとみられるが、時期は不明である。

ピット列 12（第 38・39 図）

調査区中央部で検出した。北からＳＰ 292 ～ 296 の５基が並ぶ。軸方向はピットの数が少なく計測できない。ピット間は約 60㎝である。それぞれのピットの深さは、深いもので 30㎝を測る。出土遺物がなく、時期は不明である。

ピット列 13（第 38 図）

調査区中央部で検出した。北からＳＰ 344 ～ 346・307 ～ 310 の７基のピットが並ぶ。軸方向はＮ－４°－Ｅを指し、ピット列 14 と平行に並ぶ。ピット間は 60 ～ 70㎝であるが、ＳＰ 346 とＳＰ 307 の間隔は離れている。それぞれのピットの深さは約 10㎝である。ピット列 14 との間隔は１間である。出土遺物がなく、時期は不明であるがピット列 14 とは同時期に機能していたと考える。

ピット列 14（第 38 図）

調査区中央部で検出した。北からＳＰ 348 ～ 351・313 ～ 316 の８基が並ぶ。軸方向はＮ－４°－Ｅを指す。ピット間は 60 ～ 70㎝を測るが、ＳＰ 351 とＳＰ 313 の間隔は離れる。それぞれのピットの深さは、深いもので 30㎝を測る。出土遺物は図示していないが、ＳＰ 315 で陶器が、ＳＰ 316 で磁器が出土している。時期は不明である。

ピット列 15（第 39 図）

調査区中央部で検出した。北からＳＰ 355 ～ 363 の９基のピットが並ぶ。軸方向はＮ－４°－Ｅを指す。ピット間は 60 ～ 70㎝を測り、それぞれのピットの深さは、深いもので 40㎝を測る。出土遺物は図示していないが、ＳＰ 360・362 で陶器、ＳＰ 363 で土器がある。時期は不明である。

ピット列 16（第 39 図）

調査区中央部で検出した。北からＳＰ 119・135・118・131 の４基が並ぶ。軸方向はピットの数が少なく計測できない。ピット間は 60㎝を測り、それぞれのピットの深さは約 20㎝である。出土遺物はなく、時期は不明である。

以下、ピット列には含めていないが、出土遺物を図示した単独ピットである。

ＳＰ 49（第５・93 図）

調査区中央部で検出した。凹石（１）が出土している。

ＳＰ 67（第 20・93 図）

調査区北東部のＳＢ２の南東隅付近で検出した。土器の火鉢類（１）が出土した。

ＳＰ 76（第５・93 図）

調査区北東部で検出した。凹石（１）が出土している。

ＳＰ 97（第５・93・122 図）

調査区東側のＳＫ 18 に南側で検出した。切り合いではＳＤ４より新しい。磁器の碗（１・２）と土師器高坏（３）、板杭（４）が出土している。

ＳＰ 275（第５・122 図）

調査区西側のＳＸ１の西で検出した。木製品の部材（１）が出土している。

第６節　溝状遺構

ＳＤ２（第 43・94・95）

調査区東側で検出した。ＳＢ１の南西隅を囲むように走り、東端は調査区外へ延びるが、北端部は途切れて終わる。幅 1.2 m、深さ 21cm を測る。埋土は、上層に灰黄褐色細砂、下層に黄灰色砂質シルトが堆積する。上層部分に流水の痕跡がみられた。軸方向は、ＳＢ１にほぼ沿っている。出土遺物は、磁器の碗（１～12）・皿（13～16）、陶器の碗（17）、七輪の目皿（18）、瓦（19～24）などがあり、他にガラス製品や石筆なども出土している。切り合いではＳＤ４・６より新しい。出土遺物は、型紙摺りの碗など近代のものが主体である。ＳＢ１との位置関係から、ＳＢ１と同時期に機能していた溝と考えられ、上層部分の流水の痕跡からは明治後期の氾濫によって埋没した可能性がある。

ＳＤ３（第 40・44・96 図）

調査区中央部の北側で検出した。東西方向に走る溝で、西端部は調査区外へ延びる。幅 50cm、深さ 14cm を測る。埋土は上層に黄灰色砂質シルト、下層に暗灰黄色砂質シルトが堆積する。出土遺物は、陶器の甕（１）、土器の鉢（２）、凹石（３）の他、瓦が出土している。切り合いではＳＤ 20 に先行しており、江戸時代の可能性がある。

ＳＤ４（第 41・44・96 ～ 98・122 図）

調査区東側から中央部にかけて検出した。調査区内を東西方向に真っ直ぐに走り、東端部は調査区外に延びるが、西端部は調査区中央付近で途切れて終わる。幅 1.5 m、深さ 44cm を測る。埋土は上層に暗灰黄色砂質シルト、下層に黄灰色砂質シルトが堆積する。軸方向はＮ－ 88°－Ｗを指す。出土遺物は、磁器の碗（１～ 10）・皿（11 ～ 16）・蓋（17 ～ 19）・仏飯器（20・21）瓶（22 ～ 25）、陶器の碗（26・27）・皿（28）・蓋（29 ～ 35）・土瓶（36 ～ 41）・秉燭（43）・鉢（42・44 ～ 46・48）・擂鉢（47）、土器の焙烙（49）・火鉢類（50）・煜炉（51・52）、丸瓦（53）、土玉（54）、土人形（55）、古銭（56）、不明金具（57）、木製品（58 ～ 60）など多様な遺物がある。磁器では、広東碗が多く出土している。切りあいでは、ＳＢ４・ＳＤ２・ＳＫ 26 などに先行する。ＳＤ 22 との重複関係は、調査時点ではＳＤ 22 が先行するとみていたが、ＳＤ４が先行する可能性もある。時期は江戸時代後半と考える。

ＳＤ５（第 41・44・45・99・100・122 図）

調査区東側で検出した。調査区内を東西方向に走り、西端部はＳＫ 35 に切られて終わる。幅 1.44 m、深さ 20cm を測る。埋土は褐色砂・黄褐色砂などが堆積する。軸方向はＮ－ 85°－Ｗである。出土遺物は、磁器の碗（１・２）・徳利（３）、陶器の碗形容器（４・５）・土瓶（６）・ミニチュアの碗（７）・土器の火鉢（８）、瓦（９～ 15）、木製品（16 ～ 19）の他、ガラス瓶などもある。（４）・（５）の碗形容器には、金属の熔融物が付着する。同様な遺物はＳＫ 18・19・40・41 でも出土しており、同じ時期に廃棄された可能性が高い。切り合いではＳＫ 18・26・35 に先行する。ＳＤ 22 とも重複するが、前後関係は不明である。軸方向はＳＢ２・ＳＤ６・ピット列４・５などとほぼ同一である。時期は近代である。

ＳＤ６（第 41・44・45・100 図）

調査区東側で検出した。調査区内を東西方向に走り、西端部はＳＢ４の南西隅付近で途切れ、東端はＳＤ２に切られて終わる。幅 54cm、深さ 12cm を測る。埋土は褐色砂が堆積する。軸方向はＮ－ 84°－Ｗを指す。出土遺物は、磁器の碗（１～３）・皿（４・５）・徳利（６・７）、陶器の煎茶器（８）・皿（９）・秉燭（10）・甕（11・12）、土器の火鉢（13）、桟瓦（14・15）などである。（８）の煎茶器は蓮月焼又はその模倣品で、ＳＫ２で同型品が出土している。軸方向や出土遺物からは、ＳＤ５と同じ時期に機能していたとみられる。時期は近代である。

ＳＤ７（第 40・44 図）

調査区中央部で検出した。調査区内を南北方向に短く走る。幅 50㎝、深さ４㎝を測る。埋土には径１～２㎝の礫が多く含まれ、硬く締まっていた。軸方向はＮ－ 10°－Ｅを指し、ＳＤ 22 と同一である。出土遺物がなく、時期は不明である。埋土の特徴や軸方向からはＳＤ 22 とつながっていた可能性が高い。

ＳＤ８（第 40・44 図）

調査区中央部で検出した。調査区内を南北方向に短く走る。ＳＤ７と併走する。幅 24㎝、深さ 12㎝を測る。出土遺物はなく、時期は不明である。

ＳＤ９（第 40・44 図）

調査区北東部で検出した。南北方向に走り、北端は調査区外へ延びるが、南端は調査区内で途切れて終わる。幅 24㎝、深さ５㎝を測る。軸方向はＮ－２°－Ｅを指す。埋土は黒褐色砂質シルトである。出土遺物はない。切り合いではＳＤ 15 より新しく、ピット列３に先行する。時期は不明である。

ＳＤ 10（第 10・40・44・101・102 図）

調査区西側で検出した。調査区内を南北方向に走り、北端は一旦途切れて、調査区外へ延びる。幅 82㎝、深さ 74㎝を測る。埋土は黒褐色シルトや黒褐色粘土を主体とする。流水を示す堆積はほとんどみられない。軸方向はＮ－ 11°－Ｅを指す。出土遺物は、磁器の碗（１～３）・皿（４・５）、陶器の碗（６・７）・皿（８～ 12）・土瓶（13・14）・片口（15）・瓶（16）・蓋（17）・擂鉢（18 ～ 20）・鉢（21）、土器の焙烙（22）・皿（23 ～ 26）、土人形（27）、丸瓦（28・29）などがあり、江戸時代後半を主体とする。切り合いでは、ＳＫ 43 より新しく、ピット列６・７に先行する。軸方向ではＳＤ 22 とほぼ同一である。

ＳＤ 11（第 10・40・44・102・122 図）

調査区西側で検出した。調査区内を南北方向に走り、北端は調査区外へ延び、南端は調査区内で途切れて終わる。幅 54㎝、深さ 60㎝を測る。埋土は上層に暗灰黄色砂質シルト、下層に黒褐色砂質シルトが堆積するが、流水を示すような堆積はあまりみられない。軸方向はＮ－３°－Ｅを指す。出土遺物は、陶器の灯明受皿（１）・擂鉢（２）、土人形（３）、木製品（４・５）などがある。切り合いではＳＸ１・ＳＫ 47・50 より新しい。時期は、出土遺物や軸方向からは江戸時代後半の可能性がある。

ＳＤ 12 ～ 14（第 40・44 図）

調査区中央部のＳＢ４の北側に位置する。調査区内を東西方向に３条平行して短く走る。西端は攪乱されて終わる。それぞれの幅は 20 ～ 30㎝、深さ 4㎝を測る。短く途切れるため、軸方向は計測できない。出土遺物は図示していないが、ＳＤ 12 で瓦、ＳＤ 13 で土器、ＳＤ 14 で磁器・陶器・瓦などが出土している。時期は近代以降と推測する。

ＳＤ 15（第 40・44 図）

調査区北東隅で検出した。調査区内を東西方向に走り、東端は調査区外に延びる。幅 56㎝、深さ 14㎝を測る。埋土は上層に黄灰色砂質シルト、下層に褐灰色砂質シルトが堆積する。軸方向は、ゆるやかに屈曲しているため、不正確だが、Ｎ－ 86°－Ｗを指す。出土遺物はない。切り合いでは、ＳＢ２のピット群やＳＤ９、ＳＫ 20・25 に先行する。時期は、切り合いから江戸時代の可能性がある。

ＳＤ 16（第 40・44 図）

調査区南東隅で検出した。調査区内を南北方向に走り、南端は調査区外に延びるが、北端はＳＤ６に切られて終わる。幅 64㎝、深さ 18㎝を測る。埋土は黄灰色砂質シルトである。軸方向はＮ－４°－Ｅを指す。出土遺物はない。時期は不明だが、ＳＤ６と同時期に機能していた可能性がある。

ＳＤ 17（第 40・45 図）

調査区中央部で検出した。調査区内を南北方向に走り、南端はＳＫ 46 に切られて終わる。幅 1.2 m、深さ 6 ㎝を測る。埋土は褐灰色砂である。軸方向はＮ－ 10°－ Ｅを指す。出土遺物は図示していないが、磁器、陶器の破片がある。時期は、ＳＫ 46 との切り合いから江戸時代後半の可能性がある。

ＳＤ 20（第 40・45・102 図）

調査区中央部の北側で検出した。調査区内を南北方向に走る。北端は調査区外に延びるが、南端は旧校舎基礎に切られて終わる。幅 1.5 m、深さ 12㎝を測る。埋土は褐灰色砂質シルトで、硬く締まる。軸方向は、Ｎ－２°－ Ｅを指す。出土遺物は、磁器の碗（１・２）などがある。切り合いでは、ＳＤ３より新しく、ピット列２に先行する。時期は、出土遺物から江戸時代後半と考える。

ＳＤ 21（第 41・45・102 図）

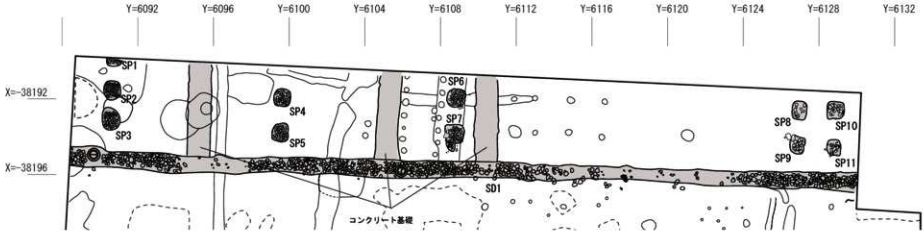
調査区東側で検出した。調査区内を南北方向に走る。南端は調査区外に延びる。幅 1.76 m、深さ 28 ㎝を測る。埋土は黒褐色粘土である。軸方向は短く終わるため、計測できない。出土遺物は、凹石（１・２）がある。時期は不明である。

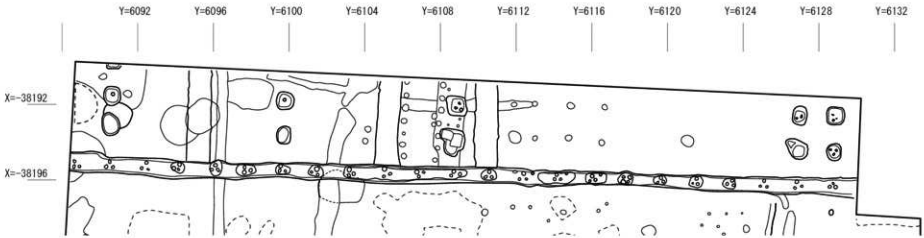
ＳＤ 22（第 42・45 図）

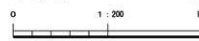
調査区中央部で検出した。調査区内を南北方向に走り、南端は調査区外に延びる。幅 2.5 m、深さ 20㎝を測る。埋土はにぶい黄褐色粘土で、底面に径１～５㎝の礫が敷き詰められており、非常に硬く締まる。軸方向は、Ｎ－ 10°－ Ｅを指す。北側に位置するＳＤ７は、ＳＤ 22 の軸線の延長線上にあり、同様な礫が検出されていたことから同一の遺構であった可能性が高い。道路又は堤などの構造物の基礎である可能性もあるが、現時点では遺構の性格は不明である。出土遺物は図示していないが、陶器の擂鉢が１点ある。切り合いでは、ＳＤ４～６と重複するが、ＳＤ 22 は調査の最終段階で検出したため、埋土による切り合い関係は把握できなかった。時期は不明であるが、ＳＤ 10 と軸方向がほぼ同じであることから、同時期に機能していた可能性もある。

ＳＤ 23（第 40・45・102 図）

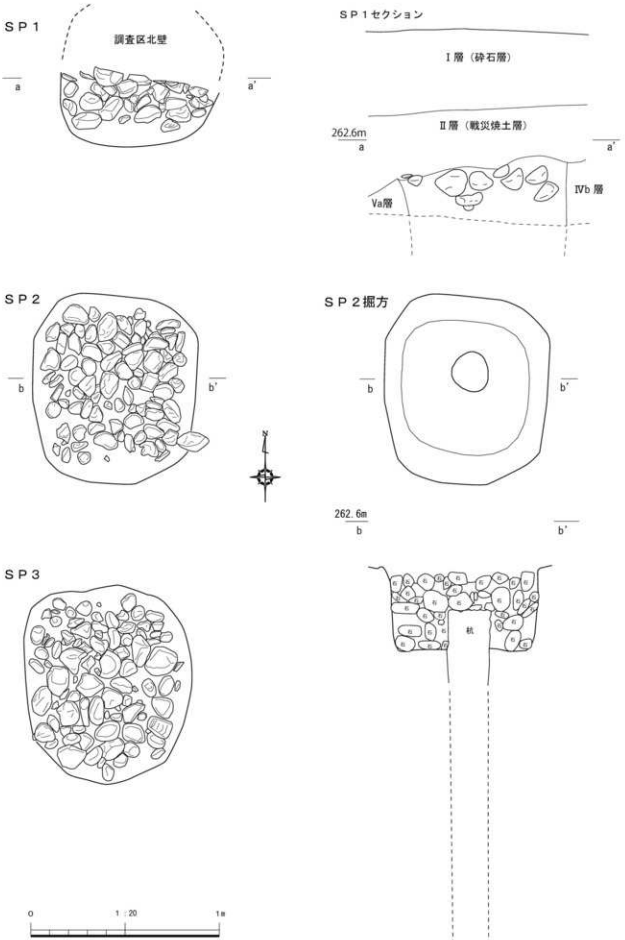
調査区西側で検出した。調査区内を東西方向に短く走る。幅 98㎝、深さ 16㎝を測り、埋土は灰黄褐色砂質シルトで粗砂粒が多く混じる。軸方向は、Ｎ－ 83°－ Ｅを指す。出土遺物は、磁器の碗（１・２）がある。切り合いでは SD11 に先行する。時期は、出土遺物と切り合いから江戸時代と考える。


Y=6092
Y=6096
Y=6100
Y=6104
Y=6108
Y=6112
Y=6116
Y=6120
Y=6124
Y=6128
Y=6132
X=-38192
X=-38196
SP1
SP2
SP3
SP4
SP5
SP6
SP7
SP8
SP9
SP10
SP11
SD1
コンクリート基礎

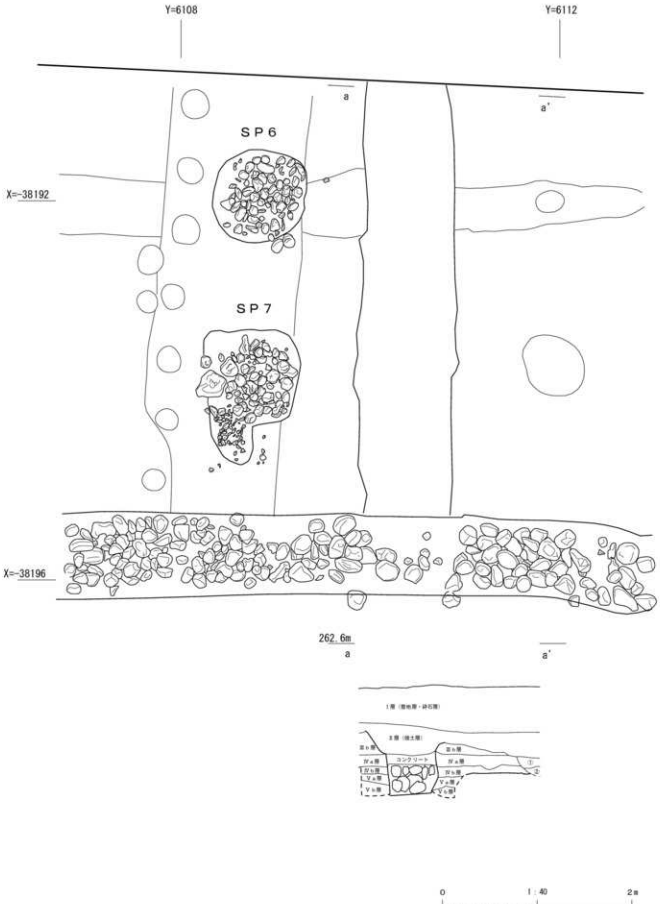

Y=6092
Y=6096
Y=6100
Y=6104
Y=6108
Y=6112
Y=6116
Y=6120
Y=6124
Y=6128
Y=6132
X=-38192
X=-38196


0
1：200
10m

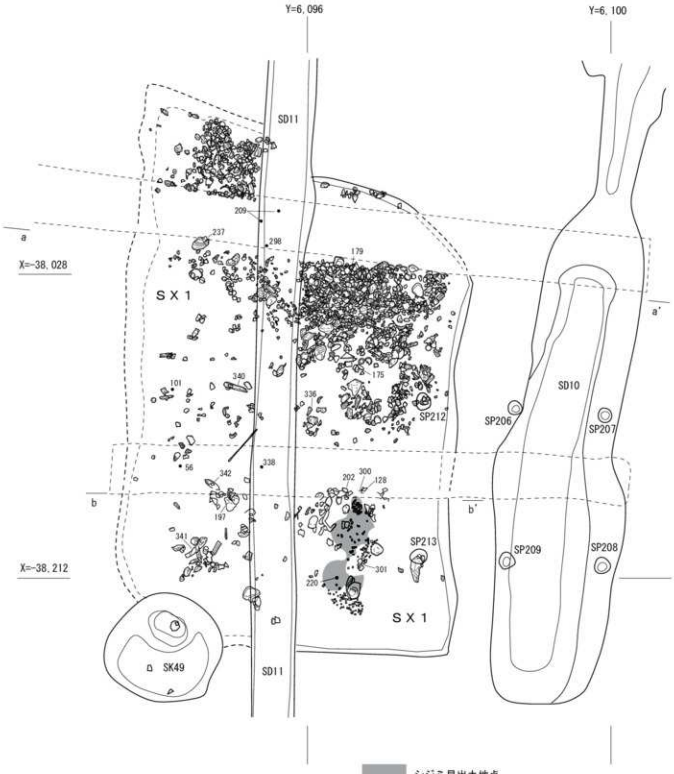
第６図　旧校舎基礎（１）


ＳＰ１
調査区北壁
a
a'
ＳＰ１セクション
Ⅰ層（砕石層）
Ⅱ層（戦災焼土層）
262.6m
a
a'
Va層
Ⅳb 層
ＳＰ２
b
b'
ＳＰ２掘方
b
b'
262.6m
b
b'
ＳＰ３
杭
0
1：20
1m

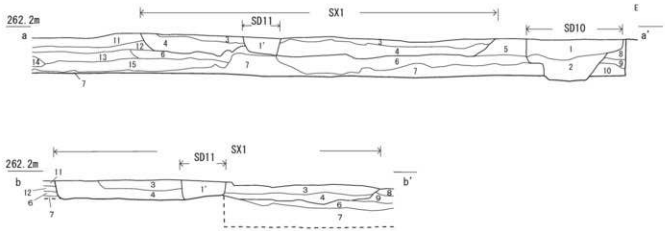
第７図　旧校舎基礎（２）


Y=6108
Y=6112
a
a'
SP6
SP7
X=-38192
X=-38196
262.6m
a
a'
I層（整地層・砕石層）
II層（盛土層）
第II層
第III層
IVa層
IVb層
IVc層
IVd層
コンクリート
IVa層
IVb層
Va層
Vb層
①
②
0
1:40
2m

第８図　旧校舎基礎（３）



第９図　遺物集中地点　ＳＸ１（１）

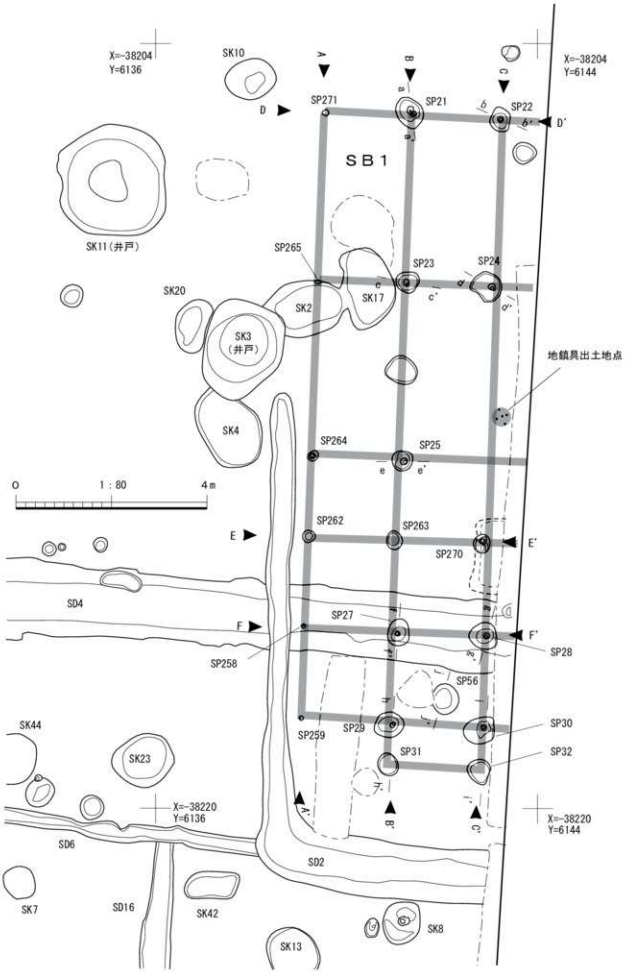


SD10
1．2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト、締り強、粘性やや強
2．10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、締りやや弱、粘性強

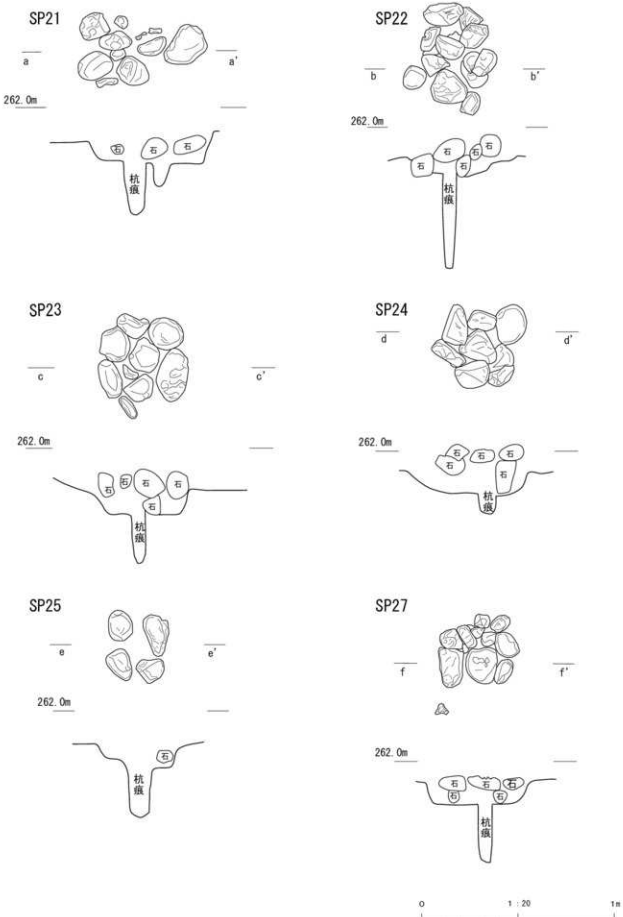
SD11
1'．2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト

SX1
3．2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、締り強、粘性やや弱
4．2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト、締り強、粘性やや弱
5．10YR4/2 褐灰色砂質シルト、締り強、粘性弱
6．2.5Y4/2 暗灰黄色粘土、締りやや弱、粘性やや強
7．5Y4/1 灰色粘土、締りやや強、粘性強
8．2.5Y3/1 黒褐色粘土、締り強、粘性強
9．2.5Y5/1 黄灰色粘土、締り強、粘性強
10．2.5Y2/1 黒色粘土、締り強、粘性強
11．2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、締り強、粘性やや弱
12．7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土、締りやや弱、粘性強
13．2.5Y4/2 暗灰黄色砂、締りやや強、粘性なし
14．2.5Y3/1 黒褐色粘土、締りやや強、粘性なし
15．5Y3/2 オリーブ黒色粘土質シルト、締り強、粘性強

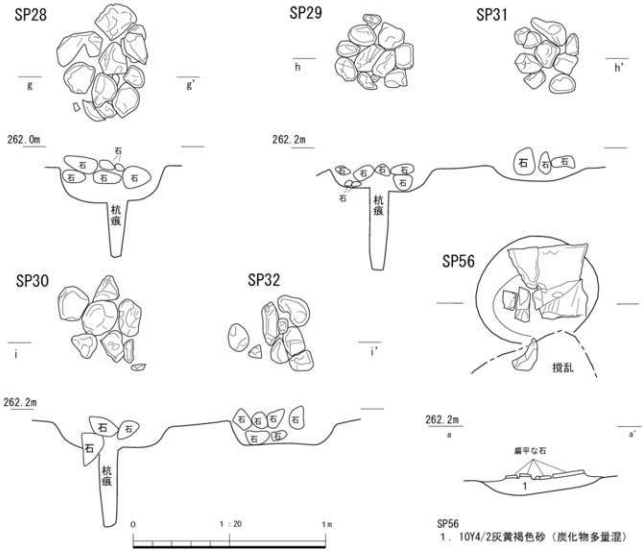
第10図　遺物集中地点　ＳＸ１（２）



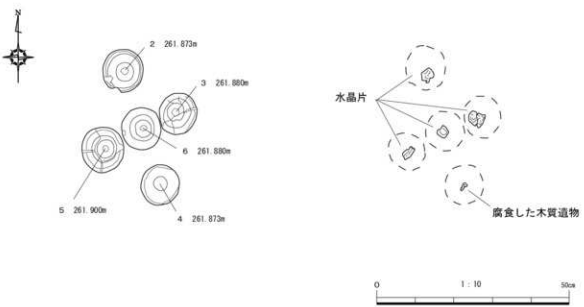
第11図　建物跡（1）　ＳＢ１



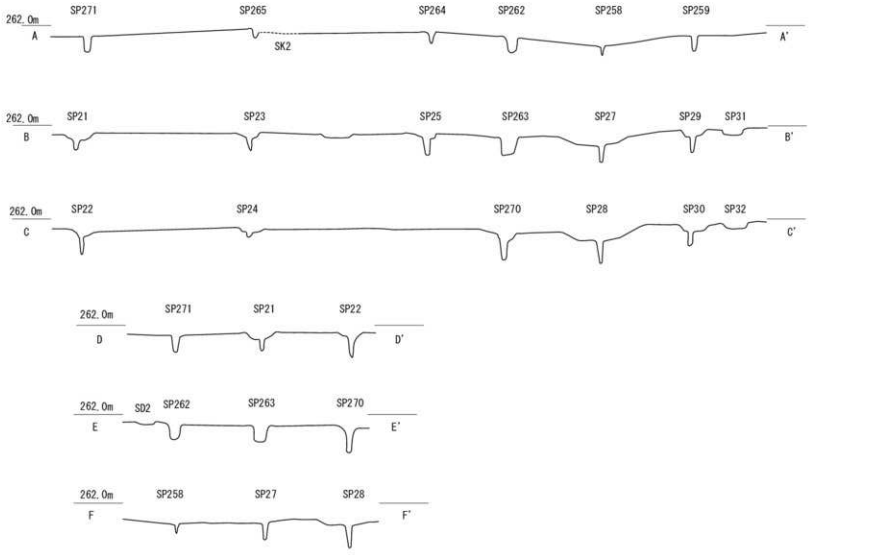
第12図　建物跡（2）　ＳＢ１



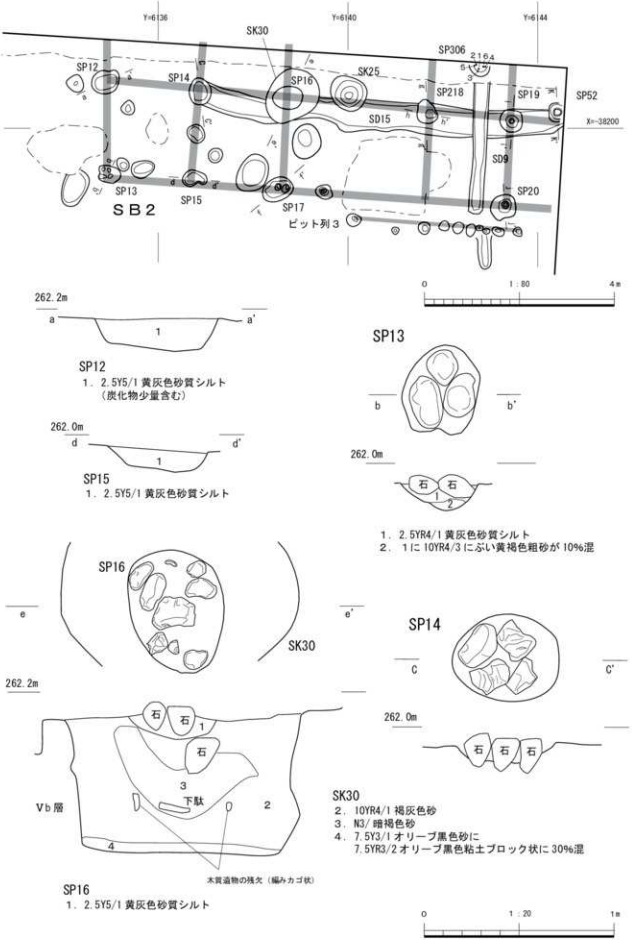
地鎮具出土状況



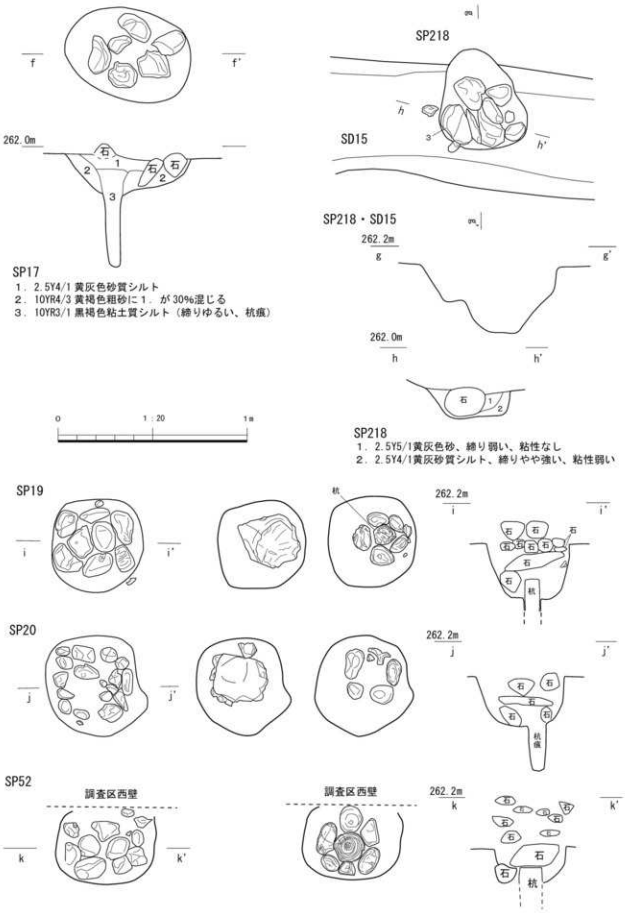
第13図　建物跡（3）　ＳＢ１



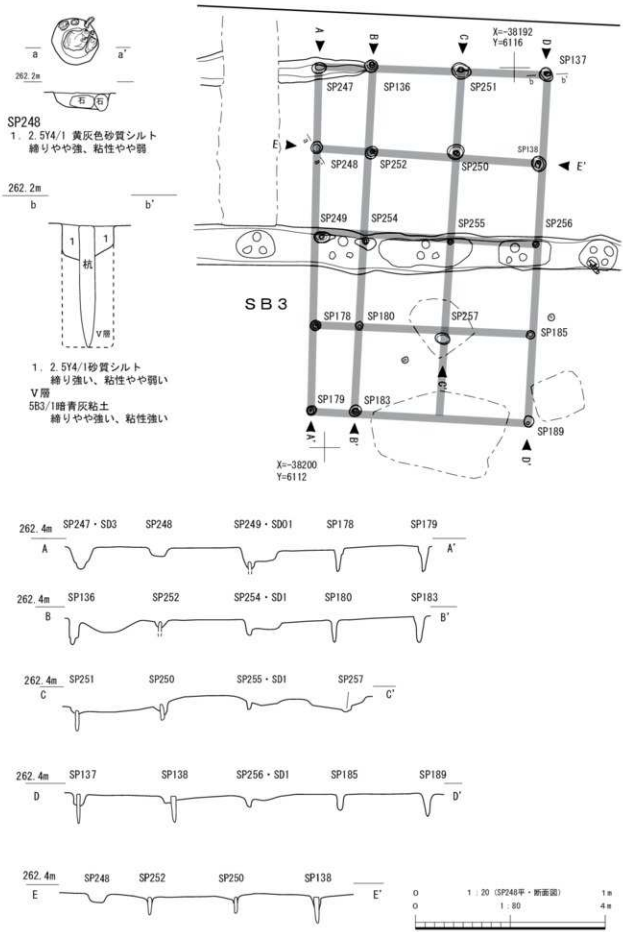
第14図　建物跡（4）　ＳＢ１



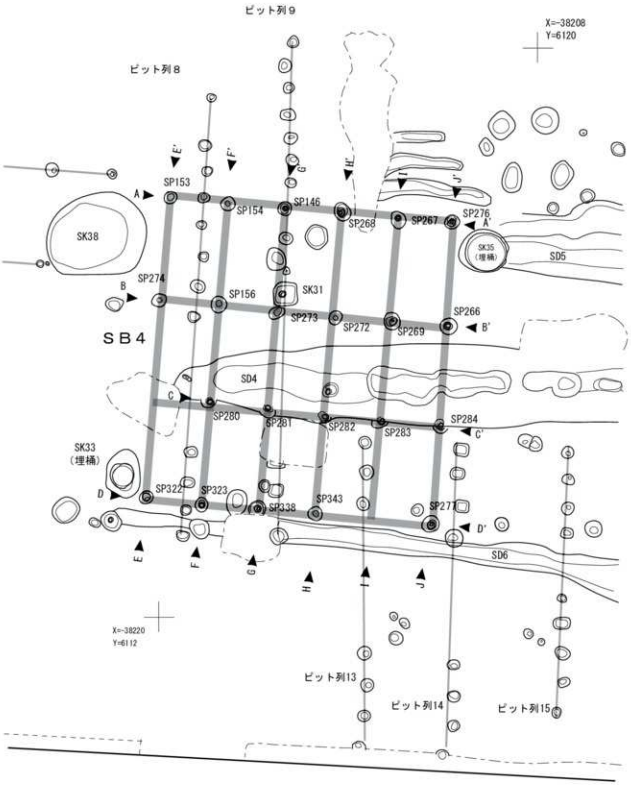
第 15 図　建物跡（５）　ＳＢ２



第16図　建物跡（6）　ＳＢ２

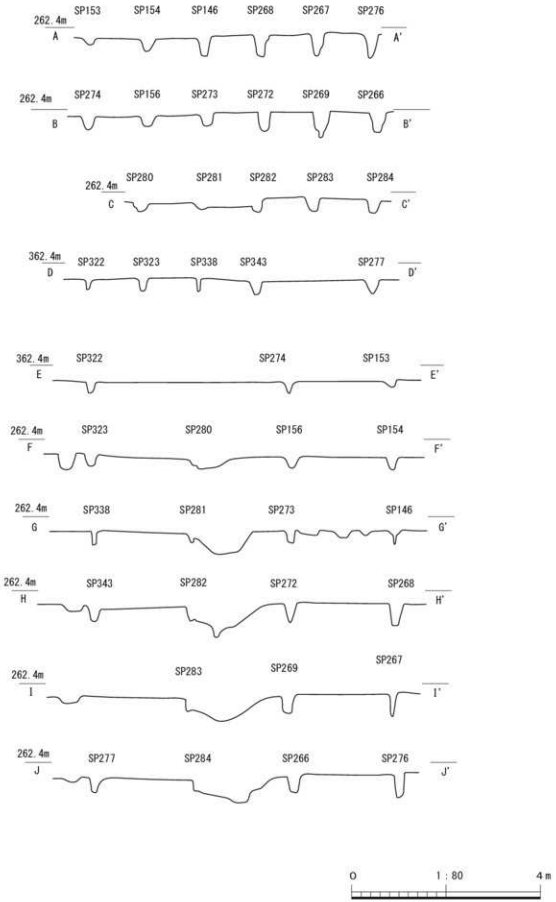


第17図　建物跡（7）　SB3

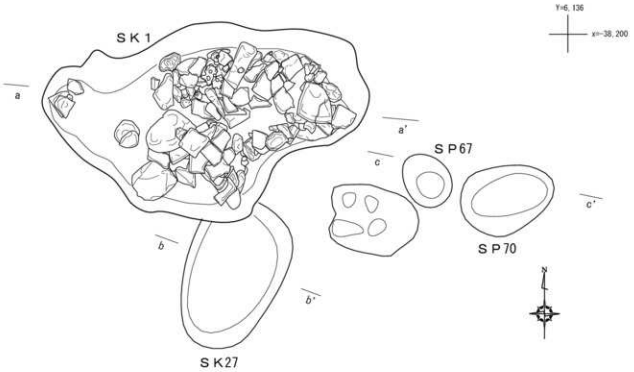


0　1：80　4m

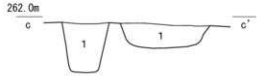
第18図　建物跡（８）　ＳＢ４



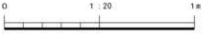
第19図　建物跡（9）　ＳＢ４



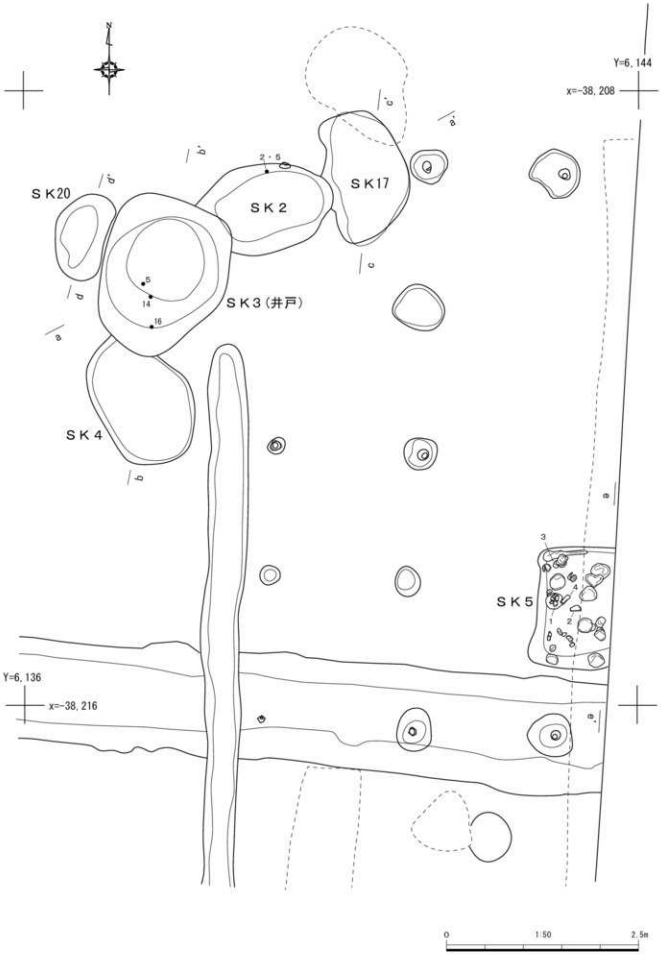
SK27
1．10YR4/1 褐灰色砂質シルト（Ⅳ層）ベースに
10YR5/3 にぶい黄褐色細砂（Ⅲ層）が30%混じる



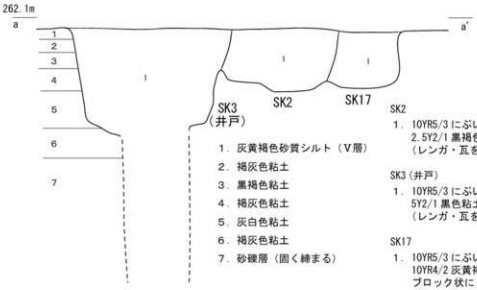
SP67・70
1．10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト



第20図　土坑（１）　ＳＫ１・27、ＳＰ67・70



第21図　土坑（2）　SK2・3(井戸)・4・5・17・20

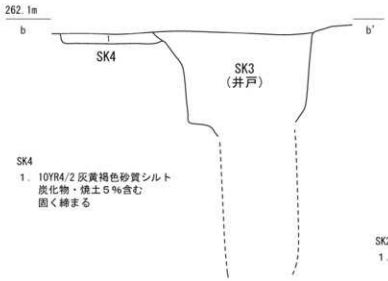


1．灰黄褐色砂質シルト（Ⅴ層）
2．褐灰色粘土
3．黒褐色粘土
4．褐灰色粘土
5．灰白色粘土
6．褐灰色粘土
7．砂礫層（固く締まる）

SK2
1．10YR5/3 にぶい黄褐色細砂（Ⅲ層ベース）に
2.5Y2/1 黒褐色年度質シルト 10%混じる
（レンガ・瓦を多く含む）

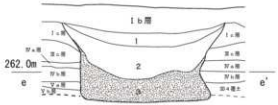
SK3（井戸）
1．10YR5/3 にぶい黄褐色細砂（Ⅲ層ベース）に
5Y2/1 黒色粘土をブロック状に30%含む
（レンガ・瓦を多く含む）

SK17
1．10YR5/3 にぶい黄褐色細砂（Ⅲ層ベース）に
10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルトを
ブロック状に 10%含む



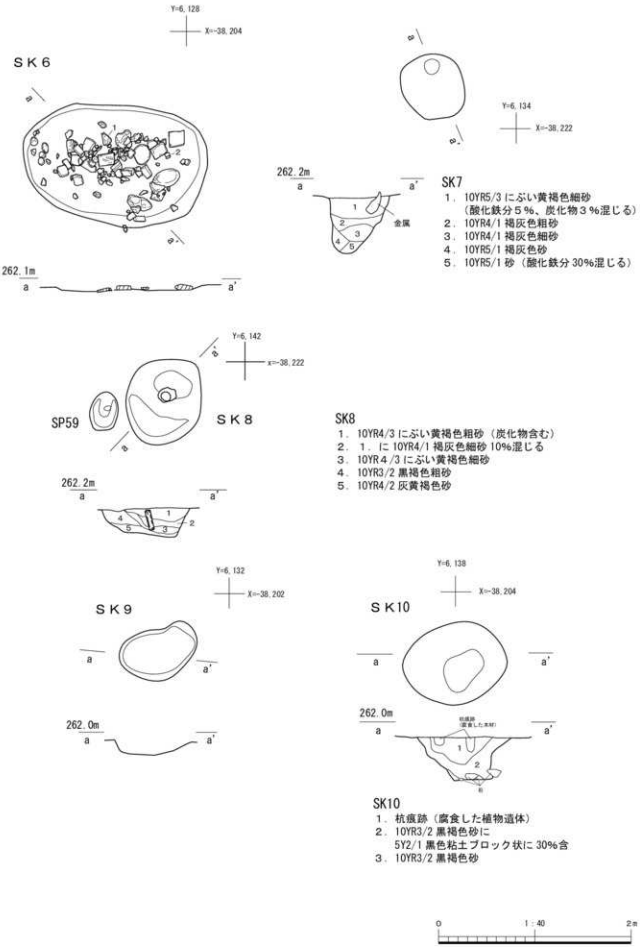
SK4
1．10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト
炭化物・焼土５%含む
固く締まる

SK20
1．10YR5/3 にぶい黄褐色細砂（Ⅲ層）に
5Y2/1 黒色粘土質シルトをブロック状に 10%含む

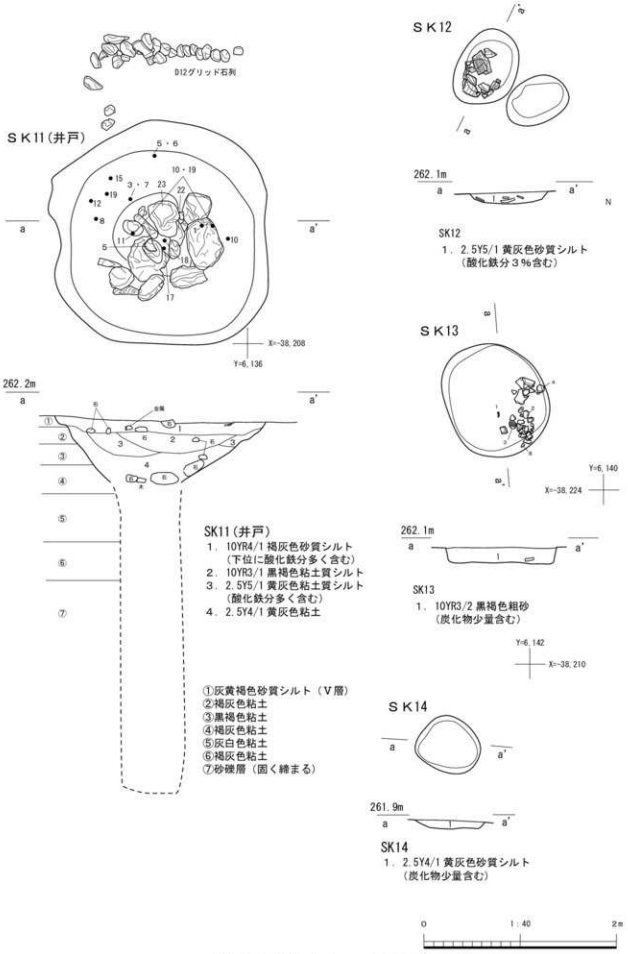


SK5
1．2.5Y3/2 黒褐色砂質シルトに
2.5Y4/1 黄褐色細砂がうすく互層状に30%混じる
2．2.5Y3/2 黒褐色砂質シルトに
2.5Y5/2 暗灰黄色細砂が 30%混じる
3．炭化物・焼土層（土器・瓦などの投棄遺物多く含む）

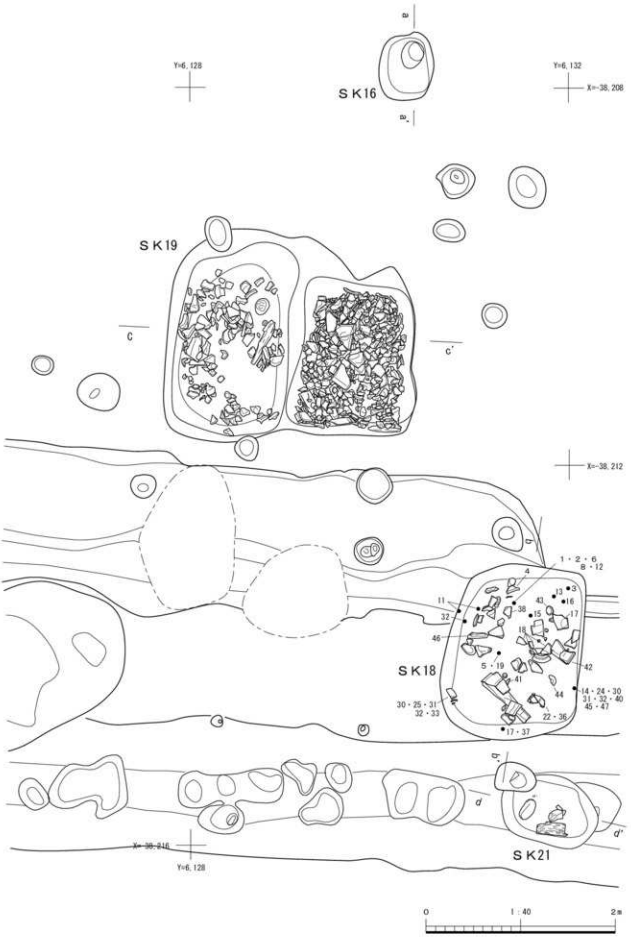
第 22 図　土坑（３）　ＳＫ２・３（井戸）・４・５・17・20



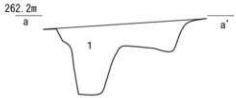
第 23 図　土坑（４）　ＳＫ６～10



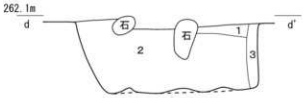
第24図　土坑（５）　ＳＫ11(井戸）～14



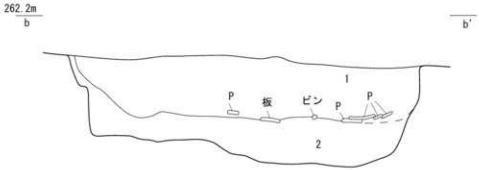
第25図　土坑（6）　SK16・18・19・21



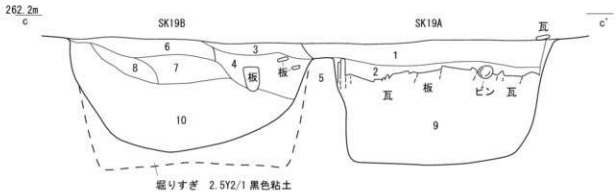
SK16
1．10YR4/2 灰黄褐色砂



SK21
1．2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト、締り強い、粘性弱い
2．2.5Y4/1黄灰色粘土
締り強い、粘性弱い、5mm炭化物1%含む
3．2.5Y4/2暗黄灰色粘土質シルト
締り強い、粘性弱い

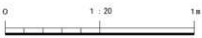


SK18
1．2.5Y3/1黒褐色砂質シルト（瓦、腐食した植物遺体炭化物多く含む、締りゆるい）
2．N3/ 暗灰色砂

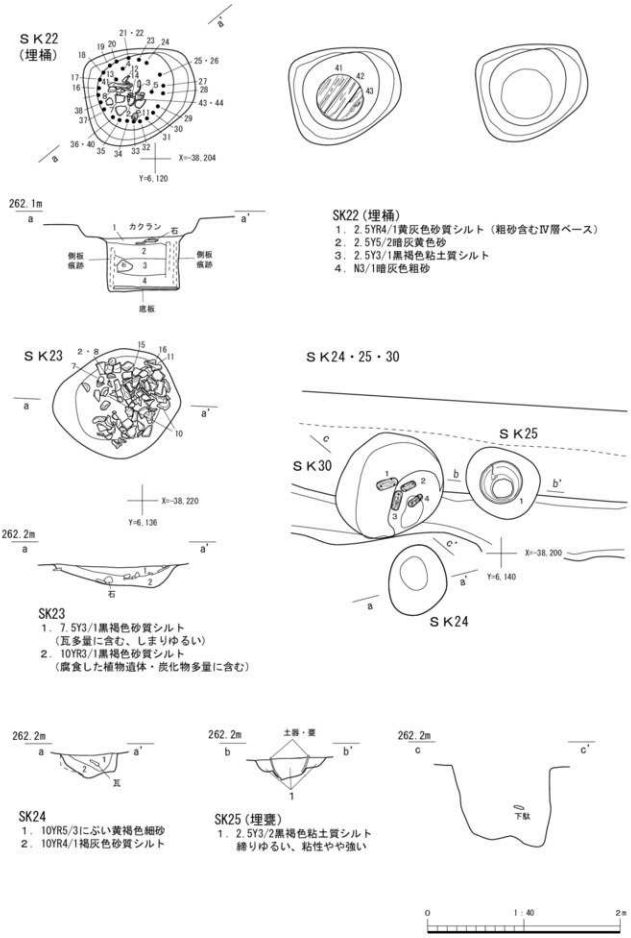


SK19B
3．10YR5/2褐灰色細砂（酸化鉄分多く含む）
4．10YR4/1褐灰色細砂
5．10YR6/2灰黄褐色砂
6．10YR4/1褐灰色砂質シルト
7．10YR4/1褐灰色細砂
8．10YR6/2灰黄褐色砂
10．10YR4/1褐灰色粗砂（炭化物・植物遺体多く含む）

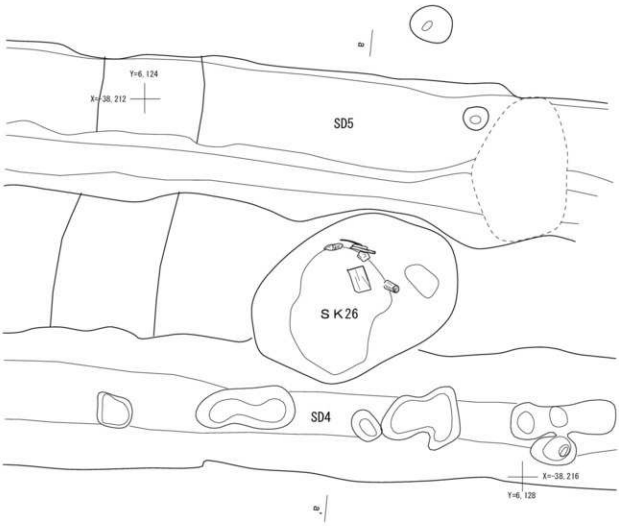
SK19A
1．10YR4/1褐灰色砂質シルト（炭化物10%含む）
2．10YR5/1褐灰色細砂（瓦多く含む）
9．10YR3/1黒褐色粗（瓦・炭化物多量含む）



第26図 土坑（7） ＳＫ16・18・19・21



第27図　土坑（８）　ＳＫ22(埋桶)～25・30



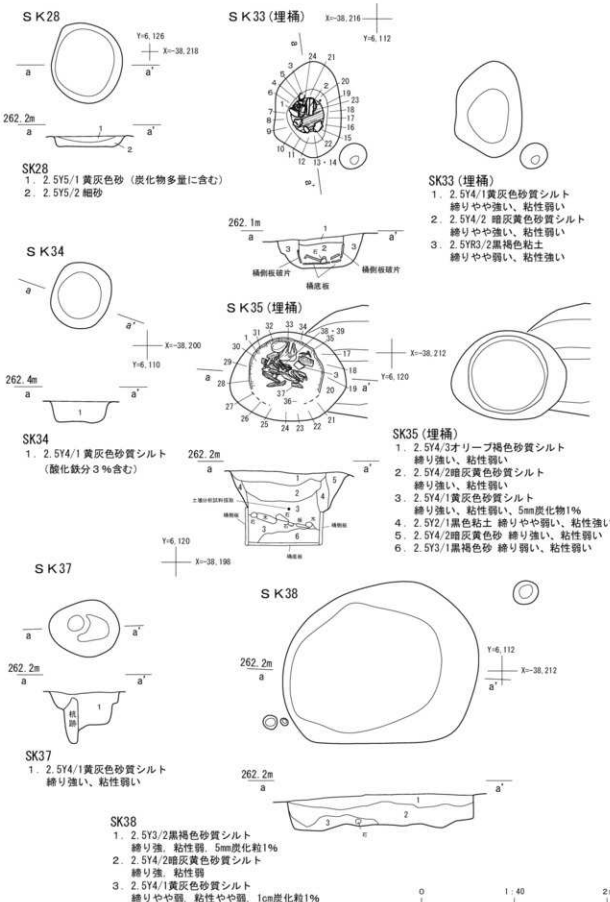
SK26
1．10YR3/3暗褐色砂、締りやや弱い、粘性弱い
2．10YR3/2黒褐色砂質シルト、締りやや弱い、粘性強い
3．10YR4/4褐色砂質シルト、締りやや強い、粘性弱い、鉄分集積
4．10YR3/4暗褐色砂質シルト、締りやや強い、粘性弱い
5．10YR3/3黒褐色粘土、締りやや強い、粘性強い
6．10YR3/3暗褐色砂、締りやや弱い、粘性弱い、粘土混、木・瓦含む
7．10YR2/2黒褐色粘土、締りやや強い、粘性強い、木杭

SD4
8．10YR4/4褐色砂質シルト、締り強い、粘性弱い
9．10YR3/4 暗褐粘土、締り強い、粘性強い

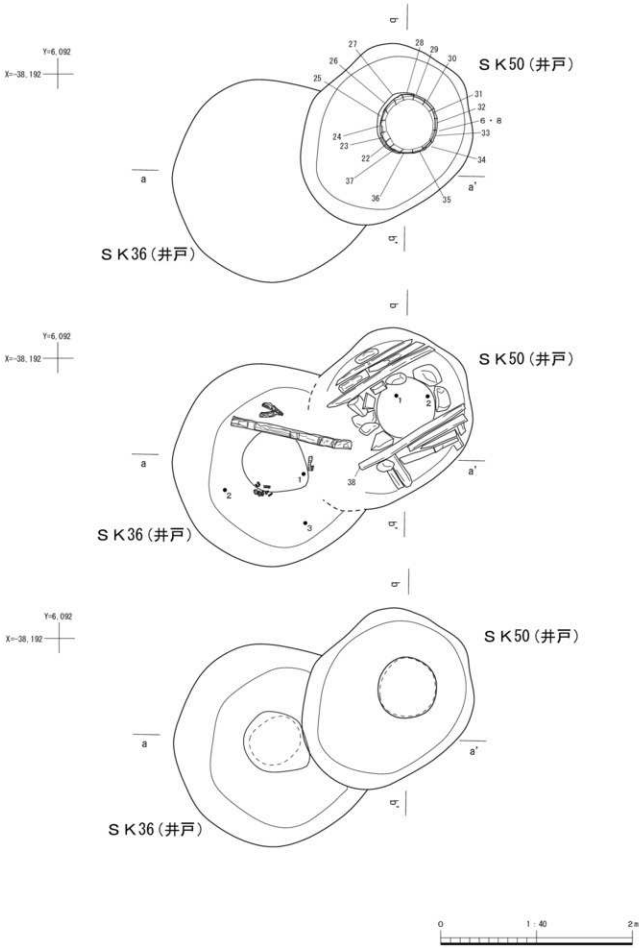
SD5
10.10YR4/4褐色砂質シルト、締り弱い、粘性弱い
11.10YR3/3暗褐色砂、締まりやや弱い
12.10YR5/6黄褐色砂、締り弱い、粘性弱い

0　1：40　2m

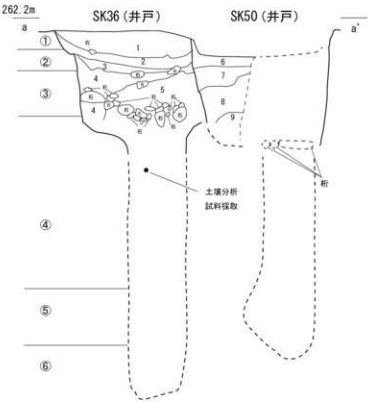
第28図　土坑（9）　ＳＫ26



第 29 図　土坑（10）　ＳＫ28・33（埋桶）・34・35（埋桶）・37・38



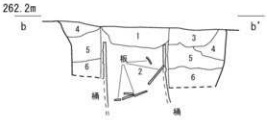
第30図　土坑（11）　SK36・50（井戸）



SK36（井戸）
1．10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（固く締る）
2．10YR3/2黒褐色粘土（腐食した植物遺体含）
3．10YR5/3 に近い黄褐色粗砂に
　10YR4/1褐灰色砂質シルトが薄く互層状に混じる
4．10YR3/2黒褐色粘土質シルト
5．N3/暗灰色粘土質シルト

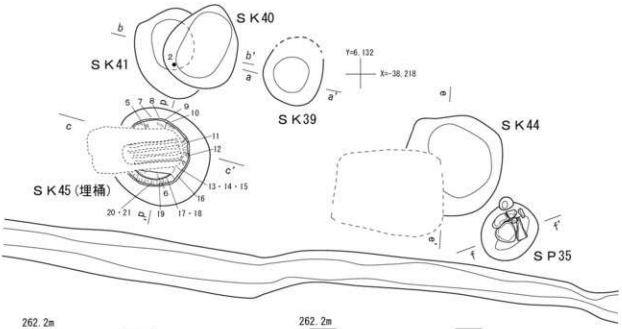
SK50（井戸）
6．10YR3/2黒褐色粘土に
　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト10%混
7．10YR3/2黒褐色粘土
8．N4/灰色粘土質シルト、締り弱、粘性強
9．2.5Y2/1黒色粘土、締り強、粘性強

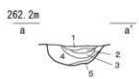
①灰黄褐色砂質シルト（Ⅴ層）
②灰白色粘土
③黒褐色粘土
④褐灰色粘土
⑤黒褐色粘土
⑥灰白色粘土に
　砂層が互層状に混じる
（湧水層）



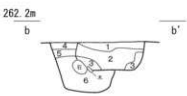
SK50（井戸）
1．2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト
　締り強い、粘性やや弱い、炭化物１%混じる
2．10YR3/2 黒褐色粘土
　締り弱い、粘性強い、炭化物２%混じる
3．10YR4/2 灰黄褐色粘土に
　10YR3/2 黒褐色粘土５%混じる
　締り強い、粘性強い
4．10YR3/2 黒褐色粘土に
　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 10%混じる
　締り強い、粘性強い
5．10YR3/2 黒褐色粘土、締り強い、粘性強い
6．N4/ 灰色粘土質シルト、締り強い、粘性強い

第 31 図　土坑（12）　ＳＫ36・50（井戸）



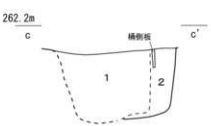


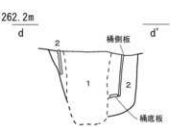
SK39
1．2.5Y6/1黄灰色砂
締り弱い、粘性なし
2．2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト
締りやや弱い、粘性やや弱い
3．2.5Y5/1黄灰色砂質シルト
締りやや弱い、粘性やや弱い、5mm炭化物1%含む
4．2.5Y4/1黄灰色砂質シルト
締りやや強い、粘性やや弱い、5mm炭化物5%含む
5．2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
締りやや強い、粘性やや弱い



SK40
1．2.5Y4/1黄灰色砂質シルト、締り弱い、粘性弱い、1mm炭化物1%含む
2．2.5Y5/1黄灰色砂質シルト、締り弱い、粘性なし
3．2.5Y4/1黄灰色砂質シルト 締りやや強い、粘性やや強い

SK41
4．2.5Y4/1黄灰色砂質シルト 締りやや強い、粘性やや強い
5．2.5Y3/2黒褐色粘土質シルト、締りやや強い、粘性やや強い
6．2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト、締り弱い、粘性やや強い

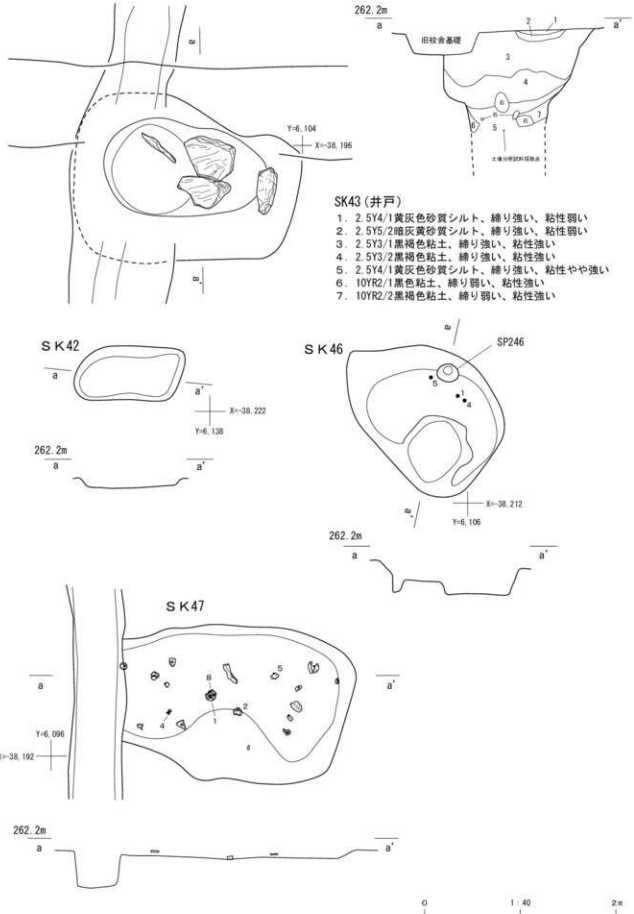




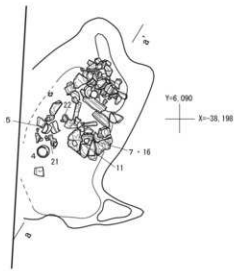
SK45(埋桶)
1．重機による撹乱（径3mmほどの砕石が50%混じる）
2．10YR4/1褐灰色粘土、締り弱い、粘性強い

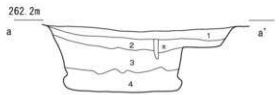
SK44
1．撹乱
2．2.5Y4/1黄灰色砂質シルト、締り強い、粘性弱い
3．2.5Y4/2暗灰黄色粘土、締り弱い、粘性強い
4．2.5Y3/2黒褐色粘土、締りやや強い、粘性やや強い
5．2.5Y3/1黒褐色シルト、締り強い、粘性やや強い

第32図　土坑（13）　SK39～41・44・45(埋桶)・SP35

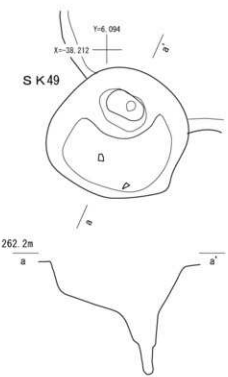


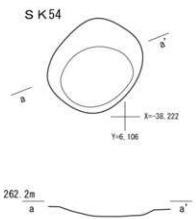
第33図　土坑（14）　SK42・43（井戸）・46・47



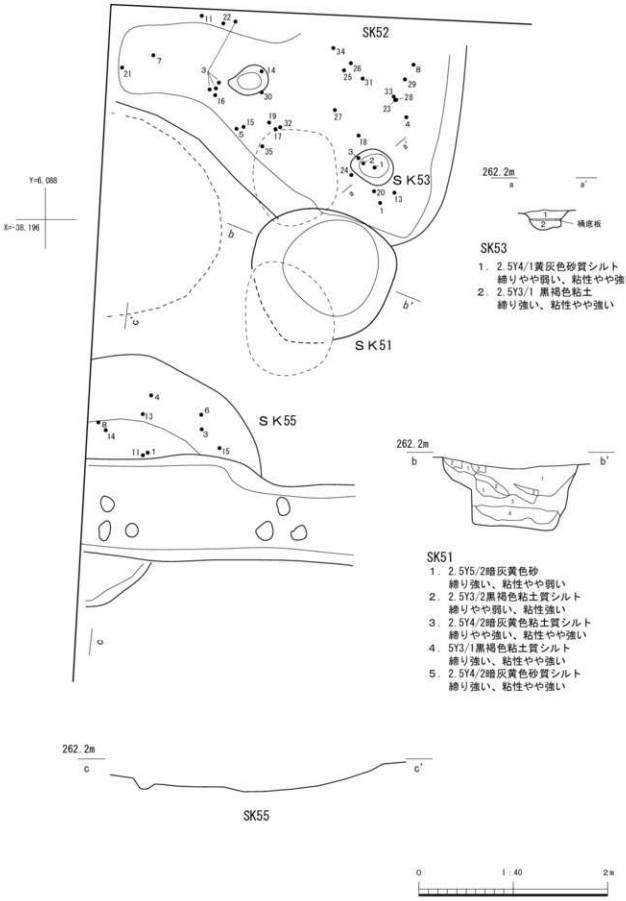


SK48
1．2.5Y3/2黒褐色砂質シルト、締りやや弱い、粘性やや弱い
2．2.5Y4/1黄灰色砂質シルト、締りやや強い、粘性やや弱い
3．2.5Y3/2黒褐色砂質シルト、締り強い、粘性弱い
4．7.5Y4/1灰色砂質シルト、締り強い、粘性弱い

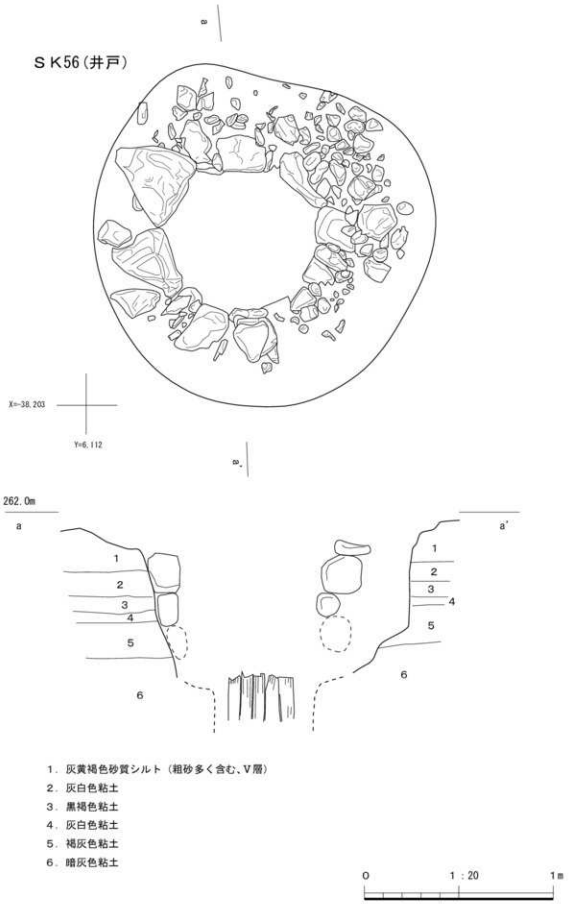




第34図　土坑（15）　SK48・49・54

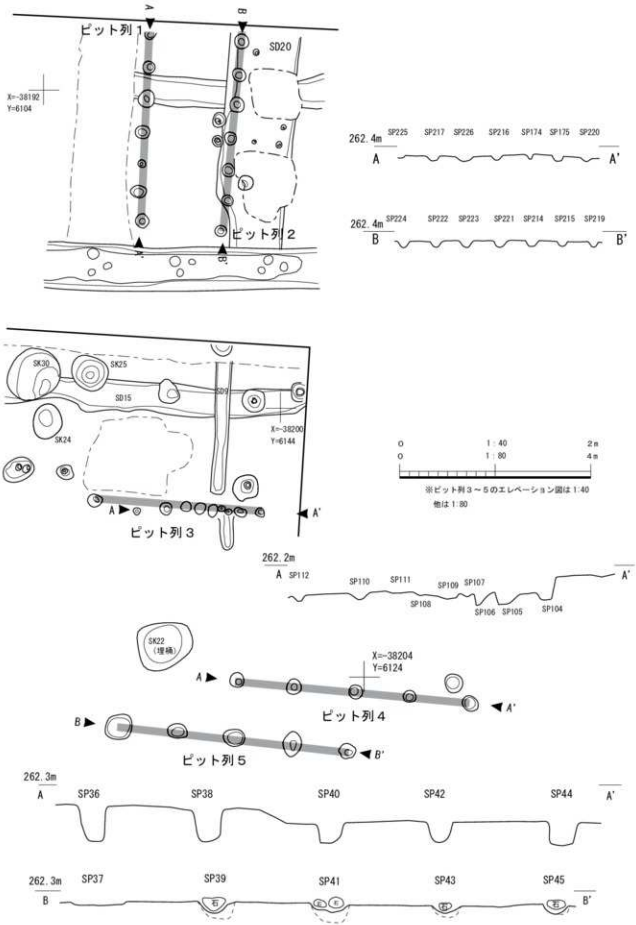


第35図　土坑（16）　ＳＫ51・53・55

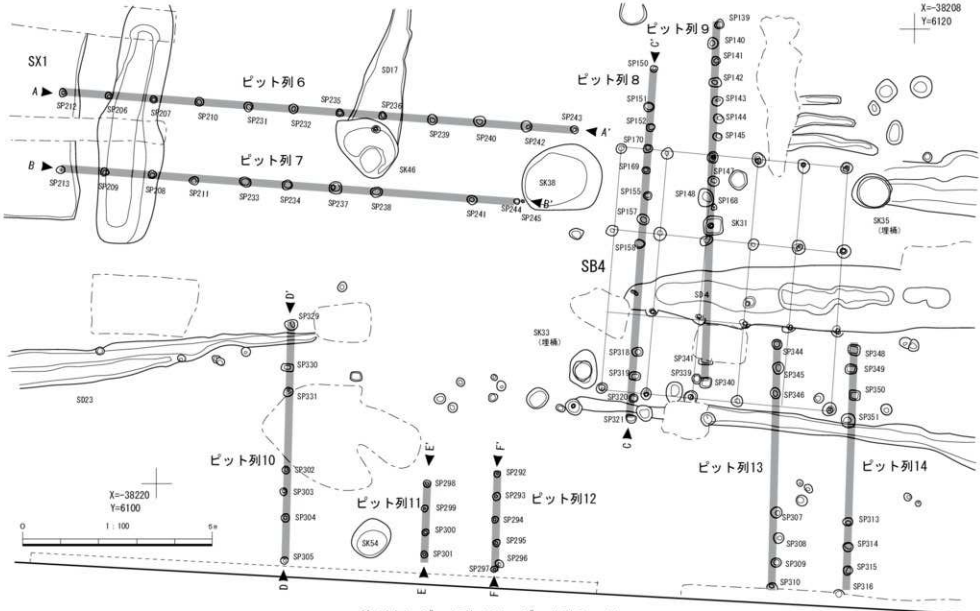


1．灰黄褐色砂質シルト（粗砂多く含む、V層）
2．灰白色粘土
3．黒褐色粘土
4．灰白色粘土
5．褐灰色粘土
6．暗灰色粘土

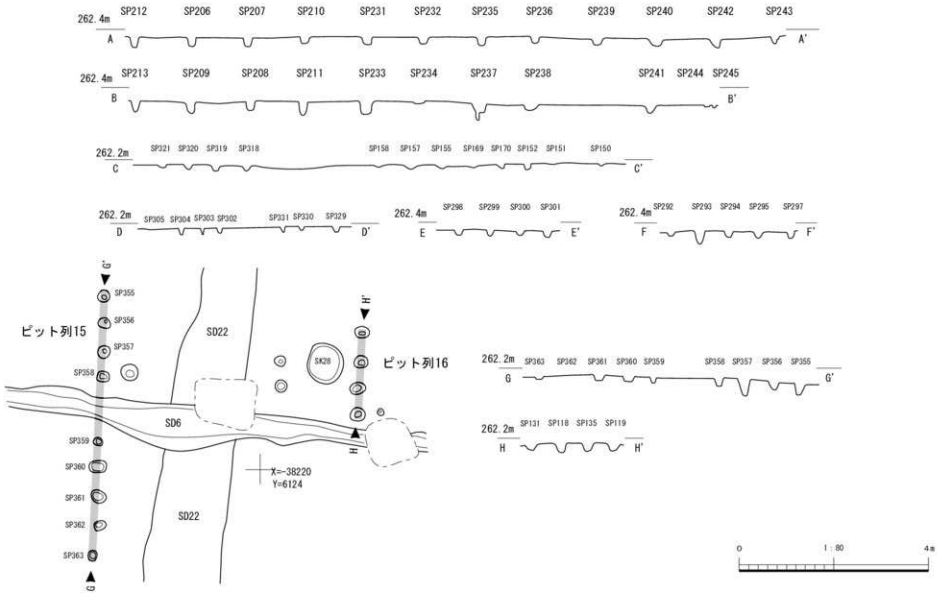
第36図　土坑（17）　SK56（井戸）



第 37 図　ピット列（１）　ピット列１～５

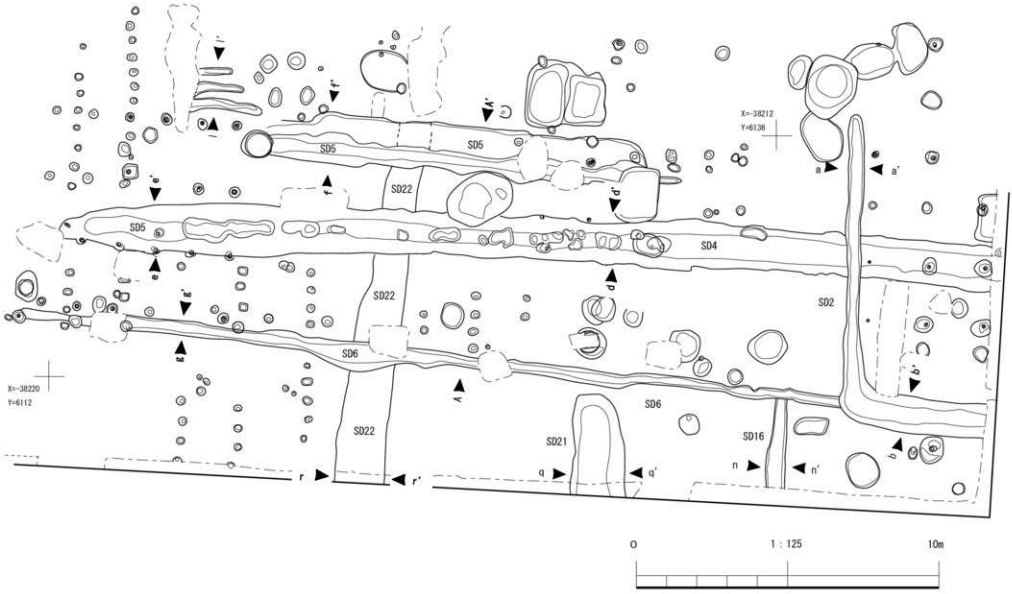


第38図　ピット列（2）　ピット列6～14

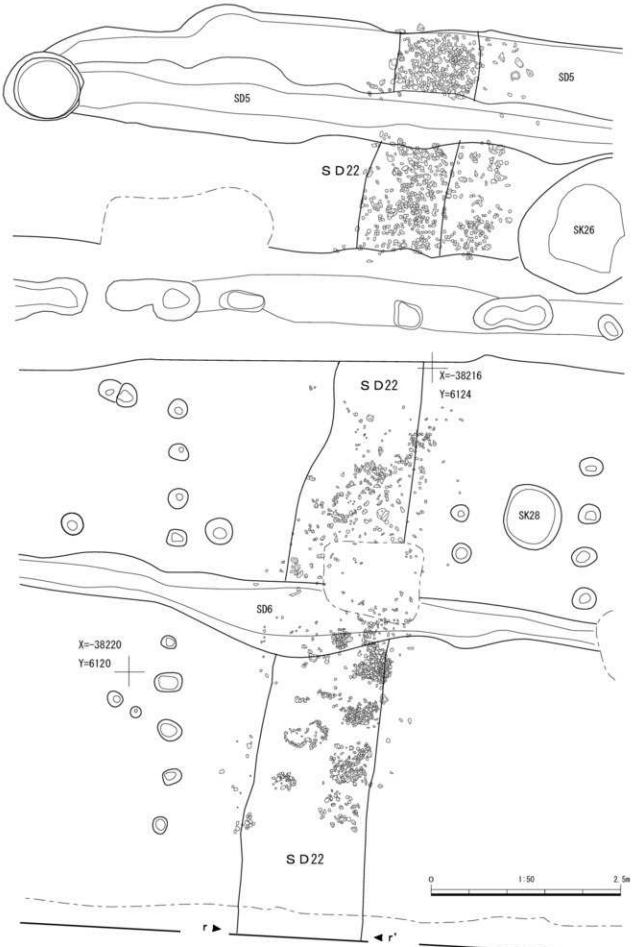


第39図　ピット列（3）　ピット列6～16

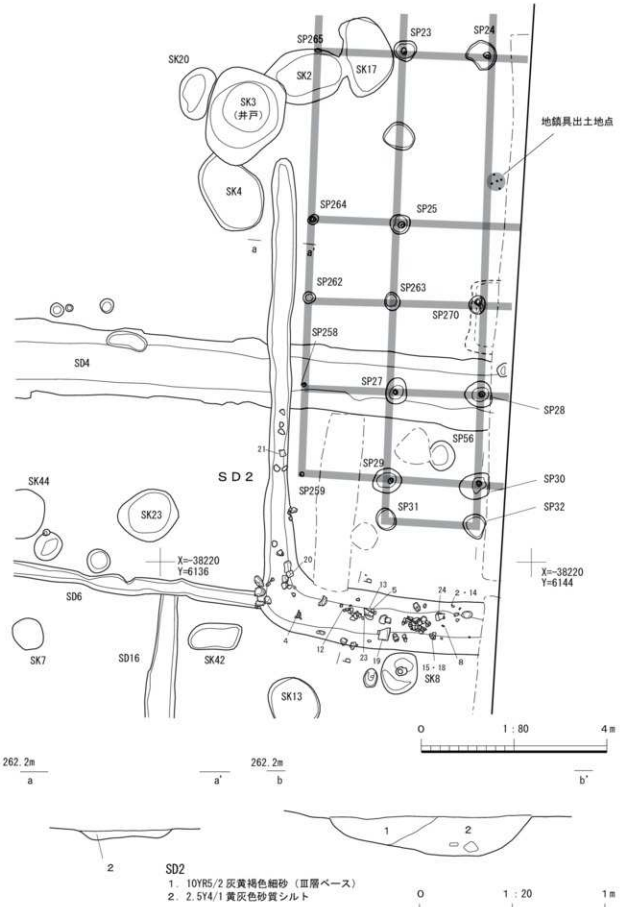
第 40 図　溝状遺構（１）　溝状遺構位置図



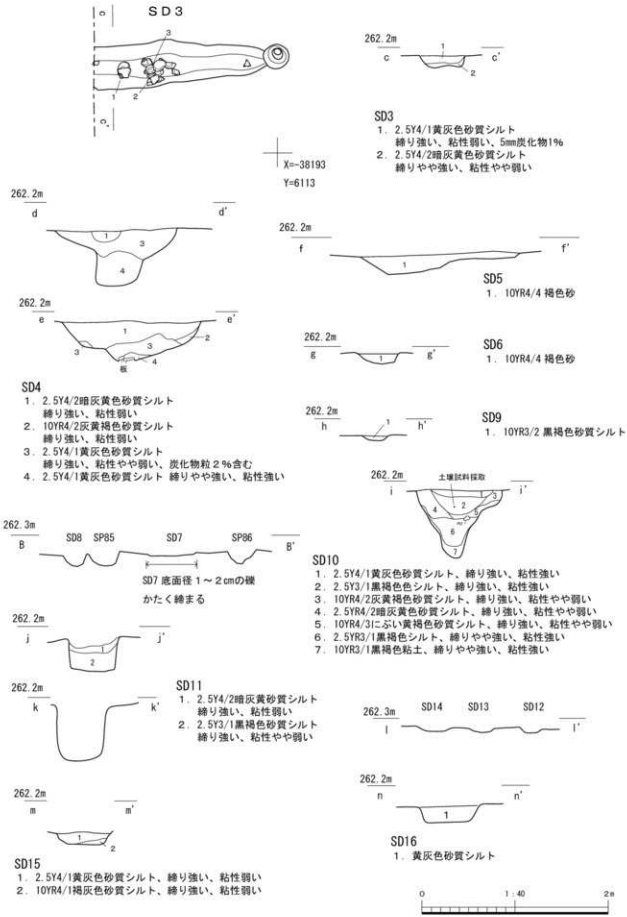
第 41 図　溝状遺構（２）　溝状遺構位置図



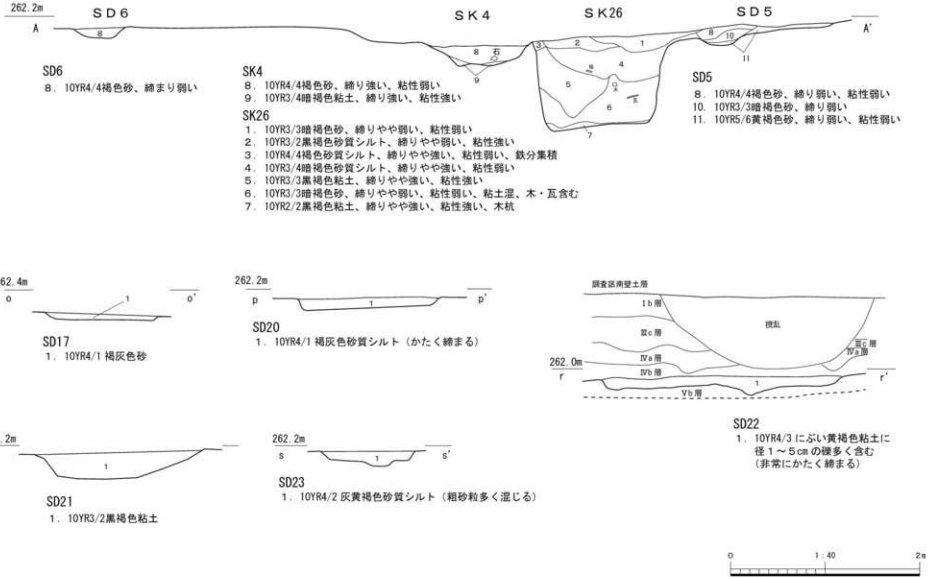
第42図　溝状遺構（3）　SD22



第43図　溝状遺構（4）　ＳＤ２



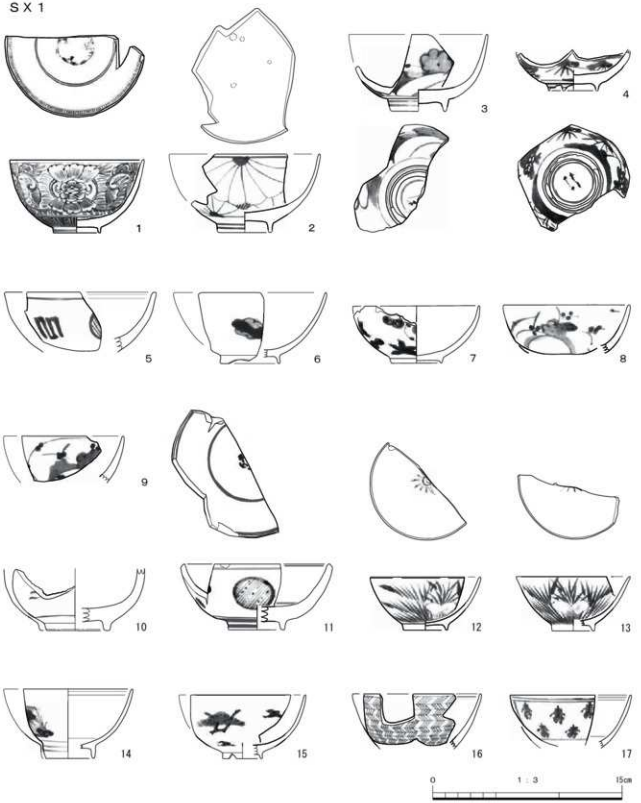
第44図　溝状遺構（５）　ＳＤ３・７～16



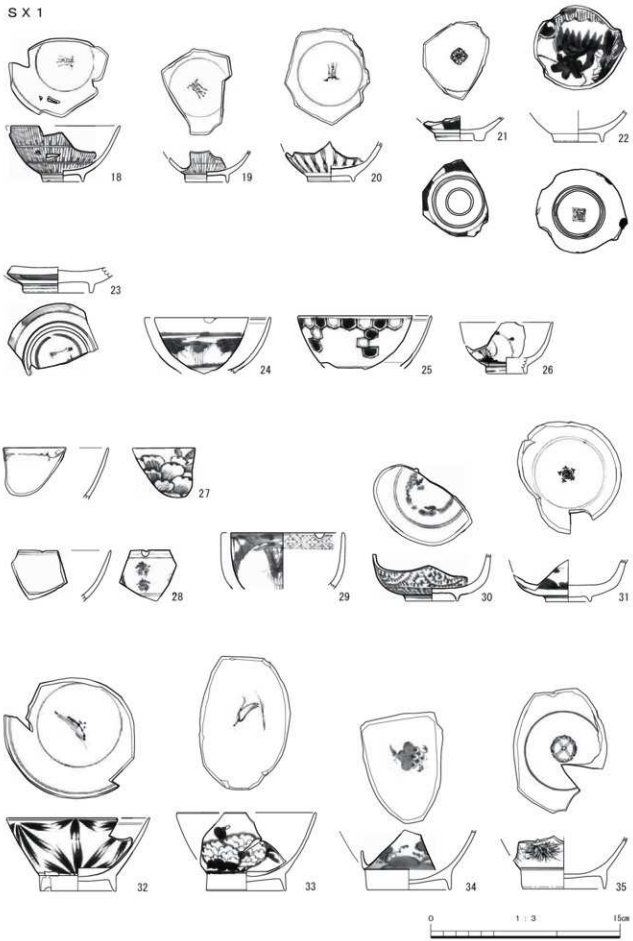
第 45 図　溝状遺構（６）　ＳＤ４～６・17・20～23

旧校舎基礎

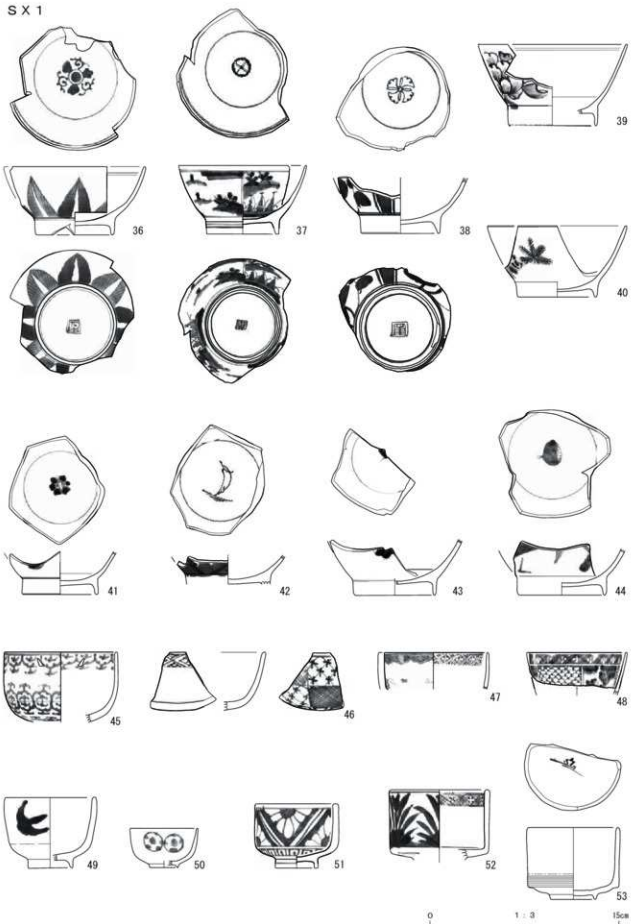
ＳＸ１



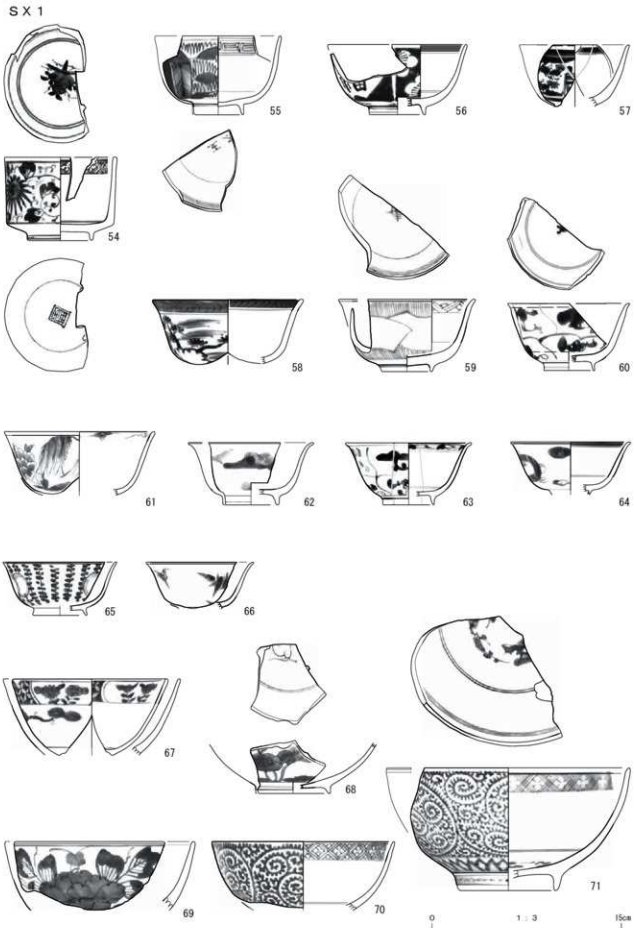
第 46 図　遺構出土遺物（１）　旧校舎基礎・ＳＸ１



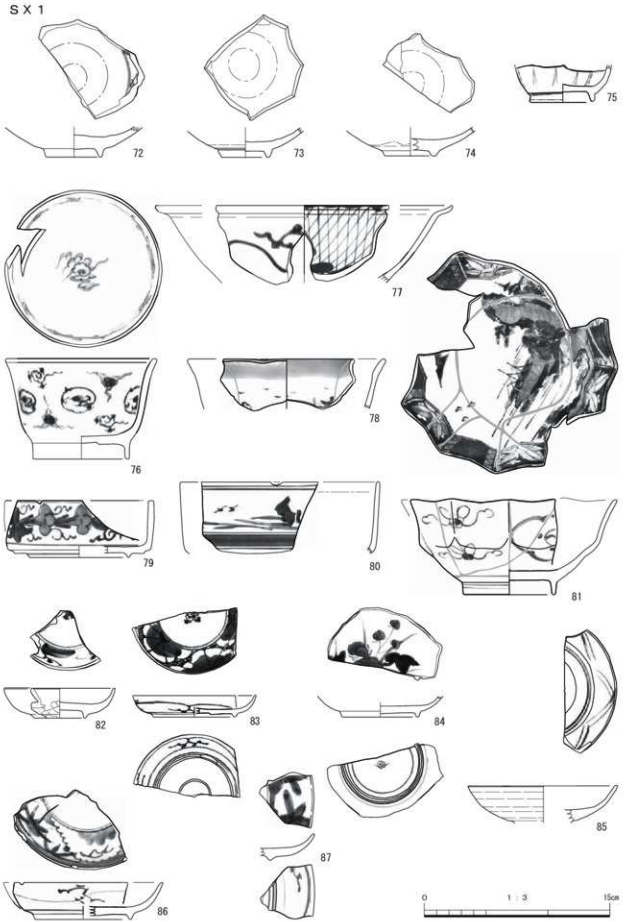
第 47 図　遺構出土遺物（２）　ＳＸ１



第48図　遺構出土遺物（３）　ＳＸ１

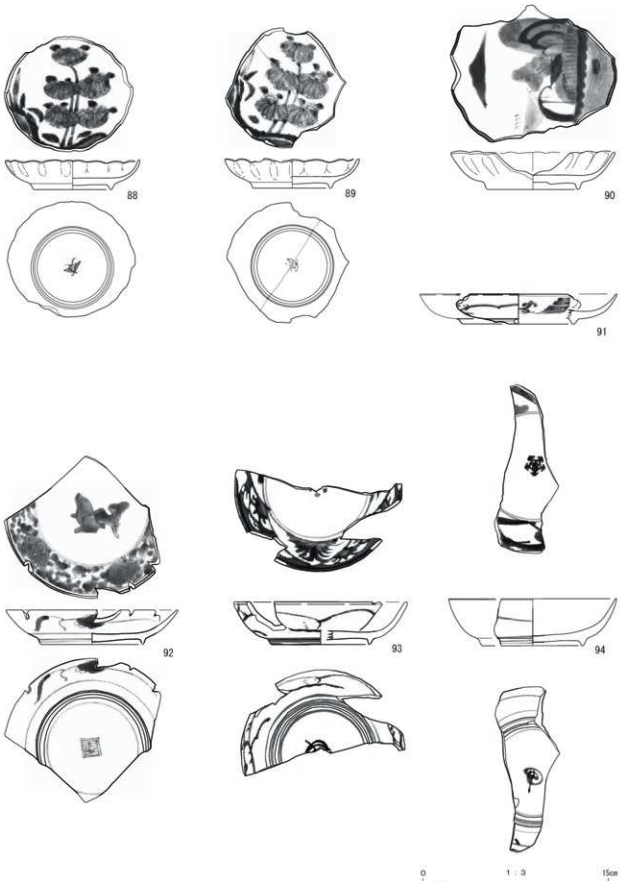


第 49 図　遺構出土遺物（４）　ＳＸ１

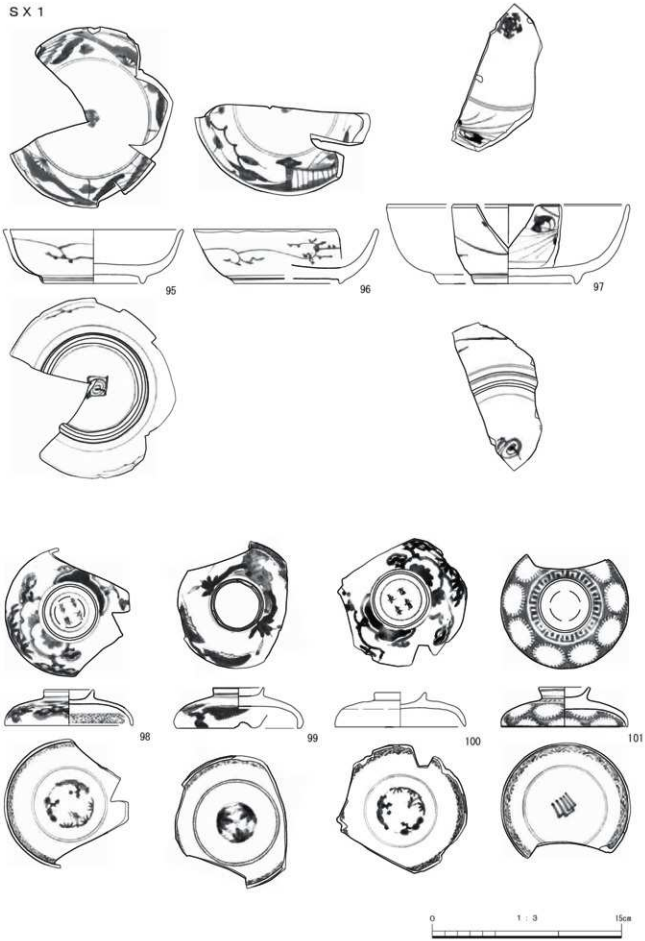


第50図　遺構出土遺物（５）　ＳＸ１

ＳＸ１

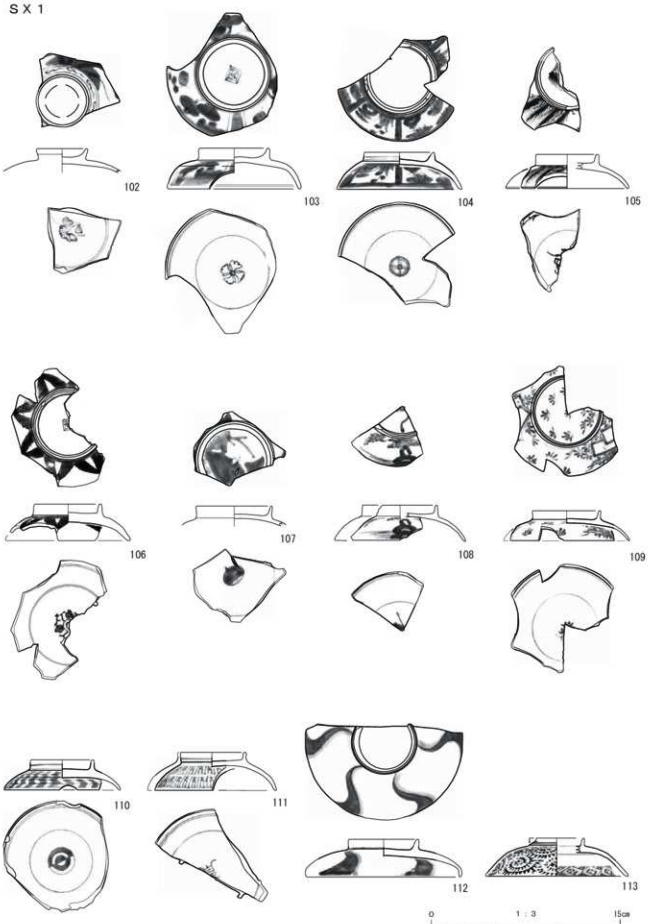


第51図　遺構出土遺物（6）　ＳＸ１

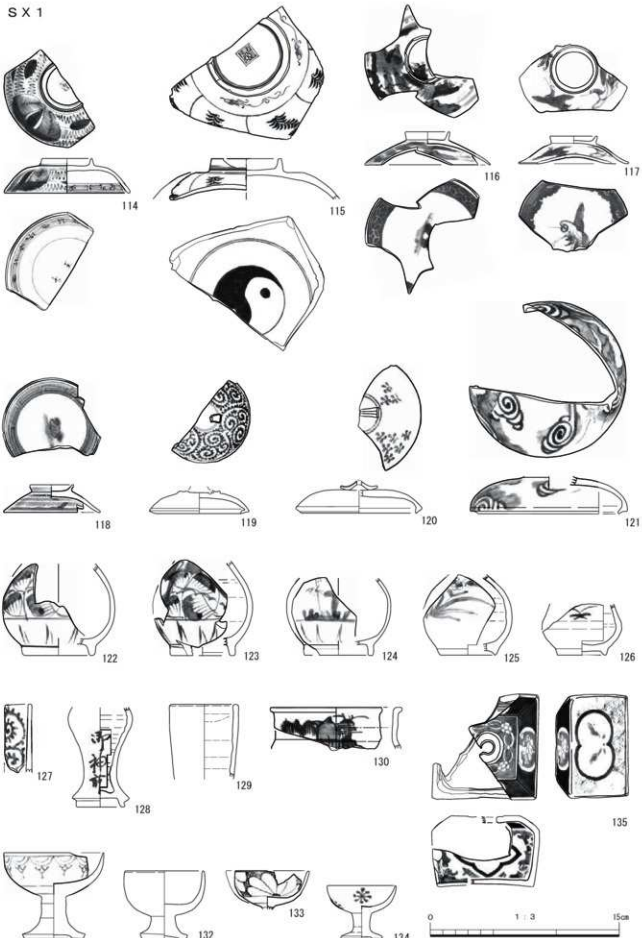


第 52 図　遺構出土遺物（７）　ＳＸ１

ＳＸ１

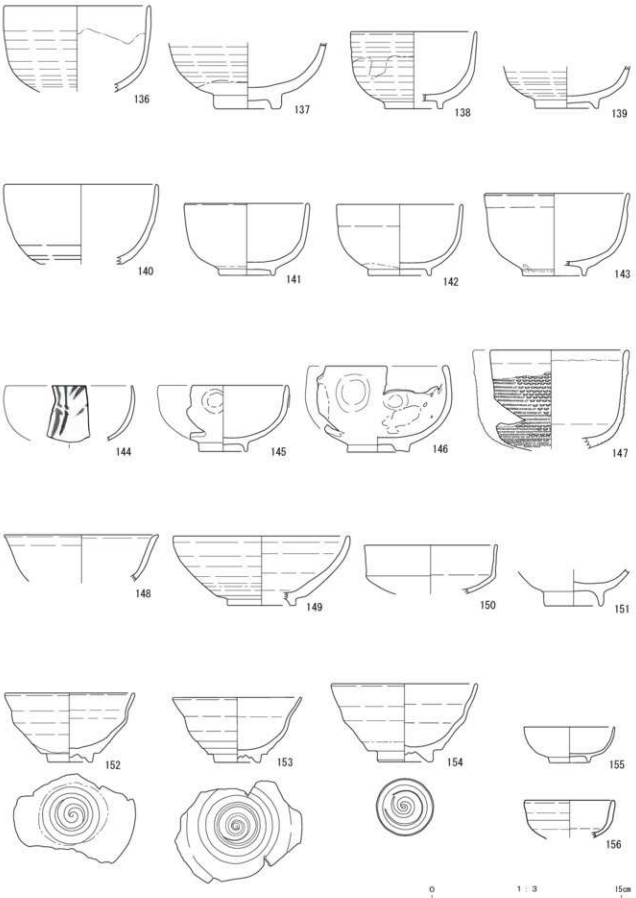


第53図　遺構出土遺物（８）　ＳＸ１



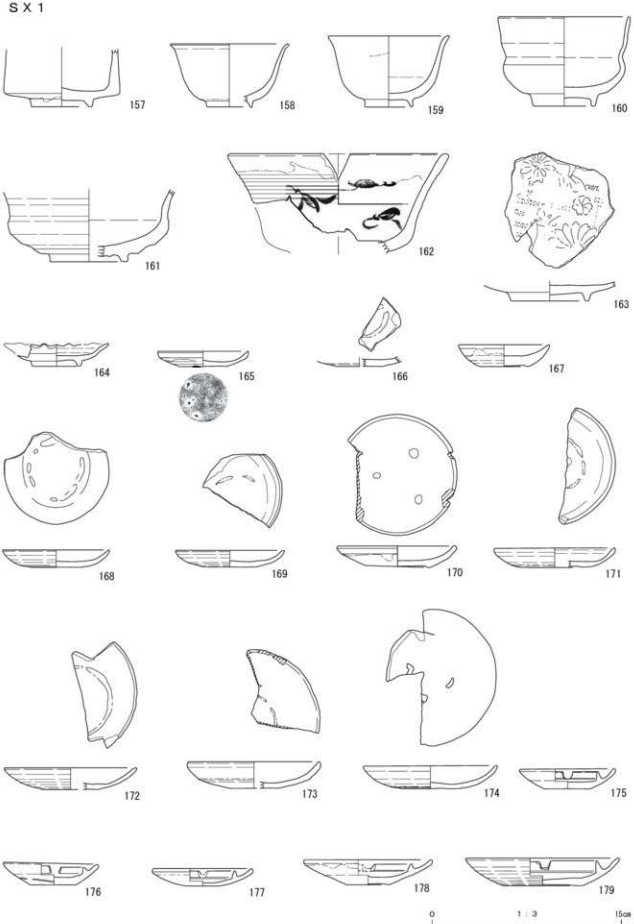
第 54 図　遺構出土遺物（９）　ＳＸ１

ＳＸ１



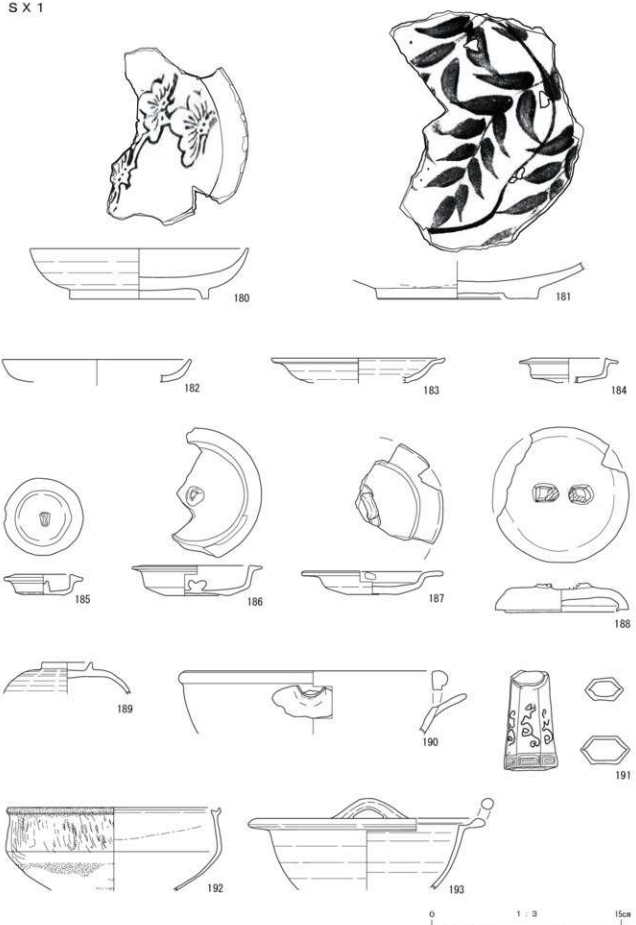
第 55 図　遺構出土遺物（10）　ＳＸ１

ＳＸ１



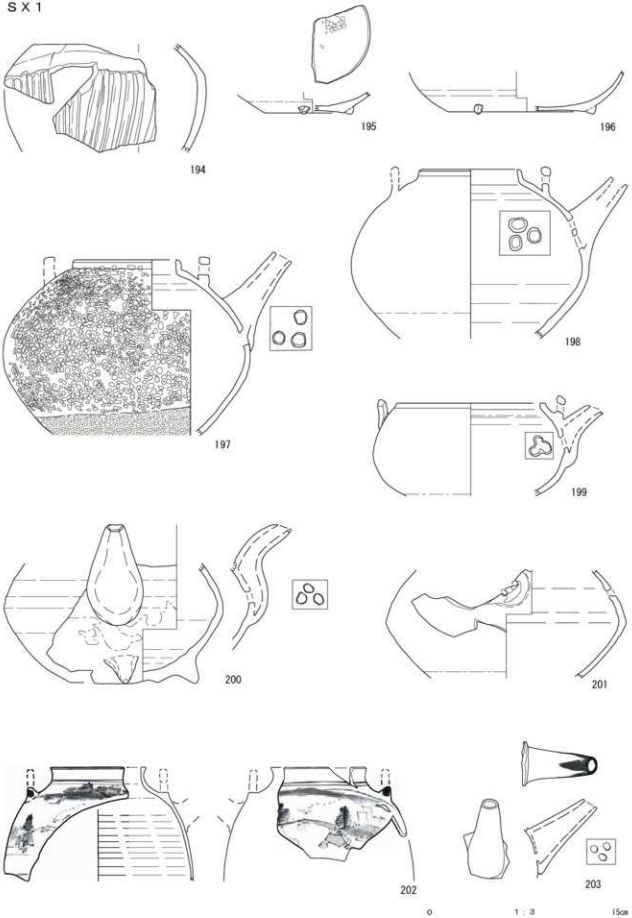
第 56 図　遺構出土遺物（11）　ＳＸ１

ＳＸ１

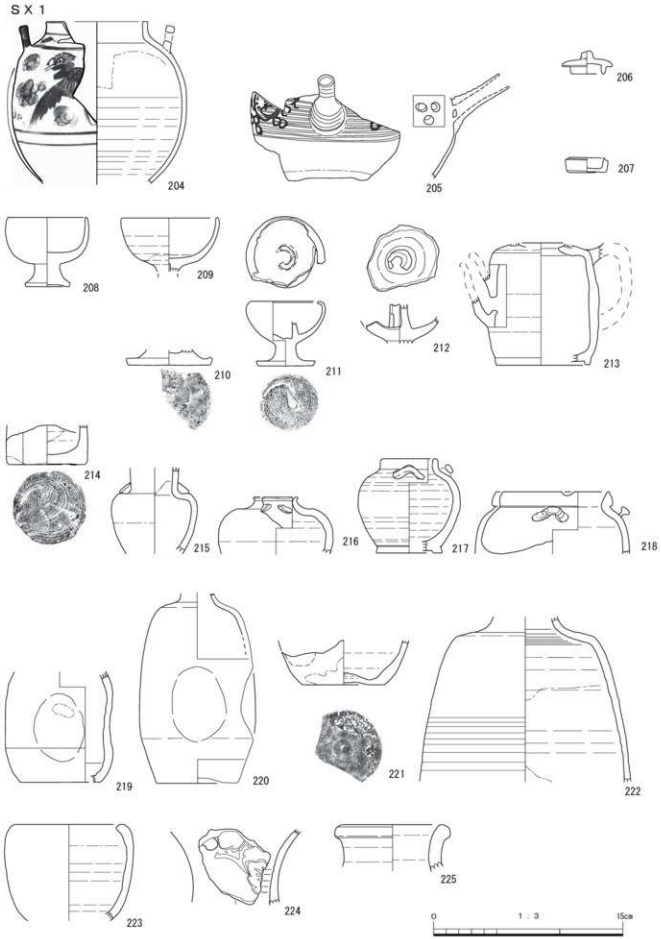


第 57 図　遺構出土遺物（12）　ＳＸ１

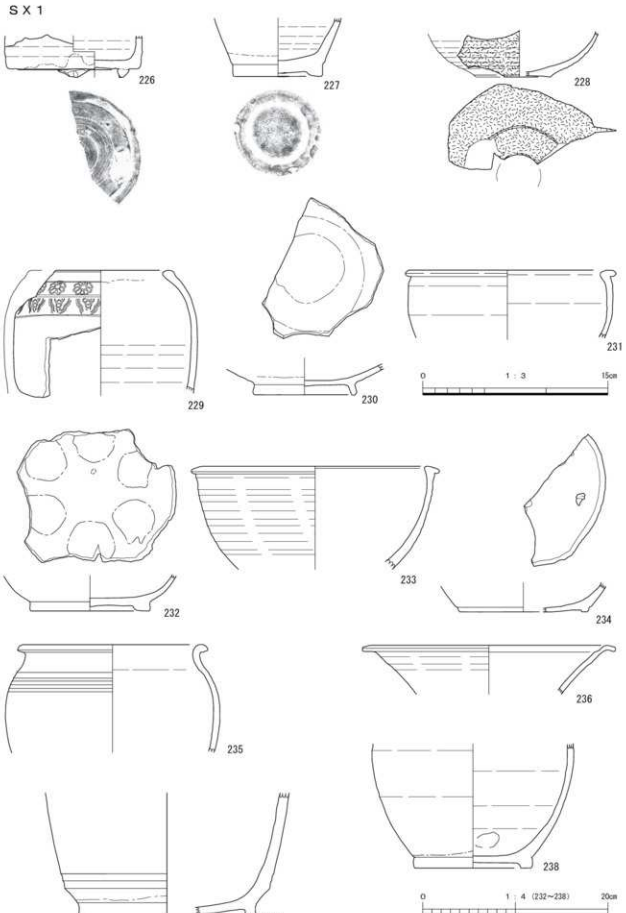
ＳＸ１



第 58 図　遺構出土遺物（13）　ＳＸ１

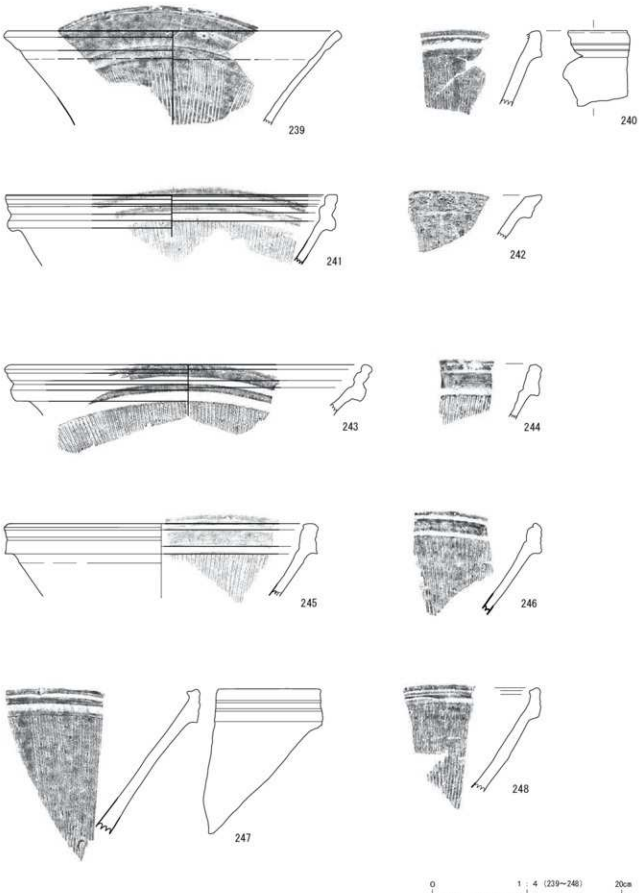


第 59 図　遺構出土遺物（14）　ＳＸ１

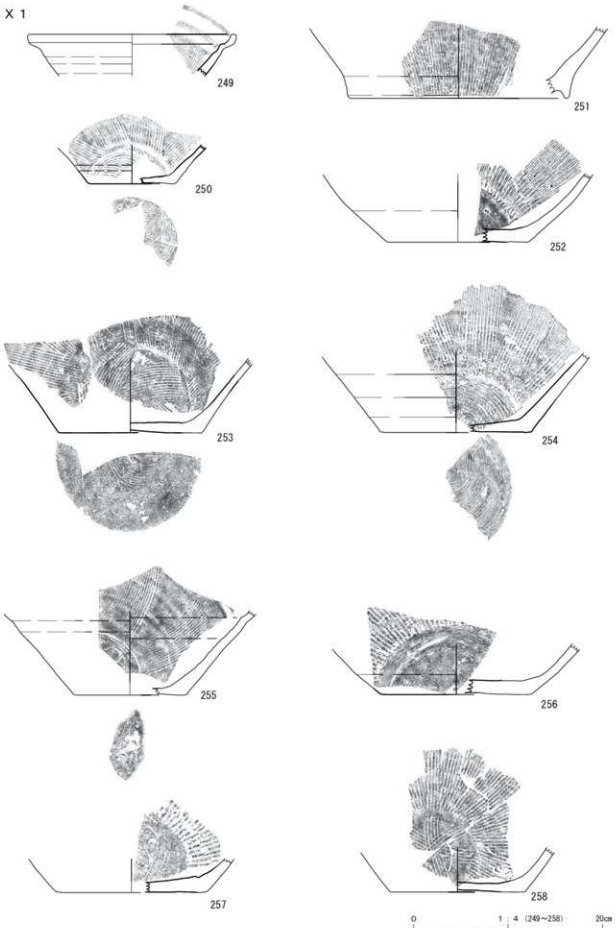


第 60 図　遺構出土遺物（15）　ＳＸ１

ＳＸ１

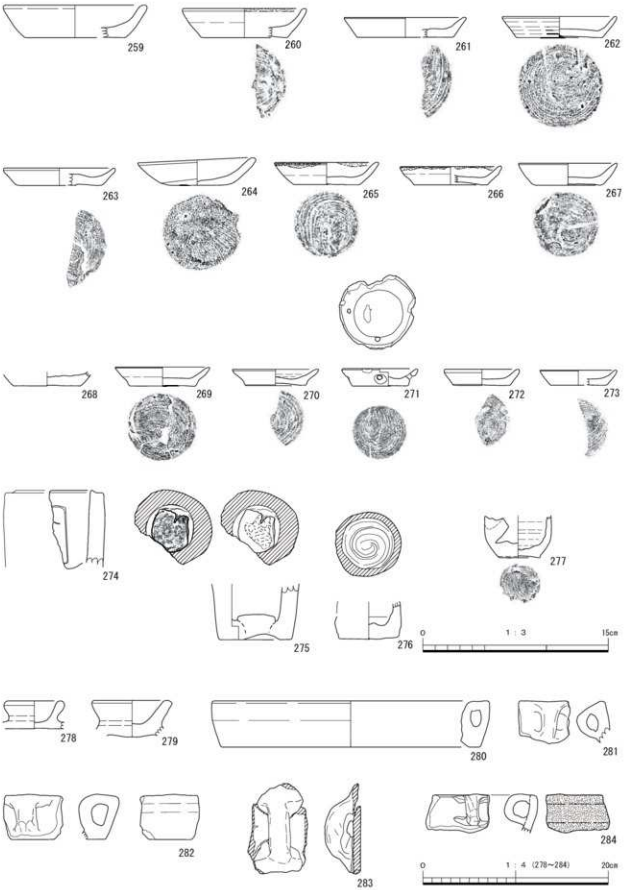


第 61 図　遺構出土遺物（16）　ＳＸ１



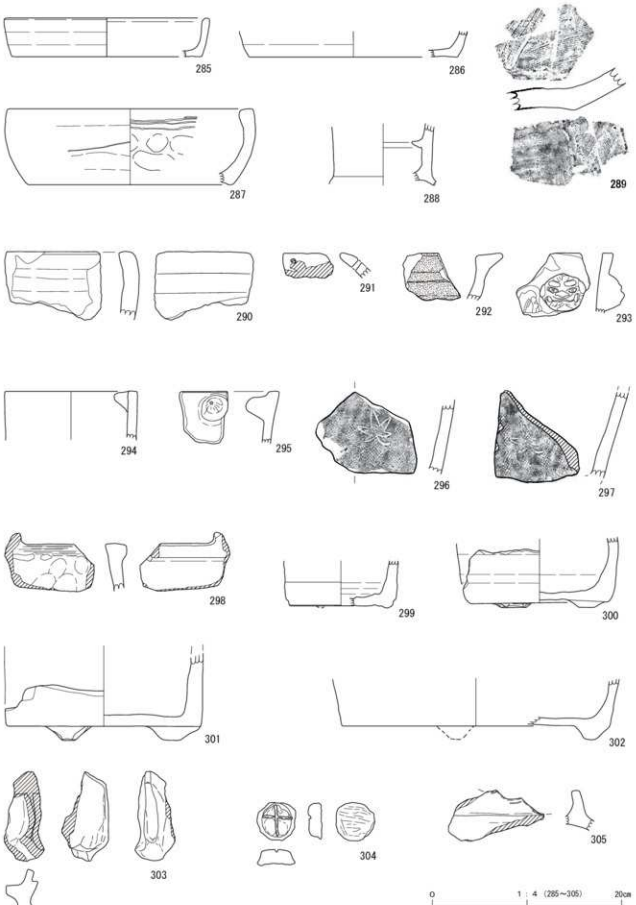
第 62 図　遺構出土遺物（17）　ＳＸ１

ＳＸ１

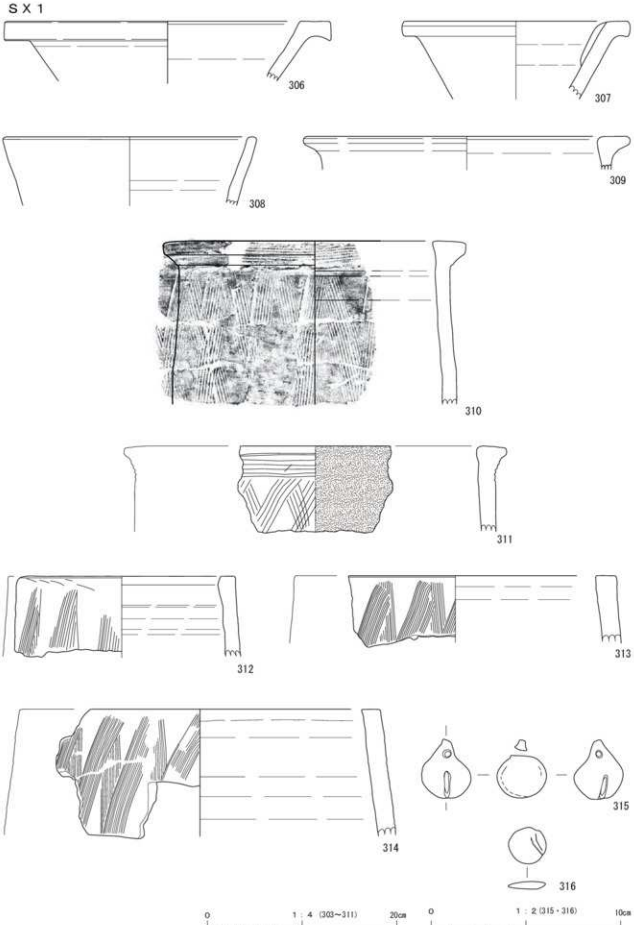


第 63 図　遺構出土遺物（18）　ＳＸ１

ＳＸ１

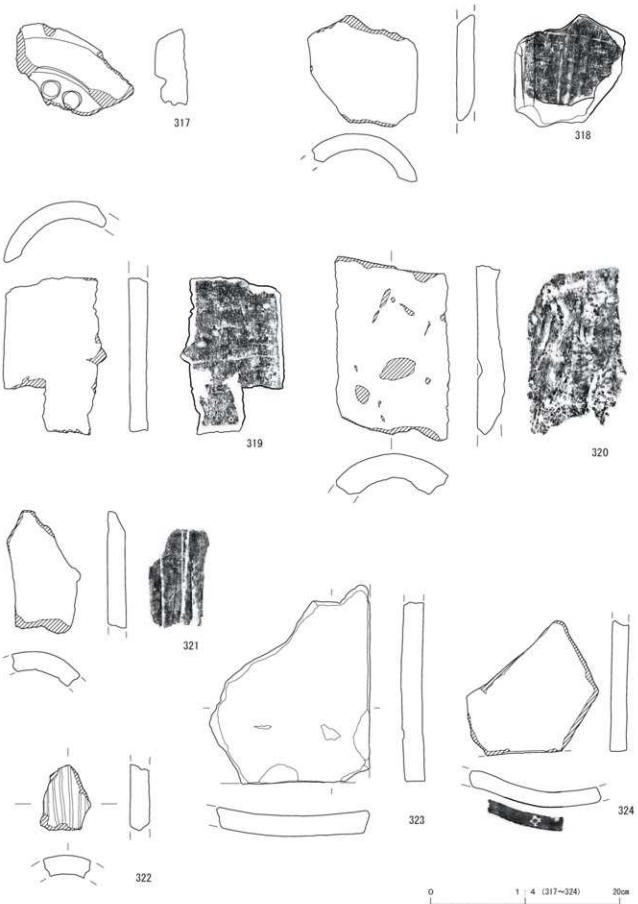


第 64 図　遺構出土遺物（19）　ＳＸ１



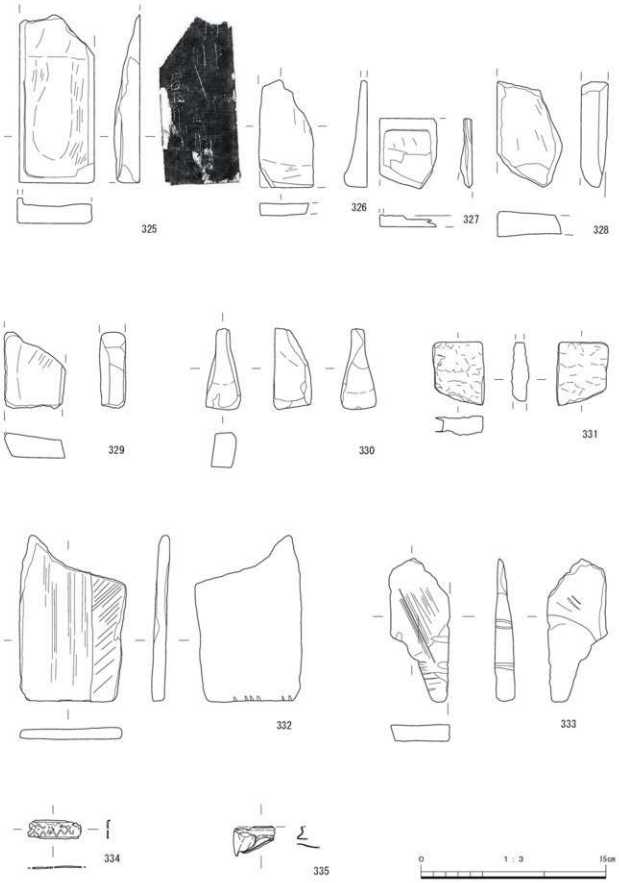
第 65 図　遺構出土遺物（20）　ＳＸ１

ＳＸ１

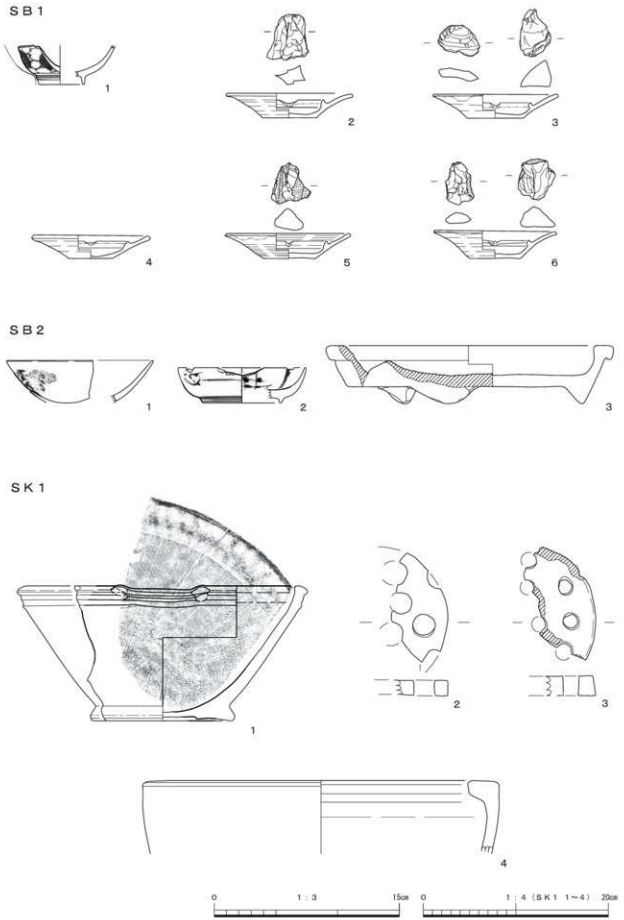


第 66 図　遺構出土遺物（21）　ＳＸ１

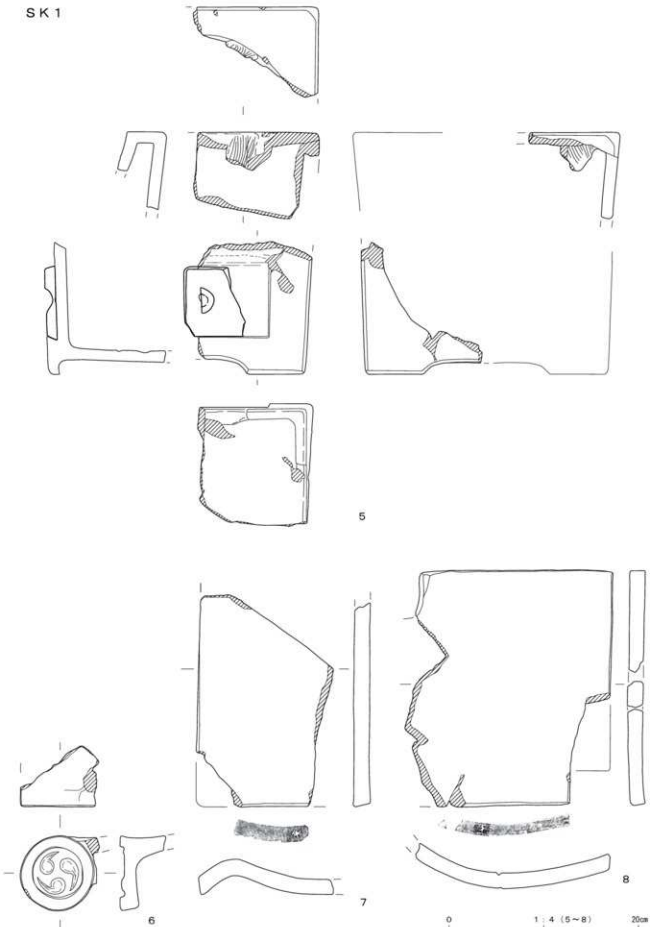
ＳＸ１



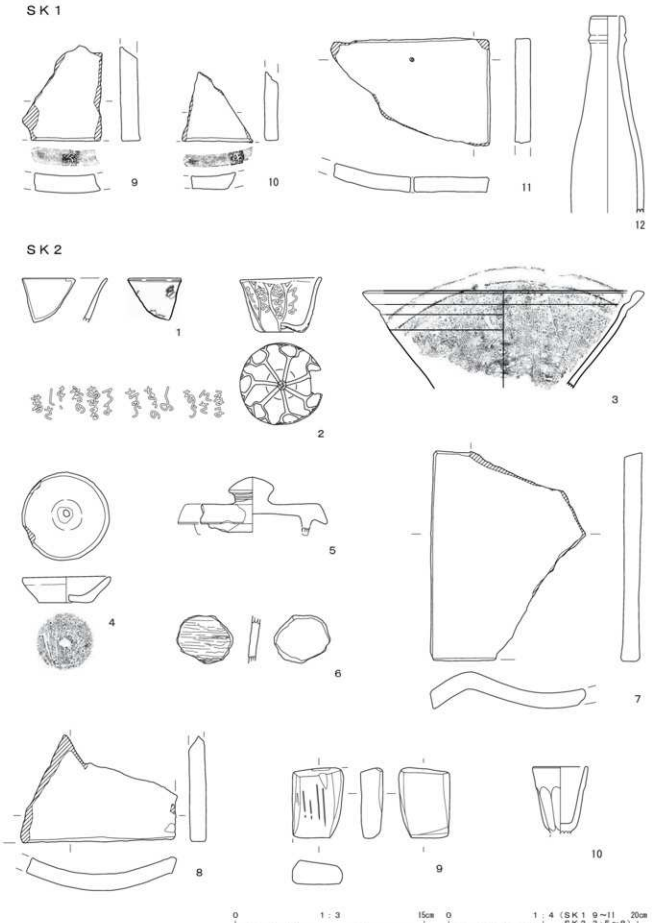
第 67 図　遺構出土遺物（22）　ＳＸ１



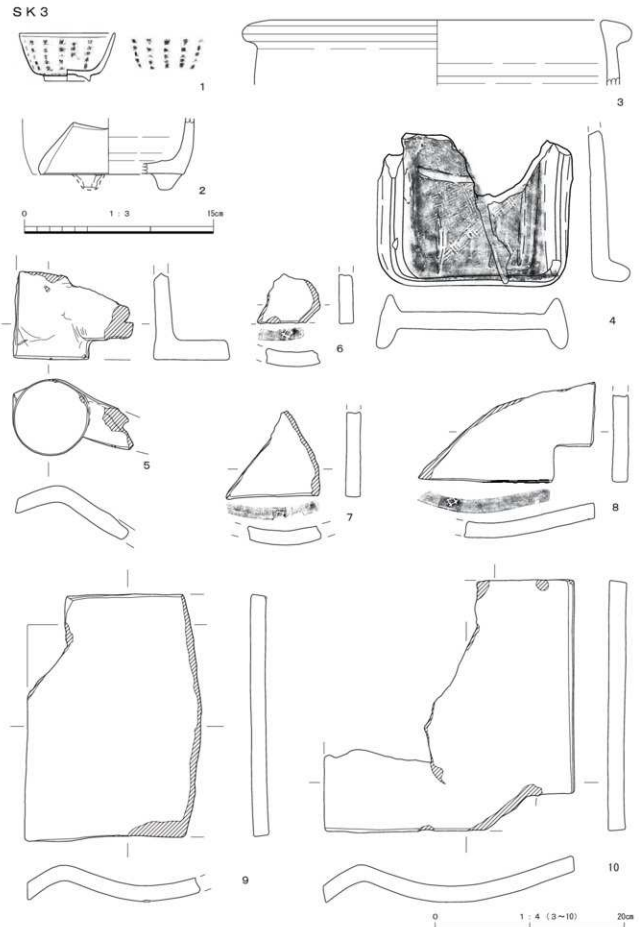
第68図　遺構出土遺物（23）　SB1・SB2・SK1



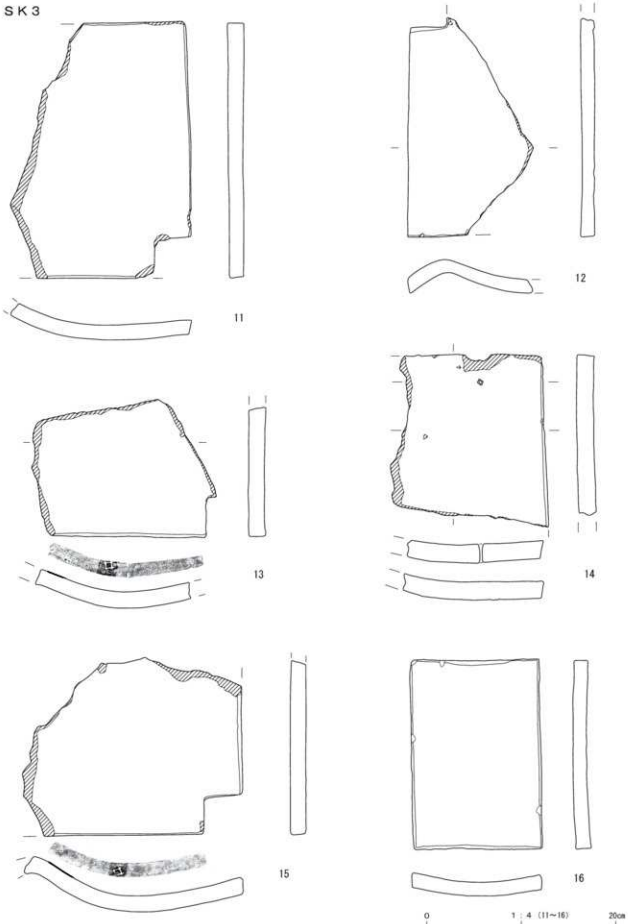
第69図　遺構出土遺物（24）　ＳＫ１



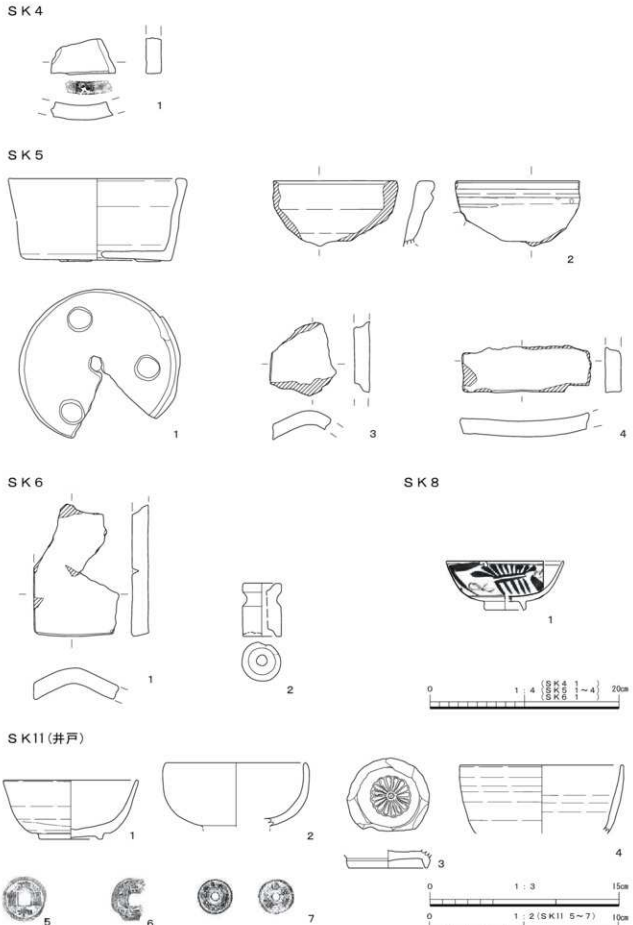
第70図　遺構出土遺物（25）　SK1・SK2



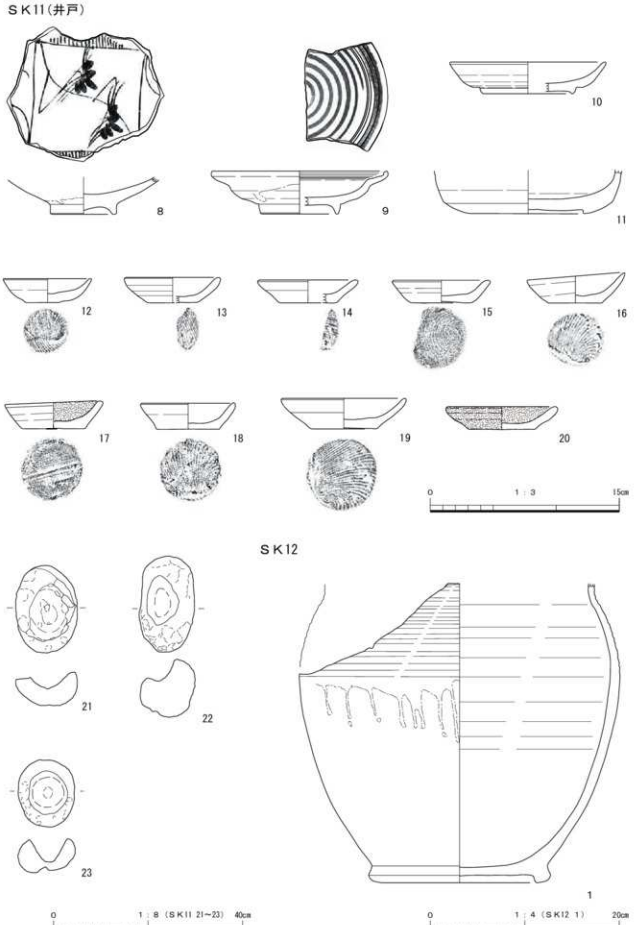
第 71 図　遺構出土遺物（26）　ＳＫ３（井戸）



第72図　遺構出土遺物（27）　SK3（井戸）

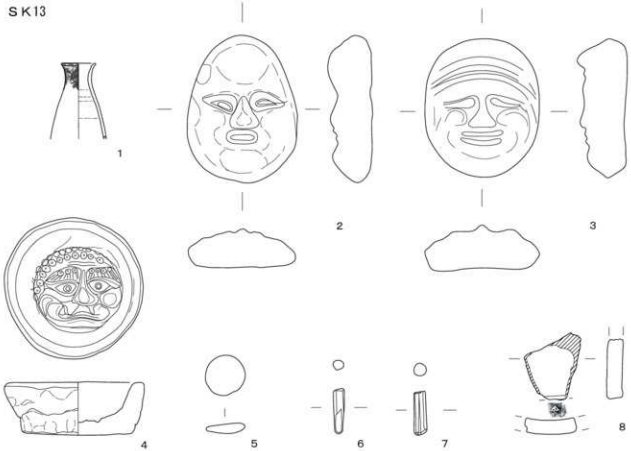


第 73 図　遺構出土遺物（28）　ＳＫ４・ＳＫ５・ＳＫ６・ＳＫ８・ＳＫ11（井戸）

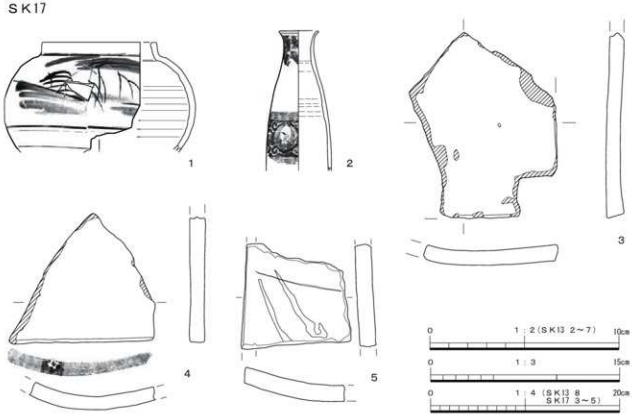


第 74 図　遺構出土遺物（29）　ＳＫ11（井戸）・ＳＫ12

SK13



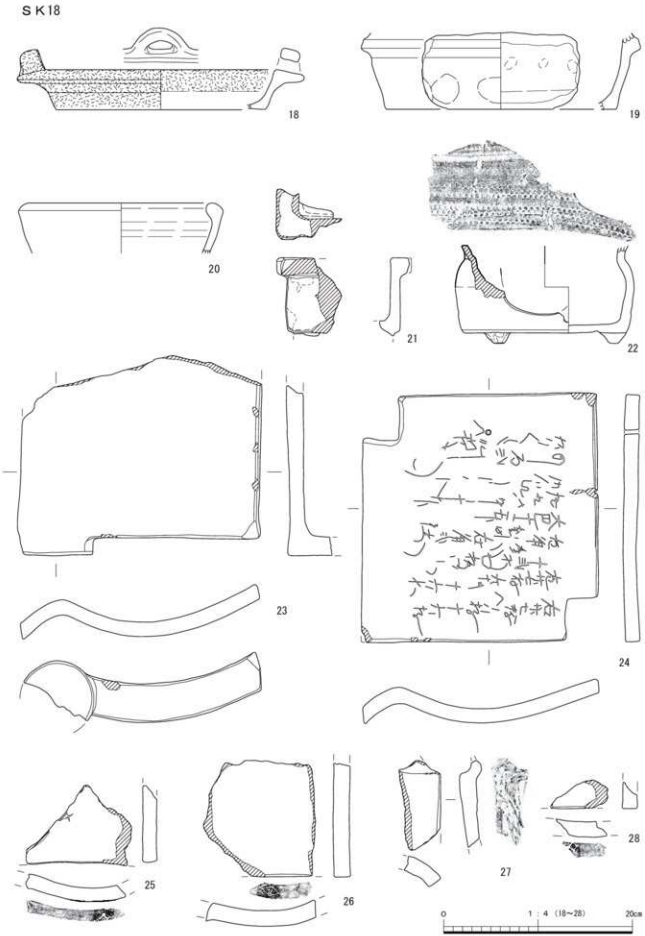
SK17



第75図　遺構出土遺物（30）　SK13・SK17

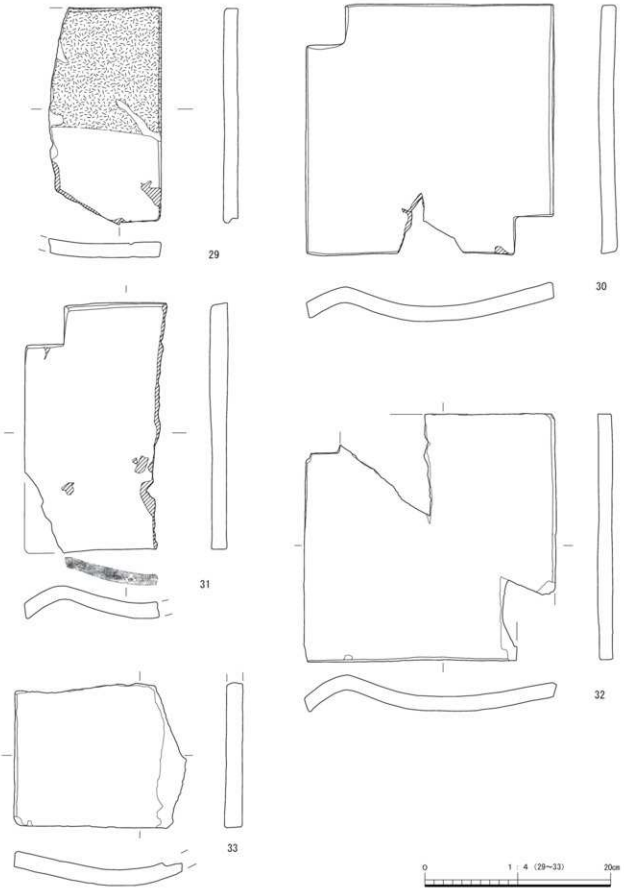
SK18

第76図　遺構出土遺物（31）　SK18



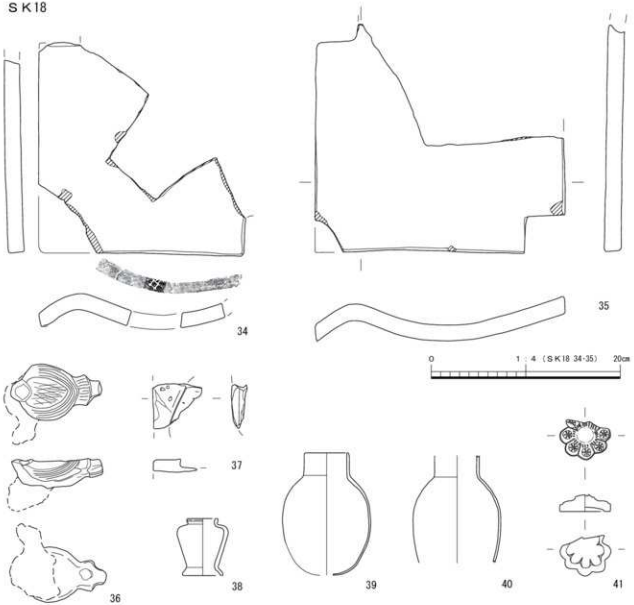
第77図　遺構出土遺物（32）　ＳＫ18

ＳＫ18

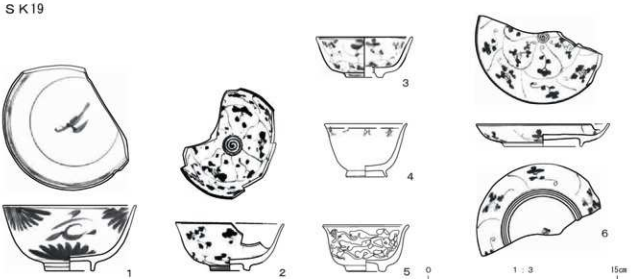


第 78 図　遺構出土遺物（33）　ＳＫ18

ＳＫ18

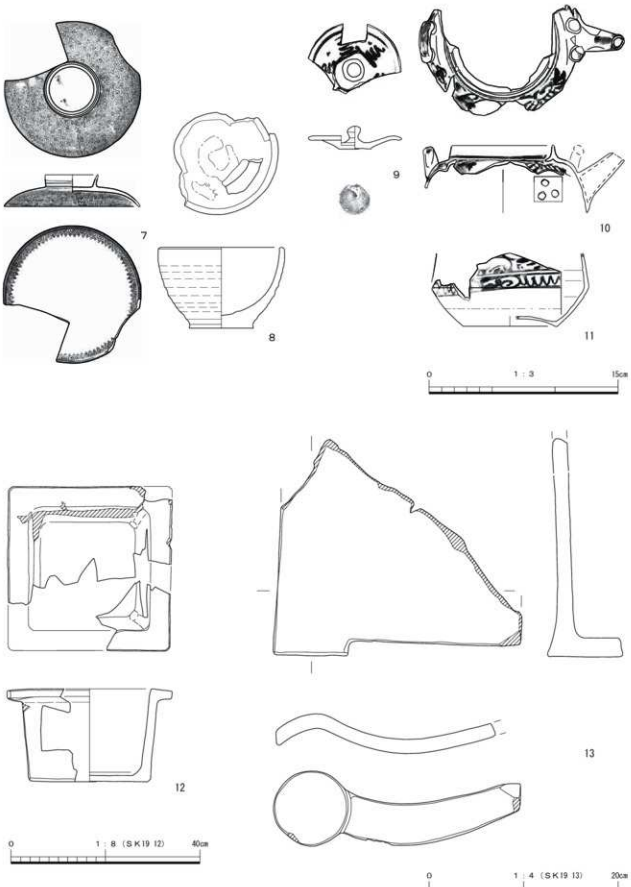


ＳＫ19

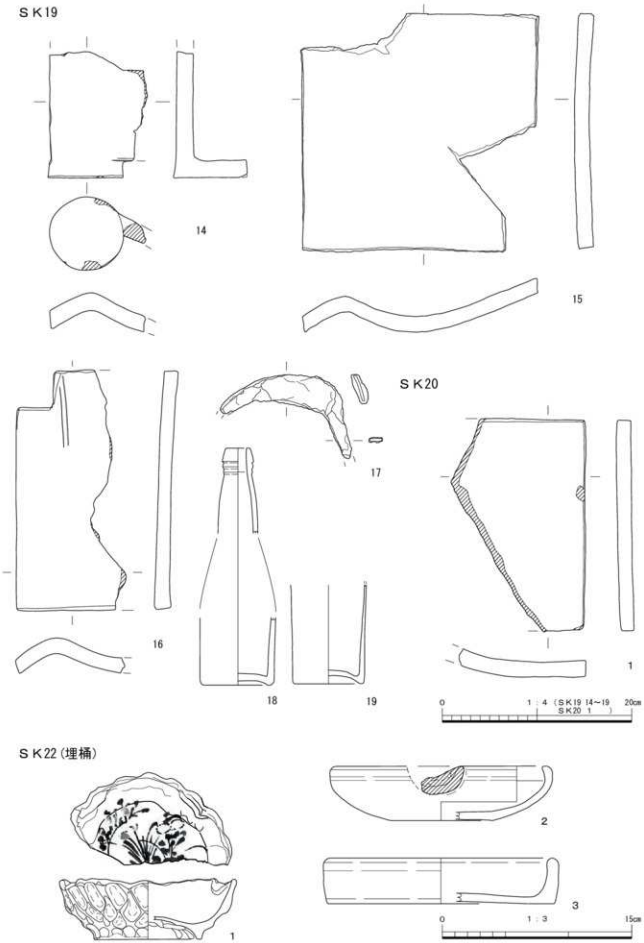


第 79 図　遺構出土遺物（34）　ＳＫ18・ＳＫ19

ＳＫ19

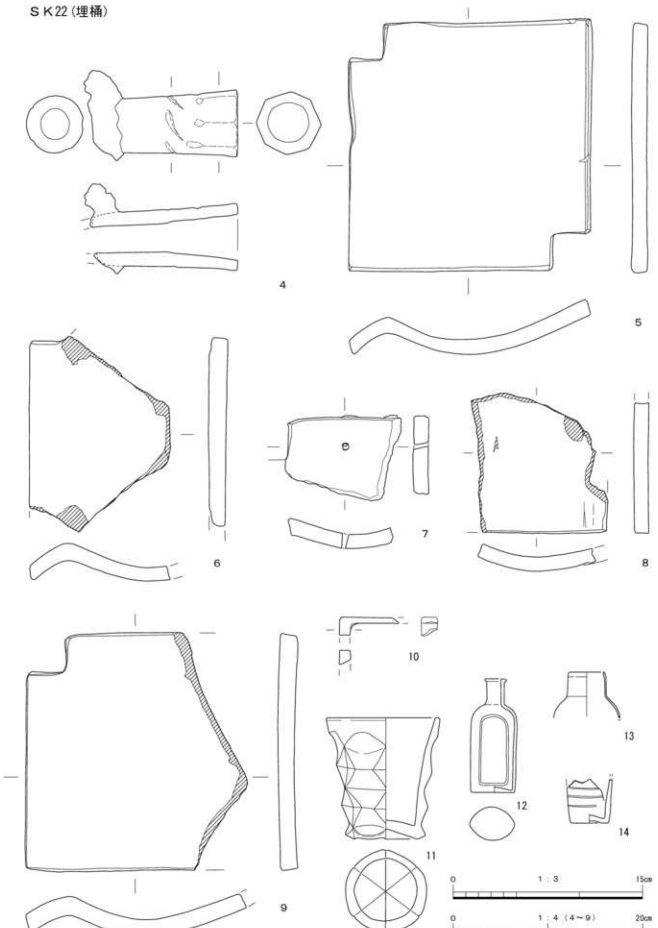


第80図　遺構出土遺物（35）　ＳＫ19



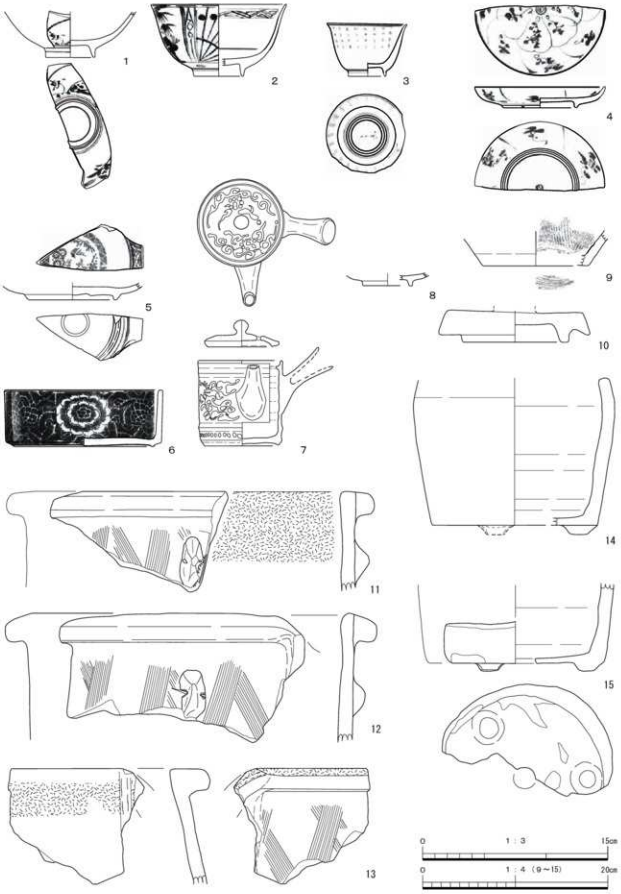
第 81 図　遺構出土遺物（36）　ＳＫ19・ＳＫ20・ＳＫ22（埋桶）

ＳＫ22（埋桶）

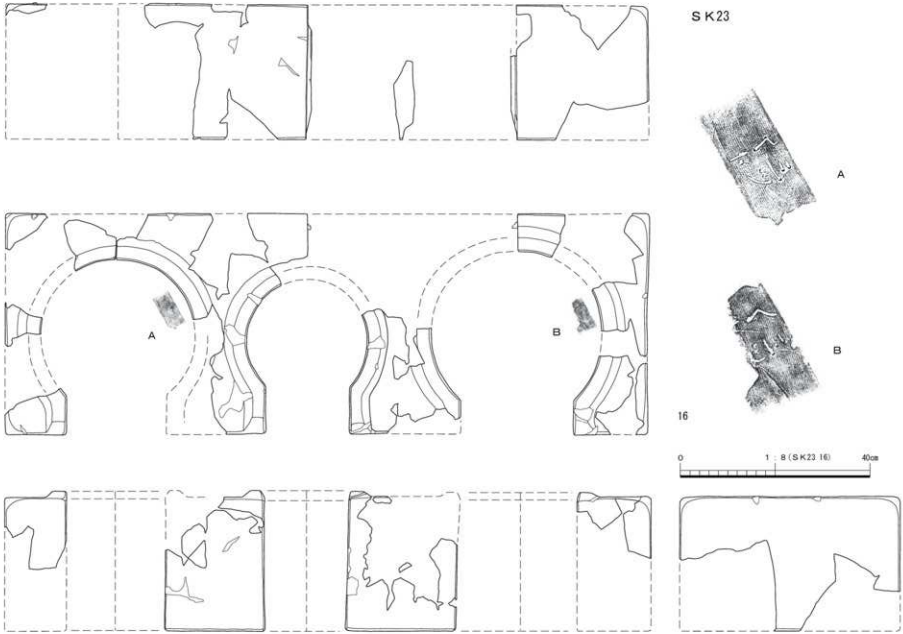


第 82 図　遺構出土遺物（37）　ＳＫ22（埋桶）

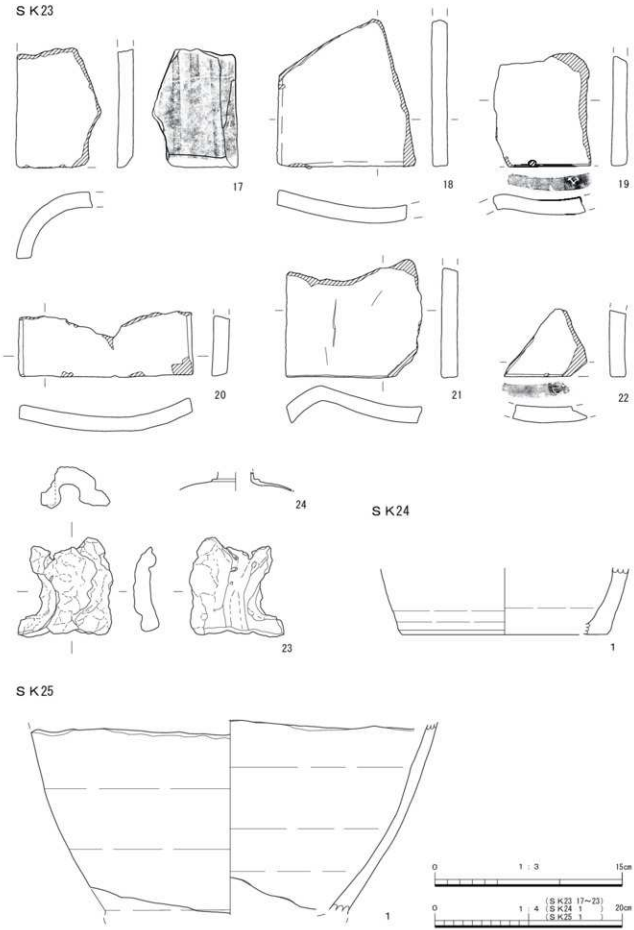
ＳＫ23



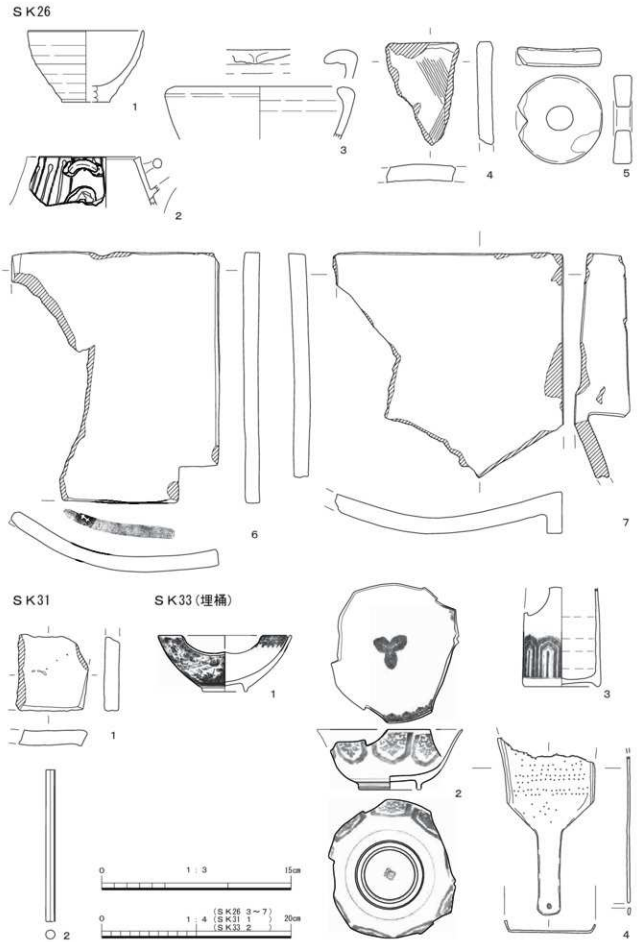
第 83 図　遺構出土遺物（38）　ＳＫ23



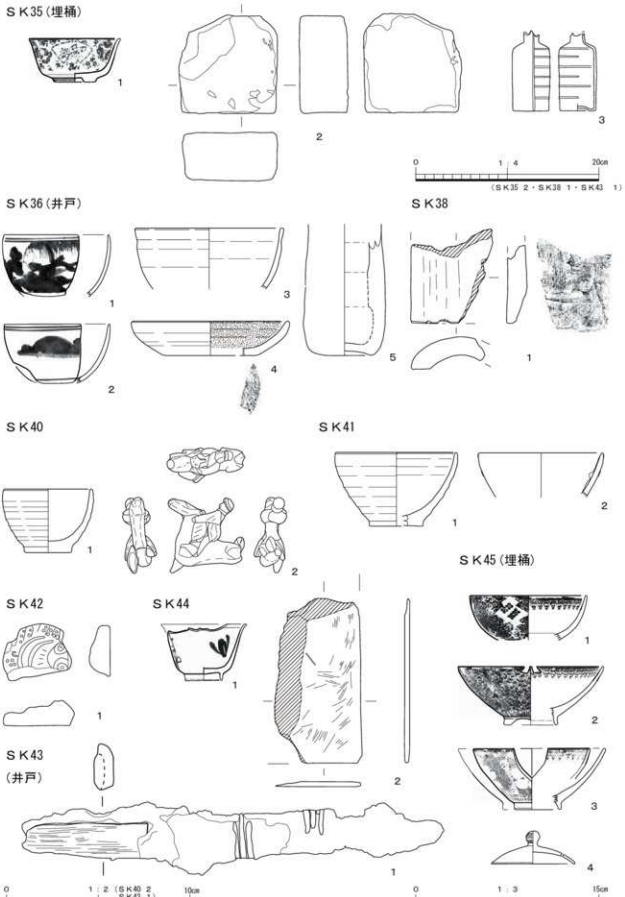
第 84 図　遺構出土遺物 (39)　SK23



第 85 図　遺構出土遺物（40）　ＳＫ23～ＳＫ25

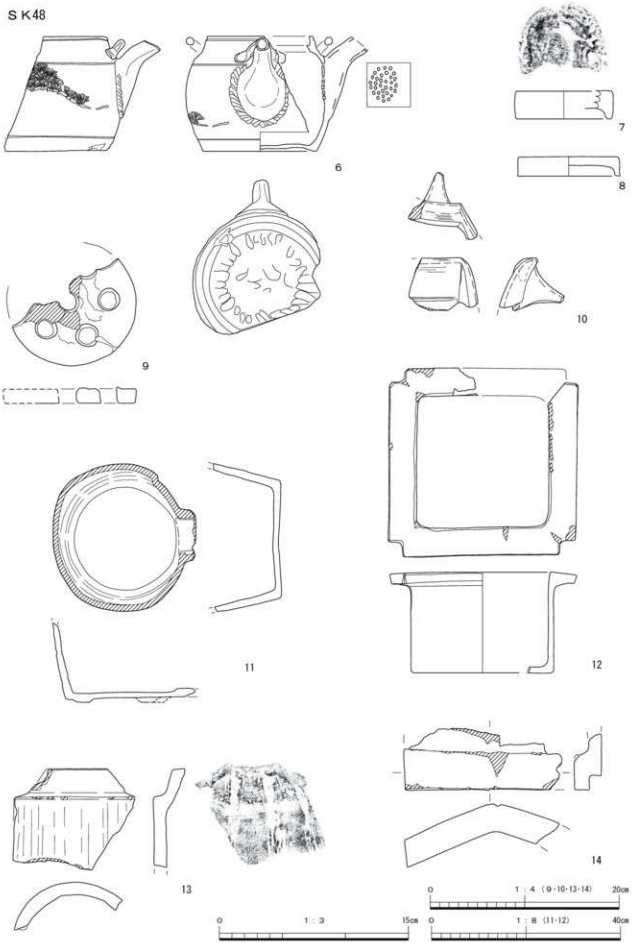


第 86 図　遺構出土遺物（41）　ＳＫ26・ＳＫ31・ＳＫ33（埋桶）

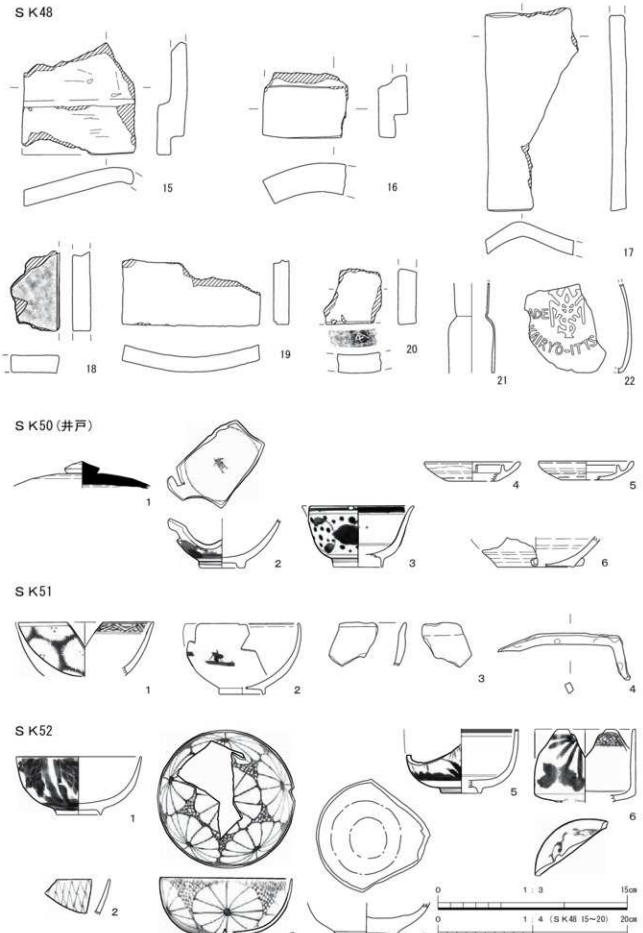


第 87 図　遺構出土遺物（42）　ＳＫ35（埋桶）・ＳＫ36（井戸）・ＳＫ38・
ＳＫ40～ＳＫ42・ＳＫ43（井戸）・ＳＫ44・ＳＫ45（埋桶）

第88図　遺構出土遺物（43）　SK46～SK48

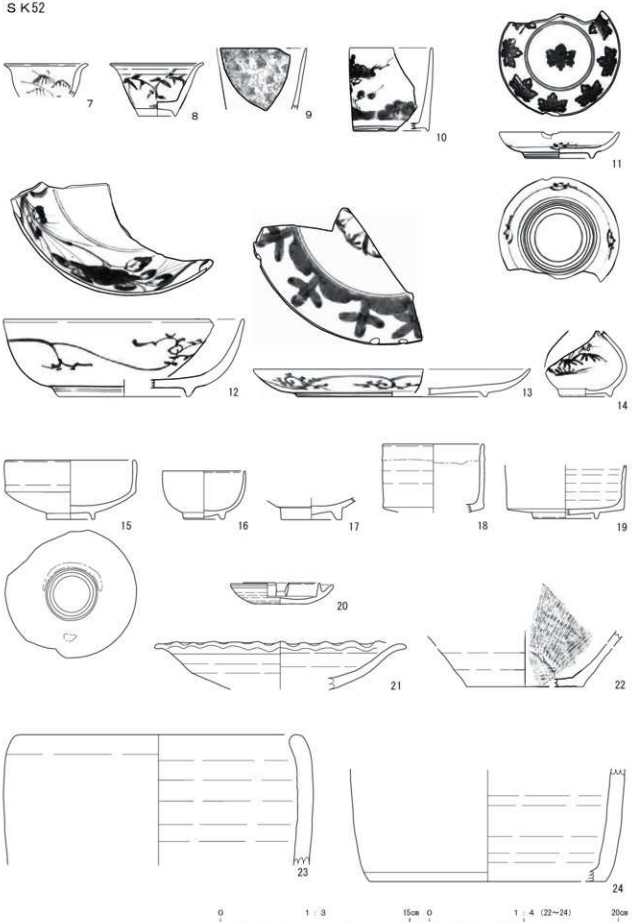


第 89 図　遺構出土遺物（44）　ＳＫ48



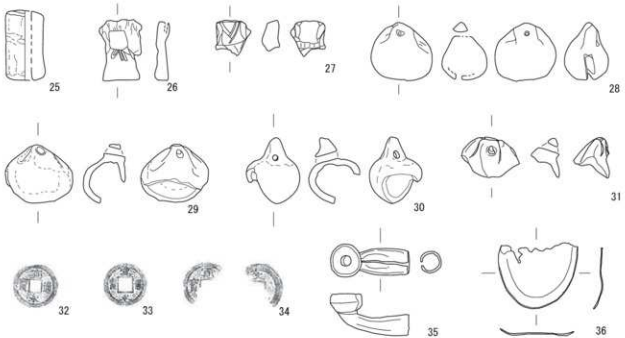
第 90 図　遺構出土遺物（45）　ＳＫ48・ＳＫ50（井戸）・ＳＫ51・ＳＫ52

ＳＫ52

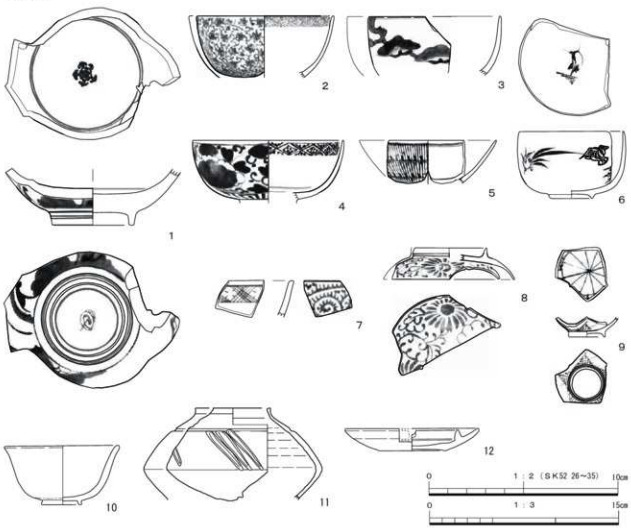


第 91 図　遺構出土遺物（46）　ＳＫ52

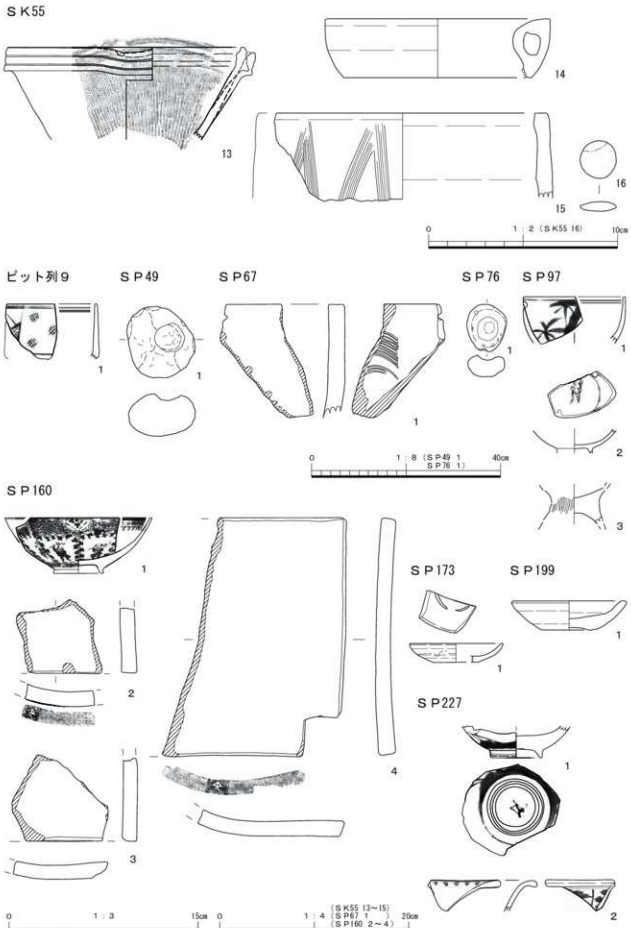
SK52



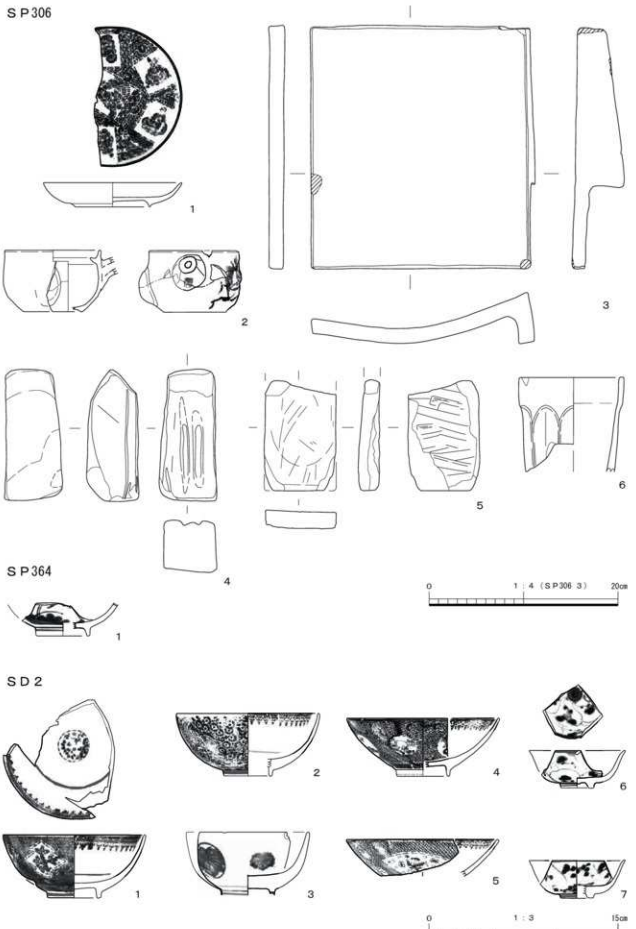
SK55



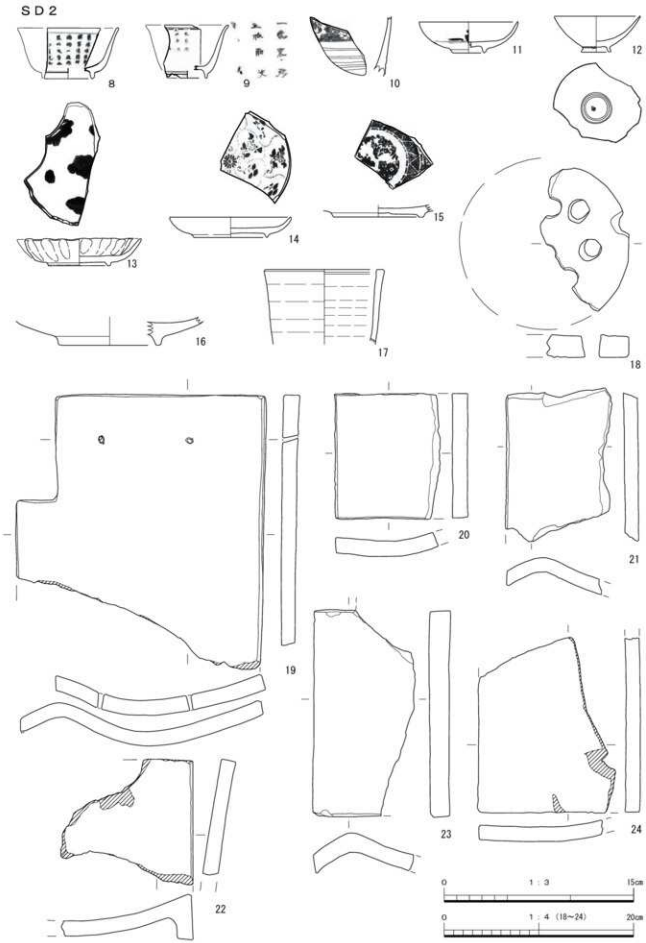
第92図　遺構出土遺物（47）　SK52・SK55



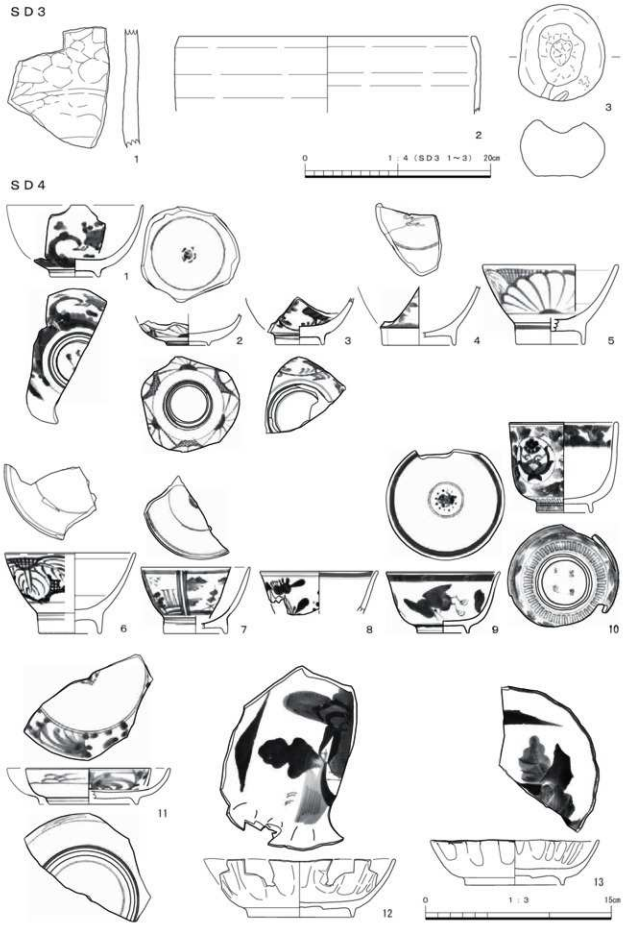
第 93 図　遺構出土遺物（48）　ＳＫ55・ピット列９・ピット



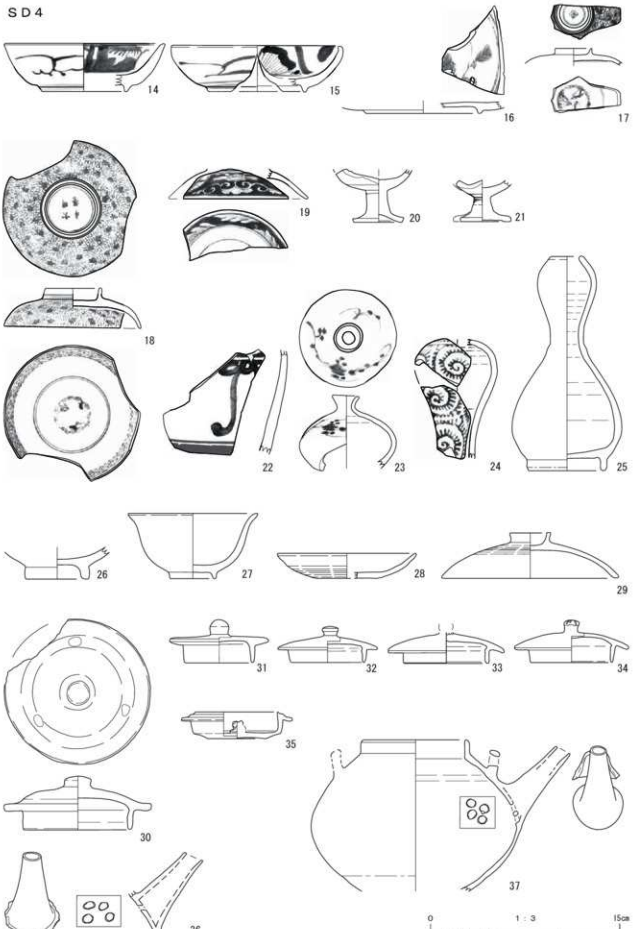
第 94 図　遺構出土遺物（49）　ピット・ＳＤ２



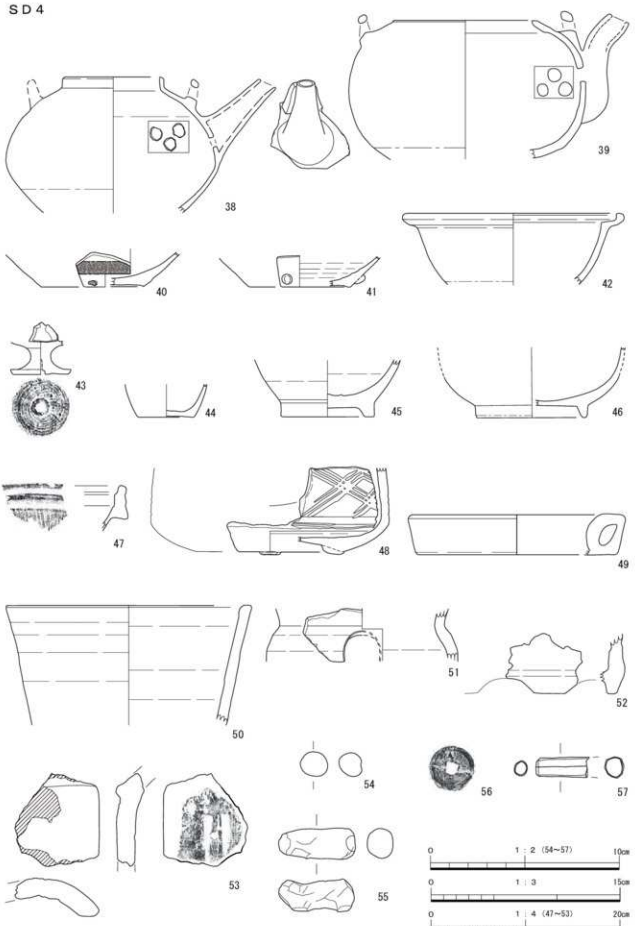
第 95 図　遺構出土遺物（50）　ＳＤ２



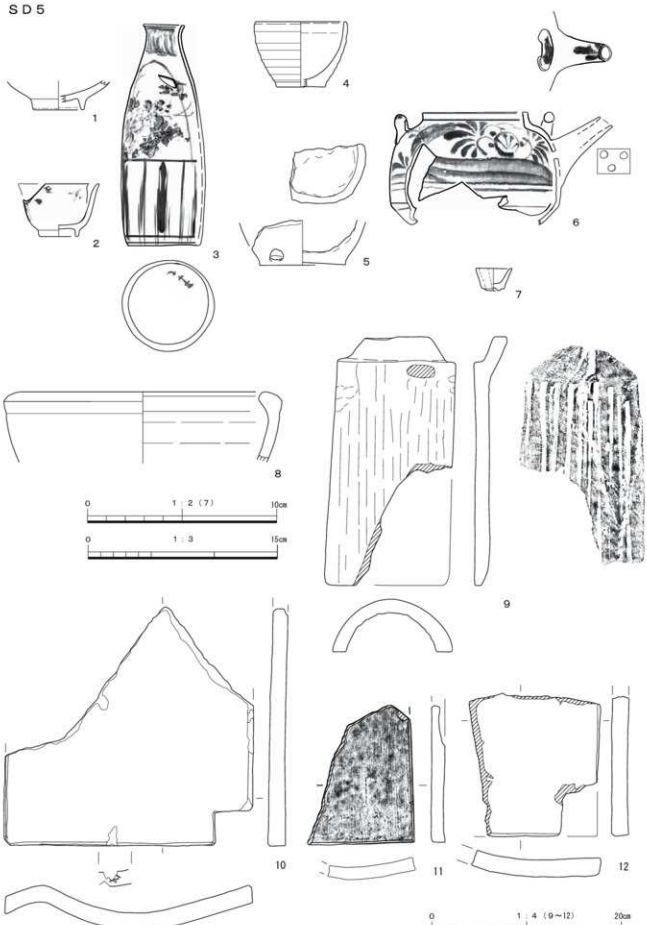
第96図　遺構出土遺物（51）　SD3・SD4



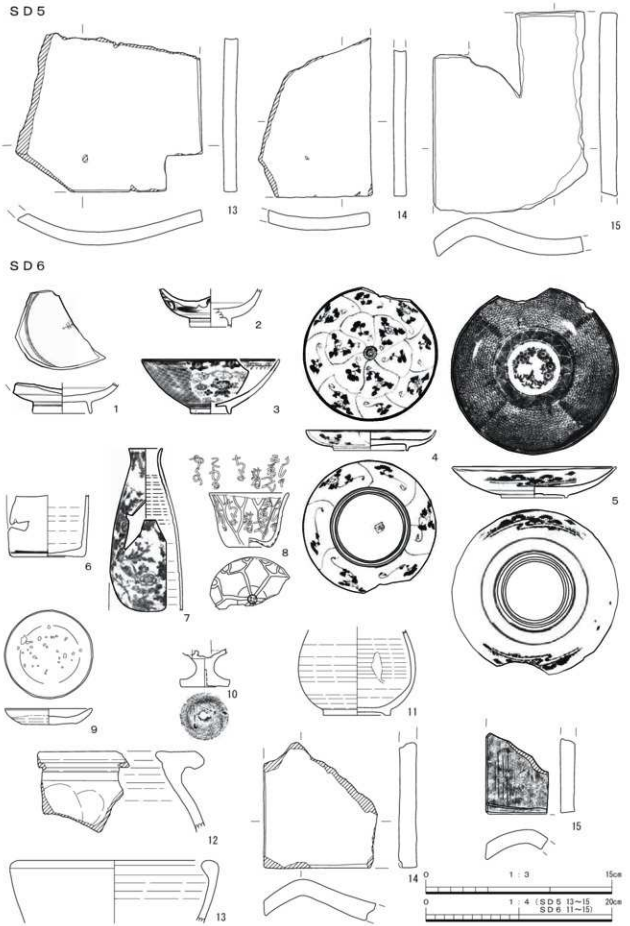
第 97 図　遺構出土遺物（52）　ＳＤ４



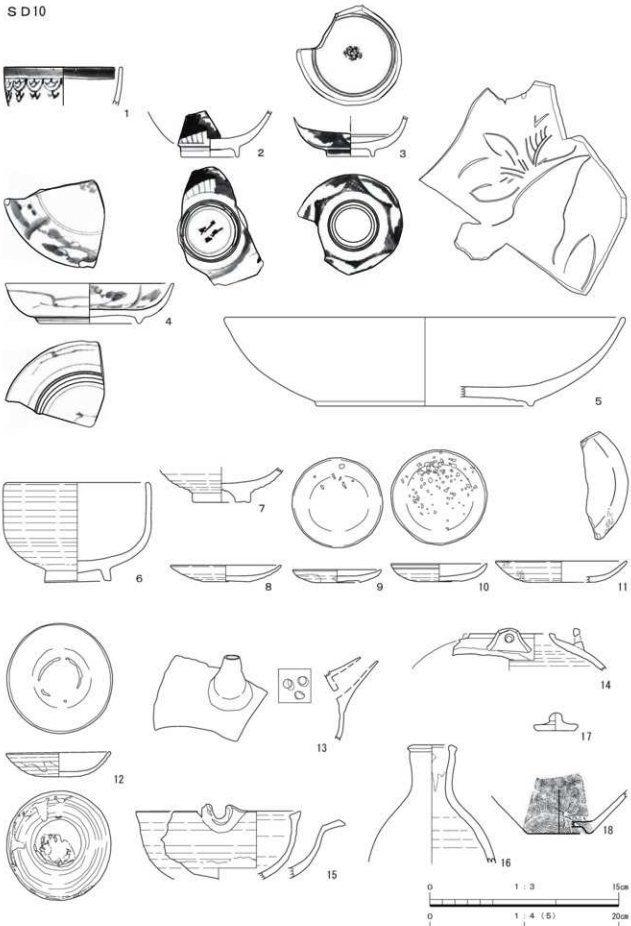
第 98 図　遺構出土遺物（53）　ＳＤ４



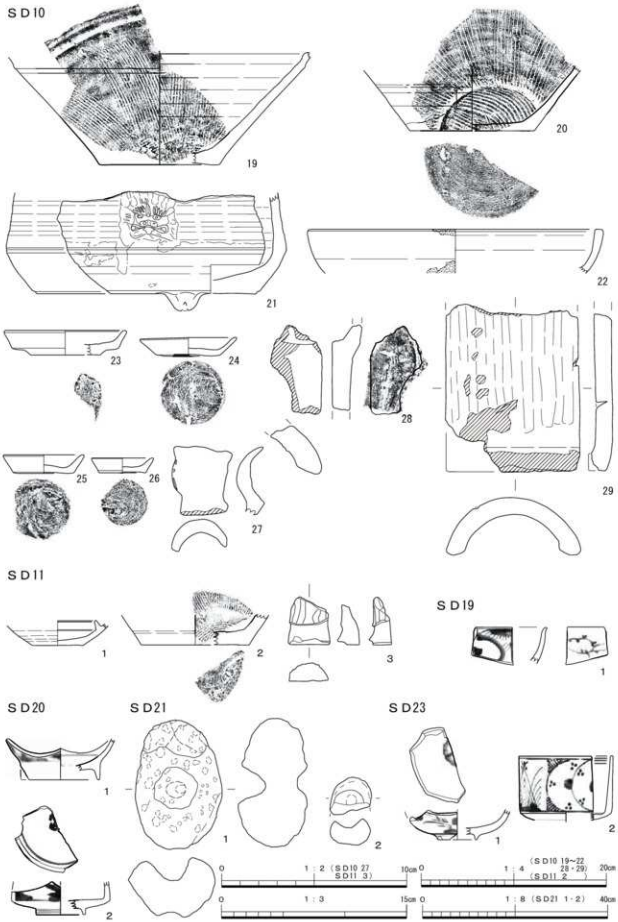
第99図　遺構出土遺物（54）　SD5



第100図　遺構出土遺物（55）　SD5・SD6



第101図　遺構出土遺物（56）　SD10

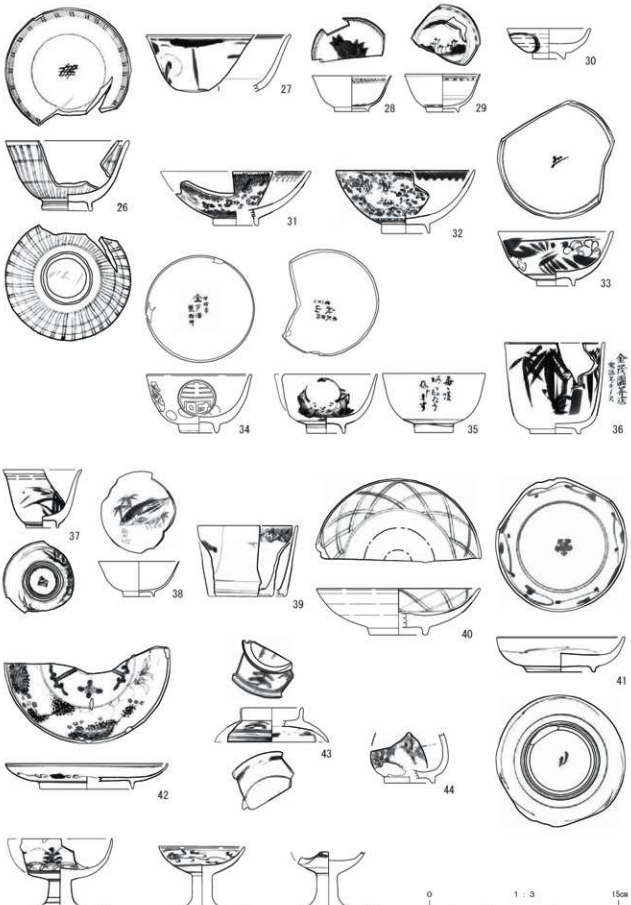


第 102 図　遺構出土遺物（57）　SD10・SD11・SD19・SD20・SD21・SD23

遺構外

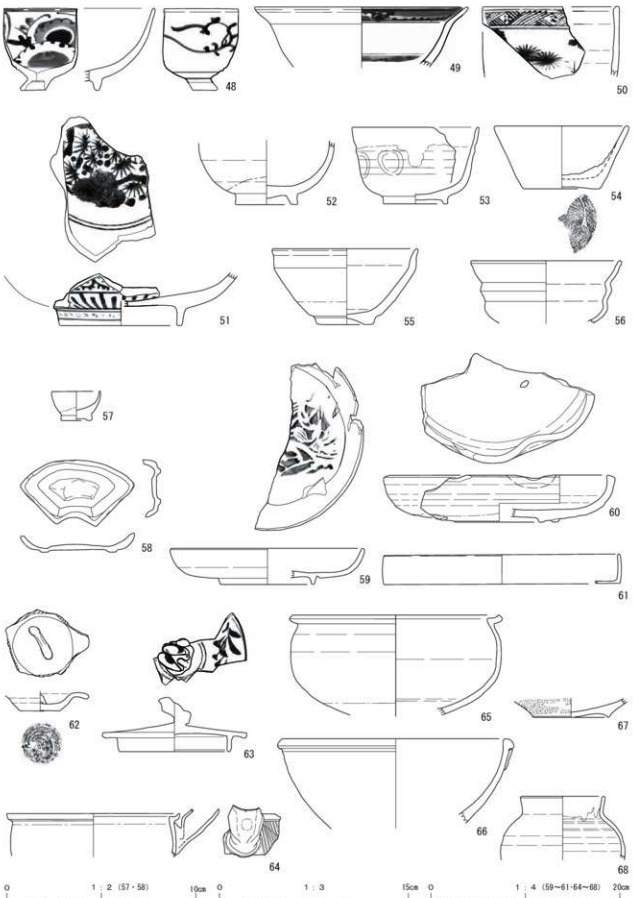
第 103 図　遺構外出土遺物（1）

遺構外



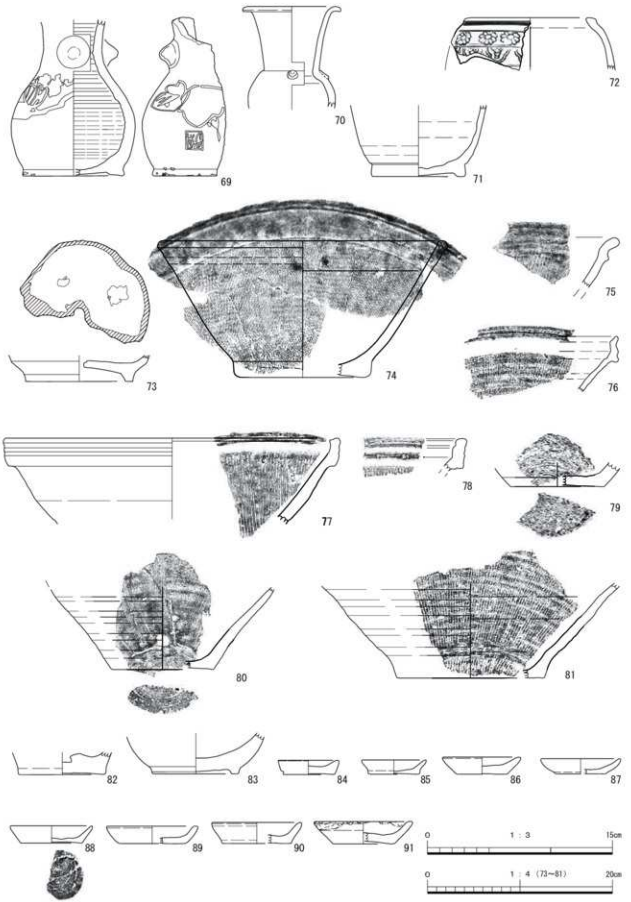
第 104 図　遺構外出土遺物（２）

遺構外



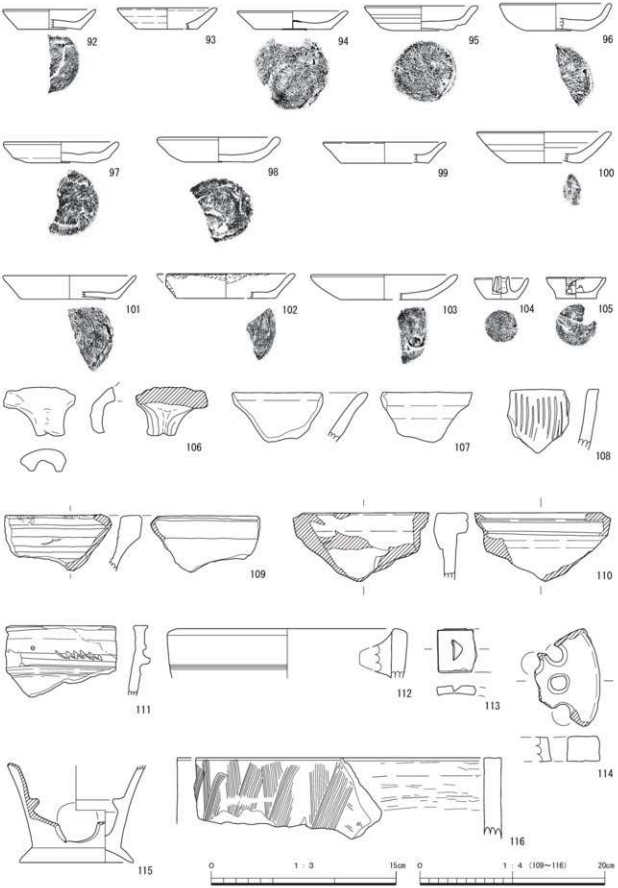
第 105 図　遺構外出土遺物（3）

遺構外



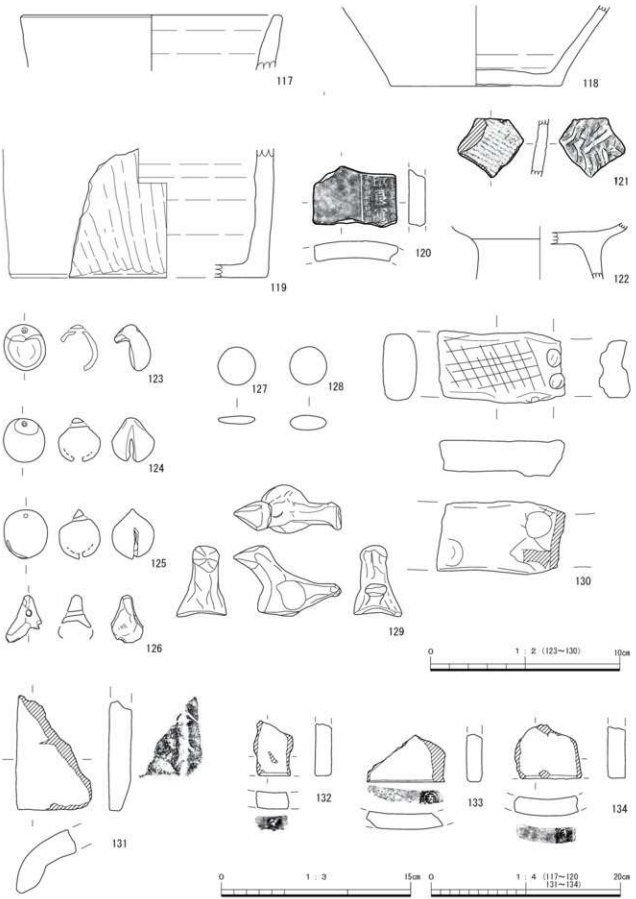
第 106 図　遺構外出土遺物（4）

遺構外



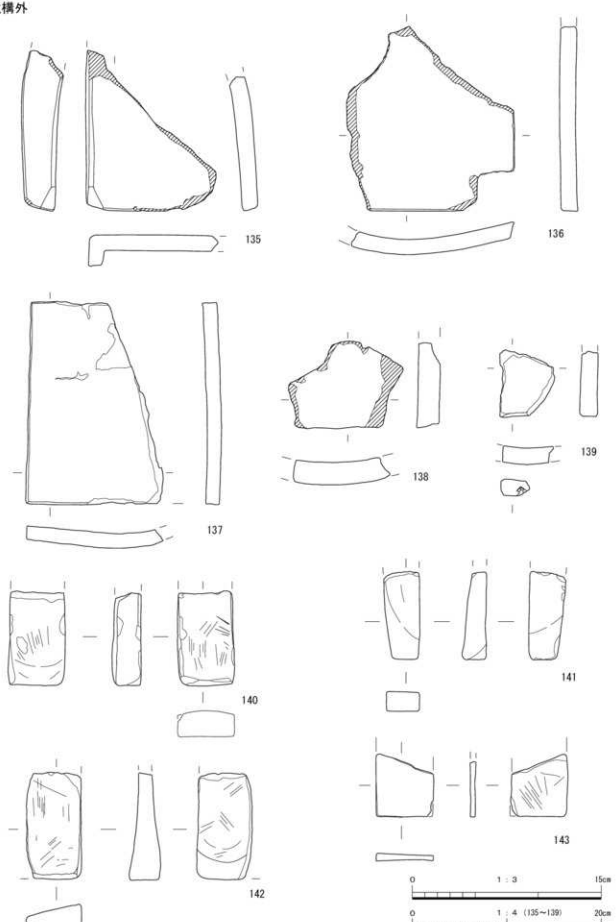
第107図　遺構外出土遺物（5）

遺構外



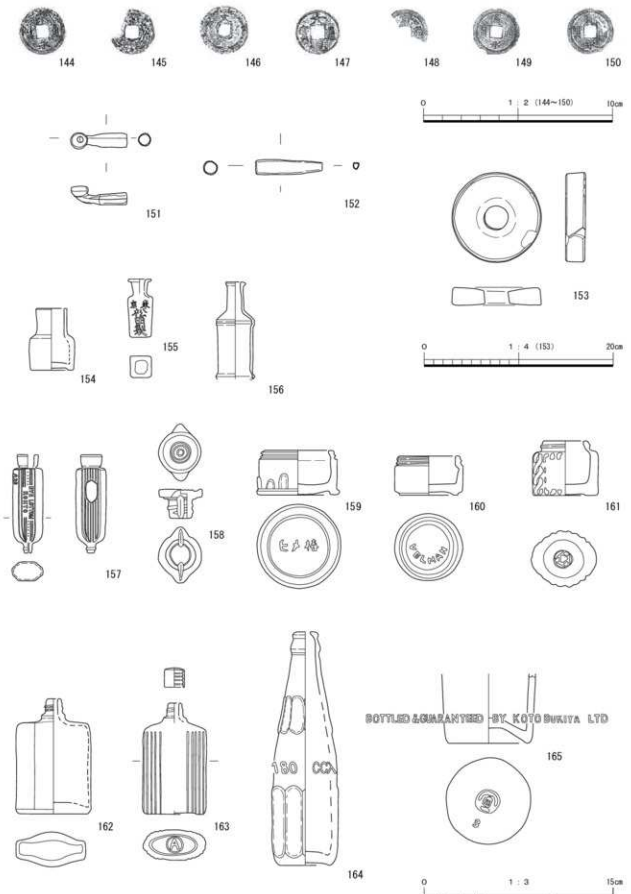
第 108 図　遺構外出土遺物（６）

遺構外

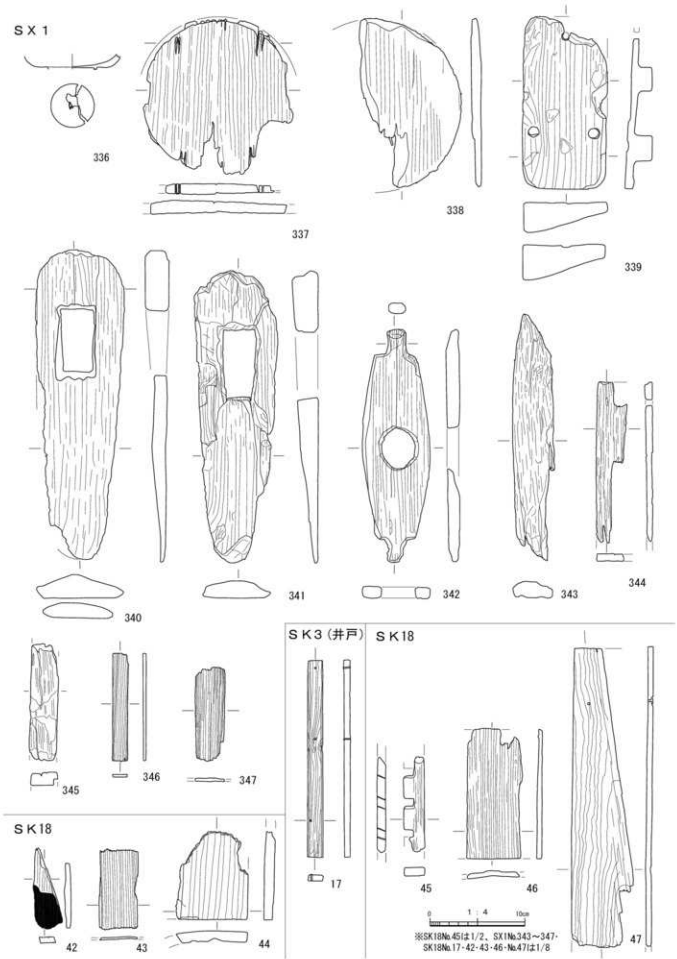


第 109 図　遺構外出土遺物（7）

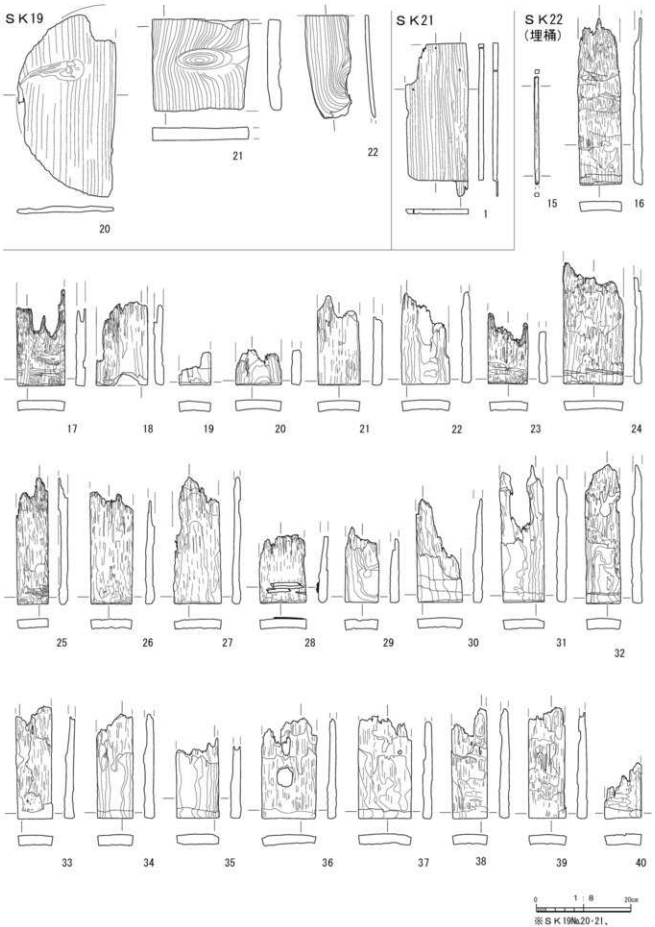
遺構外



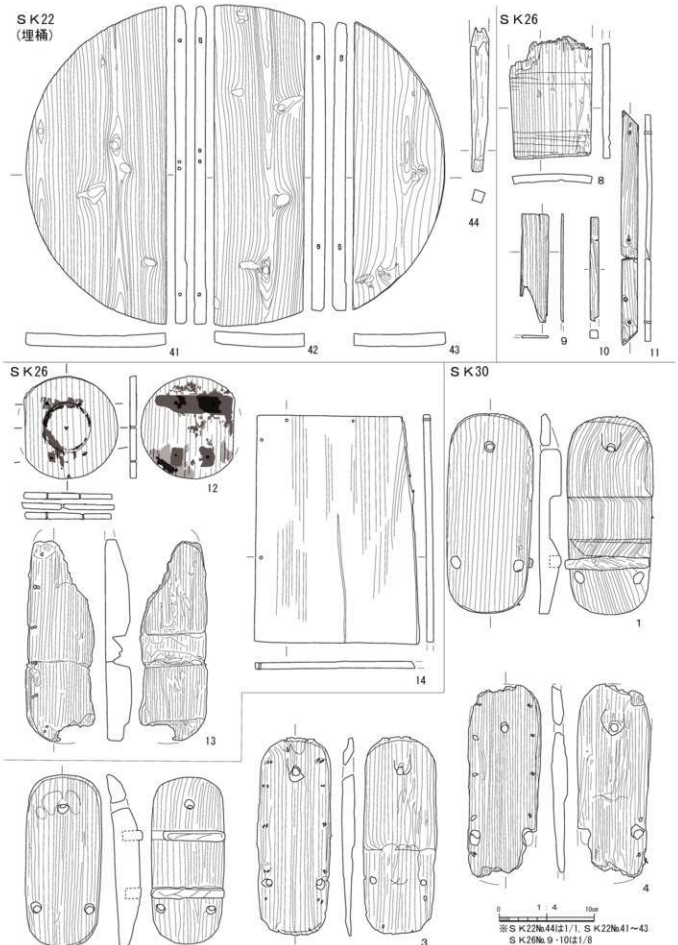
第 110 図　遺構外出土遺物（8）



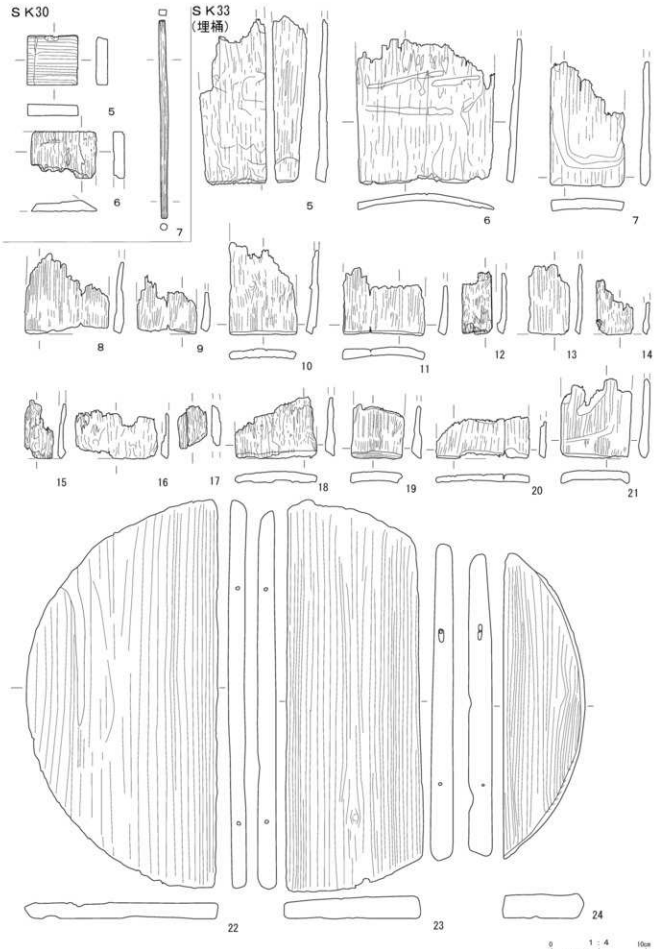
第111図　木製品（１）　ＳＸ１・ＳＫ３（井戸）・ＳＫ18



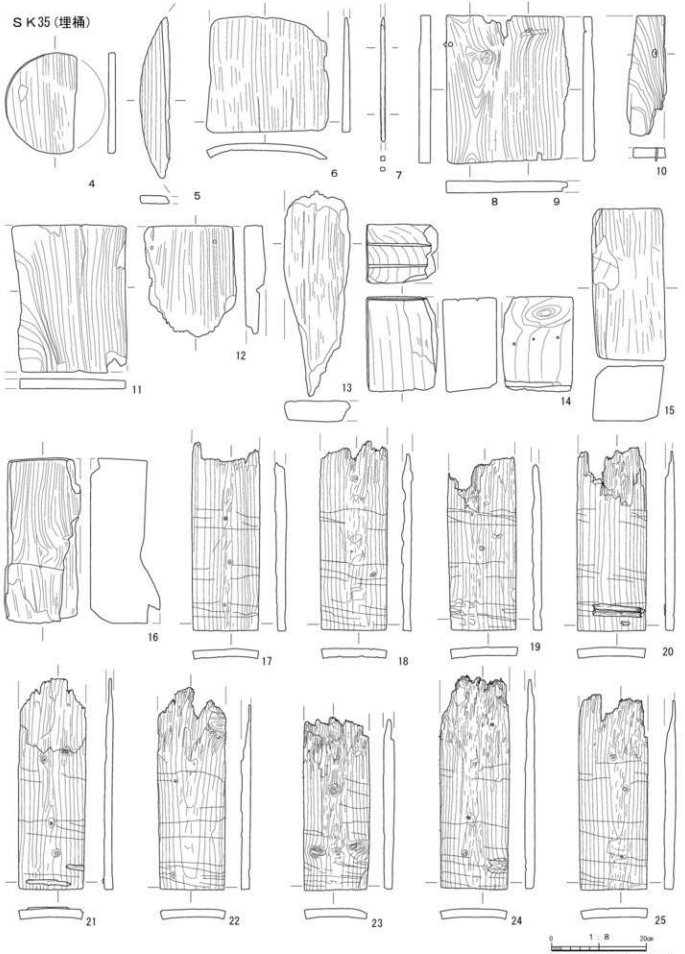
第 112 図　木製品（２）　ＳＫ19・ＳＫ21・ＳＫ22（埋桶）



第113図　木製品（3）　ＳＫ22(埋桶)・ＳＫ26・ＳＫ30

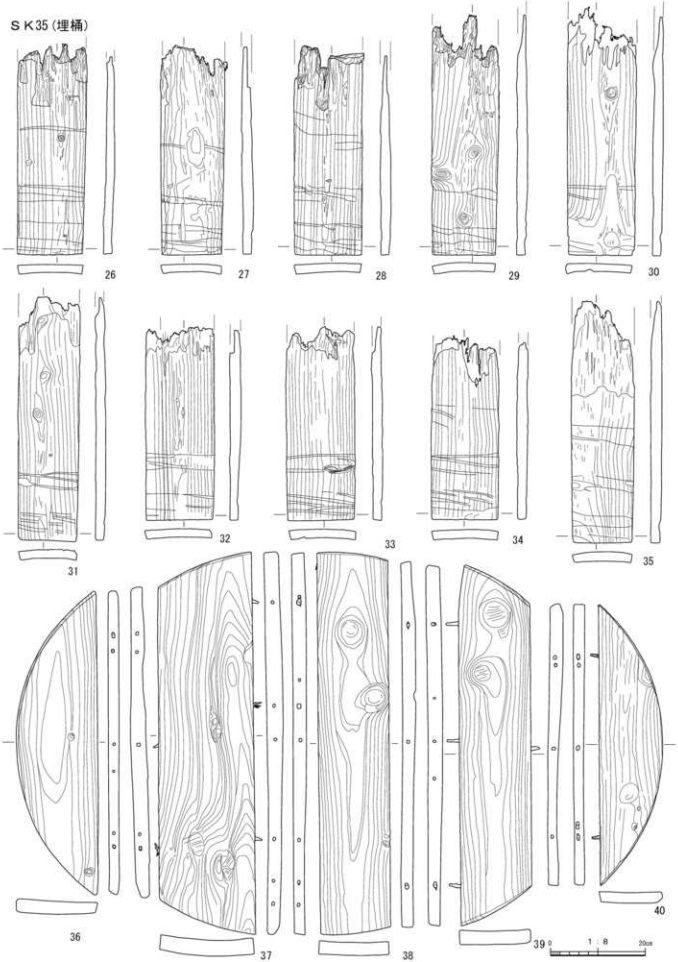


第114図　木製品（4）　ＳＫ30・ＳＫ33(埋桶)

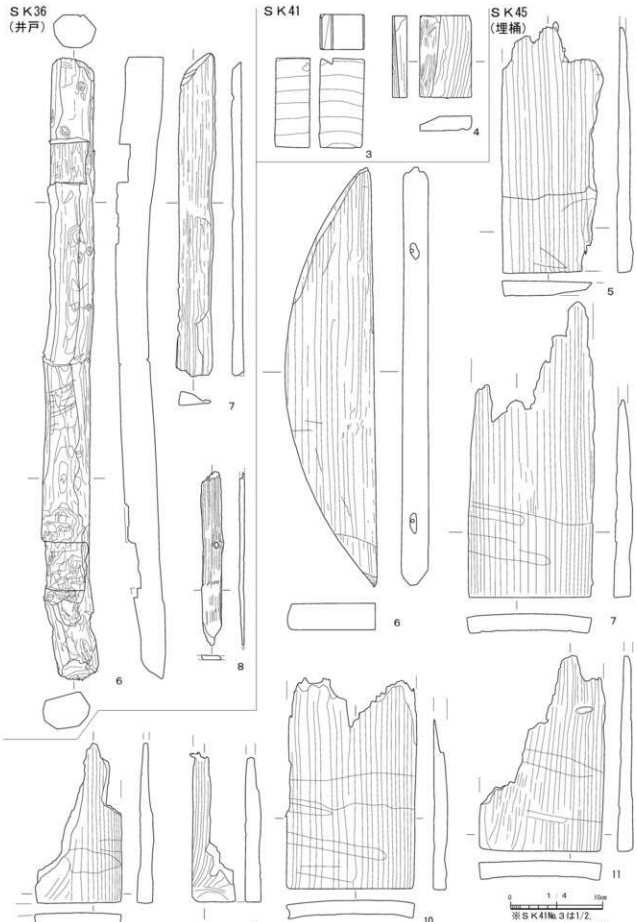


※ＳＫ35No.4～7・14～16は1/4

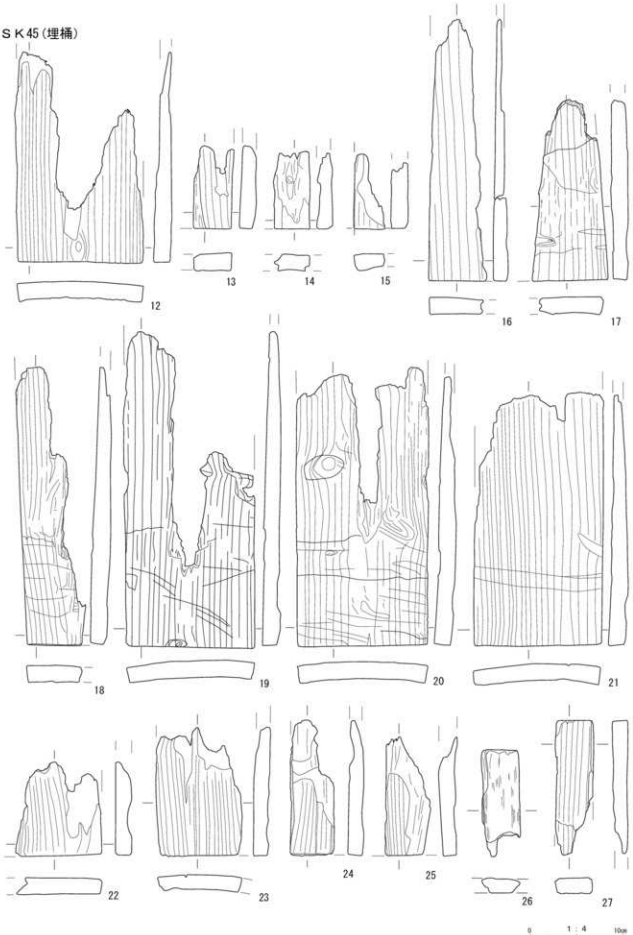
第115図　木製品（５）　ＳＫ35（埋桶）



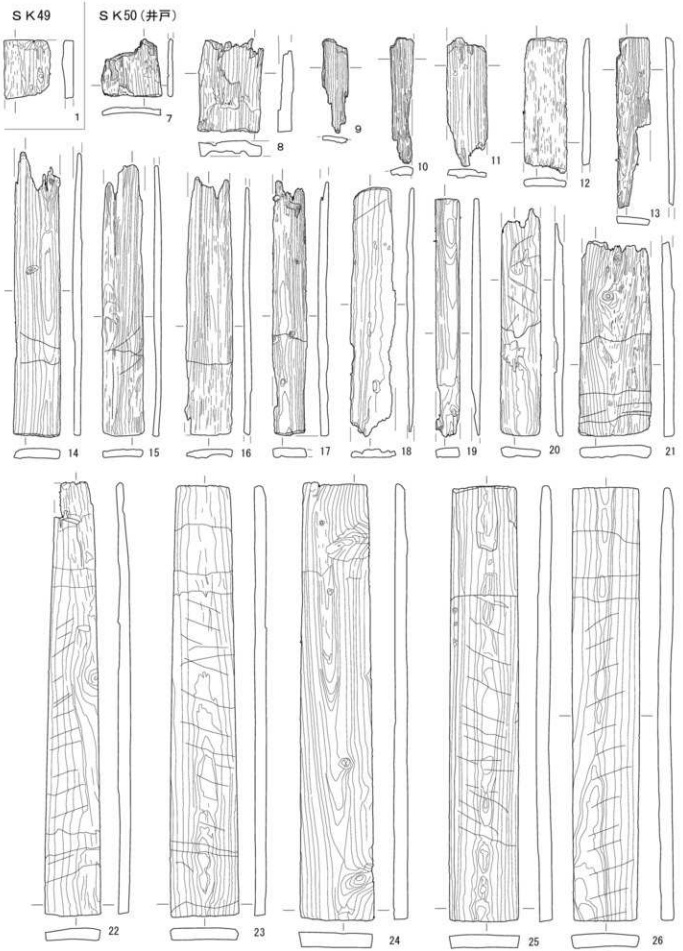
第116図　木製品（６）　ＳＫ35（埋桶）



第117図　木製品（７）　ＳＫ36（井戸）・ＳＫ41・ＳＫ45（埋桶）

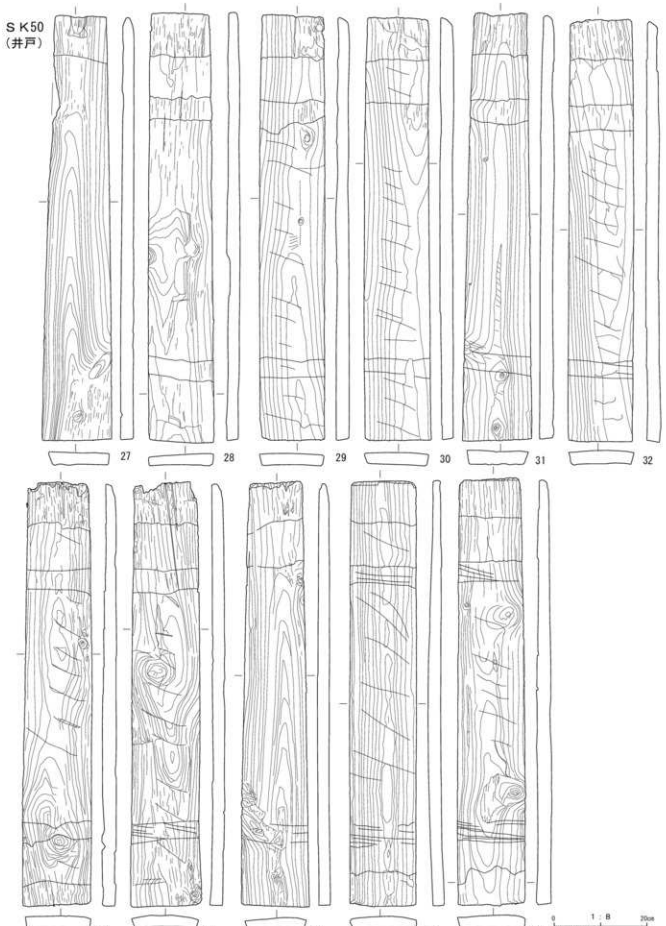


第 118 図　木製品（８）　ＳＫ45（埋桶）

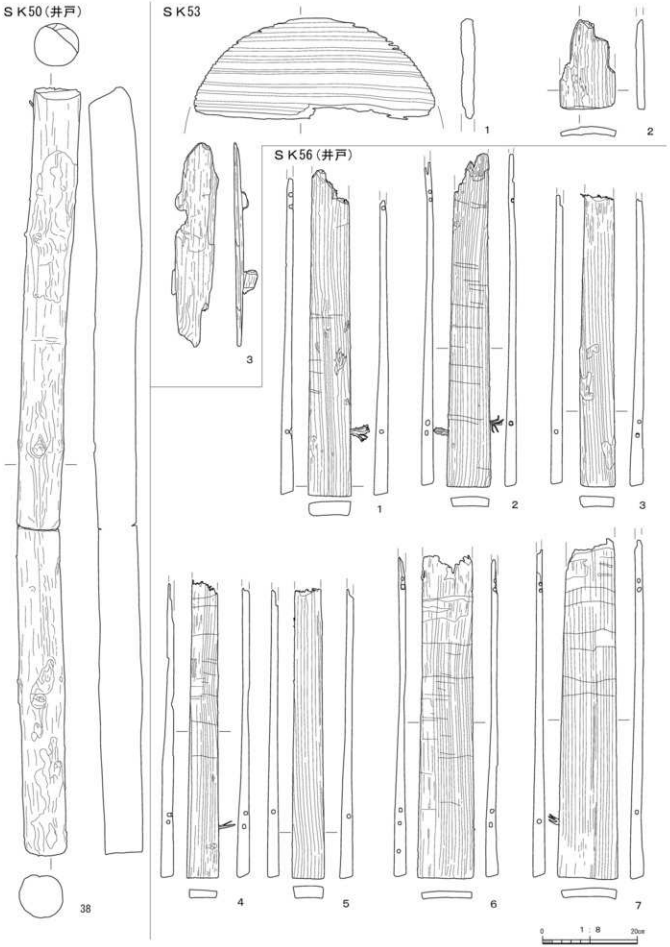


第119図　木製品（9）　ＳＫ49・ＳＫ50（井戸）

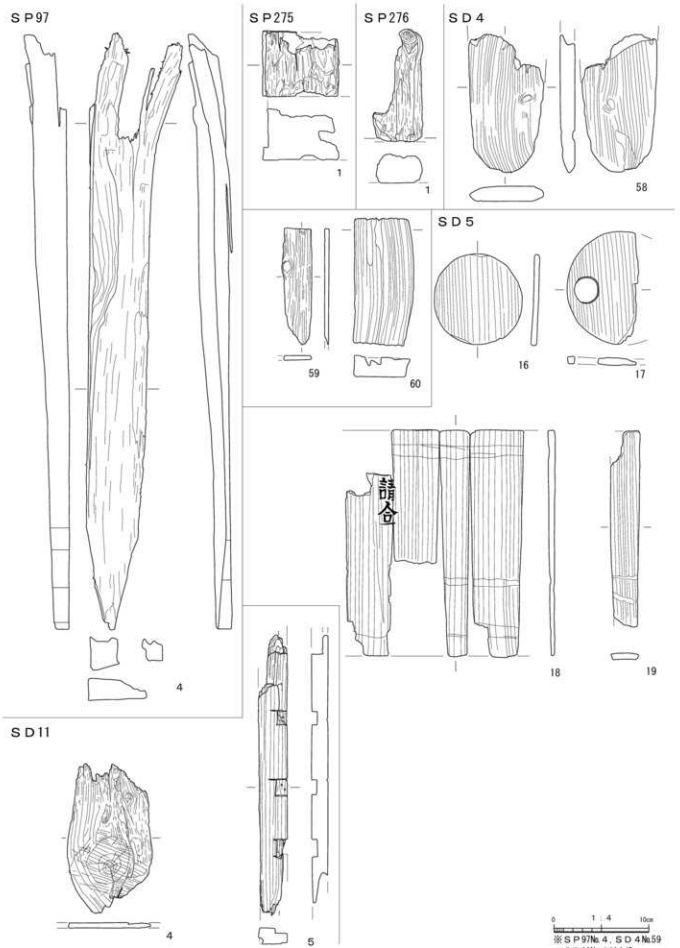
※ＳＫ49No.1、ＳＫ50No.8は1/4



第 120 図　木製品（10）　ＳＫ50（井戸）



第121図　木製品（11）　ＳＫ50（井戸）・ＳＫ53・ＳＫ56（井戸）



第 122 図　木製品（12）　ＳＰ97・ＳＰ275・ＳＰ276・ＳＤ４・ＳＤ５・ＳＤ11

第2表　遺物観察表（1）

出土地点	遺物番号	挿図	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長（cm）	底径・幅（cm）	器高・厚（cm）	調整・特徴	産地（秩父）	胎土・色調	焼成
印旛東遺跡	1	46	30	陶器	碗	口縁部	6.8	3.0	2.9		瀬戸焼	胎土：10YR/2 黒色	良好
印旛東遺跡	2	46	30	陶器	碗	体部～底部	—	3.4	<2.6>		瀬戸焼	胎土：7.5YR/1 黒色　釉調：7.5Y7/2 黒色	良好
SX1	1	46	30	磁器	碗	口縁～体部 1/2	(10.6)	(3.6)	5.3		肥前・唐津焼		良好
SX1	2	46	30	磁器	碗	口縁 1/5～底部	(11.9)	4.0	6.2	見込：目跡有り	肥前・唐津焼		良好
SX1	3	46	30	磁器	碗	口縁部～底部 1/4	(12.0)	(4.4)	6.1		肥前・唐津焼　高台銅行無釉	胎土：7.5YR/1 黒色　釉調：7.5Y7/1 黒色	良好
SX1	4	46	30	磁器	碗	体部～底部	—	(4.0)	<3.2>		肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	5	46	30	磁器	碗	口縁～底部 1/4	(12.0)	—	<4.7>		肥前・唐津焼　高台銅行無釉	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	6	46	30	磁器	碗	口縁 1/6～底部	(12.0)	(4.6)	5.6		肥前・唐津焼		良好
SX1	7	46	30	磁器	碗	口縁部～底部 1/2	—	(4.0)	4.3		肥前・唐津焼		良好
SX1	8	46	30	磁器	碗	口縁 1/5～体部 1/4	(10.0)	—	<3.8>		肥前・唐津焼		良好
SX1	9	46	30	磁器	碗	口縁 1/6～底部 1/6	(9.4)	—	3.7		肥前・唐津焼		良好
SX1	10	46	30	磁器	碗	体部 1/4～底部 1/2	—	(5.6)	<4.9>		肥前・唐津焼	胎土：7.5YR/1 黒	良好
SX1	11	46	30	磁器	碗	口縁 1/5～底部 1/2	(10.0)	(4.4)	5.2		肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	12	46	30	磁器	碗	口縁 1/2～底部 1/2	(9.2)	(3.4)	4.2		肥前・唐津焼		良好
SX1	13	46	30	磁器	碗	口縁 1/2～底部 1/4	(9.0)	(3.2)	4.3		肥前・唐津焼		良好
SX1	14	46	30	磁器	碗	口縁 1/4～底部 1/4	(10.2)	(4.0)	5.3		肥前・唐津焼		良好
SX1	15	46	30	磁器	碗	口縁 1/4～底部 1/6	(5.0)	(1.6)	5.0		肥前・唐津焼		良好
SX1	16	46	30	磁器	碗	口縁 1/5～体部 1/5	(10.0)	—	<4.6>		肥前・唐津焼		良好
SX1	17	46	30	磁器	碗	口縁 1/4～体部 1/4	(9.6)	—	<4.2>		肥前・唐津焼		良好
SX1	18	47	30	磁器	碗	口縁部～底部	(9.2)	3.4	4.45		肥前・唐津焼		良好
SX1	19	47	30	磁器	碗	体部部～底部	—	3.2	<2.3>		肥前・唐津焼		良好
SX1	20	47	30	磁器	碗	体部部～底部	—	(3.6)	<3.2>		肥前・唐津焼		良好
SX1	21	47	30	磁器	碗	体部部～底部	—	3.6	<1.4>		肥前・唐津焼		良好
SX1	22	47	30	磁器	碗	体部部～底部	—	4.0	<2.3>		肥前・唐津焼		良好
SX1	23	47	30	磁器	碗	底部 1/2	—	3.4	2.0	高台付け痕	肥前・唐津焼		良好
SX1	24	47	30	磁器	碗	口縁 1/4～体部	(10.0)	—	<4.8>		肥前・唐津焼		良好
SX1	25	47	30	磁器	碗	口縁 1/4～体部 1/2	10.6	—	—		肥前・唐津焼		良好
SX1	26	47	30	磁器	碗	口縁部～底部 1/6	(7.4)	(3.2)	4.1		肥前・唐津焼		良好
SX1	27	47	31	磁器	碗	口縁 1/6～体部部	—	—	(4.0)		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	28	47	31	磁器	仏	口縁部	—	—	(4.0)		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	29	47	31	磁器	碗	口縁 1/5～体部	(9.7)	—	<4.4>		肥前・唐津焼		良好
SX1	30	47	31	磁器	碗	体部 1/2～底部 1/2	—	(4.2)	<4.3>		肥前・唐津焼		良好
SX1	31	47	31	磁器	仏	体部部～底部	—	(3.6)	<3.2>		肥前・唐津焼		良好
SX1	32	47	31	磁器	碗	口縁部～底部	(11.4)	6.0	5.8	広東碗	肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	33	47	31	磁器	碗	口縁部～底部	(11.0)	6.3	6.2	広東碗	肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	34	47	31	磁器	碗	体部 1/4～底部 1/4	—	(4.6)	<4.2>	広東碗	肥前・唐津焼		良好
SX1	35	47	31	磁器	碗	体部部～底部 1/4	—	4.6	<4.7>	広東碗	肥前・唐津焼		良好
SX1	36	48	31	磁器	碗	口縁 1/4～底部	(11.0)	6.0	5.4	広東碗	肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	37	48	31	磁器	碗	口縁 1/5～底部	(10.2)	5.8	<5.4>	広東碗	肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	38	48	31	磁器	碗	体部 1/6～底部	—	6.2	<4.4>	広東碗	肥前・唐津焼		良好
SX1	39	48	31	磁器	碗	口縁部～底部 1/3	(11.4)	(7.0)	6.45	広東碗	肥前・唐津焼		良好
SX1	40	48	31	磁器	碗	口縁部～底部	(11.0)	6.2	5.1	広東碗。上絵付け	唐津焼。三彩・高台銅行無釉		良好
SX1	41	48	31	磁器	碗	体部部～底部	—	6	<3.8>	広東碗	肥前・唐津焼		良好
SX1	42	48	31	磁器	碗	体部部～底部	—	—	<2.2>		肥前・唐津焼		良好
SX1	43	48	31	磁器	碗	体部 1/5～底部 1/2	—	(6.2)	<4.8>		肥前・唐津焼		良好
SX1	44	48	31	磁器	碗	体部 1/4～底部	—	6.2	<3.8>		肥前・唐津焼		良好
SX1	45	48	31	磁器	碗	口縁部～底部欠損	(9.0)	—	<5.5>		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	46	48	31	磁器	碗	口縁 1/8	(8.8)	—	<4.6>		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	47	48	31	磁器	碗	口縁部～体部	(8.6)	—	<2.9>		肥前・唐津焼	胎土：色紙	良好
SX1	48	48	31	磁器	碗	口縁 1/2～体部 1/4	(9.8)	—	<3.8>		肥前・唐津焼		良好
SX1	49	48	31	磁器	碗	口縁 1/2～底部 1/2	(7.2)	(3.0)	<5.6>		肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	50	48	31	磁器	碗	口縁～底部 1/2	(5.4)	(2.2)	3.1		肥前・唐津焼		良好
SX1	51	48	32	磁器	碗	口縁～底部 1/2	(6.6)	(3.4)	3.1		肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	52	48	32	磁器	碗	口縁 1/4～底部 1/6	(8.0)	—	<5.6>		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	53	48	32	磁器	碗	口縁 1/5～底部 1/4	(9.4)	(1.8)	5.2	鉄釉部付に文様	肥前・唐津焼＋下絵鉄釉	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	54	48	32	磁器	碗	口縁～底部	8.8	3.8	6.6		肥前・唐津焼		良好
SX1	55	49	32	磁器	碗	口縁部～底部 1/4	(10.0)	(4.0)	5.2		肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	56	49	32	磁器	碗	口縁部～底部 1/2	(9.0)	(4.4)	5.45		肥前・唐津焼		良好
SX1	57	49	32	磁器	碗	口縁部～底部	(7.2)	(1.6)	4.9		肥前・唐津焼		良好
SX1	58	49	32	磁器	碗	口縁 1/4～底部 1/2	(12.0)	—	<5.1>		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	59	49	32	磁器	碗	口縁 1/5～底部 1/2	(10.8)	(4.0)	3.7		肥前・唐津焼		良好
SX1	60	49	32	磁器	碗	口縁 1/4～底部 1/2	(9.6)	(4.0)	5.3		肥前・唐津焼		良好
SX1	61	49	32	磁器	碗	口縁 1/4～底部 1/2	(12.0)	—	<5.0>		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	62	49	32	磁器	碗	口縁 1/5～底部 1/4	(10.0)	(4.4)	<4.9>		肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	63	49	32	磁器	碗	口縁 1/2～底部部	(10.0)	(4.0)	4.9	鉄釉部不着	肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	64	49	32	磁器	碗	口縁 1/4～底部部	(9.6)	—	<4.2>		肥前・唐津焼	胎土：7.5YR/1 灰白	良好
SX1	65	49	32	磁器	碗	口縁 1/5～底部 1/4	(9.0)	(4.2)	4.2		肥前・唐津焼		良好
SX1	66	49	32	磁器	碗	口縁 1/5～体部 1/3	(8.4)	—	<3.7>		肥前・唐津焼		良好
SX1	67	49	32	磁器	碗	口縁 1/4～底部部	(14.0)	—	<4.3>		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	68	49	32	磁器	碗	体部～底部 1/4	—	(3.8)	<4.0>		肥前・唐津焼		良好
SX1	69	49	32	磁器	碗	口縁 1/4～体部 1/4	(15.0)	—	—		肥前・唐津焼		良好
SX1	70	49	32	磁器	碗	口縁 1/2～体部 1/2	(14.4)	—	<5.4>		肥前・唐津焼		良好
SX1	71	49	32	磁器	碗	口縁 1/4～底部 1/2	(9.5)	(4.0)	5.6		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	72	50	33	磁器	碗	底部 1/2	—	(4.4)	—		肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	73	50	33	磁器	碗	体部 1/6～底部	—	3.8	<2.8>	蛇の目釉剥ぎ	唐津焼	胎土：7.5YR/1 灰白、外面：底部 10YR6/3 にぶい黄橙	良好
SX1	74	50	33	磁器	碗	口縁部～底部 1/2	—	<4.2>	—	蛇の目釉剥ぎ		胎土：N6/ 灰白　釉調：7.5GY4/1 明緑灰	良好
SX1	75	50	33	磁器	碗	体部部～底部	—	5.3	<2.9>		肥前・唐津焼	胎土：7.5YR/2 灰白	良好
SX1	76	50	33	磁器	碗	口縁部欠損	(12.2)	(7.6)	8.1	広東大碗	肥前・唐津焼		良好
SX1	77	50	33	磁器	鉢	口縁 1/6～底部欠損	(24.0)	—	<6.3>		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	78	50	33	磁器	鉢	口縁 1/5～体部部	(16.0)	—	<4.0>		肥前・唐津焼		良好
SX1	79	50	33	磁器	皿蓋	口縁 1/5～底部 1/2	(12.0)	(8.2)	4.7		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	80	50	33	磁器	鉢	口縁 1/5～体部部	(16.0)	—	<5.1>		肥前・唐津焼		良好
SX1	81	50	33	磁器	鉢	口縁 1/2～底部 1/2	(17.6)	(7.4)	6.2		肥前・唐津焼　高台銅行無釉		良好
SX1	82	50	33	磁器	皿	口縁 1/5～底部 1/4	(9.0)	(6.0)	2.4	蛇の目釉剥ぎ痕跡	肥前・唐津焼		良好
SX1	83	50	33	磁器	皿	口縁 1/4～底部 1/2	(10.0)	(6.6)	1.7	蛇の目釉剥ぎ痕跡	肥前・唐津焼		良好
SX1	84	50	33	磁器	皿	口縁部～底部 1/2	—	(6.2)	<1.7>		肥前・唐津焼		良好
SX1	85	50	33	磁器	皿	口縁 1/4～底部 1/4	(12.0)	—	(3.0)	内外面：ロクロ　見込み　梅形ボ	肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	86	50	33	磁器	皿	口縁 1/4～底部 1/4	(13.0)	(7.6)	3.0		肥前・唐津焼		良好
SX1	87	50	33	磁器	皿	口縁部 1/6	—	—	<2.0>		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	88	51	33	磁器	皿	口縁部～底部	(10.6)	6.4	2.4		肥前・唐津焼		良好
SX1	89	51	33	磁器	皿	口縁 1/4～底部	(10.8)	6.4	2.4	鉄釉部不着	肥前・唐津焼		良好
SX1	90	51	33	磁器	皿	口縁 1/2～底部	(13.0)	7.4	3		肥前・唐津焼　口銅鉄釉		良好
SX1	91	51	33	磁器	皿	口縁 1/5～底部部	(16.0)	(9.0)	2.3		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	92	51	33	磁器	皿	口縁 1/2～底部 2/3	(13.9)	(8.2)	2.8		肥前・唐津焼		良好
SX1	93	51	33	磁器	皿	口縁 1/3～底部 1/2	(14.0)	(8.0)	3.45		肥前・唐津焼		良好
SX1	94	51	33	磁器	皿	口縁 1/6～底部 1/4	(13.8)	8.0	3.8		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	95	52	33	磁器	皿	口縁 1/2～底部 1/4	14.0	7.8	4.2		肥前・唐津焼		良好
SX1	96	52	34	磁器	皿	口縁 1/2～底部 1/2	(13.0)	9.0	4.4		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	97	52	34	磁器	皿	口縁部～底部 1/8	(19.4)	(11.0)	6.3		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	98	52	34	磁器	皿	口縁 3/4～底部	(16.2)	4.0	2.8		肥前・唐津焼	胎土：N6/ 灰白	良好
SX1	99	52	34	磁器	蓋	口縁～つまみ部	(10.0)	つまみ 4.0	3.2		肥前・唐津焼		良好
SX1	100	52	34	磁器	蓋	つまみ部～口縁部	(10.2)	つまみ 4.0	3.2		肥前・唐津焼		良好
SX1	101	52	34	磁器	蓋	つまみ部～口縁 3/4	(10.0)	つまみ 4.2	3.2		肥前・唐津焼		良好

（　）復元値　＜　＞残存値

第３表　遺物観察表（２）

出土地点	遺物番号	層位	写真図版	種別	器種	部位	法量（口径・最大径）mm	法量（底径・厚さ）mm	胴径・特徴	装飾（施文）	胎土・色調	焼成
SX1	102	33	34	縄文	深	ツまみ部～体部小	—	ツまみ:4.0	3.9	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	103	33	34	縄文	深	ツまみ部～口縁 1/4	(10.6)	ツまみ:5.6	3.2	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ、周辺部ナデ時軸	良好	良好
SX1	104	33	34	縄文	深	ツまみ部～口縁 1/4	(10.0)	ツまみ:3.6	<2.9>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ、周辺部ナデ時軸	良好	良好
SX1	105	33	34	縄文	深	ツまみ部～口縁 1/4	(9.8)	ツまみ:3.6	2.7	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	106	33	34	縄文	深	ツまみ部～口縁 1/2	(10.0)	ツまみ:3.4	2.9	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	107	33	34	縄文	深	ツまみ部 1/2～体部小	—	ツまみ:6.0	<3.6>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	108	33	34	縄文	深	ツまみ部 1/2～口縁 1/4	(10.4)	ツまみ:6.0	2.6	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	109	33	34	縄文	深	ツまみ部 1/4～口縁 1/3	(10.0)	ツまみ:3.4	2.4	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	110	33	34	縄文	深	ツまみ部～口縁 1/2	(9.2)	ツまみ:5.1	2.4	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	111	33	34	縄文	深	ツまみ部 1/2～口縁 1/3	(10.4)	ツまみ:5.6	3.5	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	112	33	34	縄文	深	ツまみ部 1/2～口縁 1/2	12.4	ツまみ:3.4	3.0	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	113	33	34	縄文	深	ツまみ部～口縁 1/3	(11.2)	ツまみ:4.4	3.05	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	114	33	34	縄文	深	ツまみ部～口縁 1/4	(9)	ツまみ:4.0	2.8	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	115	34	34	縄文	深	ツまみ部 1/2～体部 1/4	—	ツまみ:3.6	<3.2>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	116	34	34	縄文	深	ツまみ部 1/2～口縁 1/4	(10.0)	ツまみ:3.6	2.65	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	117	34	34	縄文	深	ツまみ部～口縁 1/4	(8.8)	ツまみ:3.0	2.2	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	118	34	34	縄文	深	ツまみ部～口縁 3/4	7.7	ツまみ:3.4	2.2	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	119	34	34	縄文	深	体部 1/2～口縁 1/2	(8.0)	—	1.8	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	120	34	34	縄文	深	体部～口縁 1/4	(10.0)	—	2.2	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ、周辺部ナデ時軸	良好	良好
SX1	121	34	34	縄文	深	体部 2/3～口縁 3/4	12.4	—	<3.0>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	122	34	35	縄文	鉢	体部 1/4～底部 1/6	—	(8.6)	—	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ、周辺部ナデ時軸	良好	良好
SX1	123	34	35	縄文	鉢	体部～底部	—	(5.0)	<7.5>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ、上絵付	良好	良好
SX1	124	34	35	縄文	鉢	体部 1/6～底部 1/6	—	5.4	—	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	125	34	35	縄文	鉢	体部 1/4～底部 1/4	—	(4.4)	—	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	126	34	35	縄文	鉢	体部 1/2～底部 3/4	—	(3.8)	<3.9>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	127	34	35	縄文	鉢	口縁部	2.1	—	4.2	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	128	34	35	縄文	胴無頸壺	体部小～底部	—	3.8	7.9	「ハ神」の文字	良好	良好
SX1	129	34	35	縄文	深型	口縁 1/3～体部	5.4	—	3.9	口縁部直下に縦沓痕	粗雑	良好
SX1	130	34	35	縄文	鉢型	口縁 1/3～体部小	(10.4)	—	<3.3>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	131	34	35	縄文	弘長鉢	口縁 1/4～底部	8.0	6.7	4.0	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	132	34	35	縄文	弘長鉢	口縁部～底部	16.4	3.2	3.4	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	133	34	35	縄文	弘長鉢	口縁 1/6～体部 1/4	3.6	—	—	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ、周辺部ナデ時軸	良好	良好
SX1	134	34	35	縄文	弘長鉢	口縁 1/4～底部 1/4	3.4	(3.2)	4.2	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ、周辺部ナデ時軸	良好	良好
SX1	135	34	35	縄文	水差	上部 1/2～底部 1/2	(8.3)	6.0	5.6	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ、上絵付	良好	良好
SX1	136	35	35	陶器	碗	口縁 1/5～体部 1/6	(11.6)	—	<6.8>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	137	35	35	陶器	碗	体部 1/5～底部	—	5.0	<5.2>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	透明釉	良好
SX1	138	35	35	陶器	碗	口縁 1/4～底部 1/4	<10.0>	<4.0>	<6.1>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	—	良好
SX1	139	35	35	陶器	碗	体部小～底部	—	5.0	<3.1>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	透明釉	良好
SX1	140	35	35	陶器	碗	口縁 1/6～体部 1/4	(11.0)	—	<4.3>	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	—	良好
SX1	141	35	35	陶器	碗	口縁 1/6～底部	(9.6)	4.4	5.7	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	—	良好
SX1	142	35	35	陶器	碗	口縁 1/6～底部	(10.0)	5.0	5.6	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	透明釉	良好
SX1	143	35	35	陶器	碗	口縁 1/2～底部 2/3	11.3	5.0	6.5	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ	良好	良好
SX1	144	35	35	陶器	碗	口縁部	10.0	—	—	ヨコ ナデ/横方向ヘラ ナデ、上絵付	良好	良好
SX1	145	35	35	陶器	碗	口縁 1/6～底部 1/3	(10.2)	(3.8)	5.2	釉剥ぎ	鉄釉	良好
SX1	146	35	35	陶器	碗	口縁 1/4～底部	11.3	(4.9)	6.6	釉剥ぎ、外面に沿軸の輪郭有り、回型痕跡	透明釉	良好
SX1	147	35	35	陶器	碗	口縁 1/2～体部 1/2	(12.4)	—	<7.8>	外面に「ばんの輪郭有り	—	良好
SX1	148	35	36	陶器	碗	口縁 1/2～体部 1/3	(12.4)	—	<5.8>	外面：沿線	透明釉	良好
SX1	149	35	36	陶器	碗	口縁 1/2～底部小	(14.0)	(5.4)	<5.5>	釉剥ぎ、釉剥ぎ時軸	良好	良好
SX1	150	35	36	陶器	碗	口縁 1/4～底部 1/4	(10.6)	—	<3.0>	釉剥ぎ	鉄釉	良好
SX1	151	35	36	陶器	碗	体部小～底部	—	<4.0>	—	釉剥ぎ	透明釉	良好
SX1	152	35	36	陶器	碗	口縁 1/6～底部	(5.4)	3.4	5.4	釉剥ぎ	良好	良好
SX1	153	35	36	陶器	碗	口縁 1/4～体部 1/2～底部	(6.2)	3.8	5.1	釉剥ぎ	良好	良好
SX1	154	35	36	陶器	碗	口縁～底部	(11.0)	4.3	6.15	釉剥ぎ	良好	良好
SX1	155	35	36	陶器	坏	口縁 1/2～底部 1/2	(7.2)	(3.2)	2.8	雑巾ヨボ	透明釉	良好
SX1	156	35	36	陶器	坏	口縁 1/4～体部 1/4	(7.0)	—	<3.0>	—	—	良好
SX1	157	36	36	陶器	坏	体部小～底部 1/2	—	4.8	<4.3>	—	鉄釉	良好
SX1	158	36	36	陶器	坏	口縁 1/6～底部 1/4	(9.4)	(3.6)	5.0	釉剥ぎ	透明釉	良好
SX1	159	36	36	陶器	坏	口縁～底部 2/3	(9.8)	3.8	5.0	釉剥ぎ	透明釉	良好
SX1	160	36	36	陶器	坏	口縁 1/3～底部	(6.4)	4.0	7.1	釉剥ぎ、黒色釉付時軸	鉄釉	良好
SX1	161	36	36	陶器	坏	体部 1/2～底部 1/3	—	(6.2)	(5.7)	外面：沿ナデ	透明釉	良好
SX1	162	36	36	陶器	坏	口縁 1/4～体部小	(17.6)	—	—	内面：芯持有り	透明釉	良好
SX1	163	36	36	陶器	皿	底部 1/2	—	<6.2>	—	釉剥ぎ	鉄釉	良好
SX1	164	36	36	陶器	皿	口縁小～底部	8.4	3.8	1.8	釉剥ぎ	鉄釉	良好
SX1	165	36	36	陶器	灯明皿	口縁 2/3～底部	<7.2>	<3.8>	<1.2>	釉剥ぎ/切	内面：暗赤褐色釉	良好
SX1	166	36	36	陶器	灯明皿	体部小～底部 1/2	—	(3.6)	(0.8)	釉剥ぎ	鉄釉	良好
SX1	167	36	36	陶器	皿	口縁 1/4～底部 2/3	<7.2>	<4.0>	<1.2>	釉剥ぎ	透明釉	良好
SX1	168	36	36	陶器	灯明皿	口縁 2/3～底部	<8.4>	<3.0>	<1.8>	内面：暗赤褐色釉	鉄釉	良好
SX1	169	36	36	陶器	灯明皿	口縁 1/4～底部 2/3	(8.6)	(4.0)	(1.3)	内面：暗赤褐色釉	鉄釉	良好
SX1	170	36	36	陶器	皿	口縁～底部	9.3	5.0	1.6	内面：暗赤褐色釉	透明釉	良好
SX1	171	36	36	陶器	灯明皿	口縁 1/2～底部 1/2	(9.0)	(4.0)	1.3	内面：暗赤褐色釉	鉄釉	良好
SX1	172	36	36	陶器	灯明皿	口縁 2/3～底部 1/2	(10.6)	(4.0)	1.7	内面：暗赤褐色釉	鉄釉	良好
SX1	173	36	36	陶器	灯明皿	口縁 1/6～底部 1/4	(10.6)	(4.0)	2.1	内面：暗赤褐色釉	鉄釉	良好
SX1	174	36	36	陶器	皿	口縁 1/4～底部 1/4	<10.6>	<4.2>	<1.8>	内面：暗赤褐色釉	鉄釉	良好
SX1	175	36	36	陶器	灯明皿	底部	7.5	3.8	1.55	釉剥ぎ/目転ヨボ	鉄釉	良好
SX1	176	36	36	陶器	灯明皿	口縁部	7.8	4.0	1.8	内面：暗赤褐色釉	鉄釉	良好
SX1	177	36	36	陶器	灯明皿	口縁 1/6～底部 1/6	(8.0)	2.0	1.9	—	鉄釉	良好
SX1	178	36	36	陶器	灯明皿	口縁 1/6～底部 2/3	(10.2)	(3.4)	1.95	—	鉄釉	良好
SX1	179	36	36	陶器	灯明皿	口縁 2/3～底部	<12.2>	4.0	2.2	—	鉄釉	良好
SX1	180	37	37	陶器	皿	口縁 1/5～底部 1/2	<7.4>	<11.0>	<4.0>	—	透明釉	良好
SX1	181	37	37	陶器	皿	体部～底部	—	12.5	<2.9>	—	透明釉・黒色釉付時軸	良好
SX1	182	37	37	陶器	皿	口縁小	(7.0)	—	—	—	透明釉	良好
SX1	183	37	37	陶器	皿	口縁小～体部 1/4	(13.6)	—	1.95	内面：沿線	—	良好
SX1	184	37	37	陶器	皿	口縁 1/2～体部 1/2	(7.6)	—	1.85	内面：沿線　外面：無釉	鉄釉	良好
SX1	185	37	37	陶器	皿	口縁部	6.3	3.2	1.6	内面：無釉　外面：無釉	鉄釉	良好
SX1	186	37	37	陶器	皿	口縁 1/2～底部 1/2	(13.0)	(4.6)	2.4	内面：沿ナデ　外面：無釉	鉄釉	良好
SX1	187	37	37	陶器	皿	底部 1/4～口縁 1/4	(11.2)	(4.0)	1.6	底部以外ハケ ナデ	鉄釉	良好
SX1	188	37	37	陶器	皿	底部 3/4～口縁 3/4	(10.6)	<9.6>	2.1	—	透明釉	良好
SX1	189	37	37	陶器	皿	体部小～口縁	—	4.0	—	—	—	良好
SX1	190	37	37	陶器	片口	口縁～体部	(20.0)	—	<5.1>	—	鉄釉	良好
SX1	191	37	37	陶器	土瓶蒸	蓋	7.9	4.2	3.3	横線等ナ	鉄釉	良好
SX1	192	37	37	陶器	行平	口縁 1/2～体部 1/2	(17.0)	—	<6.6>	外面：「ばんの輪郭有り・金属に擦痕跡	鉄釉	良好
SX1	193	37	37	陶器	土瓶	口縁部～体部	(16.8)	—	7.1	—	—	良好
SX1	194	38	37	陶器	土瓶	体部 1/6	—	—	<4.7>	—	鉄釉	良好
SX1	195	38	37	陶器	土瓶	体部小～底部 1/4	—	(6.0)	<1.8>	—	鉄釉	良好
SX1	196	38	37	陶器	土瓶	体部 1/4～底部 1/2	—	(11.0)	3.3	—	鉄釉	良好
SX1	197	38	37	陶器	土瓶	口縁～体部	8.6	—	<14.5>	—	鉄釉	良好
SX1	198	38	37	陶器	土瓶	口縁～体部	(7.4)	—	<13.4>	蓋入り	—	良好
SX1	199	38	38	陶器	土瓶	口縁 1/2～体部 1/2	(11.6)	—	<7.3>	—	鉄釉	良好
SX1	200	38	38	陶器	土瓶	注口　体部 1/4～底部 1/4	—	(7.0)	<12.6>	—	内外面（上位）鉄釉	良好
SX1	201	38	38	陶器	土瓶	体部	—	—	<6.6>	—	鉄釉	良好
SX1	202	38	38	陶器	土瓶	口縁 1/2～体部小	(7.6)	—	—	—	—	良好
SX1	203	38	38	陶器	土瓶	注口	—	—	—	—	一部鉄釉・粗付	良好
SX1	204	39	38	陶器	土瓶	口縁～体部	(8.0)	—	<12.8>	—	一部鉄釉・粗付	良好

（）復元値　＜　＞残存値

第４表　遺物観察表（３）

出土地点	遺物番号	検図	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長径	底径・幅	器高・厚	調整・特徴	胎土	焼成	備考・色調	時代
G81	285	59	38	陶器	土瓶	体部	—		<8.2>		透明釉・鉄打			近世
G81	286	59	38	陶器	碗（ミカン形）	底部	4.8	3.9	3.8	1.8	鉄釉・鉄釉	良	胎土：5YR/4.2以-暗　釉調：7.5YR/2.5黄白	近世
G81	287	59	38	陶器	香炉	口縁部（蓋なし本体）	2.8	2.8	1.2		鉄釉	良	胎土：5YR/2.5黄白	近世
G81	288	59	38	陶器	仏飯器	口縁 1/2～底部	8.4	3.8	3.5		鉄釉	良		近世
G81	289	59	38	陶器	仏飯器	口縁 2/3～体部 2/3	<8.0>	—	<4.3>		鉄釉	良	胎土：5Y/5.黄白	近世
G81	290	59	38	陶器	仏飯器	底部 2/3	—	—	<4.4>		鉄釉	良	胎土：5YR/1.8黄白　釉調：7.5YR/2.5黄橙	近世
G81	291	59	38	陶器	徳利	口縁 1/2～体部 1/4～底部	—	4.4	5.1		鉄釉	良	胎土：7.5YR/2.5黄橙	近世
G81	292	59	38	陶器	徳利	体部	—	—	<4.8>	紐付	鉄釉	良	胎土：5YR/1.8黄白　釉調：2.5YR/2	近世
G81	293	59	38	陶器	水注	口縁 1/2～底部 1/4	<4.0>	7.5	8.7		鉄釉	良	胎土：5YR/1.8黄白　釉調：10YR/4.明赤褐	近世
G81	294	59	38	陶器	皿	体部～底部	8.8	6.4	<2.3>	底部糸切り	鉄釉	良	胎土：5YR/1.8黄白	近世
G81	295	59	38	陶器	仏花器	体部	—	—	<6.8>		鉄釉・鉄釉	良	胎土：7.5YR/1.8黄白　黄白	近世
G81	296	59	38	陶器	壺	口縁 1/2～体部 1/6	<3.6>	—	<4.5>		鉄釉	良	胎土：10YR/1.黄白　黒釉	近世
G81	297	59	38	陶器	壺	口縁 3/4～底部 1/4	4.6	<3.2>	7.5		鉄釉	良	胎土：5YR/1.8～7.黄	近世
G81	298	59	38	陶器	壺	口縁 1/4～体部小	<9.0>	—	<4.9>			良	胎土：2.5YR/1.8黄白　釉調：5YR/3.褐赤-7	近世
G81	299	59	38	陶器	徳利	体部 1/2～底部小	—	<8.4>	<13.7>	ハケカク	一部鉄釉			近世
G81	300	59	38	陶器	徳利	口縁部	—	8.4	<11.6>	ハケカク、底部糸切痕	鉄釉	良		近世
G81	301	59	39	陶器	徳利	体部小～底部 2/3	—	6.4	3.5	ハケカク、内面：ロクロ、底部回転糸切	鉄釉	良	胎土：2.5YR/3.浅黄	近世
G81	302	59	39	陶器	徳利	体部	—	—	<13.1>	ハケカク	鉄釉	良	胎土：2.5YR/1.黄白　釉調：5YR/3.4.明赤褐	近世
G81	303	59	39	陶器	鉢形才	口縁部	18.0	8.0	<7.6>	鼓入取り、口縁部に鉄打痕	透明釉	良	胎土：5YR/1.黄白	近世
G81	304	59	39	陶器	瓶	体部	—	—	—	鼓入取り	上絵打			近世
G81	305	59	39	陶器	壺	口縁～体部	16.4	—	<3.3>		鉄釉	良	胎土：鉄釉含む　10YR/1.黄白	近世
G81	306	60	39	陶器	鉢形	体部小～底部 1/2	—	<10.4>	<3.4>	内面：底ロクロ目	鉄釉	良	胎土：N/7.白　釉調：10YR 3/2.黒褐	近世
G81	307	60	39	陶器	瓶	体部小～底部	—	<7.2>	—	内面：ロクロ目		良	胎土：7.5YR/1.黄白　釉調：7.5YR/2.褐灰-7	近世
G81	308	60	39	陶器	鉢	体部小～底部	—	<7.0>	—	内面：ロクロ目		良	胎土：2.5 Y/1.2.黄	近世
G81	309	60	39	陶器	壺	口縁～体部	<11.8>	—	<9.8>		鉄釉	良	胎土：10YR/1.8.黄白	近世
G81	310	60	39	陶器	皿	体部～底部	—	<8.2>	<2.5>	底の底糸切痕	鉄釉			近世
G81	311	60	39	陶器	鉢	口縁 1/2～体部小	17.6	—	<5.8>		鉄釉	良	胎土：鉄釉含む　5 Y/8/2.黄白	中世不明
G81	312	60	39	陶器	皿	底部	—	13.0	<3.9>	内面：鼓入取り痕	鉄釉	良	胎土：2.5 Y/8/1.黄白	近世
G81	313	60	39	陶器	鉢	口縁 1/4～体部 1/6	<26.0>	—	<11.1>		鉄釉	良	胎土：2.5 Y/8/1.黄白	近世
G81	314	60	39	陶器	皿	底部 1/4	14.0	—	—			良	胎土：10YR/2.黒白	近世
G81	315	60	39	陶器	鉢	口縁 1/3～体部小	<20.0>	—	<11.7>		鉄釉	良	胎土：鉄釉含む	中世不明
G81	316	60	39	陶器	鉢	口縁 1/3～体部小	<27.4>	—	<5.3>	内面：ロクロ	鉄釉	良	胎土：10 Y/6/1.黄　釉調：5 Y/6.2.浅黄-7	近世
G81	317	60	39	陶器	鉢	体部～底部	—	<19.2>	<13.3>	内面：鼓入取り痕	鉄釉	良	胎土：2.5 Y/8/2.浅黄	近世
G81	318	60	39	陶器	鉢	体部 1/6～底部 1/4	—	<12.8>	<13.4>	内面：鼓入取り痕	鉄釉	良	胎土：鉄釉含む・鉄石	近世
G81	319	61	39	陶器	鉢	口縁 1/6～底部小	<34.6>	—	<9.9>		鉄釉	良	胎土：鉄釉含む・鉄石	中世不明
G81	320	61	39	陶器	鉢	口縁 1/4～体部小	—	—	7.5		鉄釉	良	胎土：10YR/4.赤	近世
G81	321	61	39	陶器	鉢	口縁 1/4～体部小	<35.0>	—	7.5		鉄釉	良	胎土：10YR/4.赤	近世
G81	322	61	39	陶器	鉢	口縁小	—	—	<4.6>		鉄釉	良	胎土：2.5YR/4.2.浅黄	近世
G81	323	61	40	陶器	鉢	口縁 1/4～体部小	<19.1>	—	<5.4>		鉄釉	良	胎土：鉄釉含む	近世
G81	324	61	40	陶器	鉢	口縁小	—	—	<8.2>		鉄釉	良	胎土：10R/4.2.浅赤	近世
G81	325	61	40	陶器	鉢	口縁～底部	<32.4>	—	<7.7>		鉄釉	良	胎土：10R/4.赤	近世
G81	326	61	40	陶器	鉢	口縁小	—	—	—		鉄釉	良	胎土：2.5YR/4.明赤褐	近世
G81	327	61	40	陶器	鉢	口縁～底部	—	—	14.1		鉄釉	良	胎土：10R/4.赤	近世
G81	328	61	40	陶器	鉢	口縁小～体部小	—	—	<11.0>		口縁部鉄釉	良	胎土：鉄釉含む・鉄石	近世
G81	329	61	40	陶器	鉢	口縁小～体部小	<22.0>	—	<8.0>		鉄釉	良	胎土：2.5YR/1.黄白	近世
G81	330	61	40	陶器	鉢	口縁 1/3～底部 1/3	—	<9.2>	<4.1>	底部回転糸切　外面：ロクロ	鉄釉	良	胎土：鉄釉含む・鉄石	近世
G81	331	62	40	陶器	鉢	口縁～底部 1/6	—	<23.0>	7.2		鉄釉	良	胎土：鉄釉含む・鉄石　2.5YR/4.2.浅赤	近世
G81	332	62	40	陶器	鉢	口縁～底部 1/6	—	<18.5>	<7.2>		鉄釉	良	胎土：鉄石・鉄釉含む　2.5YR/4.明赤褐	近世
G81	333	62	40	陶器	鉢	口縁～底部 1/2	—	<15.0>	<7.9>	底部回転糸切	鉄釉	良	胎土：鉄釉含む・鉄石	中世不明
G81	334	62	40	陶器	鉢	口縁～底部 1/4	—	<16.0>	<6.0>	底部回転糸切	鉄釉	良	胎土：10YR/4.赤	近世
G81	335	62	40	陶器	鉢	体部 1/4～底部 1/4	—	<12.0>	<8.9>		鉄釉	良	胎土：鉄釉含む・鉄石	中世不明
G81	336	62	40	陶器	鉢	体部 1/4～底部 1/4	—	<15.8>	<5.4>	底部ケズリ糸切り	鉄釉	良	胎土：鉄釉含む・鉄石　10R/4.赤	
G81	337	62	40	陶器	鉢	体部小～底部 1/6	—	<16.0>	<6.0>		鉄釉	良	胎土：鉄釉含む・鉄石　10R/4.赤	近世
G81	338	62	40	陶器	鉢	体部小～底部 1/4	—	<14.4>	<4.7>		鉄釉	良		
G81	339	63	40	土師	皿	口縁 1/4～底部 1/4	<11.6>	<8.0>	<2.6>			良	胎土：5YR/7.4.にぶい橙	近世
G81	340	63	40	土師	皿	口縁 1/4～底部 1/2	<10.0>	<7.0>	<2.3>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	341	63	40	土師	皿	口縁 1/4～底部 1/6	<9.8>	<7.8>	<3.6>			良	胎土：5YR/7.6.橙色	
G81	342	63	40	土師	皿	口縁 1/4～底部	<9.2>	<7.0>	<3.2>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	343	63	40	土師	皿	口縁～底部 1/2	<9.0>	<7.0>	1.4	底部回転糸切		良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　外面：2.5YR/5.2.明橙	
G81	344	63	41	土師	皿	口縁 1/4～底部	<8.0>	<6.0>	<2.2>			良	胎土：5YR/4.にぶい橙	
G81	345	63	41	土師	灯明皿	口縁 1/4～底部	<8.4>	<5.4>	<1.8>	底部回転糸切　口縁部煤付着		良	胎土：5YR/6.橙	
G81	346	63	41	土師	灯明皿	口縁 1/4～底部 1/4	<8.2>	<6.0>	1.0	口縁部煤付着		良	胎土：7.5YR/7.8.橙明	
G81	347	63	41	土師	皿	口縁 1/2～底部	<8.0>	<5.2>	<1.8>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	348	63	41	土師	皿	底部	—	<5.4>	—			良	胎土：5YR/6.明橙	
G81	349	63	41	土師	皿	口縁～底部	7.8	5.8	1.55	外面：ロクロ　底部回転糸切		良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　7.5YR/4.にぶい橙	
G81	350	63	41	土師	皿	口縁 1/4～底部 1/2	<7.0>	<4.8>	<1.3>			良	胎土：10YR/4.にぶい橙	
G81	351	63	41	土師	皿	口縁 1/2～底部	6.2	4.4	1.4	底部回転糸切　＋剥離に注意		良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　7.5YR/5.にぶい橙	
G81	352	63	41	土師	皿	口縁 1/4～底部 1/4	<8.0>	<4.6>	<1.3>	底部回転糸切		良	胎土：10YR/4.にぶい橙	
G81	353	63	41	土師	灯明皿	口縁 1/4～底部 1/4	<8.2>	<4.6>	<1.2>	底部回転糸切		良	胎土：5YR/4.橙	
G81	354	63	41	土師	鉢焼塩	口縁～底部	<6.0>	<4.2>	<2.0>	底部ケズリ糸切		良	胎土：7.5YR/6.にぶい橙	
G81	355	63	41	土師	鉢焼塩	体部～底部 1/3	—	6.0	—	粗造り痕有		良	胎土：5YR/4.橙	
G81	356	63	41	土師	鉢焼塩	体部～底部	—	4.8	<3.0>	底部糸切痕		良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　7.5YR/4.にぶい橙	
G81	357	63	41	土師	鉢	口縁 1/4～底部	—	3.4	3.4	底部回転糸切		良	胎土：5YR/6.明橙　2.5YR/6.明赤褐	
G81	358	63	41	土師	瓦灯台	天井部	6.5	—	<3.0>	内面：煤付着		良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　7.5YR/4.にぶい橙	
G81	359	63	41	土師	瓦灯台	天井部	8.0	—	<3.5>			良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　7.5YR/4.にぶい橙	
G81	360	63	41	土師	焙烙	口縁部～底部小	—	<26.0>	—			良	胎土：7.5YR/7.6.にぶい橙	
G81	361	63	41	土師	焙烙	内耳部	—	<5.5>	<5.5>	<4.5>		良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	362	63	41	土師	焙烙	内耳部	—	—	<4.8>			良	胎土：鉄石・鉄釉含む　7.5YR/6.橙	
G81	363	63	41	土師	焙烙	内耳部	<9.5>	<4.4>	3.4			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	364	63	41	土師	焙烙	内耳部	—	—	<4.1>	外面：煤付着		良	胎土：鉄石・鉄釉含む　2.5YR/5.明赤褐　7.5YR/4.にぶい橙	
G81	365	64	41	土師	焙烙	口縁 1/4～体部 1/4	<21.6>	<20.0>	4.1	口縁部		良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　7.5YR/4.にぶい橙	
G81	366	64	41	土師	焙烙	体部小～底部	—	<22.0>	<2.7>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	367	64	41	土師	火鉢	口縁小～底部小	<26.0>	<21.6>	3.0			良	胎土：鉄石・鉄釉含む　5YR/6.明橙	
G81	368	64	41	土師	燈明（浅皿）	体部	—	—	<4.5>			良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　7.5YR/6.明橙	
G81	369	64	41	土師	不明	体部	—	—	<3.0>			良	胎土：鉄石　10YR/4.にぶい橙	
G81	370	64	41	土師	土錘	口縁～体部	—	—	<7.2>			良	胎土：7.5YR/3.にぶい橙	
G81	371	64	41	土師	土錘	口縁～体部小	—	—	2.6	孔有り		良	胎土：鉄石・鉄釉・赤色粒含む　10YR/4.明赤褐	
G81	372	64	41	土師	土錘	口縁～体部小	—	—	4.0			良	胎土：鉄石・鉄釉・赤色粒含む　10YR/4.にぶい橙	
G81	373	64	41	土師	土錘	口縁部	—	—	—	紡不出痕有り　内面：ロクロ　2.5YR/4.2.明赤褐		良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　10YR/4.にぶい橙	
G81	374	64	41	土師	土錘	口縁～底部	—	—	3.2	孔有り　内面：ロクロ　10YR/4.にぶい橙		良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　10YR/4.にぶい橙	
G81	375	64	41	土師	土錘	口縁～体部小	—	—	<22.0>	<2.7>		良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	376	64	41	土師	土錘	口縁小～底部小	<26.0>	<21.6>	3.0			良	胎土：鉄石・鉄釉含む　5YR/6.明橙	
G81	377	64	41	土師	不明	体部	—	—	<4.5>			良	胎土：鉄石・鉄釉含む・鉄石　7.5YR/4.にぶい橙	
G81	378	64	41	土師	不明	体部	—	—	<7.2>			良	胎土：7.5YR/3.にぶい橙	
G81	379	64	41	土師	不明	口縁～体部小	—	—	2.6	孔有り		良	胎土：鉄石・鉄釉・赤色粒含む　10YR/4.明赤褐	
G81	380	64	41	土師	不明	口縁～体部小	—	—	4.0			良	胎土：鉄石・鉄釉・赤色粒含む　10YR/4.にぶい橙	
G81	381	64	41	土師	不明	口縁部	—	—	3.4	脚子部内面　内面：17Cm		良	胎土：鉄石・鉄釉・赤色粒含む　10YR/6.明	
G81	382	64	41	土師	不明	口縁～体部小	<14.0>	—	5.2	内面に孔有り		良	胎土：鉄石・鉄釉・赤色粒含む　7.5YR/4.にぶい橙	
G81	383	64	41	土師	不明	口縁～体部小	—	—	4.0			良	胎土：鉄石・鉄釉・赤色粒含む　10YR/6.明	
G81	384	64	41	土師	不明	口縁～底部	—	—	<8.1>	外面：煤付着		良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙　外面：10YR/3.暗褐	
G81	385	64	41	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<8.0>	内面：鼓ナデ痕		良	胎土：7.5YR/3.にぶい橙	
G81	386	64	41	土師	不明	口縁～体部小	—	—	<4.0>	鉄分含む		良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	387	64	41	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.1>	鉄分含む		良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	388	64	41	土師	不明	口縁～体部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	389	64	41	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	390	64	41	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	391	64	41	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	392	64	41	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	393	64	41	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	394	64	41	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	395	64	41	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	396	65	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	397	64	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	398	65	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	399	65	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	400	65	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	401	64	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	402	64	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	403	64	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	404	64	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	405	64	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	406	64	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	407	64	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	
G81	408	65	42	土師	不明	口縁～底部小	—	—	<4.0>			良	胎土：7.5YR/4.にぶい橙	

（　）復元値　＜　＞残存値

第5表　遺物観察表（4）

出土地点	遺物番号	器種	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長（径）・幅	底径・厚（径）・高	調整・特徴	胎土・色調	備考（残存）	焼成
SR1	307	65	42	土師	火鉢類	□縁〜体部	（24.0）	＜8.2＞	内面：磨研痕		胎土：長石・雲母・赤色粒含む　10YR/4.5に近い黄橙	良好
SR1	308	65	42	土師	火鉢類	□縁〜体部	（26.0）	―	＜7.3＞	外面：ﾖｺﾅﾃﾞ	胎土：長石・雲母含む　10YR/7.5に近い黄橙　外面：10YR/7.2に近い橙	良好
SR1	309	65	42	土師	火鉢類	□縁小	（34.0）	―			胎土：5YR/6.4橙	良好
SR1	310	65	42	土師	火鉢類	□縁〜体部	（32.0）	―	＜17.2＞	外面：ﾖｺﾅﾃﾞ　足痕有り	胎土：長石・雲母含む　7.5YR/6.6に近い橙	良好
SR1	311	65	42	土師	火鉢類	□縁小	（42.0）	―	＜6.8＞	外面：足痕有り	胎土：7.5YR/4.6に近い橙	良好
SR1	312	65	42	土師	火鉢類	□縁小	（24.0）	―	＜8.5＞	外面：ﾖｺﾅﾃﾞ　足痕有り	胎土：長石・雲母含む　10YR/4.6に近い橙	良好
SR1	313	65	42	土師	火鉢類	□縁〜体部小	（34.0）	―	＜7.1＞	外面：足痕有り　内面：ﾖｺﾅﾃﾞ	胎土：長石・雲母・赤色粒含む　2.5YR/4.2に近い橙	良好
SR1	314	65	42	土師	火鉢類	□縁1/8〜体部小	（36.0）	―	＜5.3＞	外面：足痕有り　内面：ﾖｺﾅﾃﾞ→指頭痕	胎土：長石・雲母・赤色粒含む　2.5YR/4.2に近い橙	良好
SR1	315	65	43	土師	土鈴	鈴部側	3.0	2.6			胎土：10YR/6.3橙	良好
SR1	316	65	43	土師	鍋蓋	把手	1.9	2.0	0.4		胎土：5YR/6.4橙	良好
SR1	317	66	43	瓦	軒丸瓦	瓦当	―	―	―		胎土：N6/.黒	良好
SR1	318	66	43	瓦	丸瓦		＜9.7＞	＜16.1＞	1.8		胎土：N6/.黒	良好
SR1	319	66	43	瓦	丸瓦		＜18.7＞	＜10.9＞	1.8		胎土：N4/.黒灰	良好
SR1	320	66	43	瓦	丸瓦		＜19.6＞	＜12.2＞	2.0		胎土：植物繊維含む　5Y6/5.黄	良好
SR1	321	66	43	瓦	丸瓦		＜12.4＞	＜7.1＞	2.0	内面：布目	胎土：N4/.黒灰	良好
SR1	322	66	43	瓦	丸瓦		＜6.9＞	＜5.3＞	2.0		胎土：植物繊含む　N5/.灰	良好
SR1	323	66	43	瓦	平瓦		＜20.9＞	＜16.9＞	2.2		胎土：植物繊含む　7.5Y6/1.灰	良好
SR1	324	66	43	瓦	丸瓦		＜19.6＞	＜13.2＞	1.7	非　別印有り	胎土：N4/.黒灰	良好
SR1	325	67	43	石製品	硯		＜13.7＞	6.5	1.4		胎土：N7/.灰	良好
SR1	326	67	43	石製品	砥石		＜6.7＞	＜4.5＞	3.0		胎土：2.5Y7/1.明灰	良好
SR1	327	67	43	石製品	硯		＜5.7＞	＜4.6＞	0.9		胎土：N7/.灰白	良好
SR1	328	67	43	石製品	砥石		＜8.5＞	＜5.3＞	1.8		胎土：2.5Y7/1.明灰白	良好
SR1	329	67	43	石製品	砥石		＜6.2＞	5.0	1.8		胎土：2.5Y7/1.明灰白	良好
SR1	330	67	44	石製品	砥石		6.5	2.9	2.3	内面：布目	胎土：5YR/6.6橙	良好
SR1	331	67	44	石製品	砥石		＜5.1＞	4.0	1.3		胎土：5YR/7.淡白	良好
SR1	332	67	44	石製品	砥石		＜13.1＞	＜8.7＞	8.8		胎土：7.5Y7/1.明灰白	良好
SR1	333	67	44	石製品	砥石		＜17.6＞	＜4.8＞	1.2		胎土：5Y7/2.灰白	良好
SR1	334	67	44	金属	鞴口金具		＜4.3＞	1.5	0.1	芯付代替　鞴痕有り		
SR1	335	67	44	金属	釘	□縁〜体部	1.3	2.4	2.4	芯付代替		
SR1	1	68	44	陶器	碗	体部小〜図部 1/4	―	13.8	＜3.8＞		染付・透明釉	良好
SR1	2	68	44	陶器	灯明皿	底部側	10.5	4.4	2.0		鉄釉有り　胎土：5YR/2.淡白　釉調：5YR/2.淡白	良好
SR1	3	68	44	石	水晶		3.4	3.4	1.6	重さ 15.4 g　乾燥剤用の穴あり		
SR1	4	68	44	陶器	灯明皿	把手	10.0	4.5	2.0		鉄釉有り　胎土：5YR/2.淡白　釉調：5YR/2.淡白	良好
SR1	5	68	44	石	水晶		2.4	3.3	0.6	重さ 8.8 g　自然面に穴あり		
SR1	6	68	44	石	水晶		3.0	2.5	2.1	重さ 14.1 g　打製で穴あり		
SR1	7	68	44	陶器	灯明皿	把手	9.2	3.5	1.9		鉄釉有り　胎土：5YR/2.淡白　釉調：5YR/2.淡白	良好
SR1	8	68	44	陶器	灯明皿	底部側	9.9	4.2	2.0		鉄釉有り　胎土：5YR/2.淡白　釉調：5YR/2.淡白	良好
SR1	9	68	44	石	水晶		3.0	3.3	1.7	重さ 10.6 g　自然に自然面が残存する部分		
SR1	10	68	44	陶器	灯明皿	把手	9.8	4.1	2.2		鉄釉有り　胎土：5YR/2.淡白　釉調：5YR/2.淡白	良好
SR1	11	68	44	石	水晶		3.5	2.0	0.6	重さ 6.7 g　重心線部分に穴あり　自然面に自然面残存		
SR1	12	68	44	石	水晶		3.3	2.9	1.7	重さ 13.7 g　自然面に穴あり　自然面に自然面残存		
SR2	1	68	44	磁器	碗	口縁 1/4〜体部 1/4	（12.0）	―	3.4		染付・透明釉	良好
SR2	2	68	44	磁器	皿	□縁小〜図部 1/4	（10.2）	6.2	2.8		染付・透明釉	良好
SR2	3	68	44	土師	鉢	口縁 1/2〜図部 4/5	23.3	19.0	4.7		鉄釉有り　雲母・長石　胎土：10YR/4.橙	良好
SR2	1	68	44	陶器	徳利	口縁 1/2〜図部 1/2	（11.4）	（11.6）	14.6		鉄釉	
SR2	2	68	44	土師	鉢類	図部〜口縁 1/4	（18.0）	（14.0）	1.7		雲母・長石含む　胎土：7.5YR/7.4に近い橙	良好
SR2	3	68	44	土師	鉢類	□縁小〜図部 1/4	（18.4）	（12.0）	2.1		胎土：5YR/4.6に近い橙	良好
SR2	4	68	44	土師	火鉢	口縁 1/4〜体部小	（28.6）	―	＜7.9＞		雲母・長石・赤褐色粒子含む　胎土：4/2に近い	良好
SR2	5	68	45	土師	七厘		＜15.9＞	＜12.0＞	＜12.9＞		胎土：5YR/6.6橙	良好
SR2	6	69	45	瓦	軒瓦		＜6.4＞	＜8.2＞	＜7.9＞		植物繊含む　胎土：N4/0.黒	良好
SR2	7	69	45	瓦	丸瓦				―	別印有り	植物繊含む　胎土：N4/0.黒	良好
SR2	8	69	45	瓦	丸瓦		24.7	＜21.9＞	1.6	別印有り	植物繊含む　胎土：N4/0.黒	良好
SR2	9	70	45	瓦	丸瓦		＜8.9＞	＜6.3＞	1.8	別印有り	胎土：N4/.黒	良好
SR2	10	70	45	瓦	丸瓦		＜7.1＞	＜4.8＞	1.5	別印有り	胎土：N4/.黒	良好
SR2	11	70	45	瓦	丸瓦		＜10.8＞	＜9.0＞	1.6		胎土：N4/.黒	良好
SR2	12	70	45	瓦子	瓦	□縁〜体部小	2.4	―	＜15.6＞		胎土：5YR/6.6.橙	良好
SR2	1	70	45	金属	釘	□縁小	＜9.2＞				染付・透明釉	良好
SR2	2	70	45	陶器	碗	口縁部側	6.5	3.4	4.3	高台横の円形線、線間に手描きの花柄、以外は文様無し	鉄釉	良好
SR2	3	70	45	陶器	徳利	口縁 1/4	29.0	―	10.2		胎土：2.5YR/2.灰白	
SR2	4	70	45	土師	皿	□縁 1/4〜図部	7.0	4.4	2.1	底部回転糸切　刀痕 1	胎土：5YR/6.橙	良好
SR2	5	70	45	土師	火消壺の蓋	つまみ部	（11.6）	―	＜5.6＞	内面：ﾅﾃﾞ　外面：ﾖｺﾅﾃﾞ	雲母・長石含む　胎土：7.5YR/5.3に近い橙　外面：10YR/2.黒	良好
SR2	6	70	45	土師	不明	体部		―	＜4.6＞	内外面：ﾅﾃﾞ	雲母・長石・赤褐色含む　胎土：7.5YR/4.5に近い橙	良好
SR2	7	70	45	瓦	丸瓦		＜22.5＞	＜16.3＞	＜17.5＞		植物繊含む　胎土：N5/0.暗灰	良好
SR2	8	70	45	瓦	丸瓦		＜9.6＞	＜15.4＞	1.8		胎土：N4/.黒	良好
SR2	9	70	45	石	砥石		＜5.5＞	4.1	1.7		胎土：N4/.黒灰	良好
SR2	10	70	45	瓦子	瓦	口縁 1/2〜体部 1/3	4.4	―	5.1	透明釉		
SR3	1	71	46	磁器	碗	口縁 1/2〜図部 1/2	7.9	3.6	3.8		染付・透明釉	
SR3	2	71	46	土師	火鉢	体部〜図部 1/2?	―	（12.0）	＜5.7＞		植物繊含む　雲母・長石・赤色粒　胎土：5YR/6.6橙	良好
SR3	3	71	46	土師	火鉢	口縁 1/4	（45.0）	―	＜4.9＞	内面ﾖｺﾅﾃﾞ	雲母・長石・赤褐色粒含む　胎土：7.5YR/5.3に近い橙	良好
SR3	4	71	46	土師	鍋		＜15.9＞	20.7	4.0		胎土：7.5YR/4.6に近い橙　土師：7.5YR 1.橙	良好
SR3	5	71	46	瓦	軒瓦		＜4.2＞	＜12.7＞	8.1		植物繊含む　胎土：N4/0.黒	良好
SR3	6	71	46	瓦	丸瓦		＜5.1＞	＜4.8＞	1.5	別印有り	胎土：N5/.灰	良好
SR3	7	71	46	瓦	丸瓦		＜8.9＞	＜7.2＞	1.5	別印有り	胎土：N4/.黒	良好
SR3	8	71	46	瓦	丸瓦		＜9.0＞	＜13.6＞	1.6	別印有り	胎土：N4/.黒	良好
SR3	9	71	46	瓦	丸瓦		26.1	＜18.4＞	1.65		植物繊含む　胎土：N4/0.黒	良好
SR3	10	71	46	瓦	丸瓦		26.6	20.6	1.7		植物繊含む	良好
SR3	11	72	46	瓦	丸瓦	体部〜図部	―	―	―		植物繊含む　胎土：N4/0.灰	良好
SR3	12	72	46	瓦	丸瓦				―		植物繊含む　胎土：N4/0.灰	良好
SR3	13	72	46	瓦	丸瓦		＜13.3＞	＜14.0＞	1.7	別印有り	胎土：N4/.黒	良好
SR3	14	72	46	瓦	丸瓦		＜16.6＞	＜16.7＞	1.9		胎土：N4/.黒	良好
SR3	15	72	46	瓦	丸瓦		＜18.7＞	＜23.3＞	1.7		植物繊含む　胎土：N4/0.灰	良好
SR3	16	72	46	瓦	平瓦		＜20.6＞	＜13.3＞	2.3		胎土：N3/.暗灰	良好
SR4	1	73	46	瓦	丸瓦		＜17.5＞	＜5.8＞	1.6	別印有り	胎土：N4/.黒	良好
SR5	1	73	46	土師	火鉢	口縁〜図部（足 1/3）	（19.0）	（13.6）	8.8	底部中央に穴有り、植木鉢風用か　外面須行痕	胎土：10YR/3.にぶい橙	良好
SR5	2	73	46	土師	鍋				4.9	内面：須行痕	植物繊含む　雲母・赤色粒子　胎土：5YR/6.6橙	良好
SR5	3	73	46	瓦	丸瓦		＜5.8＞	＜6.8＞	1.6		胎土：N4/.黒	良好
SR5	4	73	46	瓦	平瓦		＜15.9＞	＜13.5＞	1.8		胎土：7.5YR/4.6.黒褐色	良好
SR6	1	73	47	瓦	丸瓦		＜15.9＞	＜9.0＞	1.7		植物繊含む　胎土：7.5YR/4.6に近い橙	良好
SR6	2	73	47	陶器	碗子		3.0	3.0	4.2	蛇蛇線刻	胎土：白	
SR6	1	73	47	磁器	碗	口縁 1/2〜図部 1/2	（9.4）	（3.2）	3.9	上絵付	染付・透明釉　高台畳付無釉	良好
SR11	1	73	47	陶器	碗	口縁 1/2〜図部 1/2	（10.4）	＜3.0＞	＜4.7＞		染付・透明釉	良好
SR11	2	73	47	陶器	碗	口縁 1/2〜体部 1/2	（11.0）	―	＜5.5＞		胎土：2.5YR/1.明灰　釉調：5Y7/1.灰白	良好
SR11	3	73	47	磁器	碗	体部小〜図部 2/3		8.2	＜14.7＞		鉄釉	良好
SR11	4	73	47	陶器	碗	口縁 1/4	（13.0）	―	＜4.5＞		胎土：2.5YR/4.2.橙　釉調：10YR/1.暗黒灰	良好
SR11	5	73	47	金属	古銭	銭形	径 2.3	0.1	―	銭形磨痕		
SR11	6	73	47	金属	古銭		径 2.3	0.1	―			
SR11	7	73	47	金属	古銭		径 1.9	0.1	―	五銭銭貨		
SR11	8	74	47	磁器	皿	体部小〜図部	―	5.2	―		胎土：2.5Y6/1.黄灰	良好
SR11	9	74	47	陶器	皿	□縁〜図部	（15.6）	（8.1）	（3.4）		胎土：10Y7/1.灰白	良好
SR11	10	74	47	陶器	碗	口縁小〜図部 1/3	（12.4）	（7.2）	＜2.3＞		胎土：2.5YR/2.灰白　釉調：5YR/2.淡白	良好
SR11	11	74	47	陶器	碗	底部 1/2〜体部 1/2	―	（8.7）	2.8	内外面：ﾅﾃﾞ	胎土：7.5YR/4.6に近い橙	良好

（　）現元値　＜　＞残存値

第６表　遺物観察表（５）

出土地点	遺物番号	層位	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長さ(cm)	底径・厚さ(cm)	最高・幅(cm)	調整・技術	装飾（施文）	胎土・色調	焼成
SK11	12	74	47	土師	坩	口縁 1/2～底部	<7.0 >	<3.6 >	<13 >	底部回転糸切		細砂粒含む　胎土：10YR/明	良好
SK11	13	74	47	土師	坩	口縁 1/4～底部 1/4	<7.6 >	<4.0 >	<20 >	底部回転糸切		細砂粒含む　胎土：7.5YR/4.6.公.い橙	良好
SK11	14	74	47	土師	坩	口縁～底部	<8.0 >	<4.6 >	<18 >	底部回転糸切		細砂粒含む　胎土：5YR/6.明	良好
SK11	15	74	47	土師	坩	口縁 1/2～底部 1/2	(7.8)	<4.8 >	<18 >	底部回転糸切		細砂粒含む　胎土：5YR/6.明	良好
SK11	16	74	47	土師	坩	口縁 1/2～底部	<7.8 >	<4.2 >	<21 >	底部回転糸切		細砂粒含む　胎土：5YR/6.明	良好
SK11	17	74	47	土師	坩	口縁 1/4～底部	(7.6)	<5.0 >	(22)	内外面：横ナデ		胎土：10YR/3.公.い褐橙	良好
SK11	18	74	47	土師	坩	口縁 1/4～底部	<7.4 >	<5.0 >	<21 >	底部回転糸切		細砂粒含む	良好
SK11	19	74	47	土師	坩	口縁～底部	(9.0)	5.4	24.4	内外面：ハケ		角石・石英・雲母含む　胎土：10YR/6.明	良好
SK11	20	74	47	土師	坩	口縁 1/4～底部 1/4	(8.8)	(5.2)	18	内外面・細砂面：ハケ		細砂粒含む　胎土：7.5YR/4.公.い橙	良好
SK11	21	74	47	石	四石		18.5	1.10	—			10YR/3.黒色	
SK11	22	74	47	石	四石		19.2	12.7	11.2			N7/黒色	
SK11	23	74	47	石	四石		13.5	11.8	6.9			5G/7/1.明オリーブ灰	
SK12	1	74	47	陶器	壺	底部～体部～胴部	—	(11.6)	(19.4)	内外面：ナデ		胎土：2.5 Y 8/1.明.公.い赤橙	良好
SK17	1	75	48	瓦器	椀形	口縁 1/4～体部小	(2.8)	—	<4.0 >	内面：ナデ	暗付・連弧線		良好
SK17	2	75	48	石製品	人面	胴部	7.8	5.6	—	人面		表石・石英含む　胎土：7.5YR/6.明	良好
SK17	3	75	48	土師器	人面	胴部	7.3	6.0	—	人面		表石・石英含む　胎土：7.5YR/6.明	良好
SK17	4	75	48	土師	鍋	胴部	7.4	6.0	3.8	内面：鉄ナのみ痕、外面：縦ヘラ磨		胎土：5YR/6.明橙褐	良好
SK17	5	75	48	土師器	鍋石	胴部	2.0	2.3	0.5			胎土：5YR/4.橙	良好
SK17	6	75	48	石製品	石製	胴部	2.4	0.7	0.5				
SK17	7	75	48	石製品	石製		2.3	0.7	0.7				
SK17	8	75	48	瓦	桃瓦		<5.4 >	<4.8 >	1.5	切取痕		胎土：N6/.灰	良好
SK17	1	75	48	陶器	土瓶	口縁 1/4～体部	(9.0)	8.7	8.7	暗付、内面：ハケ		胎土：7.5YR/6.明	良好
SK17	2	75	48	瓦器	椀（椀形）		3.0	—	<11.1 >	内面：ハケ	暗付		良好
SK17	3	75	48	瓦	桃瓦		<19.2 >	<13.6 >	1.5			胎土：N6/.灰	良好
SK17	4	75	48	瓦	桃瓦		<3.0 >	<12.6 >	1.6	切取痕		胎土：N6/.灰	良好
SK17	5	75	48	瓦	平瓦		<10.5 >	<10.5 >	1.7			胎土：N5/.灰褐	良好
SK18	1	76	48	瓦器	椀	口縁 1/2～底部	<10.8 >	<4.2 >	<5.7 >		暗付・連弧線		良好
SK18	2	76	48	瓦器	椀	口縁 1/2～底部	<11.6 >	<4.0 >	<5.7 >	型紙痕？	暗付・連弧線	胎土：N8/.黄白	良好
SK18	3	76	48	瓦器	椀	口縁 1/4～底部	7.2	2.6	3.1		暗付・連弧線		良好
SK18	4	76	48	瓦器	椀	胴部	<8.6 >	<3.4 >	<5.7 >		暗付・連弧線		良好
SK18	5	76	48	瓦器	椀	口縁 1/4～底部	8.0	3.4	—		暗付・連弧線		良好
SK18	6	76	48	瓦器	椀	口縁 1/2～底部 1/2	(6.4)	(2.0)	4.4		暗付・連弧線		良好
SK18	7	76	48	瓦器	椀	口縁～底部	6.4	2.8	4.4		暗付・連弧線		良好
SK18	8	76	48	瓦器	椀	口縁 1/2～底部	(6.2)	3.0	4.6		暗付・連弧線		良好
SK18	9	76	48	瓦器	椀	胴部	<10.8 >	<6.0 >	<5.8 >		暗付・連弧線		良好
SK18	10	76	48	瓦器	椀	口縁 1/4～底部	<10.6 >	<5.8 >	<5.9 >		暗付・連弧線		良好
SK18	11	76	48	瓦器	椀	口縁 1/2～底部	<10.8 >	<5.8 >	<5.8 >		暗付・連弧線		良好
SK18	12	76	48	瓦器	椀	口縁～底部 1/2	11.0	4.0	2.6		暗付・連弧線		良好
SK18	13	76	48	陶器	壺	口縁 1/4～底部	8.6	3.8	5.0	切取痕付着			良好
SK18	14	76	48	陶器	天目茶碗	口縁 1/2～底部	(10.0)	3.0	6.4				良好
SK18	15	76	48	陶器	椀	口縁 1/4	(8.0)	—	—	切取痕付着			良好
SK18	16	76	48	陶器	壺	口縁 1/4～体部小	(8.0)	—	—	切取痕付着			良好
SK18	17	76	48	陶器	鉢	口縁 1/2～体部 1/2	(18.0)	—	8.6			胎土：10YR/7.2.明橙（外）、灰褐（内）	良好
SK18	18	77	49	土師	坩形	口縁～底部	10.6	22.4	6.5	外面：ヘラ磨		細砂粒含む（雲母・長石・石英）　胎土：7.5YR/4.明	良好
SK18	19	77	49	土師	不明	口縁 1/4～体部 1/4	—	(24.4)	<8.1 >	内面：ヘラ磨		細砂粒含む（雲母・長石・赤色粒）　胎土：7.5YR/4.公.い橙	良好
SK18	20	77	49	土師	小椀	口縁	(19.6)	—	<5.3 >	底部回転糸切		胎土：10YR/3.公.い.橙褐	良好
SK18	21	77	49	土師	鍋形土器	口縁～体部	<8.2 >	<4.9 >	—				良好
SK18	22	77	49	土師	鍋形	体部 1/4～底部 1/4	—	(19.0)	<10.4 >	外面：縦格子		細砂粒含む（雲母・長石）　胎土：10YR/.黄　内外面：10YR/7.明.灰	良好
SK18	23	77	49	瓦	軒桃瓦		<27.2 >	23.6	1.5			細砂粒含む　胎土：N6/.灰	良好
SK18	24	77	49	瓦	桃瓦		27.1	23.0	1.5	切取痕		細砂粒含む　胎土：N4/.灰	良好
SK18	25	77	49	瓦	桃瓦		<8.0 >	<9.5 >	1.5	切取痕		胎土：N6/.灰	良好
SK18	26	77	49	瓦	平瓦		<12.0 >	<16.7 >	1.7	切取痕		胎土：N4/.灰	良好
SK18	27	77	49	瓦	丸瓦		<9.1 >	4.4	1.9			細砂粒含む　胎土：N4/.灰	良好
SK18	28	77	49	瓦	平瓦		<2.7 >	<4.3 >	1.6	切取痕		胎土：N6/.灰	良好
SK18	29	78	49	瓦	桃瓦		<25.0 >	<12.1 >	1.5			細砂粒含む　胎土：N5/6.褐灰	良好
SK18	30	78	49	瓦	桃瓦		—	—	—			細砂粒含む　胎土：N4/6.灰	良好
SK18	31	78	49	瓦	桃瓦		<26.6 >	<14.6 >	1.95	切取痕		細砂粒含む　胎土：N4/6.灰	良好
SK18	32	78	49	瓦	鬼瓦		26.4	27.1	3.6			細砂粒含む　胎土：10YR/1.黒	良好
SK18	33	78	49	瓦	桃瓦		<15.3 >	<19.7 >	1.7			胎土：5Y4/1.灰	良好
SK18	34	79	49	瓦	桃瓦		<22.3 >	<21.8 >	1.7	切取痕		細砂粒含む　胎土：N5/6.灰	良好
SK18	35	79	49	瓦	桃瓦		<21.9 >	<26.3 >	1.7			細砂粒含む　胎土：N4/6.灰	良好
SK18	36	79	49	土師器	鍋脚		4.5	7.0	<2.1 >			胎土：2.5YR/6.明	良好
SK18	37	79	49	石製品	碑		<5.3 >	<3.9 >	<2.9 >			胎土：5Y6/1.灰	
SK18	38	79	49	瓦	桃瓦	口縁～体部	2.4	3.2	4.5		連弧線		
SK18	39	79	49	瓦器	椀	口縁～体部 1/3	3.4	—	<6.7 >		暗付・連弧線		
SK18	40	79	49	瓦	丸	体部 1/2	(3.5)	—	<8.3 >		連弧線		
SK18	41	79	49	瓦	不明		—	4.0	<5.1 >		連弧線		
SK19	1	79	49	瓦器	椀	口縁 1/2～底部	<10.6 >	<3.8 >	<5.2 >		暗付・連弧線	胎土：N6/.灰白	良好
SK19	2	79	49	瓦器	椀	口縁～底部	8.3	2.9	3.8		暗付・連弧線		良好
SK19	3	79	49	瓦器	椀	口縁 2/3～底部 1/2	<7.6>	<3.0>	<3.2>		暗付・連弧線	胎土：N6/.灰白	良好
SK19	4	79	49	瓦器	椀	口縁底部	6.4	3.2	4.2	上端打、全面ナデ	色紙、連弧線		良好
SK19	5	79	49	瓦器	椀	口縁 1/2～底部	6.5	3.0	3.7		暗付・連弧線	胎土：N1/.黒　細砂：7.5YR/4.明	良好
SK19	6	79	49	瓦器	椀	口縁 1/2～底部 1/2	<10.6>	<6.2>	<3.6>		暗付・連弧線	胎土：N6/.灰白	良好
SK19	7	80	49	瓦器	壺	つまみ～口縁 1/2	(10.0)	つまみ 4.2	2.55	型紙痕？	暗付・連弧線		
SK19	8	80	49	陶器	明石鉢	口縁 1/4～底部	(16.0)	3.0	6.4	内面：刷毛目、底部回転糸切	暗付・連弧線		良好
SK19	9	80	50	陶器	壺	口縁 1/2～底部	(7.4)	2.8	4.2	底部回転糸切	暗付・連弧線		良好
SK19	10	80	50	陶器	土瓶	口縁 1/2～体部（注口）	(8.2)	—	<5.4 >		暗付・連弧線		良好
SK19	11	80	50	陶器	土瓶	体部 1/4～底部 1/3	—	—	—		暗付・連弧線		良好
SK19	12	80	50	土師	鍋形土器		(3.0)	1.8	19.6			細砂粒含む　胎土：10YR/.黒色　外面：N5/.褐灰	良好
SK19	13	80	50	瓦	軒桃瓦		<22.8 >	26.2	1.5			細砂粒含む　胎土：N6/.灰	良好
SK19	14	80	50	瓦	軒瓦		<13.0 >	<10.4 >	7.8			細砂粒含む　胎土：N4/6.灰	良好
SK19	15	81	50	瓦	桃瓦		25.2	24.7	1.5			胎土：N4/.灰白	良好
SK19	16	81	50	瓦	桃瓦		25.3	<51.7 >	1.6			細砂粒含む　胎土：5Y6/1.灰　外面：N4/.灰	良好
SK19	17	81	50	金属	釘		11.9	—	1.2				
SK19	18	81	50	瓦	桃瓦	口縁～体部小～底部	2.6	7.1	—			胎土：7.5YR/4.明	
SK19	19	81	50	瓦	桃瓦	体部 1/3～底部	—	7.4	<10.4 >			胎土：7.5YR/4.明褐灰	
SK20	1	81	50	瓦	平瓦		<22.2 >	<13.4 >	1.7			胎土：N5/.灰	良好
SK22	1	81	50	瓦器	皿	口縁 1/2～底部 1/2	(13.0)	(8.4)	4.2			胎土：N5/.灰　焼締：灰黒・くすみ紫灰	良好
SK22	2	81	50	土師	不明	口縁～底部	(7.0)	—	14.6	底部回転糸切		胎土：2.5Y2/1.黒	良好
SK22	3	81	50	土師	鍋	口縁 1/3～底部 1/3	(18.6)	(18.0)	3.6			細砂粒含む（雲母・長石）	良好
SK22	4	82	50	土師	鍋の脚?	口の部分が欠損	<15.0 >	6.0	3.9	底部回転糸切、外面：縦格子磨り痕?		細砂粒含む（長石・赤色粒）　胎土：10YR/4.公.い.褐	中や良好
SK22	5	82	50	瓦	桃瓦	鬼瓦	26.5	25.3	1.6			細砂粒含む　胎土：N5/.灰	良好
SK22	6	82	50	瓦	桃瓦		<19.9 >	<16.9 >	1.9			胎土：N5/.褐灰	良好
SK22	7	82	50	瓦	桃瓦		<9.0 >	<12.3 >	1.6	切取痕		細砂粒含む　胎土：N4/6.灰	良好
SK22	8	82	50	瓦	桃瓦		<14.7 >	<14.5 >	1.5			細砂粒含む　胎土：N3/6.褐灰	良好
SK22	9	82	50	石製品	碑		25.1	<23.5 >	2.0			細砂粒含む	
SK22	10	82	50	石製品	碑		<14.8 >	<4.8 >	0.9			胎土：N5/.灰	良好
SK22	11	82	50	瓦器	椀形土器	口縁 3/4～底部	8.6	5.0	9.6		連弧		
SK22	12	82	50	瓦器	椀	胴部	1.7	3.5	9.0	断面	連弧		
SK22	13	82	50	瓦器	椀	口縁～体部小	2.8	—	<5.15 >		連弧		
SK22	14	82	50	瓦器	椀	口縁 2/3～底部	—	3.0	<5.15 >		連弧		
SK23	1	83	51	瓦器	椀	体部 1/4～底部 2/3	—	(4.0)	<3.7 >		暗付・連弧線		良好

（　）復元値　<　> 残存値

第7表　遺物観察表（6）

出土地点	層位番号	検出面	写真図版	種別	器種	法量			観察・特徴	図版（掲載）	胎土・色調	焼成
						口径・長（cm）	底径・幅（cm）	器高・厚（cm）				
SE23	2	83	51	磁器	碗	□14 1/3～底部 1/3	<11.6>	<4.0>	<5.6>	畳付・透明釉		良好
SE23	3	83	51	磁器	碗	□14 1/3～底部 1/3	6.5	3.1	4.3	透明釉・外面・畳付		良好
SE23	4	83	51	磁器	碗	□14 1/3～底部 1/2	10.6	6.0	1.7	畳付・透明釉	胎土：NB・灰白	良好
SE23	5	83	51	磁器	皿	体部小～底部 1/6	—	(6.2)	<1.4>	畳付・透明釉		良好
SE23	6	83	51	磁器	皿	口縁部	11.8	11.4	4.0	畳付・透明釉		良好
SE23	7	83	51	磁器	急須蓋	摘部	8.9	6.0	7.9	内外面：ガラス	素地	良好
SE23	8	83	51	陶器	碗	体部小～底部小	—	(4.0)	<1.0>		胎土：7.5YR2/1 灰白　釉調：10YR7/1 灰白（灰釉）	良好
SE23	9	83	51	陶器	碗?	体部小～底部小	—	(11.6)	<3.7>	畳付・透明釉	胎土：10YR6/1 灰白（高石）	良好
SE23	10	83	51	土師	土師器（椀）	□9 6/6 ボロボロ（80%）	16.2	11.3	<3.3>			良好
SE23	11	83	51	土師	土師器	□14 1/3～体部小	(40.0)	—	(18.6)		胎土：5YR2/1 灰白	良好
SE23	12	83	51	土師	土師器	□14 1/3～体部	(40.0)	—	(11.2)		胎土：10YR6/1 にぶい橙褐	良好
SE23	13	83	51	土師	土師器	□14 1/3～体部小（□21?）	—	—	13.4	外面：横撫ヨリ　内外面：撫付痕	胎土：2.5YR2/2 暗赤褐	良好
SE23	14	83	51	土師	土師	□14 1/3～底部 1/6	(20.0)	(18.0)	<15.0>		素地・長石・赤褐粒含む　胎土：5YR6/6 橙褐色	良好
SE23	15	83	51	土師	土師（□21?）	体部小～底部 1/2	<9.4>	(9.0)	<9.4>	底部中央に丸角マ（補木痕跡用か）	細砂粒含む（黒色・長石）　胎土：5YR6/4 にぶい橙褐	良好
SE23	16	84	51	土師器	鍋か甕	—	(13.5)	4.7	29.6	刻目取り	細砂粒含む　胎土：7.5YR6/6 橙　色調：7.5YR2/1 黒	良好
SE23	17	85	51	瓦	丸瓦	—	<12.2>	<11.7>	1.6		胎土：NB・灰	良好
SE23	18	85	51	瓦	平瓦	—	<15.6>	<13.7>	1.6		胎土：5YR7/2 黒	良好
SE23	19	85	51	瓦	桟瓦	—	<7.1>	<8.2>	1.6	刻目取り	胎土：NB・黒	良好
SE23	20	85	51	瓦	平瓦	—	<6.5>	<18.2>	1.6		胎土：N3/・褐灰	良好
SE23	21	85	51	瓦	桟瓦	—	<7.1>	<15.1>	1.6		胎土：NB・黒	良好
SE23	22	85	51	瓦	桟瓦	—	<7.2>	<4.8>	1.65	刻目取り	胎土：N4/灰黒	良好
SE23	23	85	51	須恵器						土師器甕（ファイブか）		
SE23	24	85	51	瓶子	瓶	□14～体部小	2.8	—	<1.3>		透明	
SE24	1	85	52	土師	土師	体部小～底部 1/6	—	(21.6)	<7.1>		細砂粒含む（黒母・長石・石英）　色調：2.5Y4/1 黒灰	良好
SE26	1	85	52	土師	釜	体部	—	—	<20.8>	底部外面ケズリ?	細砂粒含む（黒母・長石・赤褐粒）　胎土：5YR6/6 橙	良好
SE26	2	86	52	陶器	徳利容器	□14 1/6～底部 1/2	(9.2)	(3.8)	5.7	粗雑物付着	畳付・透明釉	良好
SE26	2	86	52	陶器	土瓶	□14 1/6	(9.0)	—	<3.8>		畳付・透明釉	良好
SE26	3	86	52	土師	土師器	□14?	(25.0)	—	—	瓦質	胎土：10YR6/1 にぶい橙褐　色調：N3/・黒	良好
SE26	4	86	52	土師	土師器	不明	<16.7>	<7.3>	1.7		胎土：10YR6/4 にぶい橙褐　色調：N3/・暗褐	良好
SE26	5	86	52	磁器	印盒	口縁部	(9.4)	—	1.9		胎土：NB・灰白	良好
SE26	6	86	52	瓦	桟瓦	—	<26.4>	<21.3>	3.8	片切平瓦、刻目取り	胎土：N4/・黒	良好
SE26	7	86	52	瓦	鬼瓦	—	<23.7>	<28.4>	4.4		胎土：細砂粒含む　N4/・黒	良好
SE31	1	86	52	瓦	平瓦	—	<7.8>	<6.5>	1.5		胎土：10 YR 8/4 浅黄橙	良好
SE32	2	86	52	瓶子	瓶子類	—	<7.0>	第 6 ?	—		透明	
SE33	1	86	52	磁器	碗	□14 1/3～底部 1/2	(10.6)	<3.6>	<4.3>	型紙摺り	畳付・透明釉	良好
SE33	2	86	52	磁器	碗	□14 1/3～体部 1/2～底部	(13.4)	6.5	6.4		畳付・透明釉・高台畳付無釉	良好
SE33	3	86	52	磁器	碗?	体部 1/4～底部	—	6.2	<4.8>		畳付・透明釉・内面無釉	良好
SE33	4	86	52	金属	おろし金	—	<16.0>	7.6	0.2		7.5 Y 6/1 銀灰	
SE33	1	87	52	磁器	碗	□14 2/3～底部	<7.4>	<3.4>	<3.6>	型紙摺り	胎土：N6/・灰白	良好
SE33	2	87	52	土師器	鍋?	—	<10.7>	<10.2>	5.2		胎土：5 Y 8/1 灰白	良好
SE35	3	87	52	瓶子	薬壺	—	—	3.2	6.3	鉄釉付?	透明釉	
SE36	1	87	52	磁器	碗	口縁 1/4～体部 1/4	(8.6)	—	5.1		畳付・透明釉	良好
SE36	2	87	52	磁器	碗	口縁～体部 1/4	(8.6)	—	<4.3>		畳付・透明釉	良好
SE36	3	87	52	陶器	碗	口縁 1/6	<12.2>	—	—		畳付・透明釉	良好
SE36	4	87	52	土師	皿	□14 1/6～底部 1/5	<13.0>	(7.6)	<2.8>		胎土：細砂粒含む　7.5YR3/1 褐灰	良好
SE36	5	87	52	土師	無頸壺	体部 1/2～底部	—	4.2	<10.8>		胎土：細砂粒含む　N3/・黒	やや不良
SE38	1	87	52	瓦	丸瓦	—	<10.2>	<9.0>	2.0	内面：引っ張り	胎土：細砂粒含む　N3/・黒	良好
SE40	1	87	52	陶器	徳利容器	□14 1/3～底部	(7.4)	3.8	5.2	内外面：ガラス　粗雑物付着		良好
SE40	2	87	52	陶器	鉢（擂り?）	縁破損部?	—	8.2	4.1		透明釉	良好
SE41	1	87	52	陶器	徳利容器	□14～底部 1/4	(10.0)	(4.4)	6.0	内外面：ガラス　粗雑物付着	胎土：5BG2/1 暗緑灰	良好
SE41	2	87	52	陶器	徳利容器	□14 1/4	(10.2)	—	3.4	粗雑物付着		良好
SE42	1	87	52	土師器	羽釜	—	1.9	(3.6)	0.7		胎土：5YR3/4 褐	良好
SE43	1	87	52	金属	刀鞘	—	<45.9>	<7.9>	<2.1>	鞘付き		
SE44	1	87	52	磁器	碗	□14 1/3～底部	(7.6)	(2.8)	4.6		畳付・透明釉	良好
SE44	2	87	52	石製品	石硯	—	13.4	7	6.4		胎土：5YR3/3 黒褐	
SE45	1	87	52	磁器	碗	□14 1/6～体部 1/4	(9.6)	—	<3.7>	型紙摺り	畳付・透明釉	良好
SE45	2	87	52	磁器	碗	口縁 1/2～底部小	(11.0)	(4.2)	4.8	型紙摺り	畳付・透明釉	良好
SE45	3	87	52	磁器	碗	□14 1/6～底部 1/6	(12.0)	(4.0)	5.0	型紙摺り	畳付・透明釉	良好
SE45	4	87	52	磁器	皿	口縁 1/6	6.8	ワ高 1.1	2.7		透明釉	良好
SE46	1	88	52	磁器	碗	口縁 1/6～底部 1/6	6.8	3.2	5.0		畳付・透明釉	良好
SE46	2	88	52	磁器	皿	□14 1/3～底部 1/6	<9.6>	<5.4>	<2.1>	コンニャク印有	畳付・透明釉	良好
SE46	3	88	52	陶器	碗?	□14～体部小	—	—	4.3		粗雑	良好
SE46	4	88	52	土師	皿	□14 1/6～底部 1/6	(9.6)	<7.2>	(2.1)		胎土：5YR5/4 褐	良好
SE46	5	88	52	土師	摺鉢	口縁?	<5.5>	第 1 : 1.2	第 2 : 0.7		8YR2/1 黒褐～7 黒	良好
SE47	1	88	53	磁器	碗	体部小～底部 1/2	—	<6.0>	—		畳付・透明釉	良好
SE47	2	88	53	陶器	碗	口縁 1/6～底部 1/3	(9.0)	4.8	5.9		白色釉	
SE47	3	88	53	陶器	碗	□14?	(13.6)	—	<5.4>		透明釉	良好
SE47	4	88	53	陶器	壺	□14～体部	—	—	<4.8>		粗雑	良好
SE47	5	88	53	陶器	碗?	体部小～底部 1/2	—	(6.5)	—			
SE47	6	88	53	陶器	碗?	体部小～底部 1/2	—	(6.5)	—	底部回転糸切	粗雑	良好
SE48	1	88	53	磁器	皿	体部小～底部 1/3	—	(4.4)	1.9		畳付・透明釉	良好
SE48	2	88	53	磁器	碗	口縁 1/2～底部	<14.3>	<3.8>	<4.4>		畳付・透明釉	良好
SE48	3	88	53	磁器	碗	口縁 1/2～底部 1/2	<13.0>	<7.4>	<2.6>	型紙摺り	畳付・透明釉	良好
SE48	4	88	53	陶器	鉢	法量不明	11.6	8.5	8.2	薬の中の所薬痕、手捏ね痕跡、外面に粘土、底部、底面に厚薬。	胎土：粗砂粒含む　10YR6/2 灰黄褐　色調：7.5YR2/2 黒-7	良好
SE48	5	88	53	陶器	壺	体部小～底部 1/2	—	(11.2)	6.0		胎土：10YR6/1 褐灰　釉調：5YR7/1 灰	良好
SE48	6	89	53	陶器	土瓶	□14 1/6～底部 1/4	(8.4)	5.0	9.1	刻目	粗雑	良好
SE48	7	89	53	土師	須恵器	1/4 底部欠損	(7.6)	(7.6)	<2.2>		胎土：5YR5/4 褐	良好
SE48	8	89	53	土師	皿	底部 1/4～□14	(8.2)	(3.0)	1.6		胎土：5YR6/6 橙色	良好
SE48	9	89	53	土師	鉢?	□14 1/2～底部 1/2	(14.0)	(13.8)	1.7	七輪部品	胎土：長石・雲母含む　5YR5/6 橙	良好
SE48	10	89	53	土師	不明	不明	<5.4>	<7.4>	6.9			
SE48	11	89	53	土師	把手	上部破損	<17.3>	<30.1>	3.0		胎土：細砂粒・長石・雲母・赤褐粒含む　10YR6/6 橙	良好
SE48	12	89	53	土師	把手上部	□14～底部	39.8	30.0	21.3	瓦質	胎土：細砂粒・長石含む　10YR6/2 にぶい橙褐　色調：N3/・暗灰	良好
SE48	13	89	53	瓦	丸瓦	—	<12.8>	<18.7>	1.3	内面：引っ張り	胎土：細砂粒含む　N4/・黒	良好
SE48	14	89	53	瓦	桟瓦	—	<6.4>	<16.35>	2.0		胎土：細砂粒含む　N4/・黒	良好
SE48	15	90	53	瓦	桟瓦	—	<11.7>	<11.8>	2.0		胎土：細砂粒含む　N4/・黒	良好
SE48	16	90	53	瓦	桟瓦	—	<6.8>	<8.7>	3.3		胎土：細砂粒含む　5YR4/1 黒	良好
SE48	17	90	53	瓦	桟瓦	—	<20.3>	<10.0>	1.6		胎土：N4/・黒	良好
SE48	18	90	53	瓦	平瓦	—	(8.4)	(5.2)	1.8			
SE48	19	90	53	瓦	平瓦	—	<6.4>	<16.7>	1.6		胎土：N3/・黒	良好
SE48	20	90	53	瓦	桟瓦	—	<5.1>	<4.4>	1.6		胎土：N3/・暗褐	良好
SE48	21	90	53	瓶子	瓶	～胴欠損	—	3.6	<7.1>		透明	
SE48	22	90	53	瓶子	瓶	体部小	—	—	(2.2 と 7.1)	A(SE-KAWYO-ITS) の文字有り	透明	
SE48	23	90	54	須恵器	壺	ワ高 0.8～体部 1/6	—	ワ高 2.8	2.1	内外面：ガラス　底部回転ハケ ?	胎土：細砂粒・長石含む　N3/・灰白	良好
SE50	2	90	54	磁器	碗	体部小～底部	—	3.6	<3.9>	型紙摺り	畳付・透明釉	良好
SE50	3	90	54	磁器	碗	口縁 1/3～底部 1/4	(8.6)	3.8	4.0		畳付・透明釉	良好
SE50	4	90	54	陶器	灯明皿か	□14 1/3～底部 1/3	(7.4)	(4.0)	1.5	内面：重ね焼き痕	粗雑	良好
SE50	5	90	54	陶器	灯明皿	□14～底部 1/3	<7.4>	<4.0>	<1.5>		粗雑	良好
SE50	6	90	54	陶器	土瓶	把手～胴部	—	(6.0)	3.4		粗雑	良好
SE51	1	90	54	磁器	碗	口縁 1/6～体部小	(10.7)	—	<4.1>		畳付・透明釉	
SE51	2	90	54	磁器	碗	口縁～底部 1/4	(8.8)	(3.4)	5.6		畳付・透明釉	
SE51	3	90	54	土師器	碗	—	<11.3>	<4.0>	5.0		胎土：細砂粒含む　2.5YR3/3 赤褐	良好
SE51	4	90	54	金属	釘	—	10.3	—	0.7		10YR4/1 褐灰	

（　）現元値　<　> 残存値

第8表　遺物観察表（7）

出土地点	遺物番号	層位	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長(cm)	法量 底径・幅(cm)	法量 器高・厚(cm)	調整・特徴	胎土	焼成	色調	備考
SA52	1	90	54	瓦器	椀	口縁 1/4～底部 1/2	(16.0)	3.6	4.6		砂粒・赤褐粒	良好	黒土・N8/ 灰白	内面ヘラ磨
SA52	2	90	54	瓦器	椀	口縁小～体部小	—	—	< 1.8 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	3	90	54	瓦器	椀	口縁～底部 1/2	10.4	3.2	5.0		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	4	90	54	瓦器	椀	底部	—	5.4	—		砂粒・赤褐粒	良好	黒土・5YR/1/ 灰白	
SA52	5	90	54	瓦器	椀	体部小～底部 1/4	—	3.0	< 3.1 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	6	90	54	瓦器	椀	口縁小～体部 1/4	(7.9)	—	< 3.7 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	7	91	54	瓦器	椀	口縁～体部小	8.6	3.6	2.5		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	8	91	54	陶器	椀	口縁～底部 1/2	< 7.4 >	< 3.0 >	< 4.2 >		砂粒・赤褐粒	良好	黒土・N8/ 灰白	
SA52	9	91	54	瓦器	椀	口縁 1/4～体部小	(7.0)	—	< 4.9 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	10	91	54	瓦器	鍋か鉢か	口縁 1/4～底部 1/4	16.4	10.0	6.6		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	11	91	54	瓦器	皿	口縁 1/4～底部	9.6	5.4	2.1	コンニャク印刷、精製土	砂粒・赤褐粒・長石質灰褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	12	91	54	瓦器	皿	口縁 1/4～底部 1/4	(19.0)	(10.4)	6.1		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	13	91	54	瓦器	皿	口縁 1/4～底部 1/4	< 22.0 >	< 11.0 >	< 2.2 >		砂粒・赤褐粒	良好	黒土・N8/ 灰白	
SA52	14	91	54	瓦器	皿	体部小～底部	—	4.0	—		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA52	15	91	54	陶器	椀	口縁～底部	(10.2)	3.8	4.7	釉・掛け分け　内部：暗色焼き痕	砂粒・赤褐粒	良好	黒土・5G7/1 灰白　釉調：5G7/1 明オリーブ 灰	
SA52	16	91	54	陶器	椀	口縁小～底部	9.4	3.2	3.8		砂粒	良好		
SA52	17	91	54	陶器	椀	体部小～底部	—	4.0	< 1.75 >		砂粒	良好	黒土：10YR6/3 黄橙色　釉調：2.5YR2/2 暗赤黒	
SA52	18	91	54	陶器	椀	口縁～体部	(8.0)	—	< 5.4 >		砂粒	良好	黒土：2.5Y7/1 黄灰色	
SA52	19	91	54	陶器	椀	体部～底部	—	(3.2)	< 4.2 >	外面施釉・内面、平底釉掛	砂粒・赤褐粒	良好	黒土：2.5Y7/1 黄灰　内面：白　外面：4Y7/2 黄	
SA52	20	91	54	陶器	灯明皿	口縁完形	8.0	4.1	1.7		砂粒	良好	黒土：2.5Y7/1 灰白	
SA52	21	91	54	陶器	皿	口縁 1/4～体部小	(20.0)	—	< 3.8 >	釉状口縁	砂粒	良好	黒土：5Y6/1 灰白	
SA52	22	91	54	土師器	鍋か鉢か	体部小～底部小	—	< 12.4 >	—		砂粒	良好	黒土：10YR6/1 灰白	
SA52	23	91	54	土師器	火鉢	口縁小	30.6	—	< 13.7 >	内面：指押痕		良好	黒土：5YR6/6 橙	内面ヘラ磨
SA52	24	91	54	土師器	火鉢	体部小～底部小	—	23.0	< 11.8 >	内面：指押痕		良好	黒土：橙褐粒混じり　7.5YR6/3 にぶい橙	
SA52	25	94	54	土師器	土釜	把手	5.6	3.1	—			良好	黒土：7.5YR7/3 にぶい橙	
SA52	26	92	54	土師器	人形		3.2	2.2	0.7			良好	黒土：10YR7/2 にぶい橙色	
SA52	27	92	54	土師器	人形		1.9	1.9	1.9			良好	黒土：10YR7/2 にぶい橙色	
SA52	28	92	54	土師器	土師	把手	3	3.2	2.3			良好	黒土：2.5YR7/1 にぶい赤	
SA52	29	92	54	土師器	土師	口縁完形	3.1	3.6	2.1			良好	黒土：7.5YR6/3 黄灰	
SA52	30	92	54	土師器	土師	口縁 1/2 破損	3.5	2.8	2.6			良好	黒土：7.5YR6/3 黒橙色	
SA52	31	92	54	土師器	土師	上部 2/3	2.1	2.8	1.3			良好	黒土：7.5YR6/3 黒橙色	
SA52	32	92	54	金属	古銭	開元	径 2.5		0.1	鋳造痕跡				
SA52	33	92	54	金属	古銭	開元	径 2.5		0.1	鋳造痕跡				
SA52	34	92	54	金属	古銭				0.1	鋳造痕跡、交換				
SA52	35	92	54	金属	煙管（雁首）		4.2	厚 1.3	径 2.1				7.5GY6/1 緑灰	
SA52	36	92	54	金属	不明		5.3	< 4.8 >	0.5				7.5GY6/1 青緑灰	
SA55	1	92	55	瓦器	椀	底部	7.2	6.4	0.5	高台貼付け時切離　明瞭：コンニャク印刷の五角形	砂粒・赤褐粒・長石質灰褐粒	良好	黒土：N8/ 灰白	内面ヘラ磨
SA55	2	92	55	瓦器	椀	口縁 1/4～底部 1/4	(12.0)	—	< 4.9 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA55	3	92	55	瓦器	椀	口縁小～体部小	(12.0)	—	< 4.7 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA55	4	92	55	瓦器	椀	口縁小～体部 1/4	(12.0)	—	< 5.0 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA55	5	92	55	瓦器	椀	口縁小～体部	(16.8)	—	< 3.4 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA55	6	92	55	瓦器	椀	口縁 1/2～底部	16.4	3.3	5.3		上質灰白・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA55	7	92	55	瓦器	千利	口縁小～体部小	—	—	< 2.9 >		上質灰白・赤褐粒	良好		
SA55	8	92	55	瓦器	皿	口縁 1/4～底部 1/4	(10.4)	6.0	2.5		上質灰白・赤褐粒	良好		
SA55	9	92	55	瓦器	皿	体部小～底部	16.4	5.3	3.3		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SA55	10	92	55	陶器	椀	口縁～底部	9.0	3.2	4.65	重ね焼り		良好	黒土：5YR/1/ 灰白　釉調：7.5YR/1/ 灰白	
SA55	11	92	55	陶器	鉢	口縁小～体部小	(8.0)	—	7.2		砂粒	良好		
SA55	12	92	55	陶器	灯明皿	口縁小～底部 1/2	(10.6)	5.4	1.8	外面：N7/ 5	砂粒	良好	黒土：暗褐　7.5YR/4	
SA55	13	93	55	陶器	擂鉢	口縁 1/4	(25.0)	—	(9.6)		砂粒	良好	10Re/2 赤色	
SA55	14	93	55	土師器	内耳鍋	口縁小～底部	(23.8)	(18.0)	6.2	輪積痕　指押痕		良好	黒土：赤色・雲母・石英含む　5YR6/6	
SA55	15	93	55	土師器	土釜	口縁小～体部小	(15.0)	—	< 9.0 >	外面：交換有り	砂粒・赤褐粒	良好	黒土：橙褐粒・赤褐・雲母含む	
SA55	16	93	55	瓦器	鍋か	口縁 1/2	—	2.1	0.5			良好	黒土：5YR7/6 橙	
ピット列 9	1	93	55	瓦器	椀	口縁 1/4～体部小	(7.0)	—	< 4.4 >	未調整	砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SP49	1	93	55	石製品	投石		(15.0)	(14.4)	4				5YR/1 灰白	
SP67	1	93	55	土師器	不明	口縁部破損	—	—	< 12.0 >	赤彩、焼炉の跡か？　鍋形不明　孔有り		良好	黒土：橙褐粒混じり　2.5YR/1 淡黒	
SP76	1	93	55	石製品	投石		9.9	8.3	4.0					
SP87	1	93	55	瓦器	椀	口縁小～体部 1/4	(8.0)	—	< 3.7 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SP97	2	93	55	瓦器	椀	体部小～底部小	—	—	< 1.9 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SP97	3	93	55	土師器	鳥羽	底部小	—	—	2.8	外面：ヨシ	砂粒・赤褐粒	良好	黒土：赤色・赤色粒含む　外面：5YR6/4 にぶい橙	
SP160	1	93	55	瓦器	椀	口縁 1/4～底部	(11.6)	4.0	4.4	型紙痕り		良好		内面ヘラ磨
SP160	2	93	55	瓦	平瓦		< 6.7 >	< 7.0 >	1.6	凹凸「ケズリ」	砂粒・赤褐粒	良好	黒土：N4/ 褐灰	
SP160	3	93	55	瓦	桃瓦	口縁 1/4～底部	< 9.1 >	< 10.2 >	1.5	凹凸「ケズリ」	砂粒	良好	黒土：N4/ 灰	
SP160	4	93	55	瓦	桃瓦		25.3	< 19.5 >	1.6	凹凸「ケズリ」	砂粒・赤褐粒　長石質灰褐粒	良好	黒土：N4/ 灰	
SP173	1	93	55	瓦器	皿	口縁 1/4～底部 1/4	(7.4)	3.6	< 1.3 >	内面：暗色焼き痕	砂粒	良好	黒土：7.5YR6/2 灰褐	
SP179	1	93	55	土師器	皿	口縁小～底部	(9.2)	(3.0)	2.3			良好	黒土：橙褐粒混じり　10YR7/4 にぶい橙色	内面ヘラ磨
SP227	1	93	55	瓦器	椀	体部小～底部	—	< 4.0 >	—		砂粒・赤褐粒	良好	黒土：N8/ 灰白	
SP227	2	93	55	瓦器	椀	口縁小～体部小	—	—	—		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SP306	1	94	55	瓦器	皿	口縁小～体部小	11.0	6.0	1.9	型紙痕り	砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SP306	2	94	55	陶器	茶碗	口縁 1/2～底部 1/3	(7.6)	3.0	4.9	外面：交換有り	砂粒・精砂粒	良好	黒土：2.5Y7/2 黄灰　釉調：N7/1 灰白	
SP306	3	94	55	瓦	桃瓦	口縁完形	25.7	23.7	1.6			良好	黒土：7.5Y5/1 灰	
SP306	4	94	55	石製品	錘石		< 10.4 >	8.0	4				黒土：5Y7/1 灰白	
SP306	5	94	55	石製品	錘石		< 8.7 >	5.7	1.5				黒土：5Y7/1 灰白	
SP306	6	94	55	鉄	ヘラ？	口縁～体部 1/4	4.0	—	< 7.5 >			良好	錆色	
SP514	1	94	55	瓦器	椀	体部小～底部 1/3	—	3.0	< 2.6 >	高台貼付け痕か？	砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD2	1	94	56	瓦器	椀	口縁小～底部 1/4	(11.2)	3.9	5.0	型紙痕り	砂粒・赤褐粒	良好	黒土：N/ 赤褐色	
SD2	2	94	56	瓦器	椀	口縁 1/4～底部	(11.2)	(3.6)	5.0	型紙痕り	砂粒・赤褐粒	良好	黒土：N/ 赤褐色	
SD2	3	94	56	瓦器	椀	口縁 1/4～体部 1/4	(9.9)	—	< 5.0 >	コンニャク印刷	砂粒・赤褐粒	良好	黒土：N/ 赤褐色	
SD2	4	94	56	瓦器	椀	口縁 1/4～底部 1/2	(12.0)	(4.0)	4.6	型紙痕り	砂粒・赤褐粒	良好	黒土：N/ 赤褐色	
SD2	5	94	56	瓦器	椀	口縁 1/4～体部 1/4	(12.0)	—	< 2.9 >	型紙痕り	砂粒・赤褐粒	良好	黒土：N/ 赤褐色	
SD2	6	94	56	瓦器	椀	口縁小～底部 1/2	(7.6)	(2.6)	3.0		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD2	7	94	56	瓦器	椀	口縁小～底部 1/4	(7.1)	(2.1)	3.0		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD2	8	94	56	瓦器	椀	口縁 1/4～底部 1/4	(8.0)	(3.6)	4.0		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD2	9	95	56	瓦器	椀	口縁～底部	< 6.6 >	< 3.2 >	< 4.2 >		砂粒・赤褐粒	良好	黒土：N8/ 灰白	内面ヘラ磨
SD2	10	95	56	瓦器	椀	体部（下部小）	—	—	< 4.1 >		砂粒・赤褐粒	良好	黒土：5G7/1 明緑灰	
SD2	11	95	56	瓦器	椀	口縁 1/4～底部 1/2	(7.8)	(2.6)	2.4		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD2	12	95	56	瓦器	椀	口縁 1/3～底部	6.8	(2.2)	2.8		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD2	13	95	56	瓦器	皿	口縁 1/4～底部 2/3	(8.7)	(4.8)	2.1	釉状口縁	砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD2	14	95	56	瓦器	皿	口縁 1/4～底部 1/3	(9.6)	(5.8)	1.6		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD2	15	95	56	瓦器	皿	体部小～底部小	—	7.2	0.9	型紙痕り	砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD2	16	95	56	陶器	皿	体部小～底部 1/5	—	(8.0)	2.2		砂粒・赤褐粒	良好	黒土：7.5YR6/3 黄灰	
SD2	17	95	56	土師器	土釜	口縁 1/4	(9.4)	—	< 5.9 >	指痕・内外面：淡色　ヨコナデ		良好	黒土：7.5YR6/4 にぶい橙　外面：10Y2/1 黒	
SD2	18	95	56	土師器	鍋か	口縁部	(18.0)	—	2.3			良好	黒土：橙褐粒混じり	
SD2	19	95	56	瓦	桃瓦		< 28.5 >	28.2	1.6	凸ヌ > 凹有り		良好	黒土：橙褐粒混じり　N4/ 灰	
SD2	20	95	56	瓦	平瓦		< 14.7 >	< 18.3 >	1.6			良好	黒土：橙褐粒混じり　N5/ 灰白	
SD2	21	95	56	瓦	桃瓦		< 14.9 >	< 10.7 >	1.5			良好	黒土：N5/ 灰	
SD2	22	95	56	瓦	桃瓦		< 13.1 >	< 14.7 >	4.6			良好	黒土：橙褐粒混じり　N4/5 灰	
SD2	23	95	56	瓦	桃瓦		< 21.8 >	< 16.6 >	2.1			良好	黒土：橙褐粒・赤褐色粒　7.5Y7/1 灰白	
SD2	24	95	56	瓦	平瓦		< 18.3 >	< 13.0 >	1.5			良好	黒土：5Y4/1 灰	
SD3	1	96	56	陶器	椀	体部小	13.8	11.0	7.7		砂粒	良好		
SD3	2	96	56	土師器	鍋	口縁小	(32.0)	—	< 8.2 >	外面：ヨコナデ		良好	黒土：5Y6/4 橙	
SD3	3	96	56	石製品	投石		10.1	9.3	6.0			良好	黒土：7.5Y7/2 灰白	
SD4	1	96	56	瓦器	椀	口縁部小～底部 1/2	(11.0)	(4.0)	5.2		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨
SD4	2	96	56	瓦器	皿	体部～底部底部 1/2	—	(3.4)	2.0		砂粒・赤褐粒	良好	黒土：N8/ 灰白	内面ヘラ磨
SD4	3	96	56	瓦器	椀	体部小～底部 1/3	—	3.0	< 3.3 >		砂粒・赤褐粒	良好		内面ヘラ磨

（　）現元値　<　> 残存値

第9表　遺物観察表（8）

出土地点	遺物番号	挿図	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長（cm）	底径・（cm）	器高・厚さ（cm）	胎土・特徴	釉薬（施薬）	焼成・色調	胎土・色調	備考
SD4	4	96	96	瓦器	椀	体部～底部 1/3	—	(6.0)	4.7	広葉樹、精良雲母質	良好／酸化焔	暗土／N6/ 灰白		良好
SD4	5	96	96	瓦器	椀	口縁 1/6～底部 1/4	(21.2)	(5.6)	6.6	広葉樹	良好／酸化焔	暗土／N6/ 灰白		良好
SD4	6	96	96	瓦器	椀	口縁 1/6～底部 1/4	(9.8)	(4.4)	6.3	広葉樹	良好／酸化焔			良好
SD4	7	96	96	瓦器	椀	口縁 1/6～底部 1/4	(8.6)	(5.0)	5.4	広葉樹	良好／酸化焔	暗土／N6/ 灰白		良好
SD4	8	96	96	瓦器	椀	口縁 1/6～体部	9.6	—	3.4		良好／酸化焔			良好
SD4	9	96	96	瓦器	椀	口縁 1/5～底部	11.2	4.2	5.65		良好／酸化焔			良好
SD4	10	96	97	瓦器	椀	口縁 1/2～底部	8.9	4.4	7.8		良好／酸化焔	暗土／N6/ 灰白		良好
SD4	11	96	97	瓦器	皿	口縁 1/6～底部 1/2	(13.2)	(8.0)	2.9	粗品広葉樹	良好／酸化焔	暗土／N6/ 灰白		良好
SD4	12	96	97	瓦器	皿	口縁 1/6～底部 4/5	(25.2)	(8.7)	4.7	軟穴状空間見出	良好／酸化焔			良好
SD4	13	96	97	瓦器	皿	口縁 1/6～底部 4/5	(13.6)	(6.0)	3.7	角石内部可書、軟穴状空間見出、細砂口縁	良好／酸化焔			良好
SD4	14	97	97	瓦器	皿	口縁 1/6～底部	(13.0)	(6.6)	4.8		良好／酸化焔			良好
SD4	15	97	97	瓦器	皿	口縁 1/6～底部 1/4	(13.6)	(7.2)	3.65		良好／酸化焔			良好
SD4	16	97	97	瓦器	皿	体部～底部 1/4	—	(9.0)	0.9	雲母質不書	酸化焔／上部ロクロ			良好
SD4	17	97	97	瓦器	皿	ツまみ部 1/5～体部	—	ツまみ (2.8)	(1.8)		良好	暗土／N6/ 灰白		良好
SD4	18	97	97	瓦器	皿	ツまみ部～口縁部 1/4	20.7	ツまみ 4.0	3.1		良好／酸化焔	暗土／N6/ 灰白		良好
SD4	19	97	97	瓦器	皿	ツまみ部～口縁 1/4	(11.0)	ツまみ (5.0)	2.4		良好／酸化焔			良好
SD4	20	97	97	瓦器	皿	体部～底部	—	3.8	4.2		良好／酸化焔			良好
SD4	21	97	97	瓦器	皿	体部～底部 1/4	—	(4.0)	3.3		良好／酸化焔	暗土／N6/ 灰白		良好
SD4	22	97	97	瓦器	鉢	体部～	—	—	(7.9)		良好／酸化焔			良好
SD4	23	97	97	瓦器	鉢／鍋	口縁～体部 1/3	2.1	—	5.8		良好／酸化焔・内面熱焔			良好
SD4	24	97	97	瓦器	鉢	体部	—	—	(20.0)	内面（沈片）	良好／酸化焔・内面熱焔			良好
SD4	25	97	97	瓦器	鉢	口縁 1/6～底部 1/2	2.8	6.0	7.6		良好／酸化焔・内面熱焔	暗土／N6/ 灰白	暗褐／5PR	良好
SD4	26	97	97	陶器	甕	体部～底部	—	< 5.0 >	—		良好	7.5YR6/4 浅黄橙		良好
SD4	27	97	97	陶器	甕	口縁 1/6～底部 1/2	(16.2)	(8.6)	5.2	微粒雲	良好	10YR6/4 浅黄橙		良好
SD4	28	97	97	陶器	瓶	口縁 1/4～底部 1/6	(10.4)	(4.6)	2.0		良好	5YR5/3 鈍橙		良好
SD4	29	97	97	陶器	甕	ツまみ部～底部 1/4	(14.6)	ツまみ 1.2	3.6		良好／ 7.5YR5/1 褐灰	暗褐／2.5YR3/2 暗赤灰		良好
SD4	30	97	97	陶器	甕	頸部破片（一部写真）	(11.6)	8.5	4.2		良好	7.5YR5/3 にぶい橙		良好
SD4	31	97	97	陶器	甕	肩部	7.8	5.4	3.4		良好	暗褐		良好
SD4	32	97	97	陶器	甕	肩部	7.9	5.8	2.4		良好	暗褐		良好
SD4	33	97	97	陶器	甕	底部破片	8.2	9.8	—		良好	暗褐		良好
SD4	34	97	97	陶器	甕	肩部	9.1	6.6	3.4		良好	暗褐		良好
SD4	35	97	97	陶器	甕	受部～体部	< 7.8 >	—	2.1		良好	褐		良好
SD4	36	97	97	陶器	土師（須恵）	底部	—	—	< 4.2 >		良好	暗褐	暗土／5YR3/2 灰白	良好
SD4	37	97	97	陶器	土師	口縁 2/3～体部 2/3	(8.6)	—	< 12.0 >		良好	暗褐	暗土／7.5YR3/1 灰白	良好
SD4	38	98	97	陶器	土師	口縁 1/2～体部	(8.0)	—	10.7		暗褐色／外面下部、内面熱焔	暗土／7.5YR3/1 灰白		良好
SD4	39	98	97	陶器	土師	口縁～体部	10.4	—	21.7		良好			良好
SD4	40	98	97	陶器	土師	底部 1/4	—	8.2	—			7.5YR6/4 にぶい橙		良好
SD4	41	98	97	陶器	土師	底部 1/3	—	8.2	—			10YR6/2 灰黄褐		良好
SD4	42	98	97	陶器	鉢	口縁 1/6～体部 1/4	(17.6)	—	5.65		良好			良好
SD4	43	98	97	陶器	壺	体部～底部	—	4.4	—		良好	5YR3/1 暗赤褐		良好
SD4	44	98	97	陶器	瓶	体部～底部	—	4.45	< 2.8 >	内面底部（沈）痕	良好			良好
SD4	45	98	97	陶器	甕	体部～底部	—	7.4	< 4.3 >		良好	暗褐	暗土／10YR3/4 浅黄橙	良好
SD4	46	98	97	陶器	甕	体部 1/4～底部 1/3	—	(8.0)	< 5.6 >	外面：角閃石	良好	暗褐	暗土／10YR3/2 暗黒褐 ／暗褐／7.5YR2/2 黒褐	良好
SD4	47	98	97	陶器	壺?	口縁～体部	—	—	2.8		良好	暗褐	暗土／暗褐色／ 10R4/4 赤褐	良好
SD4	48	98	98	陶器	鉢	体部～底部 1/6	—	(16.4)	9.15	内面（沈片）角閃（安山岩）?	良好	暗褐	暗土／7.5YR3/1 黒褐 ／ 5YR3/1 オリーブ黒	良好
SD4	49	98	98	土師	場鳥	口縁（内面）一部欠	(22.7)	(21.2)	4.3	内面鳥、下位から底部にかけて横行書、沈痕	良好	暗褐色／暗褐色 ／ 7.5YR6/3 にぶい橙		良好
SD4	50	98	98	土師	椀	口縁 1/4	(26.0)	—	< 12.7 >			10YR6/2 にぶい橙		良好
SD4	51	98	98	土師	土師器	体部	—	—	5.6			5Y3/1 オリーブ黒		良好
SD4	52	98	98	土師	鉢	口縁部	—	—	—			10YR5/2 にぶい橙褐		良好
SD4	53	98	98	石	石瓦		9.8	8.9	2.1		良好	暗褐／暗褐		良好
SD4	54	98	98	土製品	馬形		1.3	1.4	馬 1.3		良好	暗褐／5YR3/6 橙		良好
SD4	55	98	98	土製品	馬形		4.0	3.6	馬 1.5		良好	暗褐／2.5YR3/6 明赤褐		良好
SD4	56	98	98	金属	刀子	刃部	刃 2.8							良好
SD4	57	98	98	金属	煙管		< 2.8 >	雁 1.0	雁 2.0			7.5GY5/1 褐緑灰		良好
SD5	1	99	98	瓦器	椀	体部～底部 1/4	—	(4.0)	< 2.3 >			暗褐／7.5YR3/1 黒褐灰	暗褐／10GY3/1 暗緑灰	良好
SD5	2	99	98	瓦器	椀	口縁 1/5～底部	< 6.4 >	—	< 2.7 >			暗褐／7.5YR3/1 黒褐灰		良好
SD5	3	99	98	瓦器	鉢?	口縁～底部	3.1	5.6	17.5		良好／酸化焔			良好
SD5	4	99	98	陶器	甕	口縁 1/4～底部 1/2	(7.4)	(3.8)	5.2	粗砂物可書	良好	中々暗い 暗褐／2.5YR3/1 黒赤灰		良好
SD5	5	99	98	陶器	須恵器	体部～底部 1/4	—	< 6.8 >	—	粗砂物可書	酸化焔	暗褐／10R3/1 暗赤灰		良好
SD5	6	99	98	陶器	瓶須	口縁～体部	8.3	—	< 8.6 >	雲入角片	良好／酸化焔	暗褐／2.5YR3/2 黒褐		良好
SD5	7	99	98	陶器	ミニチュア	椀形	1.9	3.0	1.2	微粒角閃	良好	暗褐／2.5YR3/2 黒褐 暗褐／7.5R4/2 灰赤		良好
SD5	8	99	98	土師	小椀	口縁	(20.0)	—	< 5.8 >		良好	暗褐／2.5YR3/2 黒褐		良好
SD5	9	99	98	瓦	丸瓦		26.3	12.7	5.6	内面：布目		暗灰黄色／暗赤褐／ 10YR4/6		良好
SD5	10	99	98	瓦	桶瓦		< 25.0 >	26.2	1.8	粗砂有り		暗灰黄色／（表面・裏面）暗赤 ／ 5YR3/1 黒褐		良好
SD5	11	99	98	瓦	平瓦		(16.4)	11.0	13.4			暗赤／10R3/1 褐灰		良好
SD5	12	99	98	瓦	桶瓦		< 14.4 >	< 12.5 >	1.6			暗赤／N6/ 灰		良好
SD5	13	100	98	瓦	桶瓦		< 16.45 >	< 19.9 >	1.45			暗赤／N5/ 暗赤／N3/ 暗黒		良好
SD5	14	100	98	瓦	平瓦		< 7.6 >	< 10.7 >	1.3			暗赤／10R5/1 黒褐		良好
SD5	15	100	98	瓦	桶瓦		< 21.7 >	< 16.6 >	3.7			暗赤／7.5YR3/1 黒褐		良好
SD6	1	100	98	陶器	椀		—	(4.6)	< 2.3 >	体部 1/4～底部 1/2	良好／酸化焔			良好
SD6	2	100	98	陶器	椀		—	(3.2)	< 1.9 >	体部 1/4～底部	良好／酸化焔			良好
SD6	3	100	98	陶器	椀		(11.0)	(3.1)	4.4	口縁 1/2～底部 1/3	良好／酸化焔	灰白		良好
SD6	4	100	98	陶器	皿	底部破片	10.3	5.9	3.6					良好
SD6	5	100	98	陶器	皿	底部破片	13.1	5.2	2.5		良好／酸化焔			良好
SD6	6	100	98	陶器	瓶?		底径 6.0	—	—	底部 1/2	良好／酸化焔	底部、内面熱		良好
SD6	7	100	98	陶器	瓶?	口縁～体部 1/2	—	—	< 8.0 >		良好／酸化焔			良好
SD6	8	100	98	陶器	甕	口縁 1/2～底部 1/2	(8.5)	8.3	4.3	雲母質の粒多書、外面に赤褐色の粒書が刻まれる。	良好	暗褐／7.5YR6/3 にぶい橙 暗褐／2.5YR6/2 灰黄		良好
SD6	9	100	98	陶器	壺	肩部	< 7.0 >	< 4.4 >	< 1.3 >			暗褐／2.5YR6/2 灰白 暗褐／2.5YR4/6 明赤褐		良好
SD6	10	100	99	陶器	鉢	体部～底部	—	3.0	< 3.1 >		良好	暗褐（須恵器なし）		良好
SD6	11	100	99	陶器	壺	体部～底部	—	7.2	< 9.1 >		良好	暗褐／2.5YR6/6 橙 暗褐／ 10~7 橙		良好
SD6	12	100	99	陶器	壺	口縁?	—	—	< 8.5 >			暗褐／2.5YR5/3 褐赤褐		良好
SD6	13	100	99	土師	小椀	口縁	(20.6)	—	—		良好	暗褐／5YR6/4 橙		良好
SD6	14	100	99	瓦	桶瓦		< 6.5 >	< 12.2 >	1.8					良好
SD6	15	100	99	瓦	桶瓦		< 8.7 >	4.7	1.2			暗赤褐色／暗色／N4/0 灰		良好
SD10	1	101	99	瓦器	椀	口縁 1/6～体部?	< 9.4 >	—	3.65		良好／酸化焔			良好
SD10	2	101	99	瓦器	椀	体部 1/3～底部	—	4.4	< 3.2 >		良好／酸化焔			良好
SD10	3	101	99	瓦器	椀	体部～底部	—	3.6	< 1.2 >	粗品広葉片	良好／酸化焔			良好
SD10	4	101	99	瓦器	皿	口縁 1/2～底部 1/3	< 13.4 >	(8.0)	< 3.2 >		良好／酸化焔	暗色粒含む 暗土／N6/ 灰白		良好
SD10	5	101	99	陶器	皿	口縁～底部 1/4	—	(2.0)	< 9.4 >	角閃石内の白粒含む	良好			良好
SD10	6	101	99	陶器	椀	口縁～底部	(11.3)	5.2	7.9			暗土／5Y3/1 灰白 暗褐／黒褐色粒（須恵）		良好
SD10	7	101	99	陶器	椀	底部	—	4.6	—			暗土／6/6 明褐灰		良好
SD10	8	101	99	陶器	皿	口縁 1/4～底部 1/4	(8.6)	(3.0)	1.2		良好	暗土／5Y6/3 にぶい赤褐		良好
SD10	9	101	99	陶器	皿	肩部	< 7.0 >	< 5.0 >	< 1.3 >			暗土／10R3/1 黒褐 暗褐／5YR3/1 黒褐		良好
SD10	10	101	99	陶器	皿	肩部	< 7.6 >	< 3.0 >	< 1.4 >		良好	暗土／5YR4/6 赤褐		良好
SD10	11	101	99	陶器	灯明皿	口縁 1/4～底部 1/4	(10.4)	—	< 1.7 >					良好
SD10	12	101	99	陶器	壺	肩部	8.3	3.6	2.0	雲母有り 雲母質不書有り	良好	暗褐／5YR4/4 褐		良好
SD10	13	101	99	陶器	土瓶	注口	—	—	< 3.3 >		良好	暗褐／内面：5Y7/1 灰白 暗褐／灰白粒		良好
SD10	14	101	99	陶器	椀	口縁 1/4～体部?	—	—	< 3.3 >	内面：（沈片）	内外面：灰釉	暗褐／7.5Y5/1 灰白		良好
SD10	15	101	99	陶器	片口	口縁 1/2～体部 1/2	13.0	—	5.4		良好	暗褐／7.5Y6/1 灰白		良好
SD10	16	101	99	陶器	椀	口縁～体部	3.9	—	< 9.4 >			暗褐／5Y5/1 灰白 暗褐／2.5YR4/6 赤褐		良好
SD10	17	101	99	陶器	壺	肩部	3.6	—	1.3		良好	暗褐／黒褐		良好
SD10	18	101	99	陶器	碗状	体部～底部 1/3	—	< 5.0 >	—		良好	暗褐／7.5Y6/1 灰白		良好
SD10	19	102	99	陶器	碗状	体部～底部	—	< 13.0 >	—		良好	暗褐／7.5Y6/1 灰白		良好
SD10	20	102	99	陶器	碗状	体部～底部 2/3	—	< 13.6 >	—		良好	暗褐／5Y6/2 灰白		良好

（　）復元値　< 　> 残存値

第 10 表　遺物観察表（9）

出土地点	遺物番号	挿図	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長（径）[cm]	底径・幅（厚）[cm]	器高・厚（径）[cm]	調整・特徴	胎土	釉薬（施薬）	備考・登録	時代
遺構	21	102	59	土師	皿	体部 1/4 ～底部 1/4	—	(20.6)	(12.8)	外面に脚子、底面に脚痕	精色粒			鎌倉
遺構	22	102	59	土師	皿	口縁 1/8 ～体部 1/8	(16.0)	—	< 4.7 >	内面：放射線状暗文			瀬戸焼金彩（雪舟・長石）胎土：SiO2/Al 比 2/1 赤褐	鎌倉
遺構	23	102	59	土師	皿	口縁～底部	(9.6)	(3.7)	(1.95)	内外面：ミガキ	底部回転糸切		雪舟・長石・石英混在 胎土：SiO2/Al 比	鎌倉
遺構	24	102	59	土師	皿	口縁 1/2 ～底部 1/2	< 7.8 >	< 5.2 >	< 1.5 >	底部回転糸切			胎土：SiO2/Al 比	鎌倉
遺構	25	102	59	土師	皿	口縁 1/2 ～底部	< 6.6 >	< 5.0 >	< 1.5 >	底部回転糸切			胎土：2SiO2/Al 比	鎌倉
遺構	26	102	59	土師	皿	口縁 2/3 ～底部 1/4	< 5.0 >	< 3.8 >	< 1.2 >	底部回転糸切			胎土：2SiO2/Al 比 以 Cu 赤	鎌倉
遺構	27	102	59	土師	土人形	土人形	3.7	3.2	(2.6)				胎土：SiO2/Al 比	鎌倉
遺構	28	102	59	瓦	丸瓦		(9.6)	(3.1)	2.8				胎土：NO 瓦	鎌倉
遺構	29	102	59	瓦	棟瓦		< 18.1 >	< 14.4 >	18				胎土：NAO 瓦	鎌倉
SD11	1	102	60	陶器	灯明皿	体部 1/2 ～底部 1/4	—	(4.0)	2.0		鉄釉			鎌倉
SD11	2	102	60	陶器	擂鉢	体部 1/2 ～底部 1/5	—	< 11.6 >	—	底部回転糸切	鉄釉		胎土：10SiO2/Al 比白	鎌倉
SD11	3	102	60	土製品	人形	下半	—	—	—				胎土：75SiO2/Al 高嶺質	鎌倉
SD19	1	102	60	磁器	皿	口縁～体部 1/4	—	—	3.0		緻密・透明釉			鎌倉
SD20	1	102	60	磁器	碗	体部 1/2 ～底部 1/4	—	(6.4)	< 2.5 >		緻密・透明釉			鎌倉
SD20	2	102	60	磁器	碗	体部 1/2 ～底部 1/4	—	(4.0)	< 2.05 >		緻密・透明釉			鎌倉
SD21	1	102	60	石製品	四石	—	27.3	18.6	14.6				3Y/Y1 四石	
SD21	2	102	60	石製品	四石	—	< 8.1 >	8.9	5.6				石英	
SD23	1	102	60	磁器	碗	体部 1/3 ～底部 1/2	—	< 3.2 >	—		緻密・透明釉		胎土：NB/ 灰白	鎌倉
SD23	2	102	60	磁器	碗	口縁 1/2 ～体部 1/2	7.8	—	5.2		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	1	103	60	磁器	皿	口縁 1/4 ～体部 1/4	(11.6)	—	< 4.0 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	2	103	60	磁器	碗	口縁 1/4 ～体部 1/4	(12.0)	—	< 4.1 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	3	103	60	磁器	碗	体部 1/4 ～底部	—	6.0	< 3.9 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	4	103	60	磁器	碗	体部～底部	—	4.0	< 5.8 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	5	103	60	磁器	皿	底部 1/4	—	(4.4)	—		緻密・透明釉、高台畳付釉無			鎌倉
遺構内	6	103	60	磁器	碗	口縁～底部	(10.0)	(3.4)	5.3		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	7	103	60	磁器	碗	口縁 1/3 ～体部 1/4	(10.2)	—	< 3.9 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	8	103	60	磁器	碗	口縁 1/2 ～底部 1/3	(9.1)	(3.4)	5.1		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	9	103	60	磁器	碗	口縁 1/3 ～体部 1/3	(8.8)	—	< 4.3 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	10	103	60	磁器	碗	口縁～体部	—	—	(3.6)				胎土：NB/	鎌倉
遺構内	11	103	60	磁器	碗	体部～底部	(8.6)	(3.2)	4.8				胎土：NB/	鎌倉
遺構内	12	103	60	磁器	仔	口縁 1/3 ～底部 1/3	(8.2)	—	< 4.3 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	13	103	60	磁器	仔	口縁 1/2 ～底部 1/3	(8.1)	(2.4)	3.5		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	14	103	60	磁器	碗	口縁～底部 1/3	—	3.6	< 1.0 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	15	103	60	磁器	碗	口縁～底部	(10.6)	4.9	5.55	貫入有り	緻密釉無			鎌倉
遺構内	16	103	60	磁器	碗	口縁 1/4 ～底部 2/3	< 10.4 >	< 5.8 >	< 5.5 >	広東碗	緻密・透明釉		胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	17	103	60	磁器	碗	口縁～底部に	< 11.0 >	(6.0)	< 5.0 >	広東碗	緻密・透明釉		胎土：2SiO2/Al 比	鎌倉
遺構内	18	103	60	磁器	碗	口縁 1/4 ～底部 1/4	< 10.0 >	(5.4)	< 5.3 >	広東碗	緻密・透明釉		胎土：2SiO2/Al 比 明赤 / 7.5Y	鎌倉
遺構内	19	103	60	磁器	碗	口縁 1/3 ～底部	(12.6)	6.6	6.4		緻密・透明釉	高台畳付釉	胎土：SiO2/Al 比白	鎌倉
遺構内	20	103	60	磁器	碗	体部～底部 3/4	—	(3.8)	5.6	外面：蛇行有り			胎土：NB/	鎌倉
遺構内	21	103	60	磁器	碗	体部 1/4 ～底部 2/3	—	(3.6)	—		緻密・透明釉		胎土：NB/	鎌倉
遺構内	22	103	60	磁器	碗	体部 1/4 ～底部	—	5.0	5.9		粗陶器	内面：透明釉	外面：5GY1 粗陶胎陶	鎌倉
遺構内	23	103	61	磁器	碗	口縁～底部 1/2	(7.6)	(3.8)	3.8		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	24	103	61	磁器	碗	口縁底部	7.8	3.8	3.9		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	25	103	61	磁器	碗	口縁 2/3 ～体部 1/2	(9.6)	4.6	4.3	高台内に文字痕跡			胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	26	104	61	磁器	碗	口縁～底部	9.75	4.0	5.55	焼き歪み	緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	27	104	61	磁器	碗	口縁 1/4 ～体部 1/4	(11.4)	—	< 4.5 >					鎌倉
遺構内	28	104	61	磁器	仔	口縁 1/3 ～底部 1/2	6.2	(2.4)	2.85		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	29	104	61	磁器	仔	口縁 1/3 ～底部 2/3	(6.0)	2.6	3.9		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	30	104	61	磁器	仔	口縁 1/2 ～底部	6.6	2.6	2.4		緻密・白色釉		胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	31	104	61	磁器	碗	口縁～底部	(11.6)	(3.6)	4.3	型成痕り				鎌倉
遺構内	32	104	61	磁器	碗	口縁 1/4 ～底部小	(11.0)	(3.6)	5.0	型成痕り	緻密・透明釉		胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	33	104	61	磁器	碗	口縁 1/2 ～底部	< 9.2 >	< 3.0 >	< 4.3 >		緻密釉	上絵付	胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	34	104	61	磁器	碗	口縁底部	8.4	3.2	4.7	型成は「神的平 竹之 声雲鶴紋」			胎土：NB/	鎌倉
遺構内	35	104	61	磁器	碗	口縁 2/3 ～底部	8.2	3.0	4.7	型成は「未開紋的、桃山 - 寛一七ビ」	緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	36	104	61	磁器	碗	口縁 4/5 ～底部	(8.0)	< 4.0 >	< 7.2 >	外面に「台湾風茶注 電之 6 工」	緻密・透明釉		胎土：75SiO2/Al 比白	鎌倉
遺構内	37	104	61	磁器	碗	口縁 1/4 ～底部	< 6.2 >	< 2.8 >	< 4.6 >		緻密・透明釉		胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	38	104	61	磁器	仔	口縁 1/3 ～底部	6.4	2.5	2.8		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	39	104	61	磁器	鳳凰 蓋	口縁 1/3 ～底部 1/5	(8.2)	(7.0)	5.6	焼き歪み重ね ①～⑥	緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	40	104	61	磁器	皿	口縁 1/2 ～底部 1/2	(13.0)	(4.4)	3.7	型成痕の目指跡が	緻密・透明釉		胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	41	104	61	磁器	皿	口縁 2/3 ～底部	10.2	5.4	2.8		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	42	104	61	磁器	皿	口縁 1/2 ～底部 1/2	13.0	7.4	2.0		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	43	104	61	磁器	皿	口縁 1/4 ～底部 1/4	(9.0)	(5.0)	2.7		緻密・透明釉		胎土：NB/	鎌倉
遺構内	44	104	61	磁器	碗	体部～底部 1/3	—	(4.0)	< 3.9 >		外面：蛇行 内外面：透明釉			鎌倉
遺構内	45	104	61	磁器	弘長鐘		(8.3)	(4.4)	(6.1)		緻密・透明釉	黒釉	胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	46	104	61	磁器	弘長鐘		6.4	6.4	5.5		緻密・透明釉	黒釉	胎土：NB/	鎌倉
遺構内	47	104	61	磁器	弘長鐘	体部 2/3 ～底部	—	4.5	< 5.05 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	48	105	61	磁器	碗	口縁～底部 1/4	< 20.0 >	(11.0)	< 6.5 >		緻密・透明釉		胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	49	105	61	磁器	皿	口縁 1/3 ～体部	(8.5)	—	5.0		緻密・透明釉		胎土：NB/	鎌倉
遺構内	50	105	61	磁器	碗	口縁 1/3 ～体部	(10.6)	—	< 5.6 >		緻密・透明釉			鎌倉
遺構内	51	105	61	磁器	皿	体部小～底部	—	(3.6)	< 4.2 >		緻密釉			鎌倉
遺構内	52	105	61	磁器	碗	体部 1/4 ～底部	—	4.8	< 5.1 >				胎土：10SiO2/Al 比白 釉薬：2.5YA/2 褐灰黒	鎌倉
遺構内	53	105	61	磁器	碗	口縁 1/2 ～底部 1/2	(10.2)	(5.1)	6.55	内面：蛇ん有り			胎土：N7/0 灰白 釉薬：7.5YR/3 褐	鎌倉
遺構内	54	105	61	磁器	碗	口縁～底部	< 6.2 >	< 6.2 >	< 4.9 >	底部回転糸切	緻密釉		胎土：10YR/1 黒	鎌倉
遺構内	55	105	62	磁器	天目茶碗	口縁 1/2 ～底部	(11.6)	(4.5)	6.6		鉄釉			鎌倉
遺構内	56	105	62	陶器	碗	口縁 1/4 ～体部小	(12.0)	—	4.9		鉄釉		釉薬：7.5YR/3/4 褐灰	鎌倉
遺構内	57	105	62	陶器	ミニチュア	鉢状形	2.5	1.8	1.55	鉢形状鉢			胎土：5YR/1 黒色 釉薬：7.5YR/1 黒	鎌倉
遺構内	58	105	62	陶器	皿	完形	3.0	6.0	1.0				胎土：2.5YR/1 黒色 釉薬：7.5YR/1 黒	鎌倉
遺構内	59	105	62	陶器	皿	口縁 1/2 ～底部 1/2	(15.6)	(5.0)	3.8	内面：鉄釉の縦状	鉄釉		胎土：5Y 黒色	鎌倉
遺構内	60	105	62	陶器	皿	口縁 1/4 ～底部 1/4	(24.4)	9.4	5.0	重ね焼き痕有り 釉有り			胎土：5YR/2 灰白 釉薬：10YR/7.5YR/3 淡黄	鎌倉
遺構内	61	105	62	陶器	皿	口縁～底部小	(24.6)	(23.0)	5.1				胎土：5YR/2.5R 褐灰 釉薬：鉄釉	鎌倉
遺構内	62	105	62	陶器	鉢	口縁 3/4 ～底部底部	—	3.2	1.45	貫入有り 底部回転糸切			胎土：5YR/1 黒灰 釉薬：黒釉	鎌倉
遺構内	63	105	62	陶器	鉢	口縁 3/4 ～底部	(11.4)	(8.8)	4.3				胎土：2.5YY/1 黒灰 釉薬：2.5YY/3 淡黄	鎌倉
遺構内	64	105	62	陶器	行平	口縁～体部小（持ち手）	(14.2)	—	< 5.6 >				胎土：5YR/4.5 にぶい褐 釉薬：2.5YY/4 褐灰	鎌倉
遺構内	65	105	62	陶器	鉢	口縁 1/2 ～体部 1/4	(11.2)	—	< 10.4 >				胎土：5YR/1 黒灰 釉薬：鉄釉 5YR/3 淡黄	鎌倉
遺構内	66	105	62	陶器	鉢	口縁 1/8 ～体部小	(24.0)	—	9.5	鉄状文様有り				鎌倉
遺構内	67	105	62	陶器	皿	底部 1/4	—	(8.2)	< 2.1 >	底部：糸切痕	鉄釉		胎土：2.5Y2/1 黒	鎌倉
遺構内	68	105	62	陶器	鉢	口縁～体部 1/4	(9.6)	—	< 6.7 >		鉄釉		胎土：7.5YR/3 褐灰暗	鎌倉
遺構内	69	106	62	陶器	鉢	体部～底部	(8.2)	< 12.7 >	(11.2)	内面：ミガキ	上絵付		胎土：NB/ 灰白	鎌倉
遺構内	70	106	62	陶器	花生	口縁 1/2 ～体部	(4.0)	—	< 8.2 >		鉄釉			鎌倉
遺構内	71	106	62	陶器	鉢	体部 1/2 ～底部	—	(7.4)	< 5.8 >				胎土：10YR/8.7 灰白 外面：10YR/4.5 褐	鎌倉
遺構内	72	106	62	陶器	鉢	口縁 1/4 ～体部小	(5.4)	—	< 4.2 >	外面：石英砂（雲母）			内面：鉄釉 5YR/3 淡黄 外面：鉄釉	鎌倉
遺構内	73	106	62	陶器	蓋不明	体部～底部 1/2	—	11.6	< 2.8 >	底部：孔 底部内面：重ね焼き痕			胎土：10YR/3 黒褐灰	鎌倉
遺構内	74	106	62	陶器	擂鉢	口縁 1/2	(34.2)	(14.0)	14.7		鉄釉		胎土：5YR/1 黒灰	鎌倉
遺構内	75	106	62	陶器	擂鉢	口縁小	—	—	—				胎土：2.5YR/2 暗赤褐	鎌倉
遺構内	76	106	62	陶器	擂鉢	口縁小	—	—	—				胎土：7.5YR/4 にぶい褐	鎌倉
遺構内	77	106	62	陶器	擂鉢	口縁～体部小	(36.4)	—	< 9.3 >				瀬戸焼金彩（長石・石英・黒色粒） 胎土：2.5YR/4 明赤褐	鎌倉
遺構内	78	106	62	陶器	擂鉢	口縁～体部小	—	—	< 3.5 >				瀬戸焼金彩（長石・石英・赤色粒） 胎土：10R/4 赤 釉薬：2.5YR/3.5 暗赤褐	鎌倉
遺構内	79	106	62	陶器	擂鉢	口縁 1/4 ～底部 1/4	—	< 10.0 >	—		鉄釉		胎土：7.5YR/3 黒褐灰	鎌倉
遺構内	80	106	62	陶器	擂鉢	口縁小～底部 1/4	—	11.0	—					鎌倉
遺構内	81	106	62	陶器	擂鉢	口縁小～底部小	—	(16.0)	< 10.3 >		内面：鉄釉		瀬戸焼金彩（長石・石英・黒色粒） 胎土：2.5YR/4 にぶい赤褐	鎌倉
遺構内	82	106	62	土師	羽釜鍋	底部 1/2	—	(7.0)	< 1.8 >				瀬戸焼金彩（雪舟・長石・赤色粒） 胎土：SiO2/Al 比	鎌倉
遺構内	83	106	62	土師	鍋	口縁～底部	—	9.9	< 3.4 >	鍋脚土器（羽釜脚）			雪舟・長石・石英混在 胎土：SiO2/Al 比	鎌倉

（　）復元値　＜　＞残存値

第 11 表　遺物観察表（10）

出土地点	遺物番号	挿図	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長さ(cm)	底径・幅(cm)	器高・厚さ(cm)	調整・特徴	胎土・色調	焼成
遺構内	84	104	62	土師	皿	口縁～底部	7.2	4.1	1.2	内外面：ヨコ　底部回転糸切り、全ヘラ切り	雲母・長石・石英含む　色：7.5YR6/4 にぶい橙	良好
遺構内	85	104	62	土師	皿	口縁 1/4～底部 1/4	(5.3)	(4.2)	1.15	底部回転糸切	細砂粒含む（雲母・黒色）　色：7.5YR6/3 にぶい橙	良好
遺構内	86	104	62	土師	皿	口縁 1/2～底部	(6.4)	(4.0)	1.4	底部回転糸切	色：5YR7/6 橙	良好
遺構内	87	104	62	土師	皿	口縁 1/4～底部 1/4	(6.4)	(4.0)	1.2	底部回転糸切	色：5YR6/6 橙	良好
遺構内	88	104	62	土師	皿	口縁 1/2～底部 1/2	(6.6)	(5.0)	1.4	底部回転糸切	細砂粒含む（雲母・黒色）　色：7.5YR6/4 にぶい橙	良好
遺構内	89	104	62	土師	皿	口縁 1/2～底部 1/3	7.4	5.2	1.4	底部回転糸切	細砂粒含む　色：5YR6/6 橙	良好
遺構内	90	104	62	土師	皿	口縁 1/4～底部	< 7.2 >	< 5.0 >	< 1.7 >	底部糸切		良好
遺構内	91	104	62	土師	坏類	口縁 1/4～底部 1/3	(8.0)	(5.0)	1.8	口縁部：横ナデ	色：7.5YR6/4 橙	良好
遺構内	92	107	62	土師	皿	口縁 1/3～底部 1/2	(7.6)	(5.2)	1.6	底部回転糸切	色：長石・雲母含む　7.5YR6/3 浅橙	良好
遺構内	93	107	62	土師	皿	口縁 1/6～底部 1/4	(8.0)	(5.0)	1.6		色：5YR5/6 橙	良好
遺構内	94	107	62	土師	皿	口縁 1/4～底部	(9.0)	< 6.2 >	< 1.5 >		色：7.5YR7/4 にぶい橙	良好
遺構内	95	107	62	土師	皿	口縁 1/3～底部	< 9.2 >	(4.8)	< 2.0 >		色：7.5YR7/6 黄橙	良好
遺構内	96	107	62	土師	皿	口縁～底部 1/4	(9.0)	(5.0)	< 2.2 >		色：細砂粒含む　10YR7/4 にぶい橙	良好
遺構内	97	107	62	土師	皿	口縁 1/2～底部 1/2	(9.4)	(5.4)	1.7	底部回転糸切	色：細砂粒・長石・雲母・赤色粒含む　7.5YR6/3 にぶい橙	良好
遺構内	98	107	63	土師	皿	口縁 1/2～底部 1/2	(10.0)	(5.4)	2.0	底部回転糸切	色：細砂粒・長石・雲母・赤色粒含む　7.5YR6/6 橙	良好
遺構内	99	107	63	土師	坏類	口縁～底部 1/4	(10.0)	(7.0)	1.7	底部回転糸切　口縁端部研磨	色：5YR6/4 にぶい橙	良好
遺構内	100	107	63	土師	皿	口縁 1/6～底部 1/3	(11.0)	(6.0)	< 2.3 >	底部回転糸切	色：7.5YR7/6 橙	良好
遺構内	101	107	63	土師	皿	口縁～底部 1/4	(12.0)	(8.0)	1.9	底部回転糸切	色：細砂粒・長石・雲母含む　7.5YR6/4 にぶい橙	良好
遺構内	102	107	63	土師	坏類	口縁 1/6～底部 1/6	< 11.2 >	< 8.0 >	< 2.0 >	口縁部研磨		良好
遺構内	103	107	63	土師	皿	口縁～底部 1/3	(12.0)	< 7.0 >	< 2.0 >		色：7.5YR7/6 橙	良好
遺構内	104	107	63	土師	鉢類	胴部	2.6	4.4	1.8	底部回転糸切	色：雲母含む　10YR7/3 にぶい橙	良好
遺構内	105	107	63	土師	鉢類	体部 1/3～底部	(4.8)	3.3	1.7	底部回転糸切	色：長石・雲母含む　7.5YR6/4 にぶい橙	良好
遺構内	106	107	63	土師	不明		5.8	< 1.9 >	1.4		色：長石・雲母・石英・赤色粒　7.5YR6/6 にぶい橙	良好
遺構内	107	107	63	土師	坏	口縁部	—	—	< 4.0 >		色：7.5YR7/6 橙	良好
遺構内	108	107	63	土師	坏	口縁～体部小	—	—	< 4.9 >		色：細砂粒・雲母・赤色粒含む	良好
遺構内	109	107	63	土師	土錘類	口縁部	(27.0)	—	< 6.0 >	孔径：チョウ付近	色：細砂粒・長石・雲母・石英含む　7.5YR6/6 橙　外面：N4/ 黒	良好
遺構内	110	107	63	土師	土錘類	上部	—	—	< 7.2 >	外面縦ナデ	色：細砂粒含む・雲母含む　10YR4/3 にぶい赤褐	良好
遺構内	111	107	63	土師	鍋底?	口縁～	(34.0)	—	< 7.3 >		色：細砂粒含む　7.5YR7/6 橙	良好
遺構内	112	107	63	土師	鍋類	口縁～体部小	(26.0)	—	< 5.5 >		色：細砂粒・長石・雲母含む　10YR6/3 浅黄橙　外面：2.5YR4/1 暗赤	良好
遺構内	113	107	63	土師	七輪類品	脚部?	4.2	4.7	0.9		色：5YR5/4 にぶい赤褐　外面：N3/ 暗赤	良好
遺構内	114	107	63	土師	七輪類品	口縁～底部 1/5	(32.0)	(40.0)	2.7		色：7.5YR6/4 にぶい橙	良好
遺構内	115	107	63	土師	鍋? (鉢?)	体部（口縁小）	—	(12.4)	< 10.5 >		色：細砂粒・長石・雲母含む　5YR6/6 橙	良好
遺構内	116	107	63	土師	土師質	口縁～体部	(35.2)	—	< 7.1 >	外面：ナデ調　内面：ヘラ	色：長石・雲母・石英含む　7.5YR7/4 にぶい橙	良好
遺構内	117	108	63	土師	坏	口縁部	(26.0)	—	< 5.5 >	内外面：ヨコナデ	色：長石含む　5YR6/6 橙～7.5YR6/6 橙	良好
遺構内	118	108	63	土師	鍋	体部小～底部	—	18.0	< 8.5 >		色：細砂粒含む　10R5/6 橙	良好
遺構内	119	108	63	土師	体部小～底部 3/4	体部小～底部 3/4	—	(27.0)	< 13.8 >	外面：ヨコナデ　調整痕　内面：ナデ	色：細砂粒含む　5YR4/6 にぶい赤褐色　外面：10YR3/1 黒褐	良好
遺構内	120	108	63	土師	鍋		—	—	—	外面に「千年温泉用」改装鍋　甲府市柳町村田出土? 内部炭、内面黒化痕	色：7.5YR5/3 にぶい褐　外面：10YR1/ 黒	良好
遺構内	121	108	63	須恵器	壺		—	—	—		色：N5/ 灰	良好
遺構内	122	108	63	土師器	不明	高台部 1/2	—	—	< 4.4 >		色：細砂粒・長石・雲母・赤色粒含む　5YR6/6 橙	良好
遺構内	123	108	63	土師器	土師		2.4	2.1	< 1.8 >		色：7.5YR7/4 にぶい橙	良好
遺構内	124	108	63	土師器	土師	完形	2.3	2.2	2.3		色：5YR7/6 橙	良好
遺構内	125	108	63	土師器	土師	完形	2.6	2.2	2.1		色：5YR5/4 明赤褐	良好
遺構内	126	108	63	土師器	土師	口縁	< 3.5 >	< 1.9 >	< 1.9 >		色：N6/ 灰白	良好
遺構内	127	108	63	石製品	勾玉	完形	2.0	2.0	0.4		N2/ 黒	
遺構内	128	108	63	土師器	勾玉	完形	2.0	2.0	0.6		5YR6/6 橙	良好
遺構内	129	108	63	土師器	土人形（馬）	完形	3.7	5.7	—		5YR6/6 橙	良好
遺構内	130	108	63	土師器	不明		—	—	—		2.5YR5/8 明赤	
遺構内	131	108	63	瓦	丸瓦		(9.1)	(4.0)	1.9		N4/ 灰	良好
遺構内	132	108	63	瓦	平瓦		< 5.5 >	< 3.1 >	1.7	側面：ナデ調	N4/ 灰	良好
遺構内	133	108	63	瓦	桶瓦		< 5.0 >	< 8.2 >	1.6	側面	N5/ 灰	良好
遺構内	134	108	63	瓦	平瓦		< 5.3 >	< 6.1 >	1.7	側面：ナデ調	10R5/6 橙	良好
遺構内	135	109	63	瓦	桶瓦		17.0	13.7	4.2		N4/ 灰	良好
遺構内	136	109	63	瓦	桶瓦		< 19.5 >	< 17.2 >	1.7		N3/ 暗灰	良好
遺構内	137	109	63	瓦	平瓦		21.4	< 11.6 >	1.5		N3/ 灰	良好
遺構内	138	109	63	瓦	平瓦		< 8.9 >	< 8.6 >	2.3		5B5/1 青灰	良好
遺構内	139	109	63	瓦	平瓦		< 6.8 >	< 5.35 >	1.9	側面：ナデ調	10R5/4 にぶい橙褐	良好
遺構内	140	109	64	石製品	砥石		< 7.4 >	2.4	2.0		2.5YR2/2 褐色	良好
遺構内	141	109	64	石製品	砥石		< 7.6 >	2.8	1.5		2.5YR2/3 褐色	良好
遺構内	142	109	64	石製品	砥石		< 8.3 >	5.1	2.6		2.5GY7/1 明オリーブ灰	良好
遺構内	143	109	64	石製品	砥石		< 5.0 >	4.5	0.5	片面	2.5Y7/6 明黄橙	良好
遺構内	144	110	64	金属	古銭		径 2.5		0.1	黒永通宝		
遺構内	145	110	64	金属	古銭		径 2.4		0.1			
遺構内	146	110	64	金属	古銭		径 2.3		0.1	黒永通宝		
遺構内	147	110	64	金属	古銭		径 2.4		0.1	大観通宝		
遺構内	148	110	64	金属	古銭				0.1	黒永通宝		
遺構内	149	110	64	金属	古銭		径 2.4		0.1	黒永通宝		
遺構内	150	110	64	金属	古銭		径 2.4		0.1	黒永通宝		
遺構内	151	110	64	金属	煙管		4.0	径 1.3	径 2.0		2.5GY7/1 明オリーブ灰	
遺構内	152	110	64	金属	煙管		3.3	径 1.1	径 2.0		7.5GY6/1 緑灰	
遺構内	153	110	64	陶器	灯明	口縁部	9.5	9.4	1.9		N6/ 灰白	良好
遺構内	154	110	64	陶子	瓶	口縁 1/2～底部	2.4	3.4	4.9		緑色透明	
遺構内	155	110	64	陶子	瓶	底部	1.8	1.7	4.6	「東京松田製」の文字	透明	
遺構内	156	110	64	陶子	瓶	口縁～底部 1/2	1.5	—	< 7.7 >		透明	
遺構内	157	110	64	陶子	瓶（抜歯）		0.8	1.6	7.8	「DH LOTTON ROHTO A20」の文字（明和＆常豆株式会社）	青色透明	良好
遺構内	158	110	64	陶子	瓶		3.4	1.6	2.3		緑色透明	良好
遺構内	159	110	64	陶子	瓶	完形	3.5	6.5	3.5	底部「たメ鍋」の文字	白色透明	良好
遺構内	160	110	64	陶子	瓶		4.8	4.6	3.1	底部「MUMAN」の文字	N6/ 灰白	良好
遺構内	161	110	64	陶子	瓶	完形	3.5	5.0	4.3		透明	良好
遺構内	162	110	64	陶子	瓶		1.0	3.6	9.1		透明	良好
遺構内	163	110	64	陶子	瓶	完形	1.0	4.5	8.8		透明	良好
遺構内	164	110	64	陶子	瓶	口縁 1/2～底部 1/4	1.6	4.0	18.5	「180 ＣＣ入」の文字	緑色透明	良好
遺構内	165	110	64	陶子	瓶	底部	—	8.1	< 5.5 >	底部「ロ ＋ ＋ ＋ ＋」側面「BOTTLEDMAUMANTEED BY KOTOBUKYALTD」	緑色透明	良好
SK1	136	111	65	木製品	漆器碗		10.5	9.5	0.4	内面のみ黒ソ		
SK1	137	111	65	木製品	曲物底板		径 16.0	—	1.2	上下面切り		
SK1	138	111	65	木製品	円形板		18.0	10.5	0.9			
SK1	139	111	65	木製品	下駄		17.9	8.6	3.6	内面：赤漆　外面：黒漆　歯の磨ヤリ痕		
SK1	140	111	65	木製品	櫛か	片刃のこ	31.7	9.3	2.0	円形の穴　黒漆跡に炭粉あり		
SK1	141	111	65	木製品	櫛か	片刃のこ	30.6	8.3	2.8			
SK1	142	111	65	木製品	棒材	円形のこ、両端に炭粉	24.5	7.6	1.2	片刃のこ痕あり		
SK1	143	111	65	木製品	棒材		52.0	8.5	3.0			
SK1	144	111	65	木製品	棒材		33.5	6.0	1.5			
SK1	145	111	65	木製品	棒材		24.5	5.2	2.5			
SK1	146	111	65	木製品	棒材		22.3	3.1	0.6			
SK1	147	111	65	木製品	棒材		19.8	6.2	0.5			
SK1	17	111	65	木製品	棒材		41.0	3.2	1.0			
SK10	42	111	65	木製品	棒材		17.2	5.5	1.4	端部研磨		
SK10	43	111	65	木製品	棒材		16.3	7.8	0.4			

（　　）復元値　< 　> 残存値

第 12 表　遺物観察表（11）

出土地点	遺物番号	図版	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長（cm）	底径・幅（cm）	器高・厚（cm）	調整・特徴	胎土・色調	焼成
SA18	44	111	65	木製品	機械部か		9.0	3.5	1.5			
SA18	45	111	65	木製品	部材		5.0	1.1	0.4			
SA18	46	111	65	木製品	板材		27.6	11.0	1.0			
SA18	47	111	65	木製品	板材		62.7	12.8	1.3			
SA19	20	112	65	木製品	円形板		19.0	10.2	0.5			
SA19	21	112	65	木製品	板材		10.0	9.6	1.4			
SA19	22	112	65	木製品	板材		21.7	9.0	0.7			
SA21	1	112	65	木製品	板材		32.3	12.8	1.0			
SA22	15	112	65	木製品	箸		11.2	0.5	0.4			
SA22	16	112	65	木製品	機械部		55.0	8.9	1.9	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	17	112	65	木製品	機械部		19.9	10.0	1.9	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	18	112	65	木製品	機械部		17.0	10.7	1.7	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	19	112	65	木製品	機械部		6.8	6.7	1.7	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	20	112	65	木製品	機械部		7.0	9.5	1.8	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	21	112	65	木製品	機械部		18.5	8.8	1.9	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	22	112	65	木製品	機械部		19.0	10.0	1.9	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	23	112	65	木製品	機械部		11.0	8.0	1.7	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	24	112	65	木製品	機械部		14.8	12.5	1.8	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	25	112	65	木製品	機械部		26.2	6.5	1.7	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	26	112	65	木製品	機械部		23.2	8.7	1.8	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	27	112	65	木製品	機械部		38.5	9.8	1.7	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	28	112	66	木製品	機械部		14.2	9.5	1.8	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	29	112	66	木製品	機械部		13.7	7.0	2.0	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	30	112	66	木製品	機械部		21.8	9.0	1.8	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	31	112	66	木製品	機械部		28.5	8.9	1.8	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	32	112	66	木製品	機械部		29.0	7.0	2.0	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	33	112	66	木製品	機械部		23.5	7.3	2.0	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	34	112	66	木製品	機械部		22.0	7.4	2.1	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	35	112	66	木製品	機械部		16.7	8.9	2.0	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	36	112	66	木製品	機械部		20.5	11.4	2.0	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	37	112	66	木製品	機械部		22.0	11.3	1.8	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	38	112	66	木製品	機械部		22.8	7.2	1.9	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	39	112	66	木製品	機械部		22.8	7.5	1.8	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	40	112	66	木製品	機械部		11.0	7.5	2.1	16~40 丈で四~の穴の痕跡		
SA22	41	113	66	木製品	機部材		15.2	29.0	2.6	41~43 で一組の痕跡		
SA22	42	113	66	木製品	機部材		15.9	18.5	2.6	41~43 で一組の痕跡		
SA22	43	113	66	木製品	機部材		19.1	18.3	2.8	41~43 で一組の痕跡		
SA22	44	113	66	木製品	箸か		3.7	0.4	0.4			
SA26	8	116	66	木製品	機械部		12.5	8.2	0.7			
SA26	9	113	66	木製品	板材		22.5	5.5	0.4			
SA26	10	113	66	木製品	部材		42.5	4.0	3.5	釜四角の寸法　若条か		
SA26	11	113	66	木製品	部材		31.8	3.5	1.0	若上ハ四条か		
SA26	12	113	66	木製品	円形板		径 10.6	—	0.6	金属の痕跡あり		
SA26	13	113	66	木製品	下駄		20.5	6.8	2.4	釜四角の寸法		
SA26	14	113	66	木製品	櫛		23.7	17.3	0.7			
SA30	1	113	66	木製品	下駄		20.6	8.7	2.3			
SA30	2	113	66	木製品	下駄		17.7	7.7	2.3			
SA30	3	113	66	木製品	下駄		20.4	7.5	2.3			
SA30	4	113	66	木製品	下駄		19.8	7.5	1.5			
SA30	5	114	66	木製品	板材		5.5	5.2	1.4	片面研ぎ		
SA30	6	114	66	木製品	板材		4.8	6.8	1.2			
SA30	7	114	66	木製品	棒材		21.0	0.8	0.7	端か　一端部折損大形、他方端部欠八角形		
SA33	5	114	67	木製品	機械部		17.0	6.8	1.0	残平		
SA33	6	114	67	木製品	機械部		15.1	14.0	0.9	残平 2 片		
SA33	7	114	67	木製品	機械部		13.2	7.8	1.0	残平		
SA33	8	114	67	木製品	機械部		8.2	8.7	1.1	残平		
SA33	9	114	67	木製品	機械部		5.8	3.0	0.8	残欠		
SA33	10	114	67	木製品	機械部		9.8	7.0	0.9	残平 2 片		
SA33	11	114	67	木製品	機械部		7.0	8.4	0.9	残平 2 片		
SA33	12	114	67	木製品	板材		6.5	3.1	0.8			
SA33	13	114	67	木製品	機械部		7.4	4.5	0.6			
SA33	14	114	67	木製品	機械部		6.0	3.2	0.6			
SA33	15	114	67	木製品	機械部		6.2	3.0	0.8			
SA33	16	114	67	木製品	機械部		5.0	8.4	0.6			
SA33	17	114	67	木製品	機械部		4.0	3.0	0.4			
SA33	18	114	67	木製品	機械部		6.2	8.4	1.0			
SA33	19	114	67	木製品	機械部		5.5	5.5	1.1			
SA33	20	114	67	木製品	機械部		4.5	9.8	0.8	残欠 2 片		
SA33	21	114	67	木製品	機械部		8.3	7.4	1.3			
SA33	22	114	67	木製品	機部材		40.0	20.0	1.7	M20 ~ 22 部材 1 ヨリ		
SA33	23	114	67	木製品	機部材		40.0	14.0	1.7ヶ			
SA33	24	114	67	木製品	機部材		31.0	8.5	2.6			
SA35	4	115	67	木製品	円形板		10.5	7.3	0.6			
SA35	5	115	67	木製品	円形板		17.0	3.0	0.8	機部欠か		
SA35	6	115	67	木製品	機械部		12.7	12.0	0.9			
SA35	7	115	67	木製品	箸		13.0	0.5	0.4			
SA35	8	115	67	木製品	板材		39.8	12.2	2.2	一部面に若条か		
SA35	9	115	67	木製品	板材		30.4	15.6	2.0			
SA35	10	115	67	木製品	板材		24.8	7.5	2.0	若条か		
SA35	11	115	67	木製品	板材		30.5	22.5	2.0			
SA35	12	115	67	木製品	板材		22.3	18.0	4.2	若条か		
SA35	13	115	67	木製品	板材		43.0	13.0	4.0			
SA35	14	115	67	木製品	部材		8.8	6.9	5.5	角柱状　一端に細い溝とあり		
SA35	15	115	67	木製品	部材		15.2	7.1	6.0	角柱状		
SA35	16	115	67	木製品	部材		16.3	7.3	5.6	角柱状		
SA35	17	115	68	木製品	機械部		39.0	14.0	2.4			
SA35	18	115	68	木製品	機械部		39.3	14.0	2.2			
SA35	19	115	68	木製品	機械部		36.0	14.1	2.0			
SA35	20	115	68	木製品	機械部		38.0	14.5	2.0			
SA35	21	115	68	木製品	機械部		44.0	14.0	2.2			
SA35	22	115	68	木製品	機械部		42.3	14.2	1.9			
SA35	23	115	68	木製品	機械部		36.0	14.0	2.0			
SA35	24	115	68	木製品	機械部		44.3	14.5	1.9			
SA35	25	115	68	木製品	機械部		40.9	14.3	2.0			
SA35	26	116	68	木製品	機械部		43.3	14.0	2.2			
SA35	27	116	68	木製品	機械部		45.0	15.4	2.0			
SA35	28	116	68	木製品	機械部		43.3	14.0	2.1			
SA35	29	116	68	木製品	機械部		30.5	14.0	2.2			
SA35	30	116	68	木製品	機械部		30.7	14.1	1.9			
SA35	31	116	68	木製品	機械部		30.6	12.5	2.1			
SA35	32	116	68	木製品	機械部		40.0	14.3	2.2			
SA35	33	116	68	木製品	機械部		40.5	14.3	1.9			
SA35	34	116	68	木製品	機械部		37.8	14.1	2.0			
SA35	35	116	68	木製品	機械部		51.0	13.3	2.1			

（　）現元値　＜　＞残存値

第13表　遺物観察表（12）

出土地点	遺物番号	検出	写真図版	種別	器種	部位	法量 口径・長（cm）	底径・幅（cm）	最高・厚（cm）	調整・特徴	胎土・色調	備考（特徴）	焼土・色調	備考
S633	36	116	68	木製品	幅広板		63.8	16.5	2.8					
S635	37	116	68	木製品	幅広板		78.6	21.0	3.5	37～40 で切取り痕				
S635	38	116	68	木製品	幅広板		78.2	14.5	3.0	37～40 で切取り痕				
S635	39	116	68	木製品	幅広板		75.0	19.5	2.9	37～40 で切取り痕				
S635	40	116	68	木製品	幅広板		58.5	15.2	2.0	37～40 で切取り痕				
S636	6	117	69	木製品	加工木		129.0	6.5	8.0	断面コの字状穴抜け あり　樹合可				
S636	7	117	69	木製品	板材		69.2	7.0	3.5	一側面に切り込みが 5 条あり				
S636	8	117	69	木製品	板材		37.6	4.2	1.3					
S641	3	117	69	木製品	部材		4.8	2.4	1.8					
S641	4	117	69	木製品	板材		9.0	5.5	1.5	釘あり				
S645	5	117	69	木製品	幅狭板		27.0	11.0	1.6	残欠 2 片				
S645	6	117	69	木製品	幅広板		44.8	9.7	2.5	他 1 片				
S645	7	117	69	木製品	幅狭板		52.0	13.5	1.8					
S645	8	117	69	木製品	幅狭板		17.2	9.0	1.7	他 1 片				
S645	9	117	69	木製品	幅狭板		16.0	4.2	1.8	他 1 片				
S645	10	117	69	木製品	幅狭板		22.5	13.8	1.6					
S645	11	117	69	木製品	幅狭板		27.5	12.5	1.6					
S645	12	118	69	木製品	幅狭板		22.2	12.5	1.8					
S645	13	118	69	木製品	幅狭板		8.7	4.0	1.9					
S645	14	118	69	木製品	幅狭板		8.4	3.5	1.6					
S645	15	118	69	木製品	幅狭板		7.9	9.2	1.8					
S645	16	118	69	木製品	幅狭板		28.2	6.2	1.8					
S645	17	118	69	木製品	幅狭板		18.0	7.7	1.6					
S645	18	118	69	木製品	幅狭板		29.7	9.0	1.3					
S645	19	118	69	木製品	幅狭板		33.6	13.2	1.6					
S645	20	118	69	木製品	幅狭板		29.5	13.0	1.7					
S645	21	118	69	木製品	幅狭板		26.5	13.5	2.0					
S645	22	118	69	木製品	幅狭板		9.9	9.0	1.6					
S645	23	118	69	木製品	幅狭板		13.5	9.0	1.5					
S645	24	118	69	木製品	幅狭板		14.2	4.7	1.3					
S645	25	118	69	木製品	幅狭板		12.7	4.8	1.5					
S645	26	118	69	木製品	板材		11.5	6.0	1.6					
S645	27	118	69	木製品	板材		14.4	3.9	1.6					
S649	1	119	69	木製品	板材		6.2	3.0	1.0					
S650	7	119	69	木製品	幅狭板か		12.0	12.2	1.1					
S650	8	119	69	木製品	幅狭板か		9.8	6.2	1.4					
S650	9	119	69	木製品	幅狭板		19.8	5.5	1.8					
S650	10	119	69	木製品	幅狭板		26.0	4.5	1.5					
S650	11	119	69	木製品	幅狭板		27.2	8.4	1.4					
S650	12	119	69	木製品	幅狭板		27.8	8.5	1.6					
S650	13	119	69	木製品	幅狭板		25.3	6.8	1.2					
S650	14	119	69	木製品	幅狭板		60.0	9.5	1.9					
S650	15	119	69	木製品	幅狭板		56.2	8.5	1.4					
S650	16	119	69	木製品	幅狭板		13.8	9.7	1.4					
S650	17	119	69	木製品	幅狭板		34.1	7.8	1.7					
S650	18	119	69	木製品	幅狭板		11.9	9.0	1.3					
S650	19	119	69	木製品	幅狭板		30.0	5.0	1.8					
S650	20	119	69	木製品	幅狭板		47.5	8.0	1.9					
S650	21	119	69	木製品	幅狭板		41.2	14.8	2.4					
S650	22	119	70	木製品	幅狭板		90.1	11.5	2.2	井戸側転用材				
S650	23	119	70	木製品	幅狭板		90.2	14.2	2.3	井戸側転用材				
S650	24	119	70	木製品	幅狭板		90.5	15.2	3.0	井戸側転用材				
S650	25	119	70	木製品	幅狭板		91.2	14.3	2.6	井戸側転用材				
S650	26	119	70	木製品	幅狭板		90.7	13.3	2.8	井戸側転用材				
S650	27	120	70	木製品	幅狭板		90.5	14.7	2.8	井戸側転用材				
S650	28	120	70	木製品	幅狭板		90.5	13.0	2.8	井戸側転用材				
S650	29	120	70	木製品	幅狭板		90.0	13.5	2.3	井戸側転用材				
S650	30	120	70	木製品	幅狭板		90.5	13.7	2.8	井戸側転用材				
S650	31	120	70	木製品	幅狭板		91.0	14.0	3.0	井戸側転用材				
S650	32	120	70	木製品	幅狭板		90.3	13.8	2.5	井戸側転用材				
S650	33	120	70	木製品	幅狭板		90.5	14.5	2.8	井戸側転用材				
S650	34	120	70	木製品	幅狭板		90.1	14.8	2.3	井戸側転用材				
S650	35	120	70	木製品	幅狭板		89.5	14.0	2.6	井戸側転用材				
S650	36	120	70	木製品	幅狭板		90.8	14.0	2.3	井戸側転用材				
S650	37	120	70	木製品	幅狭板		90.3	14.4	2.9	井戸側転用材				
S650	38	121	71	木製品	部材		152.0	径 9.0	–	樹合物穴付き				
S653	1	121	71	木製品	円形板		24.6	10.0	1.0	樹皮残か				
S653	2	121	71	木製品	幅狭板か		9.3	6.0	0.8					
S653	3	121	71	木製品	下駄		21.2	4.0	2.5					
S656	1	121	71	木製品	幅狭板		68.0	9.3	2.8	木釘残か　井戸側転用材				
S656	2	121	71	木製品	幅狭板		70.0	9.0	2.7	木釘あり				
S656	3	121	71	木製品	幅狭板		60.7	7.3	2.6					
S656	4	121	71	木製品	板材		62.8	6.6	2.6					
S656	5	121	71	木製品	幅狭板		60.5	6.5	2.6					
S656	6	121	71	木製品	幅狭板		67.3	11.5	2.6					
S656	7	121	71	木製品	幅狭板		70.0	12.0	2.7					
SP07	4	122	71	木製品	板材		118.0	12.5	7.5	先端研磨				
SP27b	1	122	71	木製品	柱（基礎か）		8.0	6.8	5.4	角柱状				
SP27b	1	122	71	木製品	柱（基礎か）		11.2	5.3	3.0	角材				
S24	38	122	71	木製品	板材		14.5	7.8	1.3					
S24	39	122	71	木製品	板材		48.0	12.2	2.0					
S24	40	122	71	木製品	板材		12.9	8.1	2.2					
S25	16	122	71	木製品	円形板		径 9.2	–	0.7	樹合可				
S25	17	122	71	木製品	円形板		径 11.5		0.6	樹皮・元あり				
S25	18	122	71	木製品	幅狭板		23.8	18.6	0.6	刻印か樹皮あり				
S25	19	122	71	木製品	幅狭板		20.5	3.0	0.6					
S241	4	122	71	木製品	板材		31.4	17.8	1.0					
S211	5	122	71	木製品	部材		18.7	4.3	3.0			ホゾ穴 2 ヶ所		

（　　）復元値　＜　＞残存値

第５章　まとめ

第１節　土地利用の変遷（第 123 ～ 131 図）

調査地点の土地利用の変遷を見てみる。調査地点は二の堀片羽町口の南に位置し、町方の四九町に属さない郭外の武家地の一つであるが、当時は武家屋敷が点在し空地も目立っていたという。甲府城下町期は代官町と呼ばれた。「…大久保石見守ノ時府城新築成就セシカバ代官町佐渡町ニ移應所後復發之カ…」（『甲斐国志』人物部第八、蔵前衆）とあり、「代官町　旧郭外武家屋敷地。慶長中大久保長安治所を置き、代官衆居住地たりしが故に名称となれり」（『甲州府中聞書』）（『甲府市史　通史編第二巻近世』）と記述されている。その他調査地点周辺には、調査区の南に位置する光澤寺をはじめ多くの寺院が分布していた。

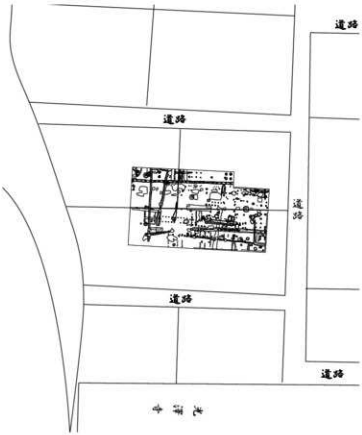
調査地点の状況は、甲府城下町の古絵図で確認する事が出来るが、その最も古い時期と思われる絵図は第 123 図（『甲斐府中（『諸国当城之図』）（浅野文庫　広島市立中央図書館）である。図中の「片場丁」は柳沢期の新城下町に伴い「片羽町」改められた。調査地点を絵図で確認してみると、調査区の東側を通る道路はあるが、調査地点に区画された状況を見ることは出来ない。南には「長延寺」の名称が確認出来る。第 124 図は甲府城下町の柳沢期の絵図をトレースし、今回の調査区を合成した図である。合成するにあたっては区画の距離等を参考にしたが、必ずしも正確な位置ではない。図中北西角、川の分岐点に城代柳沢隼人の名前を冠する名称や、調査区付近では４名の氏名が確認できる。さらに、図の北端には御樹木畑があり、この時期、すべての区画が屋敷地として利用されていた訳ではない。南には光澤寺が確認できる。調査地点は、武家屋敷地として東西３～４区画に分かれている。

第 123 図「甲斐府中（『諸国当城之図）』」トレース図
（浅野文庫　広島市立図書館）
＊一部切抜きトレース

第 124 図「柳沢期ノ甲府ノ郭内郭外図」トレース図
（宝永７（1710）～享保９（1724）年）
（山梨県立図書館蔵）　＊一部切抜きトレース

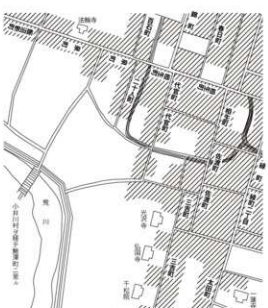
次に勁番期の絵図を紹介する。第 125 図は「甲府城下絵図」（仮目録番号 8012）大和郡山市教育委員会所蔵・提供）をトレースし、第 124 図と同様調査区を合成した図である。屋敷地として利用されているが、東西 1 ～ 2 区画となり柳沢期と比べると減少している。第 126 図は「元文三年甲府城下町絵図」のトレース図である。区画は変動しており調査区周辺は空地が目立つ。

第 127 図は明治 29 年の地図をトレースしたものである。中央やや下に光沢寺が位置している。調査地点はその北側の区画内にあたる。



第 125 図「甲府城下絵図」トレース図（仮目録番号 8012）
（大和郡山市教育委員会所蔵・提供）
＊一部切抜きトレース

第 126 図「元文三年甲府城下町絵図」
トレース図
（元文 3（1738）年）（坂田家蔵）
＊一部切抜きトレース

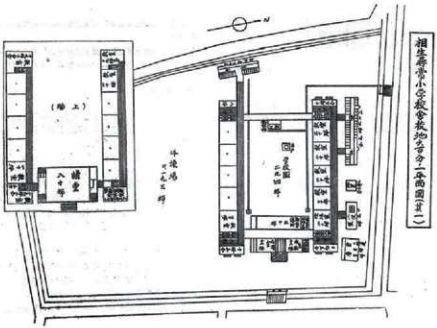


第 127 図『改正新刻甲府市街全図』（明治 29 年）
トレース図
（『甲州文庫』）＊一部切抜きトレース

明治 42 年に相生尋常小学校が建設される以前は一面田畑が広がっている状況であったが、同年、現在の地に相生尋常小学校として開校された。第 128 図は落成記念の絵はがきで正面玄関に対して南東方向から撮影されたものと思われる。写真左側がグラウンドに当たる。第 129 図の平面図は当時の校舎の様子である。敷地は四千坪の広さがあった。

第 130 図は大正 2 年の写真で西から撮影されたもので、映っている校舎の南側がまさしく今回の調査区域にあたる。校舎は昭和 20(1945) 年の空襲によって失われたが、昭和 22(1947) 年、竜王村所在の田中航空機計器の軍需工場の建物が現在地に移築された。昭和 25(1950) 年には念願の新校舎が建設された。

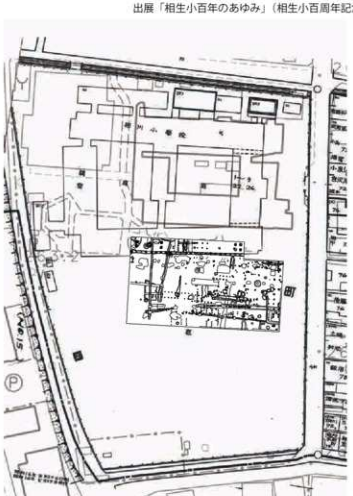
第 128 図「相生尋常小学校落成記念」絵はがき（明治 42(1909) 年）
出展「山梨デジタルアーカイブ（山梨県立図書館）」



第 129 図「相生尋常小学校校舎地六百分ノ一平面図（其一）」
（出展「相生小百年のあゆみ」相生小百周年記念行事実行委員会）

今回の調査では校舎の基礎が検出されたが、図 131 は昭和 16 年の図面に今回の調査区を合成したものである。東西の方向がほぼ一致している事からこの時期の校舎の基礎と考えて良いと思われる。

第 130 図「相生子守学校　遊戯風景」（写真）（大正貳年九月十九日寫）
出展「相生小百年のあゆみ」（相生小百周年記念行事実行委員会）



第 131 図「商都甲府市家屋図」（昭和 16 年）と調査区合成図

第２節　遺構について（第 132・133 図）

旧相生小学校地点では、遺物集中地点１地点、建物跡４軒、土坑 56 基、ピット列 16 列、溝状遺構 23 条などの遺構を検出した。主要な遺構について、あらためて検討を加え、まとめとしたい。

調査区西側の遺物集中地点（ＳＸ１）では、多様な遺物が出土した。日常的に生じるゴミを廃棄した場所とみられ、土器や陶磁器の様々な器種に加えて、木製品や石製品、食用のシジミ貝などが出土している。土壌試料の微細物分析では、モモ核やオオムギの炭化種子も検出された。また、ＳＸ１は、遺構の重複が少なく、混入遺物は少ないと考えられた。出土遺物には、江戸時代後半のある一定期間の武家屋敷地の日常生活が色濃く反映されているとみられ、ここでは試みに器種別の推定個体数を算出した。推定個体数は、報告書に掲載した器種別の点数と、非掲載とした遺物の底部残存率から算出した個体数を足した数字である。底部残存率による個体数の算出方法は、新宿区内藤町遺跡の報告の方法を参考とした。器種分類は、細分せず「碗」・「皿」など大きな分類を用いた。土器皿には、かわらけも含まれるが一括して皿とした。陶器・土器ともに灯明皿は煤の付着などで明確に分かるものを灯明皿とし、他は皿と分類した。瓦は、桟瓦と区別がつかないものについては平瓦に含めた。

磁器	碗	坏	蓋	皿	瓶	仏飯器	鉢	段重	香炉	灰吹き										
推定個体数	109	2	27	21	10	5	4	1	1	1										
陶器	碗	皿	灯明皿	灯明受皿	薬壜	瓶	土瓶	土瓶蓋	行平	片口	擂鉢	鉢	仏飯器	徳利	甕	壺	灰吹き	香炉	合子	水注
推定個体数	66	21	8	5	2	6	33	7	1	1	22	6	3	4	2	3	1	1	1	1
土器	皿	灯明皿	瓦灯	火鉢類	焜炉	炮烙	鉢	焼塩壺		灰	軒瓦	丸瓦	平瓦	桟瓦						
推定個体数	24	5	2	21	2	14	3	3		2	16	22	18							
土製品	碁石	土鈴		木製品	漆器碗	曲物	門形板	下駄	縦杵か	印鑑か	石製品	硯石	碁			金属製品	手明金具			
個体数	1	1		個体数	1	1	1	1	2	6	個体数	7	2			個体数	2			

陶器・磁器の碗が最も多い。次いで碗の蓋、皿、土瓶、擂鉢、火鉢類や焙烙など実用的な日用品がつづく。坏（薄手酒坏）や徳利、灰吹き、香炉は少ない。単純比較となるが、参考までに甲府城下町遺跡（日向町遺跡第２地点）の第４号溝状遺構（幕末期）と比べると、磁器碗の蓋の数量の割合が特に高い。

建物跡のうち、ＳＢ１では、その建物下とみられる場所から地鎮具と考えられる灯明受皿と水晶および木質遺物のセットが出土した。５点の灯明受皿が、十字形に伏せられた状態で据えられており、皿を返すと、４枚の下から水晶片が出土し、１枚からは木質遺物が出土した。木質遺物については乾燥収縮しており何であったか不明である。皿では、底面に墨書様の痕が残る個体もあるが、赤外線カメラ等の観察でも判読はできなかった。遺物の時期は、近代と推測する。

土坑 56 基のうち、６基は井戸（ＳＫ３・11・36・43・50・56）、５基は埋桶（ＳＫ 22・33・35・45・53）、１基が埋甕（ＳＫ 25）である。また、ＳＫ 26・30 は、底面が湧水層に達しておらず、井戸としなかったが、埋土に滞水の痕跡があり水溜井戸として機能していた可能性がある。その他の土坑では、調査区の東側で廃棄土坑と考えられる土坑群を検出した。ＳＫ 18・19 は、平面形が方形で、深さ 60cm ほどに掘られた大型土坑である。埋土に炭化物が多く含まれ、瓦をはじめとする多量の出土遺物は２次焼成を受けたとみられるものが多く、火災などで生じた瓦礫を短期間の内に廃棄した土坑と考えられた。周辺で検出されたＳＫ 13・23 なども規模ははるかに小さいが、同時期に瓦礫を廃棄したものと考えられる。ＳＫ 13 では、瓦に混じって面摸や土製の人面・石筆なども出土している。また、金属の熔融物の付着する碗形容器がＳＫ 18・19 を中心とした遺構から出土しており、周辺では何らかの金属加工が行われていたとみられる。熔融物の元素マッピング分析では、銅・亜鉛・スズ・鉛を中心とする組成が確認され、真鍮や青銅など複数種類の銅合金の熔解に使用された可能性が指摘されている。碗形容器については流通品にはあまりない形状で、転用ではなく、金属加工専用に作成された容器の可能性もある。ＳＫ 18・19 の遺構の時期・碗形容器の時期は近代と考えられるが、現時点では文献資料等から金属加工の具体的な内容を特定できていない。今後の課題としたい。

ピット列では、その遺構の配置から、ピット列３がＳＢ２、ピット列６・７がＳＢ４と同時期に機能していたと考えられた。時期は、それぞれ近代とみられる。

溝状遺構では、ＳＤ４・10は軸方向が異なるものの、それぞれ江戸時代後半の遺物が出土した。ＳＤ５・６は、軸方向が同一で、出土遺物からは埋没したのは近代であることが分かる。ＳＤ22は、遺構の詳細な性格は不明であるが、底面で礫が検出され、その面が硬く締まっていることから道や堤の基礎とも考えられた。軸方向ではＳＤ10と同一である。

出土遺物では、近世・近代がほとんどであるが、わずかに土師器高坏や須恵器甕など古墳時代の遺物が出土している。

最後に、遺構間接合遺物、土壌分析による古植生（第６章）、本文中で記載してきた切り合いや遺構の軸方向などから旧相生小学校地点で検出した遺構の時期変遷を概観したい。遺構間で接合した遺物のうち、報告書内で図示したものについて列挙する。なお、第132図で図示している出土位置は、概ねの位置であり正確な位置を示したものではない。

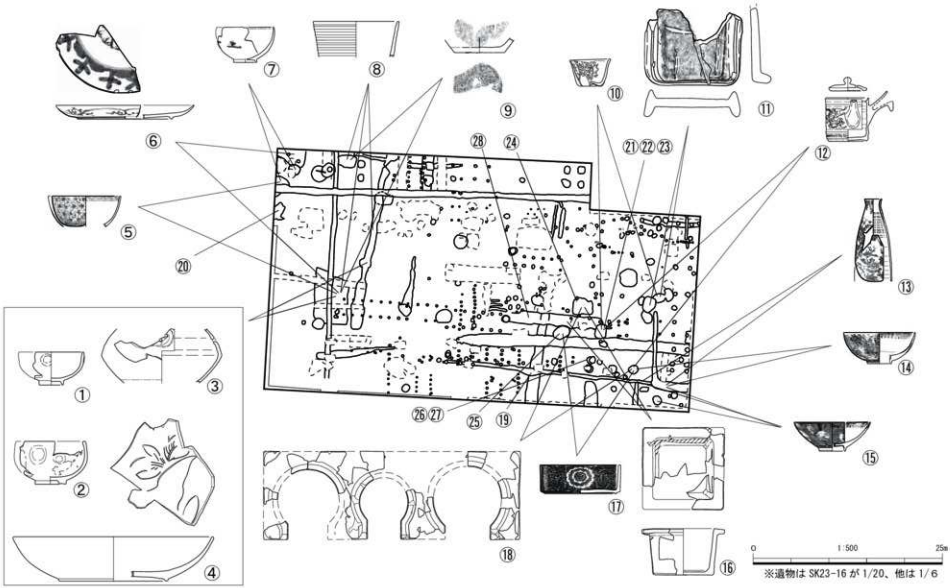
番号	接合関係にある遺構番号	報告書遺物No	器種	備考
①	ＳＸ１・ＳＤ10	SX1-145	陶器碗	弁骨形
②	ＳＸ１・ＳＤ10	SX1-146	陶器碗	弁骨形
③	ＳＸ１・ＳＤ10	SX1-201	陶器土瓶	
④	ＳＸ１・ＳＤ10	SD10-5	陶器皿	
⑤	ＳＸ１・ＳＫ55	SK55-2	磁器碗	
⑥	ＳＸ１・ＳＫ52	SK52-13	磁器皿	
⑦	ＳＫ61・ＳＫ55	SK51-2	磁器碗	
⑧	ＳＸ１・ＳＫ47・ＳＤ10	SK47-3	陶器碗	
⑨	ＳＫ47・ＳＸ１	SK47-6	陶器擂鉢	
⑩	ＳＫ２・ＳＫ18	SK2-2	陶器碗	蓮月焼
⑪	ＳＫ２・ＳＫ３	SK3-4	土器皿	
⑫	ＳＫ23・ＳＫ18	SK23-7	陶器急須	
⑬	ＳＤ２・ＳＤ６	SD6-7	磁器徳利	
⑭	ＳＫ23・ＳＤ２	SD2-2	磁器碗	型紙摺り
⑮	ＳＤ２・ＳＫ13	SD2-4	磁器碗	型紙摺り
⑯	ＳＫ19・ＳＤ５	SK19-12	砂形土器	
⑰	ＳＫ23・ＳＫ26	SK23-6	磁器湯呑	
⑱	ＳＫ19・ＳＫ23	SK23-26	硯き皿	

次に接合関係にはないが、遺物の性格や特徴が限定的で、廃棄または埋没時期の同時性が高いと考えられる遺物を以下に示す。

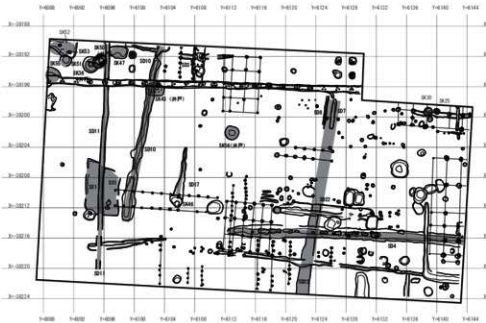
番号	器種	報告書遺物No	備考
⑲	陶器碗（蓮月焼）	SK2-2	上記表中⑩と同一。煎茶器。
⑳	陶器碗（蓮月焼）	SD6-8	煎茶器。⑩と同型品。
㉑	陶器擂鉢（蓮月焼）	SK48-4	煎茶器。
㉒	陶器碗形容器	SK18-13	金属の溶融物が付着する容器。
㉓	陶器碗形容器	SK18-15	金属の溶融物が付着する容器。
㉔	陶器碗形容器	SK18-16	金属の溶融物が付着する容器。
㉕	陶器碗形容器	SK19-8	金属の溶融物が付着する容器。
㉖	陶器碗形容器	SK26-1	金属の溶融物が付着する容器。
㉗	陶器碗形容器	SK40-1	金属の溶融物が付着する容器。
㉘	陶器碗形容器	SK41-1	金属の溶融物が付着する容器。
㉙	陶器碗形容器	SK41-2	金属の溶融物が付着する容器。
㉚	陶器碗形容器	SD5-4	金属の溶融物が付着する容器。
㉛	陶器碗形容器	SD5-5	金属の溶融物が付着する容器。

土壌試料の古植生復元では、ＳＫ25・36・43・56ではスギ属とコナラ属コナラ亜属が優占し、ＳＤ４・ＳＤ10・ＳＫ33・ＳＫ35でマツ属複維管束亜属が優占する。前者の方が古く、その画期は19世紀である可能性が指摘されている。

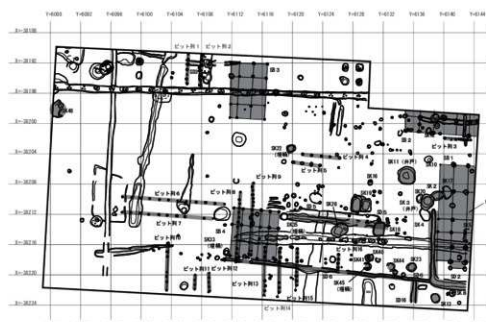
以上の点とそれぞれの遺構の出土遺物や切り合い関係、軸方向などを検討して作成したのが第133図である。江戸時代前半に位置づけられる遺構はない。江戸時代後半の甲府勤番期の時期では、ＳＸ１やＳＫ36・43・47・52・56とＳＤ10・22などがより古い時期にあり、軸方向が延長線上で直角に交わるＳＤ４・ＳＤ11の時期が続くとみられる。幕末から近代または近代まで存続したみられる遺構群は主に調査区の東側に位置しており、ＳＤ５・６およびＳＢ３・４の軸方向の時期と、現在の区割りの軸方向に近いＳＤ２およびＳＢ１・２の時期がある。



第 132 図　遺構間接合遺物・蓮月焼・碗形容器出土位置



江戸時代後半（甲府勤番期）



幕末～近代

0　1:500　25m

第 133 図　遺構の時期変遷

引用・参考文献

江戸遺跡研究会編　2001『図説　江戸考古学研究辞典』柏書房

九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年』

郷土出版社　1990『目で見る　甲府の 100 年』

黒岩俊郎　1991『金属の文化史』技術文化ブックス

甲府市役所　1918『甲府略史』

甲府市教育委員会　2001『甲府城下町遺跡Ⅰ』(甲府市文化財調査報告 15)

甲府市教育委員会　2002『甲府城下町遺跡Ⅱ』(甲府市文化財調査報告 19)

甲府市教育委員会　2006『甲府城下町遺跡Ⅲ』(甲府市文化財調査報告 33)

甲府市教育委員会　2007『甲府城下町遺跡Ⅳ』(甲府市文化財調査報告 39)

甲府市教育委員会　2009d『甲府城下町遺跡Ⅴ』(甲府市文化財調査報告 52)

甲府市教育委員会　2013『甲府城下町遺跡Ⅸ』(甲府市文化財調査報告 64)

甲府市教育委員会　2013『甲府城下町遺跡Ⅹ』(甲府市文化財調査報告 66)

甲府市教育委員会　2014『甲府城下町遺跡Ⅺ』(甲府市文化財調査報告 69)

甲府市教育委員会　2001b『秋山氏館跡』(甲府市文化財調査報告 16)

甲府市教育委員会　2004『甲府市内遺跡Ⅰ－昭和 61 年度～平成 5 年度試掘調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 26)

甲府市教育委員会　2005『甲府市内遺跡Ⅱ－平成 6 年度試掘調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 29)

甲府市教育委員会　2006『甲府市内遺跡Ⅲ－平成 7・8 年度試掘調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 31)

甲府市教育委員会　2007『甲府市内遺跡Ⅳ－平成 9 ～ 10 年度試掘調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 35)

甲府市教育委員会　2008『甲府市内遺跡Ⅴ－平成 11 ～ 12 年度試掘調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 38)

甲府市教育委員会　2009『甲府市内遺跡Ⅵ－平成 13 ～ 14 年度試掘調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 41)

甲府市教育委員会　2010『甲府市内遺跡Ⅶ－平成 15 ～ 16 年度市内遺跡試掘調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 49)

甲府市教育委員会　2011『甲府市内遺跡Ⅷ－平成 17 ～ 18 年度試掘調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 59)

甲府市教育委員会　2013『甲府市内遺跡Ⅸ－平成 19 ～ 20 年度試掘確認調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 63)

甲府市教育委員会　2014『甲府市内遺跡Ⅹ－平成 21・22 年度試掘確認調査報告書－』(甲府市文化財調査報告 68)

甲府市市史編纂委員会　1987『甲府市史　史料編　第 3 巻　近世Ⅱ（町方 2）』

甲府市市史編纂委員会　1987『甲府市史　史料編　第 4 巻　近世Ⅲ（町方 3）』

児玉幸多　1972「甲府道中宿村大概帳　六」『近世交通史料集六　日光・奥州・甲州　道中宿村大概帳』吉川弘文館

新宿区内藤町遺跡調査会　1992『内藤町遺跡』

新宿区内藤町遺跡調査会　1993『江戸のやきものとくらし』

桜井準也　2006『ガラス版の考古学』六一書房

外山秀一　2004「甲府盆地の地形環境の変化と人間の活動」『山梨県史研究　第 12 号』

西田宏子・大橋康二　1988『日本のこころ 63　古伊万里』別冊太陽

山梨県教育委員会　1995『甲府城下町遺跡』

山梨県教育委員会　1998『鰍沢河岸跡－明神白子地区埋蔵文化財発掘調査－』(山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 148 集)

山梨県教育委員会　2000『宮沢中村遺跡』(山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 181 集)

山梨県教育委員会　2004a『甲府城下町遺跡－甲府駅周辺土地区画整理事業地内 43 街区埋蔵文化財発掘調査報告書－』

山梨県教育委員会　2004『甲府城下町遺跡（日向町遺跡第 2 地点）』(山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 220 集)

山梨県教育委員会　2005『県指定史跡甲府城（上巻）（下巻）』(山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 222 集)

山梨県教育委員会　2008『甲府城下町遺跡（北口県有地）』(山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 258 集)

第６章　自然科学分析

第１節　土壌分析

（１）甲府城下町遺跡（旧相生小学校地点）の花粉分析と寄生虫卵分析

森　将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡（旧相生小学校地点）では江戸後期～近代の遺物・遺構が出土しており、その中にはトイレ遺構の可能性が疑われる甕や桶もある。発掘調査に際して、遺跡周辺の古植生を検討する目的で堆積物が、トイレ遺構の可能性を探るため甕や桶などの遺物内堆積物が採取された。以下では花粉分析と寄生虫卵分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生やトイレ遺構の可能性について検討した。

2. 試料と分析方法

分析試料は、土坑や溝から採取された計８点である（表 1）。花粉分析については全ての試料を対象とした。寄生虫卵分析については、SK25（埋甕）と SK33（埋桶）、SK35（埋桶）を分析に供した。これらの試料について、以下の手順に従って分析を行った。

表1　分析試料一覧表

No.	遺構名	出土地点	備考	花粉	寄生虫卵
1-1	SK25	甕内	甕棺	○	○
1-4	SK33	三階上	埋桶	○	○
1-6	SK35	二階	埋桶	○	○
1-10	SK50	東広場北-1.0m	土坑	○	○
1-15	SK61	二階	土坑、上層部分、木製の蓋状の物で覆んだ状態以上	○	-
1-20	SK68	東広場北-1.0m	土坑、土坑の上部から底、下段三段の底、サンプルは最のとまれた状態で採取したもの。	○	-
1-27	SK81	二階	不明遺構、江戸時代後半の遺物が出土、地元方向による。	○	-
1-33	SK6	P-2	不明遺構、東西方向による。江戸時代後半の遺物が出土。	○	-

2-1. 花粉分析

試料（湿重量約 3g）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え 10 分間湯煎する。水洗後、46%のフッ化水素酸を加え 1 時間放置する。水洗後、比重分離（比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。その後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の割合の混酸を加え 20 分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が 200 を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC. 1462～1472）を作製し、写真を図版に載せた。

2-2. 寄生虫卵分析

計量した試料に、花粉分析と同様の処理を施す。処理後得られた残渣に適容量のグリセリンを加えて計量した。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC. 1471, 1472）を作製し、写真を図版に載せた。なお、試料 1g 中の寄生虫卵含有数は、次式で求める。

表3　寄生虫卵分析に用いた試料の計量値と寄生虫卵数

	SK25	SK33	SK35
分析に用いた試料(g)	6.6002	4.789	6.0318
残渣＋グリセリン(g)	0.5945	0.9395	0.7598
封入に用いた量(g)	0.0684	0.057	0.1478
試料の密度 (g/cm³)	2.04	1.77	1.77
回虫卵	0	0	3
(試料1g当たりの個数)	0	0	3
肝吸虫卵	0	3	0
(試料1g当たりの個数)	0	10	0
横川吸虫卵	1	1	0
(試料1g当たりの個数)	1	3	0
不明	2	3	1
(試料1g当たりの個数)	3	10	1
計	3	7	4
(試料1g当たりの個数)	4	24	3
(試料1cm³当たりの個数)	8	43	6

$$X = BD/AC$$

X：試料 1g 中の寄生虫卵含有数、A：分析に用いた試料の重量(g)、B：濃縮試料＋グリセリンの重量(g)、C：濃縮試料＋グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D：プレパラート中の寄生虫卵数

表2　産出花粉胞子一覧表

学名	和名	SD10	SD4	SK33	SK35	SK36	SK43	SK56	SK25
樹木									
Abies	モミ属	-	3	9	3	5	5	5	2
Tsuga	ツガ属	13	17	26	17	25	15	21	27
Picea	トウヒ属	-	1	-	-	1	1	2	1
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	112	101	81	101	11	2	17	19
Sciadopitys	コウヤマキ属	-	-	-	-	1	2	-	-
Cryptomeria	スギ属	14	36	29	41	58	62	27	35
Taxaceae－Cephalotaxaceae－Cupressaceae	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	-	1	-	-	1	3	1	2
Myrica	ヤマモモ属	1	-	-	-	-	-	-	-
Pterocarya－*Juglans*	サワグルミ属－クルミ属	2	2	-	1	3	4	7	-
Carpinus－*Ostrya*	クマシデ属－アサダ属	5	5	6	3	7	10	12	6
Betula	カバノキ属	5	4	8	4	6	5	11	11
Alnus	ハンノキ属	7	7	11	4	3	5	5	13
Fagus	ブナ属	2	2	5	-	-	4	1	6
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	38	29	11	11	72	66	57	49
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	1	4	2	1	6	13	5	5
Castanea	クリ属	2	4	4	8	6	1	4	6
Castanopsis－*Pasania*	シイノキ属－マテバシイ属	-	-	1	2	1	5	5	4
Ulmus－*Zelkova*	ニレ属－ケヤキ属	4	2	6	2	2	12	13	3
Celtis－*Aphananthe*	エノキ属－ムクノキ属	-	-	2	-	-	-	1	-
Mallotus	アカメガシワ属	-	-	-	-	-	-	-	1
Rhus－*Toxicodendron*	ヌルデ属－ウルシ属	1	-	-	-	-	-	-	-
Acer	カエデ属	-	2	-	-	-	-	-	-
Aesculus	トチノキ属	-	-	-	1	1	1	3	2
Rhamnaceae	クロウメモドキ科	-	-	-	1	-	-	-	-
Vitis	ブドウ属	-	-	1	-	-	-	-	-
Tilia	シナノキ属	-	-	-	-	-	-	1	-
Elaeagnus	グミ属	-	-	-	1	-	-	1	-
Lagerstroemia	サルスベリ属	-	-	-	-	-	-	-	2
Araliaceae	ウコギ科	-	-	-	-	-	1	-	-
Cornus	ミズキ属	-	-	-	-	-	-	1	1
Ericaceae	ツツジ科	-	-	-	-	-	-	-	1
Diospyros	カキノキ属	-	-	1	-	-	-	-	-
Ligustrum	イボタノキ属	1	-	-	-	-	-	-	-
Fraxinus	トネリコ属	1	-	-	-	-	7	5	-
Trachelospermum	ライカカズラ属	-	-	1	-	-	-	-	-
草本									
Typha	ガマ属	-	-	-	-	-	10	-	5
Gramineae	イネ科	247	327	376	213	303	176	208	196
Cyperaceae	カヤツリグサ科	-	7	2	2	18	38	8	10
Monochoria	ミズアオイ属	-	-	-	-	-	-	1	-
Moraceae	クワ科	-	-	-	-	1	-	1	-
Polygonum sect. *Persicaria*－*Echinocaulon*	サナエタデ節－ウナギツカミ節	-	5	-	-	-	1	2	-
Polygonum sect. *Reynoutria*	イタドリ節	1	-	3	-	-	-	1	-
Fagopyrum	ソバ属	6	2	3	-	1	-	-	1
Chenopodiaceae－Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	75	91	57	19	6	1	9	16
Portulaca	スベリヒユ属	-	6	1	1	-	-	-	-
Caryophyllaceae	ナデシコ科	8	6	-	1	-	1	3	1
Thallictrum	カラマツソウ属	-	-	-	-	-	-	-	1
Brassicaceae	アブラナ科	-	15	1	3	2	-	2	10
Rosaceae	バラ科	-	-	2	-	-	-	-	-
Impatiens	ツリフネソウ属	-	-	-	-	-	-	-	3
Malvaceae	アオイ科	-	1	-	-	-	-	-	-
Rotala	キカシグサ属	-	-	-	-	1	1	2	7
Apiaceae	セリ科	2	-	-	-	-	-	1	-
Calystegia	ヒルガオ属	-	-	-	-	-	1	-	-
Solanum	ナス属	1	2	-	-	-	-	-	1
Scutellaria	ゴマ属	-	-	-	2	-	-	-	-
Galium	ヤエムグラ属	-	3	-	-	-	-	-	-
Patrinia	オミナエシ属	-	-	-	-	-	-	1	-
Artemisia	ヨモギ属	1	2	1	1	7	8	22	7
Tubuliflorae	キク亜科	2	1	1	-	-	1	3	1
Liguliflorae	タンポポ亜科	2	3	-	1	7	1	3	10
シダ植物									
Salvinia	サンショウモ属	-	-	2	-	-	-	-	-
monolete type spore	単条溝胞子	14	2	5	2	14	5	21	20
trilete type spore	三条溝胞子	10	1	5	3	8	4	10	17
Arboreal pollen	樹木花粉	209	220	204	201	209	224	205	196
Nonarboreal pollen	草本花粉	345	471	447	243	346	239	267	269
Spores	シダ植物胞子	24	3	12	5	22	9	31	37
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	578	694	663	449	577	472	503	502
unknown	不明	3	5	-	-	3	6	4	2

3．分析結果

3-1．花粉分析

8 試料の検鏡を行った結果、検出できたのは樹木花粉 35、草本花粉 26、シダ植物胞子 3 の計 64 である。産出花粉・シダ植物胞子の一覧を表 2 に、分布図を図 1 に示す。分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示した。また、図表においてハイフン（-）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。

8 試料から得られた花粉化石群集は、2 つに分けることができる。1 つは SD10 と SD4、SK33、SK35 から産出した花粉化石群集で、マツ属複維管束亜属が優勢な花粉組成を示す。マツ属複維管束亜属の産出率は 40～54%である。もう 1 つは SK36 と SK43、SK56、SK25 から産出した花粉化石群集で、スギ属とコナラ属コナラ亜属を主体とする花粉化石群集である。スギ属は 13～28%、コナラ属コナラ亜属は 25～34%の産出率を示す。両花粉化石群集において草本花粉ではイネ科が優占しており、37～57%の産出率を示す。スギ属とコナラ属コナラ亜属が優占する花粉化石群集（SK36、SK43、SK56、SK25）ではイネ科花粉とともに水田雑草を含む分類群であるミズアオイ属やキカシグサ属も伴っている。その他では栽培植物のゴマ属（SK35）やソバ属（SK36、SD10、SD4、SK25、SK33）なども産出している。

3-2．寄生虫卵分析

計量し、検鏡した結果を表 3 に示す。3 試料からは回虫卵と肝吸虫卵、横川吸虫卵の 3 種類が検出できた。SK25 では横川吸虫卵が試料 1g 当たり 1 個検出できた。SK33 では肝吸虫卵が試料 1g 当たり 10 個、横川吸虫卵が試料 1g 当たり 3 個検出できた。SK35 では回虫卵が試料 1g 当たり 3 個検出できた。また、試料 1cm^3 当たりでは、SK25 が 8 個、SK33 が 43 個、SK35 が 6 個の寄生虫卵が産出している。

4．考察

4-1．古植生について

今回の分析試料では、2 つの花粉化石群集が見出された。1 つはスギ属とコナラ属コナラ亜属が優占する群集で、もう 1 つがマツ属複維管束亜属の優占する群集である。ここで、甲府城下町遺跡紅梅地区で行われた花粉分析の結果を見ると、近世(19 世紀)においてスギ属とコナラ属コナラ亜属優勢の花粉組成からマツ属複維管束亜属が優占する花粉組成に変化する層準が見出されている（鈴木，2009）。今回の分析試料から得られた 2 つの花粉化石群集は、紅梅地区で得られた 2 つの花粉化石群集とほぼ同様な花粉組成を示すため、異なった 2 つの時期を反映した花粉組成であるといえる。すなわち、スギ属とコナラ属コナラ亜属が優占する花粉化石群集（SK36 と SK43、SK56、SK25）の方がより古い時期で、マツ属複維管束亜属が優占する花粉化石群集（SD10 と SD4、SK33、SK35）の方がより新しい時期であると思われる。以下では、各花粉化石群集から推察される古植生について記す。

まず、SK36 と SK43、SK56、SK25 が示すスギ属とコナラ属コナラ亜属優勢の花粉組成から古植生を推測すると、遺跡周辺にはスギを中心としてモミ属やツガ属が生育するような温帯性針葉樹林が成立していたと思われる。また、コナラ属コナラ亜属を主体としてサワグルミ属-クルミ属やクマシデ属-アサダ属、ニレ属-ケヤキ属などが混じる落葉広葉樹林も分布を広げていたであろう。草本花粉ではイネ科の産出が目立ち、遺跡周辺の草本植生はイネ科植物が中心となっていた可能性がある。または、水田雑草を含む分類群であるミズアオイ属やキカシグサ属を伴っているため、遺跡周辺において水田

稲作が営まれていた可能性も考えられる。さらにはSK36においてソバ属花粉も検出されており、遺跡周辺では稲作とともにソバ栽培が行われていた可能性がある。

次に、SD10とSD4、SK33、SK35が示すマツ属複維管束亜属優占の花粉組成であるが、スギを中心とした温帯性針葉樹林やコナラ亜属を中心とした落葉広葉樹林は存在していたと考えられる。しかしながら、SK36とSK43、SK56、SK25に比べると産出量が少ないため、その分布は狭かったと思われる。代ってニヨウマツ類などの二次林が遺跡周辺に分布を広げていたであろう。草本花粉ではイネ科やアカザ科-ヒユ科の産出が目立ち、これらの草本類が遺跡周辺に分布していたと考えられる。この花粉化石群集では、ミズアオイ属やキカシグサ属などの水田雑草を含む分類群の産出が見られないため、この時期においては水田稲作の規模を縮小していたか、行っていなかった可能性がある。紅梅地区の花粉分析結果においても19世紀から近代とされる時期にマツ属複維管束亜属が優占する花粉組成が見られるが、イネ科花粉の減少や水田雑草を含む分類群が産出しないことから水田稲作の縮小化が指摘されている（鈴木2009）。ただし、SD10やSD4、SK33ではソバ属花粉の産出が見られ、ソバ栽培は行っていた様である。また、ゴマ属花粉（SK35）が産出しており、遺跡周辺においてゴマ栽培が行われていた状況も推測できる。

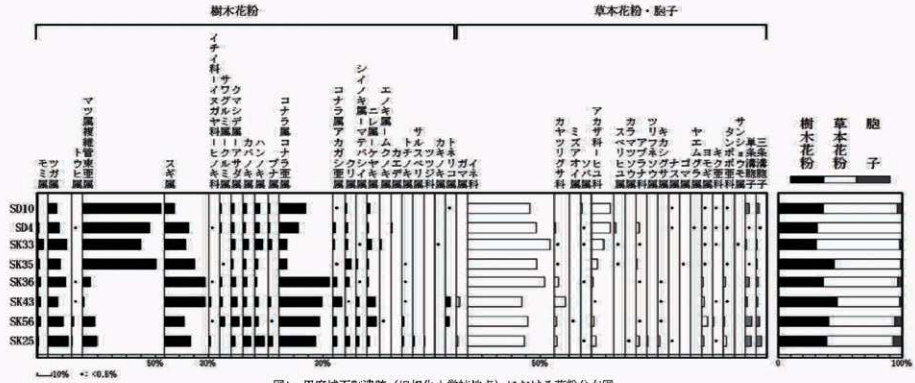
4-2. トイレ遺構について

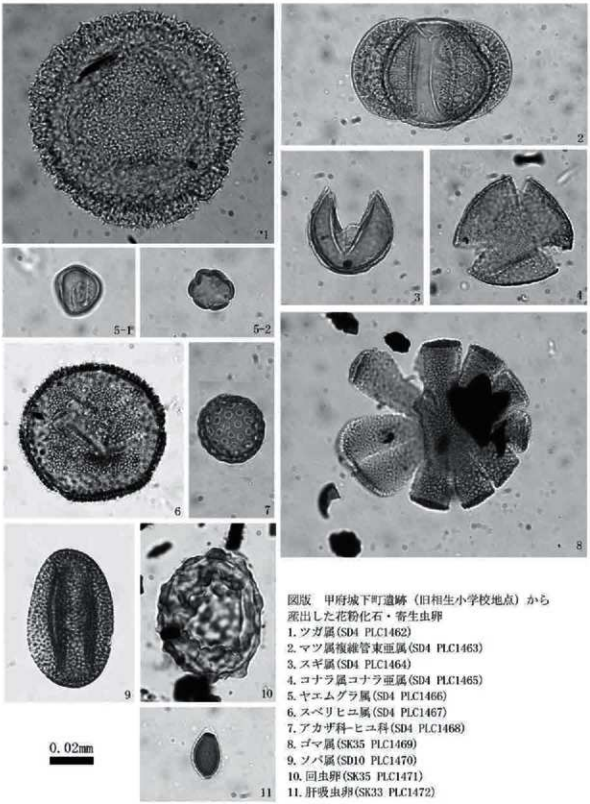
トイレ遺構の可能性が疑われるSK25とSK33、SK35の寄生虫卵分析の結果、全ての試料から寄生虫卵が検出された。寄生虫卵数については、試料1㎤中に1,000個以上あれば糞便の可能性があると考えられている(金原，1997)。この寄生虫卵数に照らし合わせて考えると、いずれの試料においても産出数が少なく、糞便が混じりこんでいた可能性は低いと思われる。また、他の試料（SK36、SK43、SK56、SD10、SD4）の花粉分析の検鏡の際にも寄生虫卵が見出されるため、甕や桶内堆積物に限って寄生虫卵が産出するわけではない。さらに、トイレ遺構では食用や薬用となる植物の花粉が多産する例が知られているが、トイレ遺構の可能性が疑われる試料とその他の試料の花粉組成を比べても、特徴的な花粉組成を示している傾向は見られない。よって、寄生虫卵分析や花粉分析の結果から考えると、SK25やSK33、SK35がトイレ遺構であった可能性は低いように思われる。

引用文献

金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化．大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」：197-216，東京美術．

鈴木　茂（2009）甲府城下町遺跡（紅梅地区再開発地点）の花粉化石．甲府市教育委員会編「甲府城下町遺跡Ⅴ」：52-62，甲府市教育委員会．


樹木花粉
草本花粉・胞子
モミ属
ツガ属
トウヒ属
マツ属複維管束亜属
スギ属
ヒノキ科
ルーミ属
ヒノキ属
ヤナギ属
ヤマモモ属
ヤシ科
ヤマグワ属
ヤブニッケイ属
ヤブツバキ属
ヤマハギ属
ヤナギ属
ヤブコウジ属
ヤブコバシ属
ヤブニレ属
ヤブムラサキ属
ヤブカラシ属
ヤブナラ属
ヤブツバキ



図版　甲府城下町遺跡（旧相生小学校地点）から
派出した花粉化石・寄生虫卵
1. ツガ属(SD4 PLC1462)
2. マツ属複維管束亜属(SD4 PLC1463)
3. スギ属(SD4 PLC1464)
4. コナラ属コナラ亜属(SD4 PLC1465)
5. ヤエムグラ属(SD4 PLC1466)
6. スベリヒユ属(SD4 PLC1467)
7. アカザ科-ヒユ科(SD4 PLC1468)
8. ゴマ属(SK35 PLC1469)
9. ソバ属(SD10 PLC1470)
10. 回虫卵(SK35 PLC1471)
11. 肝吸虫卵(SK33 PLC1472)

第２節　微細物分析

（１）甲府城下町遺跡（旧相生小学校地点）出土の大型植物遺体

佐々木由香・バンダリ　スダルシャン（パレオ・ラボ）

1．はじめに

甲府城下町遺跡（旧相生小学校跡地）は、近世においては武家地にあたり、甲府城二ノ堀の南側、旧代官町通りに面した場所に位置する。ここでは、江戸時代後半の遺物集中地点から出土した大型植物遺体の同定結果を報告する。

2．試料と方法

試料は、調査区西側から検出された遺物集中地点である SX1 の堆積物である。SX1 からは、陶磁器の破片や木製品の残欠、貝や獣骨の食べ滓などが多くの礫に混じって出土した。

堆積物は昭和測量株式会社によって採取された。このうち、300cc について最小 0.5mm 目の篩を用いて水洗した。大型植物遺体を抽出して、同定の対象とした。同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損しても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

3．結果

同定の結果、SX1 からは、木本植物ではモモ核の１分類群、草本植物ではスベリヒユ属種子とヤブヘビイチゴ果実、オオムギ種子の３分類群の、計４分類群が得られた（表1）。スベリヒユ属がやや多く、モモとヤブヘビイチゴ、オオムギはわずかであった。

次に、大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

表1　甲府城下町遺跡から出土した大型植物遺体

		遺構番号	SX1
		メモ番号	土31
分類群		水洗量(cc)	300
モモ	核		(2)
スベリヒユ属	種子		34 (8)
ヤブヘビイチゴ	果実		1
オオムギ	炭化種子		1

括弧内は破片数

(1)モモ　*Amygdalus persica* L.　核　バラ科

茶褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。残存長 10.7mm、残存幅 8.8mm。

(2)スベリヒユ属　*Portulaca* spp.　種子　スベリヒユ科

黒褐色で、上面観は扁平、側面観はいびつな円形。全体にいぼ状の突起がある。「の」の字状になり、先端に着点がある。長さ 0.8mm、幅 0.8mm。

(3)ヤブヘビイチゴ　*Potentilla indica* (Andrews) Th.Wolf　果実　バラ科

褐色で腎形。果皮は質厚で透明感がない。表面は平滑で隆線はない。長さ 1.2mm、幅 0.8mm。

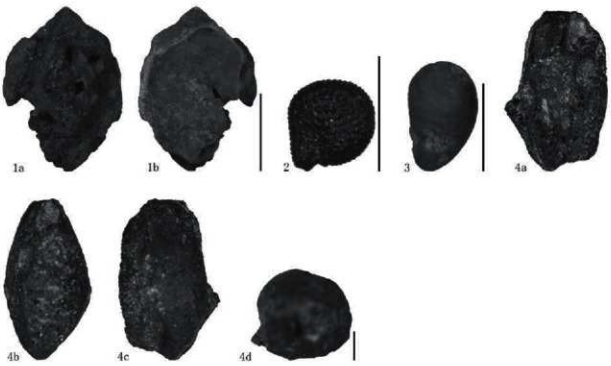
(4)オオムギ　*Hordeum vulgare* L.　炭化種子（頴果）　イネ科

変形により状態は悪いが、側面観は長楕円形、腹面中央部には上下に走る１本の溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚がある。最大幅は長軸のほぼ中央。断面はいびつな円形となる。長さ 4.9mm、幅 3.2mm、厚さ 3.2mm。

4. 考察

SX1 からは、栽培植物のモモとオオムギが得られた。遺構内からは碗や皿、灯明皿、焙烙、擂鉢、土瓶、焜炉の類や木製品、貝、獣骨など多くの遺物が出土しており、主に日常生活で生じたゴミが投棄されたと考えられている。種実についても食用にする過程で不要になったモモの核や、調理もしくは加工中に炭化したオオムギの種子が捨てられた可能性などが考えられる。

発掘調査時の所見によれば、SX1 の西側では明確な掘方が検出できなかったため、出土遺物は自然地形の落ち込みまたは湿地や池のような場所の肩部から投棄されたと推定されている。食用にならないスベリヒユ属やヤブヘビイチゴは遺構周辺に生育していたと考えられるが、これらは乾いた草地や土手の上、畑地などに生育する種類である。検討した試料からは、湿地や池のような環境を示す指標種は検出されなかった。



スケール 1:5mm, 2~4:1mm

図版1 甲府城下町遺跡（旧相生小学校地点）のSX1から出土した大型植物遺体

1. モモ核、2. スベリヒユ属種子、3. ヤブヘビイチゴ果実、4. オオムギ炭化種子

（2）甲府城下町遺跡（旧相生小学校地点）SX1 出土の貝類

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡（旧相生小学校地点）の平成 25 年度発掘調査では、江戸時代後期のゴミ捨て場と想定される SX1 内の土壌を対象として、微細な遺物の回収と同定が行われた。ここでは、同定された試料のうち、貝類について報告する。

2. 試料と方法

試料は、SX1 内のシジミが多く混じる土壌である。土壌を水洗し、0.5 ㎜メッシュで貝類を回収した。貝類の同定は肉眼で現生標本との比較により行った。殻頂が残る個体について、左右に分け、それぞれ計数した。また、最小と最大の個体について、ノギスを用いて殻長と殻高を計測した。

3. 結果

貝類の同定を行った結果、シジミ科のマシジミ（*Corbicula leana*）の 1 分類群が確認された。殻皮は黒褐色で、殻はやや薄く、規則的な輪肋があるといった特徴からマシジミと同定した。殻長は 11.0～22.6 ㎜、殻高は 8.5～18.0 ㎜。左殻 79 点、右殻 83 点、左右合弁 1 点で、最小個体数は 84 点である。

4. 考察

マシジミは、北海道を除く日本全土に分布し、河川の上流域や中流域の砂礫底に生息する。成貝は殻長 3.5 cm程度になる。食用として一般的。

甲府城下町周辺の河川で採取されたマシジミが、食用として消費され、SX1 に廃棄されたと考えられる。

SX1 出土のマジシミは、ややサイズが小さいため、採取されたマシジミの中でも小さいものが相生小学校地点で消費された可能性も考えられる。今後、甲府城下町内の他地点のマシジミとサイズ比較を行えば有効な情報が得られるであろう。

図版1　SX1出土のマシジミ（左右合弁）

第３節　元素マッピング分析

甲府城下町遺跡（旧相生小学校地点）出土坩堝の元素マッピング分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1．はじめに

甲府城下町遺跡旧相生小地点より出土した坩堝について元素マッピング分析を行い、加工されていた金属の組成について検討した。

2．試料と方法

分析対象は、SK18 より出土した陶器碗１点（試料番号 UZ92）である。SK18 は、火災ゴミを片付けたゴミ穴とみられ、同様の遺構が SK18 以外にも数基検出されている。陶器碗には、若干光沢の鈍い金粒や緑青など錆が析出した金属とみられる物質や、ガラス質の融着物等の付着が肉眼的に認められ、坩堝と考えられる。遺構からは同様の碗が 10 数点とフイゴの羽口なども出土している。時期は、幕末～明治時代とみられている。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置である (株) 堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000Type Ⅱを使用した。装置の仕様は、Ｘ線管が最大 50kV、1.00mA のロジウム（Rh）ターゲット、Ｘ線ビーム径が 100μｍまたは 10μｍ、検出器は高純度 Si 検出器で、検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）である。また本装置では、試料ステージを走査させながら測定する元素マッピング分析も可能である。

分析は、最初に元素マッピング分析を行った。さらに、銅（Cu）などの金属元素のマッピング図を基に輝度が高い箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析が 50kV、1.00mA、ビーム径 100μｍ、測定時間 20000s を１回走査、ポイント分析が 50kV、0.12～1.00mA（自動設定）、ビーム径 100μｍ、測定時間 1500s に設定し、土器の接合を外した状態で並べて測定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法（以下 FP 法）による半定量分析を装置付属ソフトで行った。蛍光Ｘ線分析は、表面分析であり、均一とは限らない製品の正確な組成比を必ずしも示しているとはいえないが、おおよその組成、含まれている微量元素を知る上では非常に有効な手法である。測定は、坩堝内面について実施した。

3．結果

元素マッピング分析により得られたケイ素（Si）、鉄（Fe）、銅（Cu）、亜鉛（Zn）、ヒ素（As）、銀（Ag）、スズ（Sn）、鉛（Pb）のマッピング図を図版１に示す。また、各マッピング図に示された a～e のポイント分析により得られた半定量値の一覧を表１に示す。アルミニウム（Al_2O_3）、ケイ素（SiO_2）、リン（P_2O_5）、硫黄（SO_3）、カリウム（K_2O）、カルシウム（CaO）、チタン（TiO_2）、マンガン（MnO）、鉄

表1　坩堝の半定量分析結果（mass%）

分析箇所	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	SrO	ZrO_2	Cu	Zn	As	Sn	Sb	Pb	Bi
a	—	2.46	—	3.67	—	0.37	—	0.04	0.58	—	—	83.00	5.24	0.16	2.68	0.41	1.26	0.13
b	—	3.03	—	4.22	—	0.79	0.43	—	2.64	—	—	73.74	8.23	0.18	3.00	0.33	3.40	—
c	—	13.33	1.30	1.51	1.03	2.91	0.14	0.63	6.20	—	—	45.88	19.65	0.23	2.21	0.38	4.48	0.12
d	5.78	25.05	—	2.55	3.52	3.06	1.06	0.11	8.08	0.08	0.23	0.92	43.02	—	0.97	0.28	5.30	—
e	—	2.03	—	4.02	—	2.18	—	0.16	5.31	0.07	0.19	6.67	3.46	—	19.30	1.16	55.07	0.37

(Fe_2O_3)、ストロンチウム（SrO）、ジルコニウム（ZrO_2）といった土器胎土に比較的多く含まれると考えられる元素のほかに、銅（Cu）、亜鉛（Zn）、ヒ素（As）、スズ（Sn）、アンチモン（Sb）、鉛（Pb）、ビスマス（Bi）が検出された。

4. 考察

坩堝に付着する金属およびガラス質滓は、銅、亜鉛、スズ、鉛を中心とする組成であった。マッピング図や半定量分析値では銅や亜鉛が目立つが、スズや鉛も一定量検出される箇所が確認される。以上から、Cu-Zn-Sn-Pb の銅合金の溶解等に利用されたと考えられる。ほかに、真鍮（Cu-Zn(-Pb)）や青銅（Cu-Sn(-Pb)）など複数種類の銅合金の溶解等に併用されていた可能性も考えられる。なお、香取（1986）では鋳金に使われる金属材料の一種として、「銅と亜鉛に少量の鉛と錫を合金したもの」を唐金の名で紹介しており、今回分析した付着物の組成はこの内容に近い。

ほかにヒ素（As）やアンチモン（Sb）、ビスマス（Bi）といった元素が微量に検出されたが、これらは合金中の不純物由来である可能性のほかに、白目と呼ばれる合金材料に由来し、意識的に微量添加されている可能性がある。

また、一般に銅鉱石中には銀が微量に含まれることが多く、いわゆる南蛮吹きと呼ばれる、銅中の銀などの分離抽出技術が日本に導入されたのは、16 世紀末～17 世紀初め頃といわれている。今回分析した坩堝からは、銀がほとんど検出されておらず、銅中の銀を分離する工程を経た材料が使用されていたと考えられる。

5. おわりに

甲府城下町遺跡旧相生小地点出土坩堝について元素マッピング分析を行った結果、銅、亜鉛、スズ、鉛といった金属が主に検出された。これら金属を使用した合金の溶解等に利用されていたと考えられる。

引用・参考文献

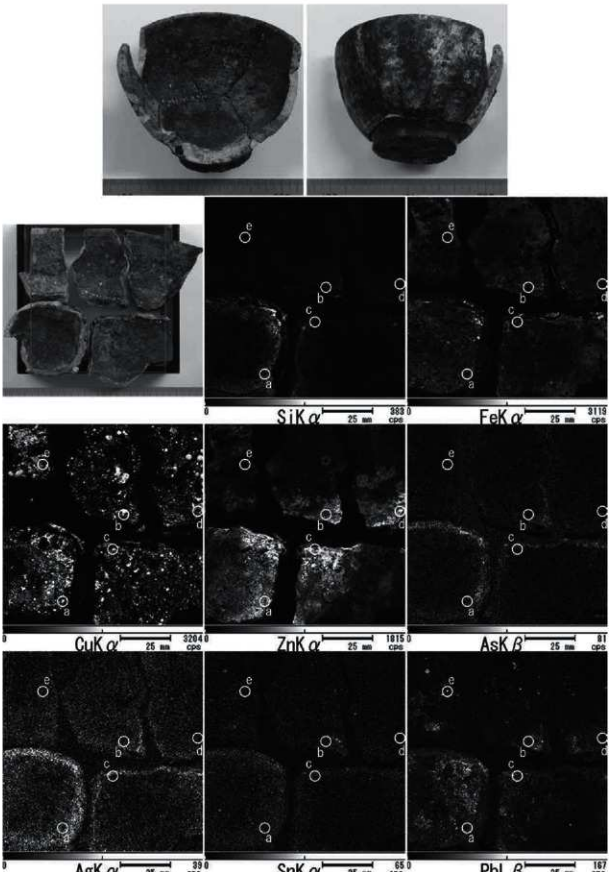
香取正彦（1986）鋳金の伝統技法．香取正彦・井尾敏雄・井伏圭介「金工の伝統技法」：2-1-2-95，理工学社．

桐山太志（2008）近代日本の伸銅業―水車から生まれた金属加工―．356p，産業新聞社．

村上　隆（2003）金工技術．日本の美術，443，98p，至文堂．

中井　泉編（2005）蛍光 X 線分析の実際．242p，朝倉書店．

大阪市文化財協会編（1998）住友銅吹所跡発掘調査報告．608p，大阪市文化財協会．



図版1　坩堝の元素マッピング図
Si：ケイ素　Fe：鉄　Cu：銅　Zn：亜鉛　As：ヒ素　Ag：銀　Sn：スズ　Pb：鉛

調査区全景（南から）

調査区全景（南から）

図版 2

調査区全景（北から）

調査区全景（北西から）

調査区全景（西から）

調査区近景（北西から）

調査区近景（北東から）

基本層序（南から）

旧校舎基礎検出（西から）

旧校舎基礎検出（東から）

旧校舎基礎 セクション面（南から）

旧校舎基礎 杭検出（西から）

旧校舎基礎 杭検出（東から）

旧校舎基礎 杭検出（西から）

旧校舎基礎 杭セクション面（西から）

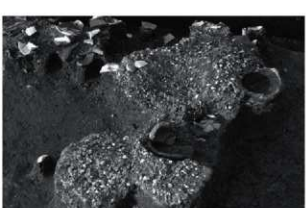
図版 4

SX1 遺物出土状況（北東から）

SX1 遺物出土状況（南東から）

SX1 遺物出土状況（東から）

SX1 遺物出土状況（南東から）



SX1 遺物･貝層出土状況（北西から）

SB1 検出（北から）

SB1 検出（南から）

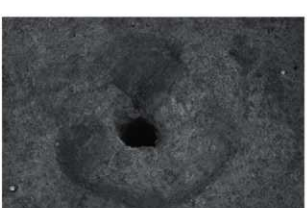
SB1 SP24（左）地鎮具（右）（西から）

SB1 地鎮具（西から）

SB1 地鎮具 内容物（西から）

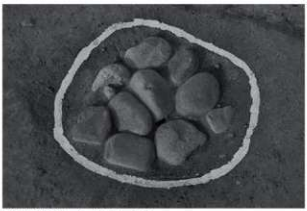
SB1 SP22　1（南東から）

SB1 SP22　2（南から）

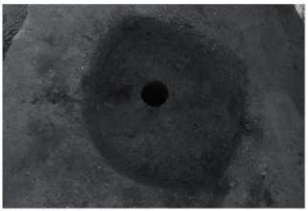


SB1 SP22　3（南西から）

図版 6



SB1 SP29　1（南から）



SB1 SP29　2（西から）

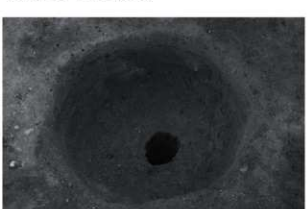
SB1 SP23　1（南から）

SB1 SP23　2（南から）

SB1 SP30　1（南西から）

SB1 SP30　2（西から）

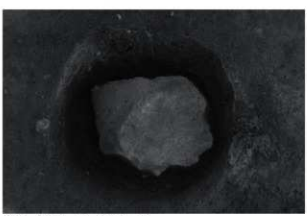
SB1 SP27　1（西から）



SB1 SP27　2（南から）

SB2 検出（東から）

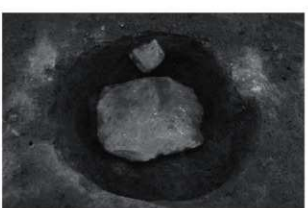
SB2 SP19　1（南西から）



SB2 SP19　2（西から）

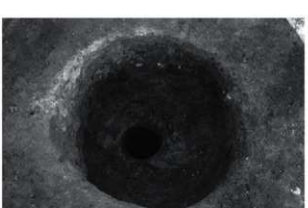
SB2 SP19　3（西から）

SB2 SP20　1（南から）



SB2 SP20　2（西から）

SB2 SP20　3（西から）



SB2 SP20　4（西から）

図版 8

SB2 P218 遺物出土状況（南から）

SB2 P218 完掘（東から）

SB3 検出（東から）

SB3 SP136（東から）

SB3 SP138（西から）

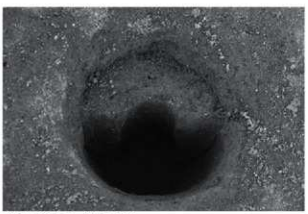
SB3 SP248（南から）

SB3 SP250（南から）

SB3 SP251（南から）

SB4 検出（東から）

SB4 SP146（東から）

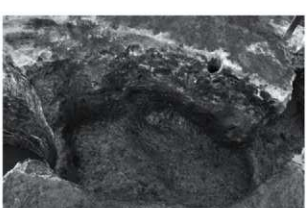


SB4 SP154（西から）

SB4 SP156（西から）

SB4 SP178（西から）

SB4 SP179（西から）



SK2 完掘（南から）

SK3（井戸）セクション面（東から）

図版 10

SK3（井戸）遺物出土状況（東から）

SK3（井戸）断割状況（南から）

SK4 完掘（南西から）

SK5 遺物出土状況（西から）

SK7 完掘（南から）

SK8 セクション面（南東から）

SK9 セクション面（南から）

SK10 セクション面（南から）

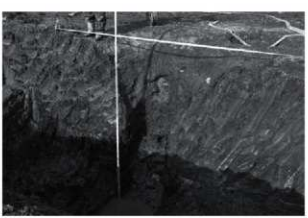
SK10 完掘（南から）

SK11（井戸）セクション面（南から）

SK11（井戸）上層遺物出土状況（南から）

SK11（井戸）中層遺物出土状況（南東から）

SK11（井戸）下層遺物出土状況（東から）



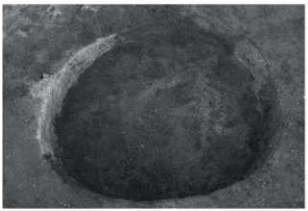
SK11（井戸）断割状況（南から）

SK12 セクション面（西から）

SK13 セクション面（西から）

図版 12

SK13 遺物出土状況（北東から）



SK13 完掘（南西から）

SK16 セクション面（西から）

SK17 遺物出土状況（東から）

SK17 完掘（東から）

SK18 検出（南から）

SK18 上層遺物出土状況（東から）

SK18 上層遺物出土状況（東から）

SK18 下層遺物出土状況（南東から）

SK18 完掘（西から）

SK19 セクション面（南から）

SK19 遺物出土状況（南から）

SK19 遺物出土状況（南から）

SK19 完掘（南東から）

SK22（埋桶）上層遺物出土状況（南から）

SK22（埋桶）下層遺物出土状況（南から）

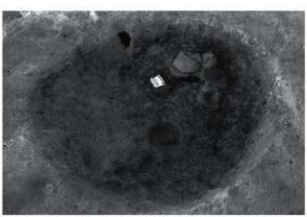
図版 14

SK22（埋桶）完掘（南から）

SK22（埋桶）断割状況（北から）

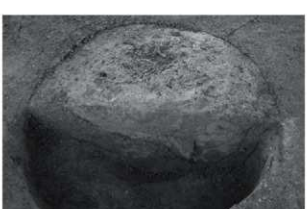
SK23 セクション面（南から）

SK23 上層遺物出土状況（南から）

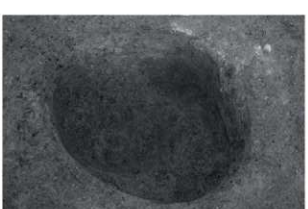


SK23 下層遺物出土状況（南から）

SK23 完掘（南から）



SK24 セクション面（南から）



SK24 完掘（西から）

SK25（埋甕）セクション面（西から）

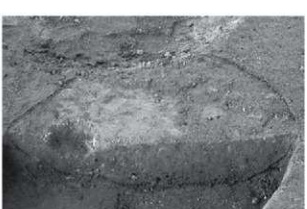
SK25（埋甕）（南から）

SK25（埋甕）完掘（南から）

SK26 セクション面（東から）

SK26 遺物出土状況（南から）

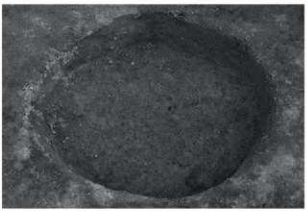
SK26 完掘（東から）


SK27 セクション面（南から）

SK27 完掘（南から）

図版 16

SK28 セクション面（西から）



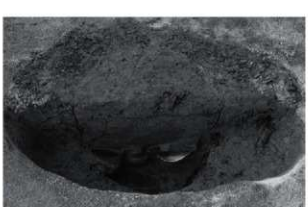
SK28 完掘（西から）

SK30 セクション面（西から）

SK30 遺物出土状況（西から）

SK30（西から）

SK30 完掘（西から）



SK33（埋桶）セクション面（東から）

SK33（埋桶）遺物出土状況（南から）

SK33（埋桶）遺物出土状況（南から）

SK33（埋桶）完掘（東から）

SK35（埋桶）セクション面（北から）

SK35（埋桶）遺物出土状況（北から）

SK35（埋桶）完掘（南から）

SK35（埋桶）断割状況（北から）

SK36（井戸）遺物出土状況（東から）

SK36（井戸）掘削状況（東から）

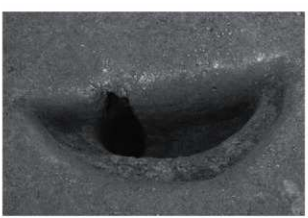
図版 18

SK36（井戸）セクション面（南から）

SK36（井戸）掘り方セクション面（南から）

SK36（井戸）完掘（南西から）

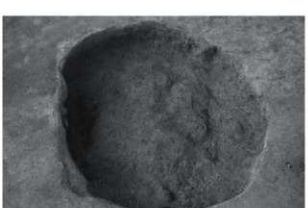
SK36（井戸）断割状況（南から）



SK37 セクション面（南から）

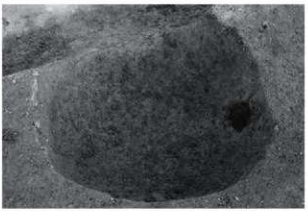
SK37 完掘（南から）

SK38 セクション面（南から）



SK38 完掘（東から）

SK39 セクション面（南から）



SK39 完掘（南から）

SK40·41 セクション面（北から）

SK40 完掘（西から）

SK40·41 完掘（北から）

SK43（井戸）セクション面（西から）

SK43（井戸）遺物出土状況（東から）

SK43（井戸）礫出土状況（西から）

図版 20

SK43（井戸）完掘（南から）

SK43（井戸）断割状況（南から）

SK45（埋桶）セクション面（南から）

SK45（埋桶）桶出土状況（南から）

SK45（埋桶）完掘（北西から）

SK46 完掘（南から）

SK47 セクション面（南から）

SK47 遺物出土状況（北から）

SK48 遺物出土状況（南から）

SK49 セクション面（西から）

SK49 完掘（西から）

SK50（井戸）セクション面（西から）

SK50（井戸）桶 1 段目破片（東から）

SK50（井戸）桶出土状況（北から）

SK50（井戸）桶出土状況（南から）

SK50（井戸）桶出土状況（西から）

図版 22

SK50（井戸）井戸側基部出土状況（北西から）

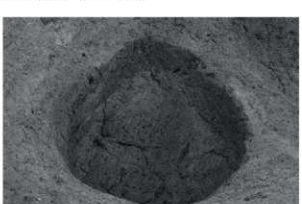
SK50（井戸）井戸側基部出土状況（北西から）

SK50（井戸）断割状況（南から）

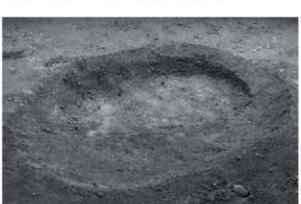
SK51 セクション面（南から）

SK51 完掘（南西から）

SK53（埋桶）桶出土状況（東から）



SK53（埋桶）完掘（東から）

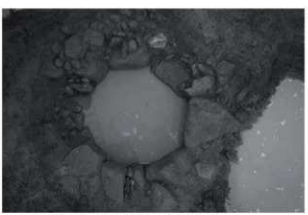


SK54 完掘（北から）

SK55 遺物出土状況（南から）

SK55 完掘（東から）

SK56（井戸）検出状況（西から）



SK56（井戸）検出状況（南から）

SK56（井戸）断割状況（西から）

SK56（井戸）断割状況（西から）

ピット列 1･2 完掘（北から）

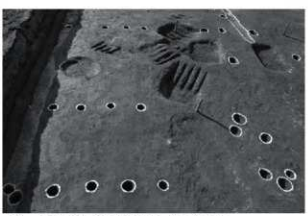
ピット列 4･5 検出（東から）

図版 24

ピット列 4･5 完掘（西から）

ピット列 6･7 完掘（南西から）

ピット列 8･9 完掘（南から）



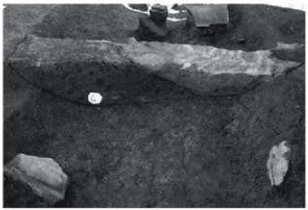
ピット列 10･11･12 完掘（東から）

ピット列 13･14･15 完掘（東から）

ピット列 16 完掘（東から）

SP52 1（南西から）

SP52 2（西から）


SD2 セクション面（西から）

SD2 遺物出土状況（南西から）

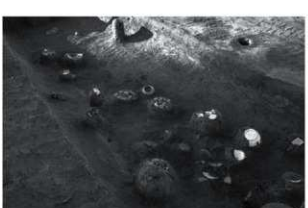
SD2 完掘（南西から）

SD3 セクション面（西から）

SD3 遺物出土状況（西から）

SD3 完掘（西から）

SD4 セクション面（東から）


SD4 遺物出土状況（南東から）

図版 26

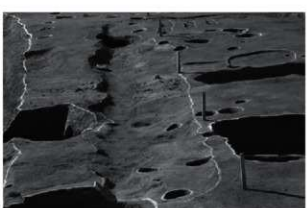
SD4 遺物出土状況（東から）

SD4 完掘（東から）

SD5 セクション面（東から）

SD5 遺物出土状況（南東から）

SD5 遺物出土状況（東から）



SD5 完掘（東から）

SD6 セクション面（東から）

SD6 遺物出土状況（南から）

SD6 完掘（東から）

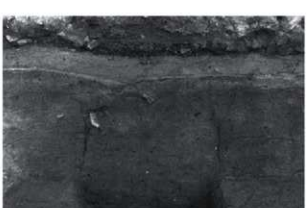
SD9 完掘（南から）

SD10 セクション面（南から）

SD10 遺物出土状況（南から）

SD10 遺物出土状況（北から）

SD10 完掘（北から）


SD11 セクション面（南から）

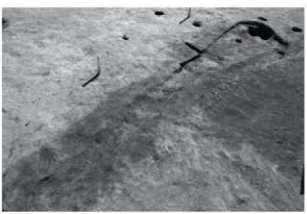
SD11 遺物出土状況（北から）

図版 28

SD15 セクション面（西から）

SD15 完掘（北から）

SD16 完掘（東から）



SD17 完掘（北西から）

SD21 完掘（南から）

SD22 完掘（南東から）

SD22 完掘（北から）

SD23 完掘（西から）

調査前風景（北西から）

調査風景（北西から）

調査風景（北西から）

調査後風景（北西から）

調査風景（南から）

調査風景（東から）

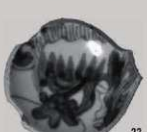
調査風景（東から）

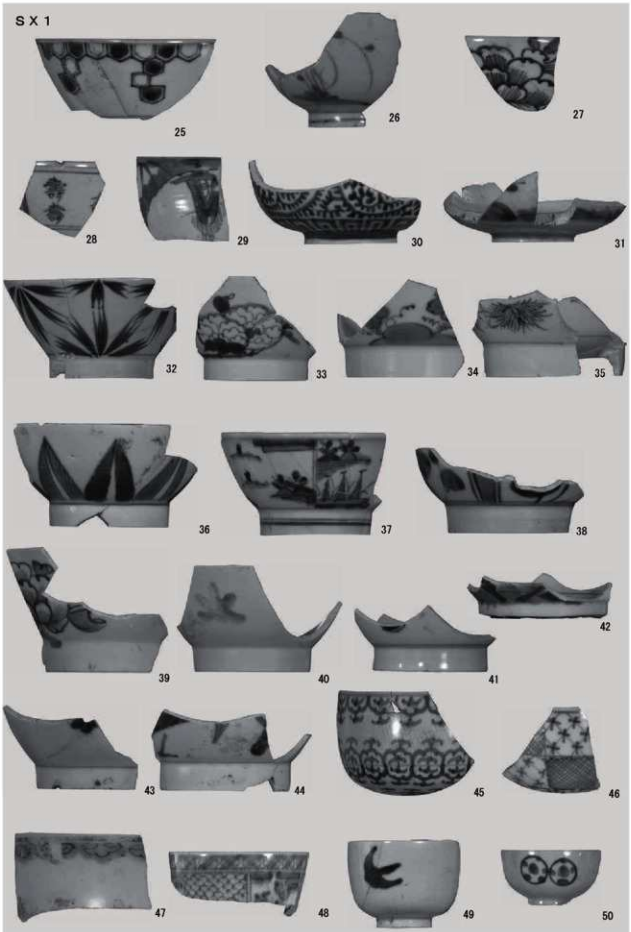
調査風景（南から）

図版 30

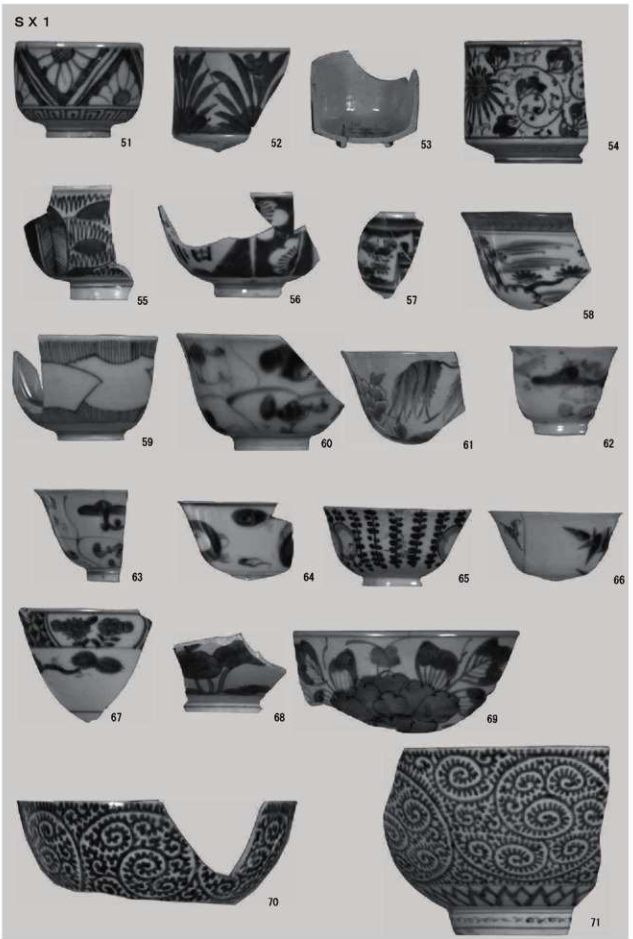
旧校舎基礎

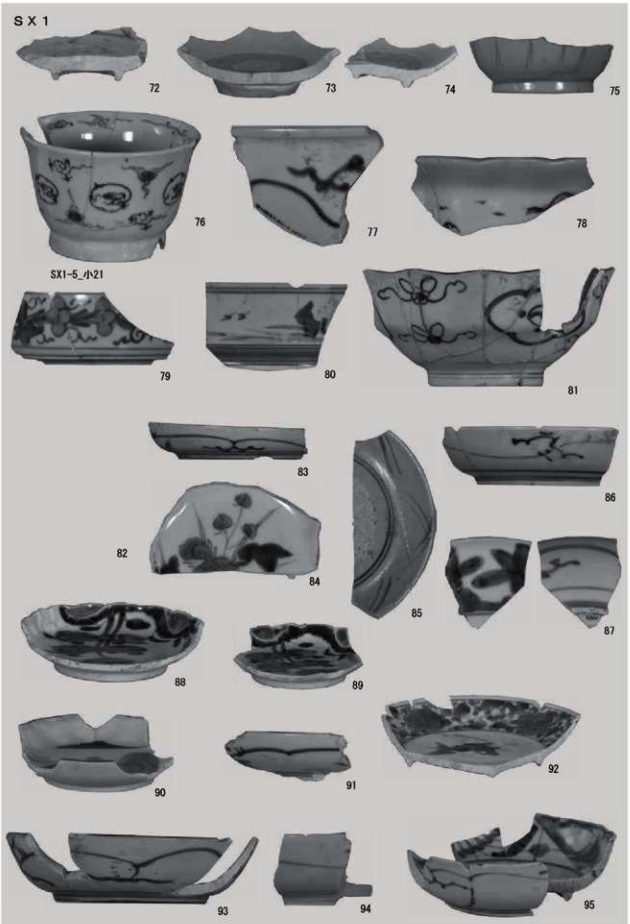
ＳＸ１



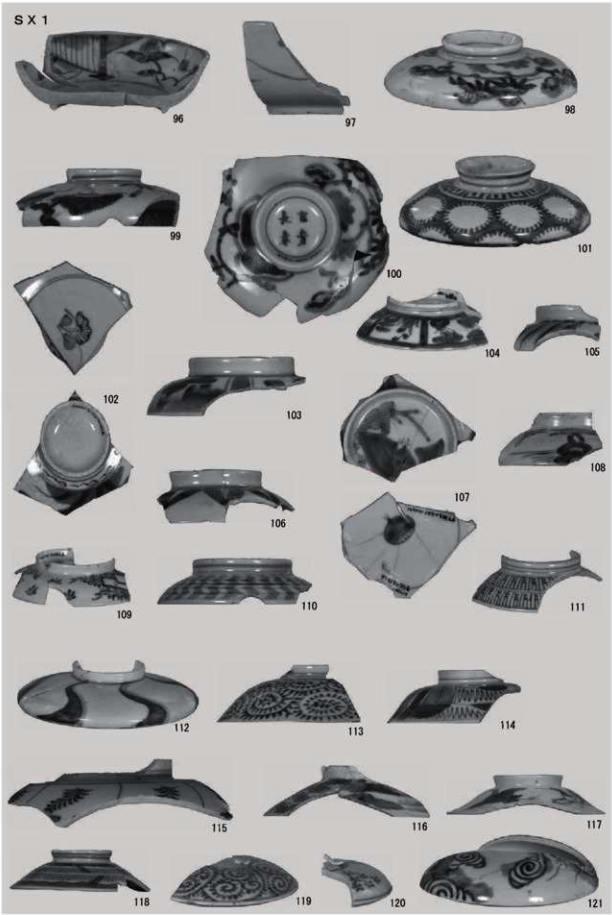

SX1
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

図版 32



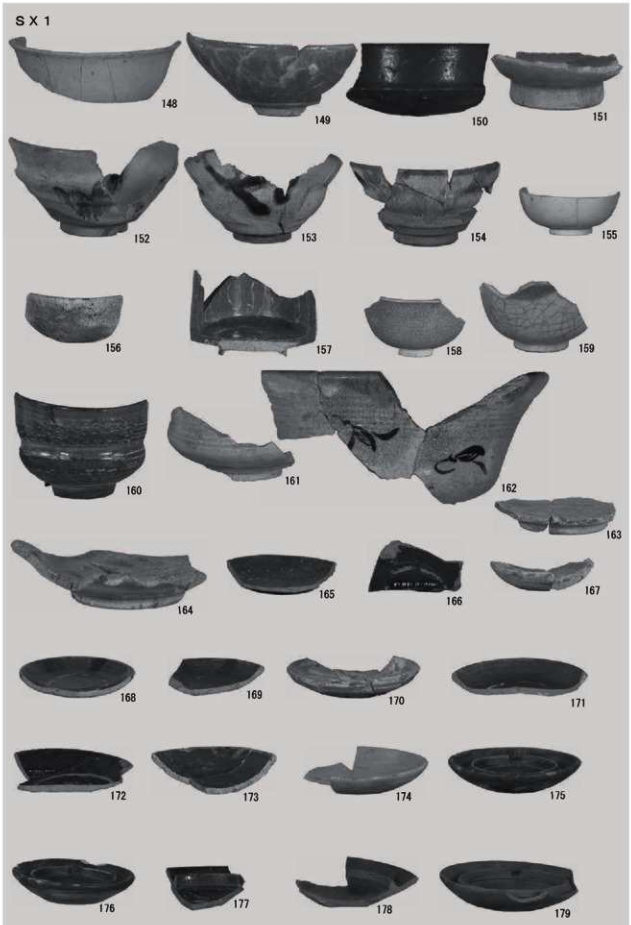

S X 1
72
73
74
75
76
77
78
SX1-5_小21
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95

図版 34


SX1
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121

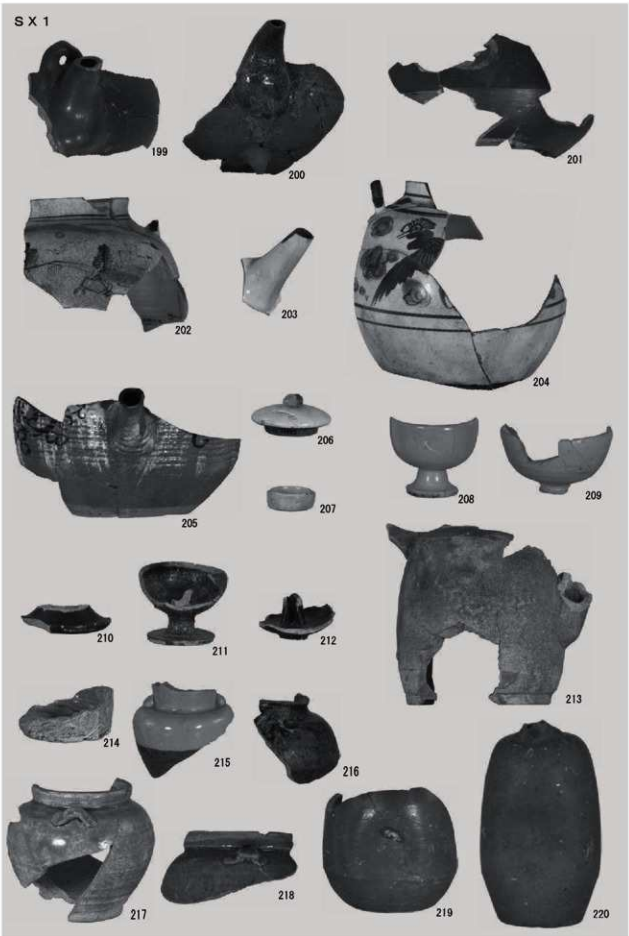
SX1
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147

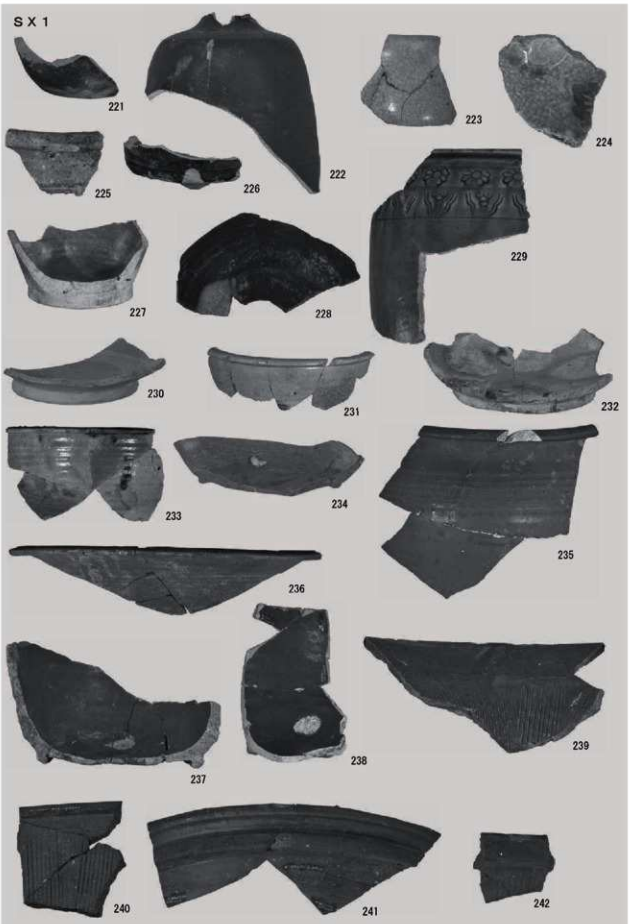
図版 36


SX1
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179

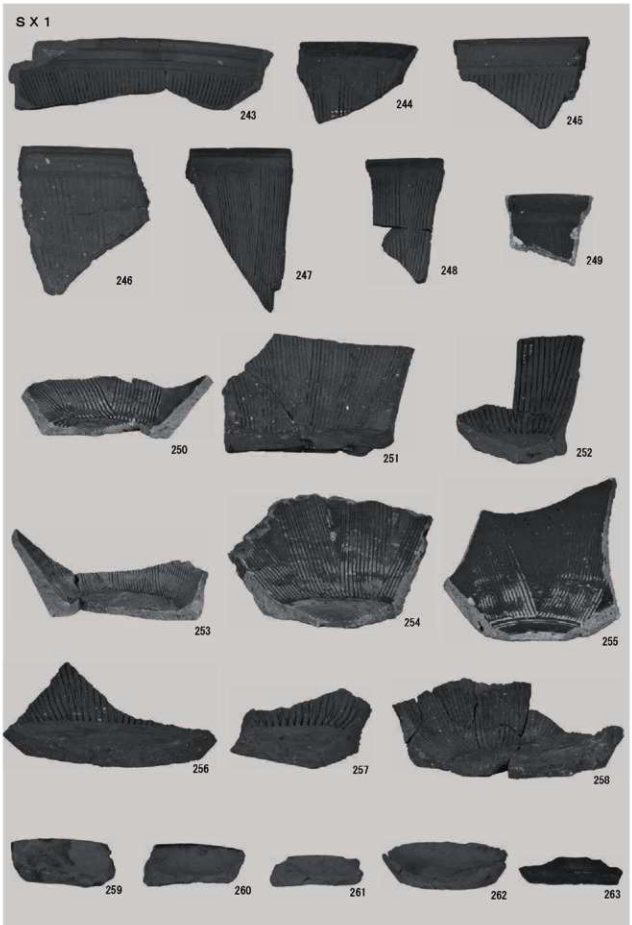
SX1
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198

図版 38

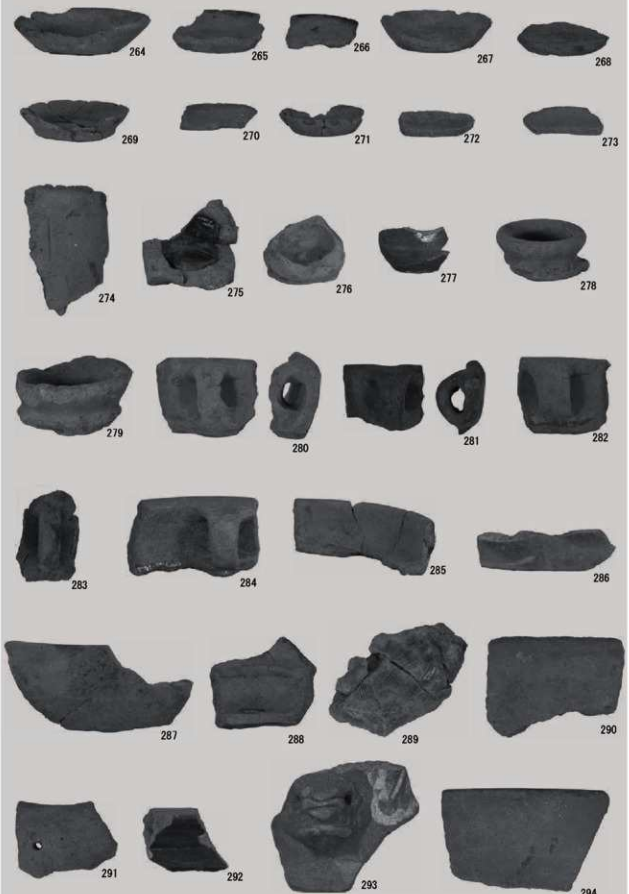

SX1
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220


SX1
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242

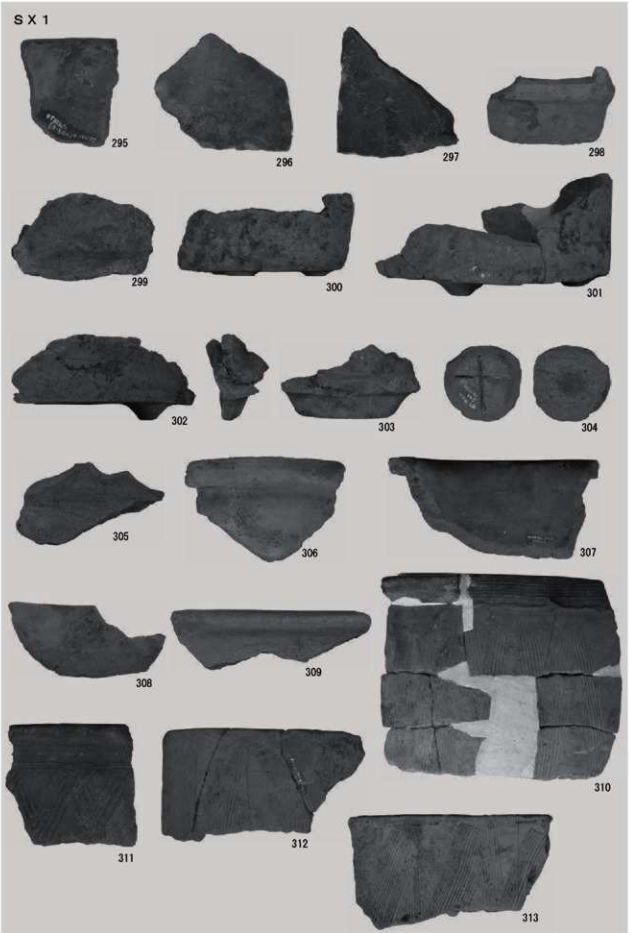
図版 40

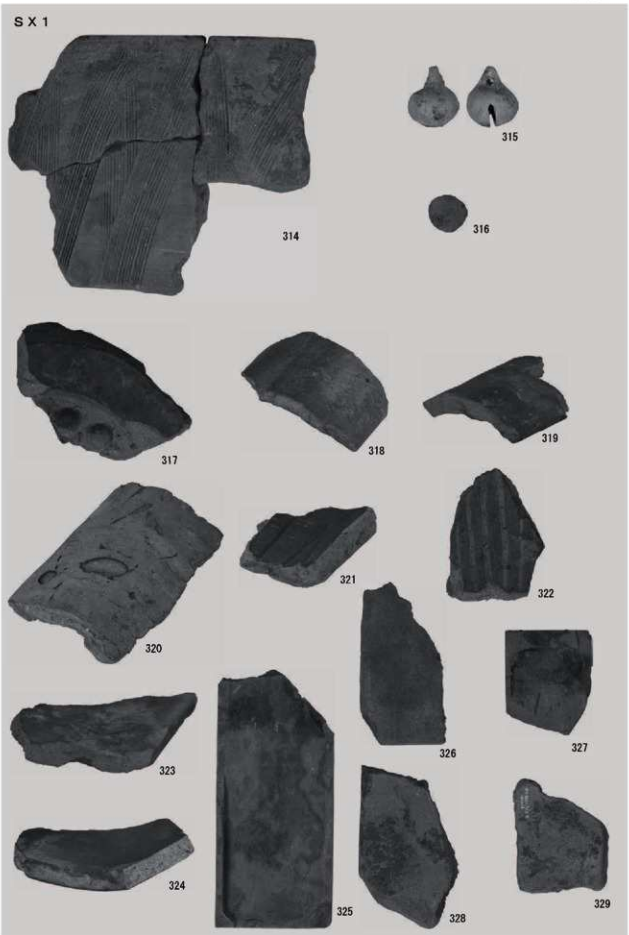

S X 1
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263

SX1

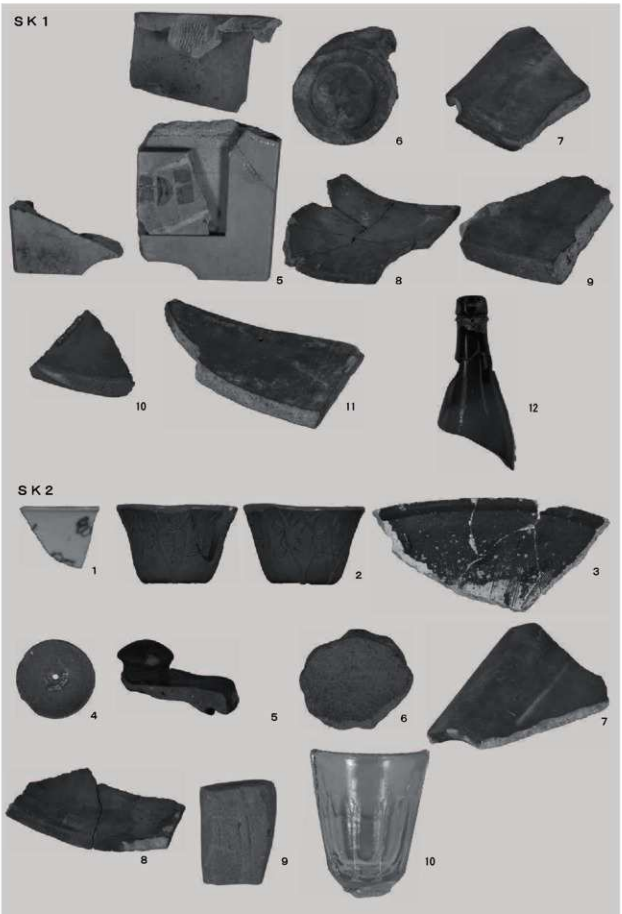

264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294

図版 42

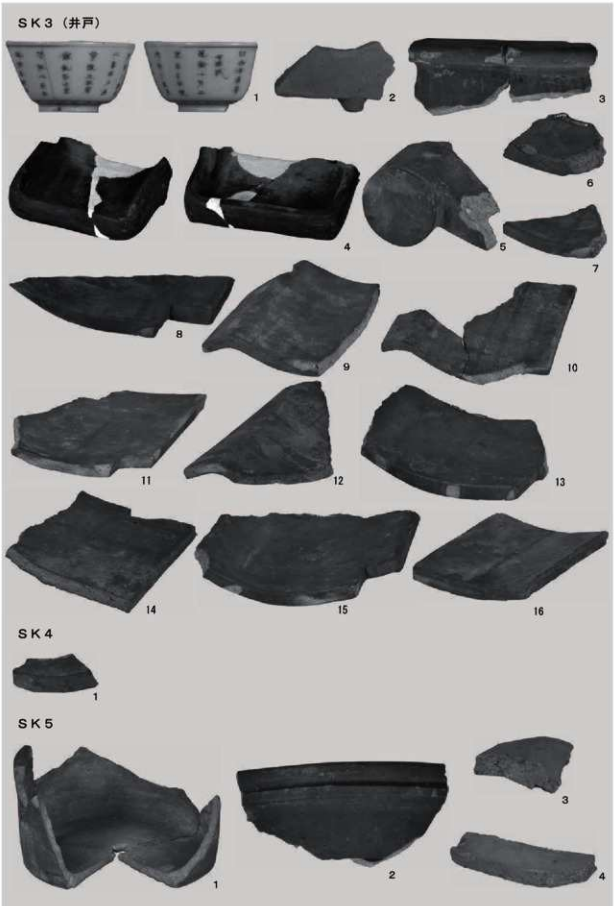

SX1
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313

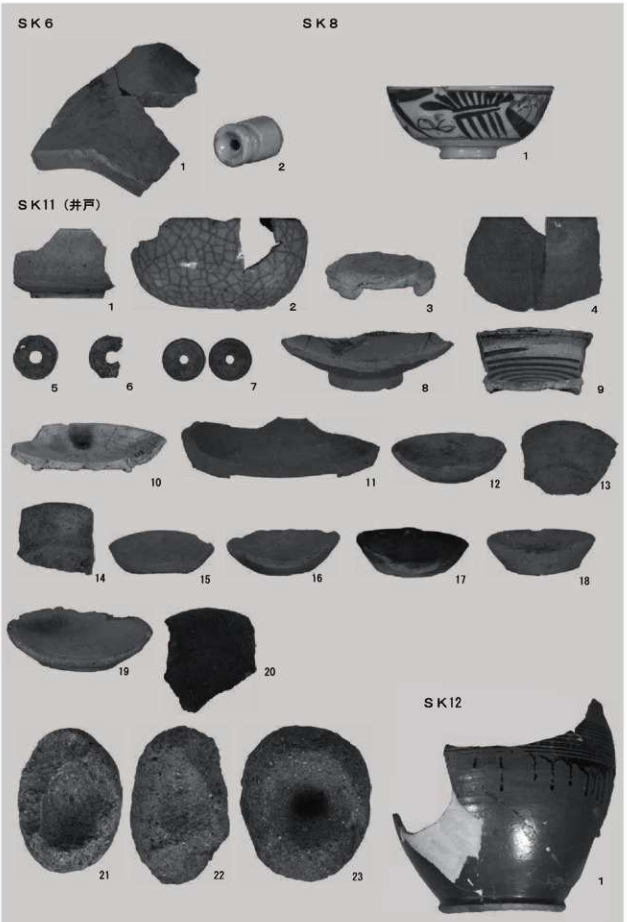

SX1
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329

図版 44

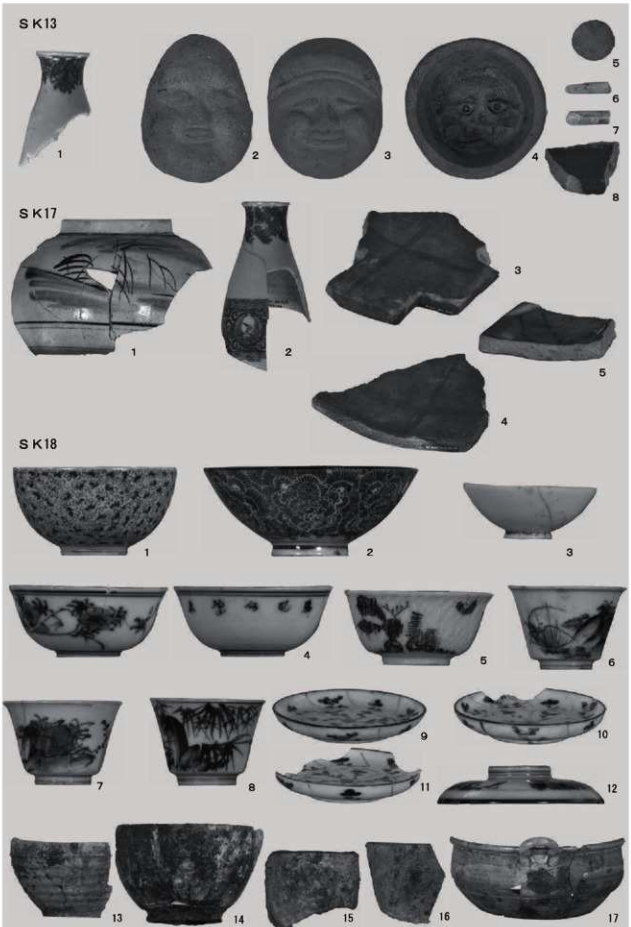

SK1
5
6
7
8
9
10
11
12
SK2
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

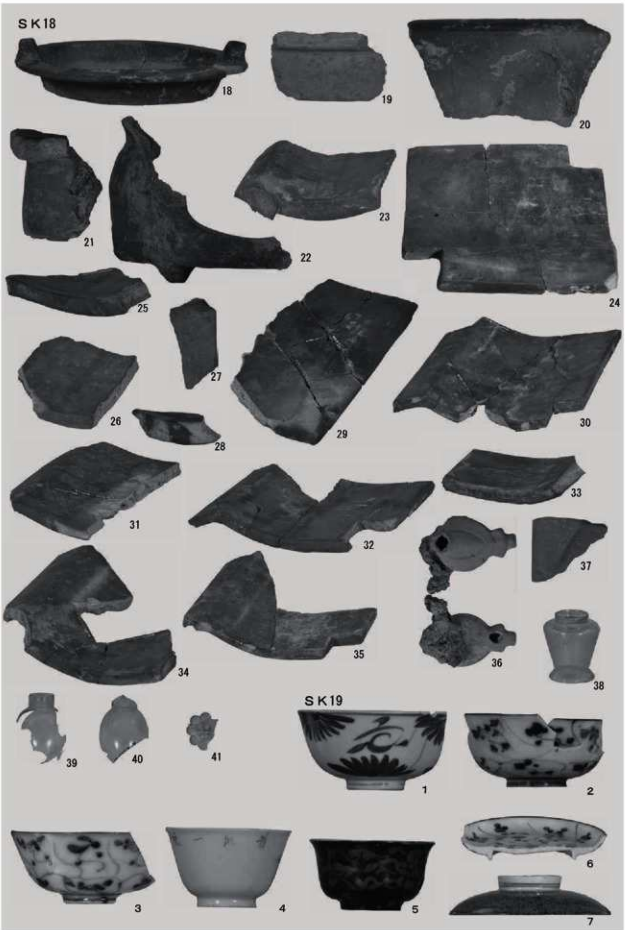
図版 46




SK6
1
2
SK8
1
SK11（井戸）
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
SK12
1

図版 48


SK13
1
2
3
4
5
6
7
8
SK17
1
2
3
4
5
SK18
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17


SK18
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
SK19
1
2
3
4
5
6
7

図版 50

ＳＫ19
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
ＳＫ20
ＳＫ22（埋桶）
1
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14

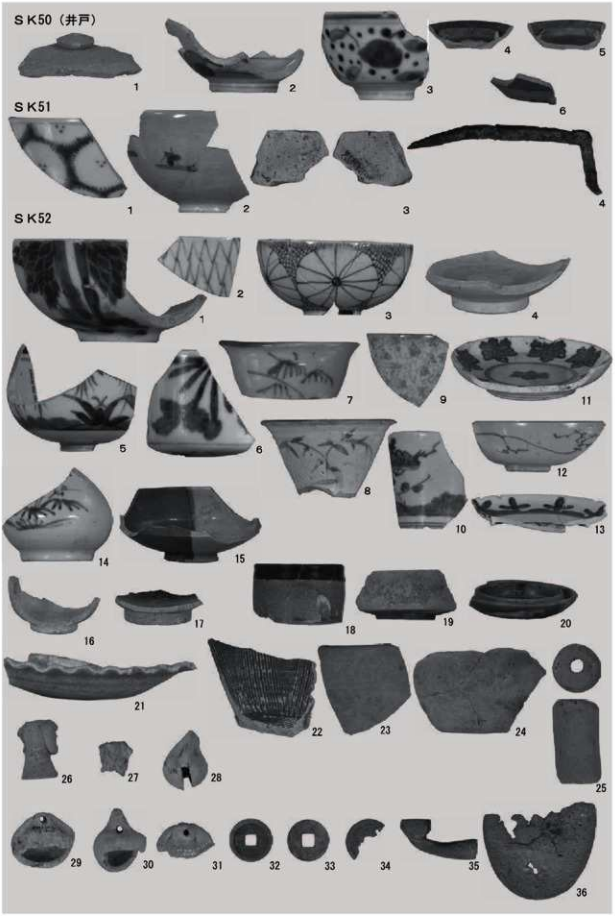
S K23
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
A
A
B
B
16
17
18
19
20
21
22
23
24

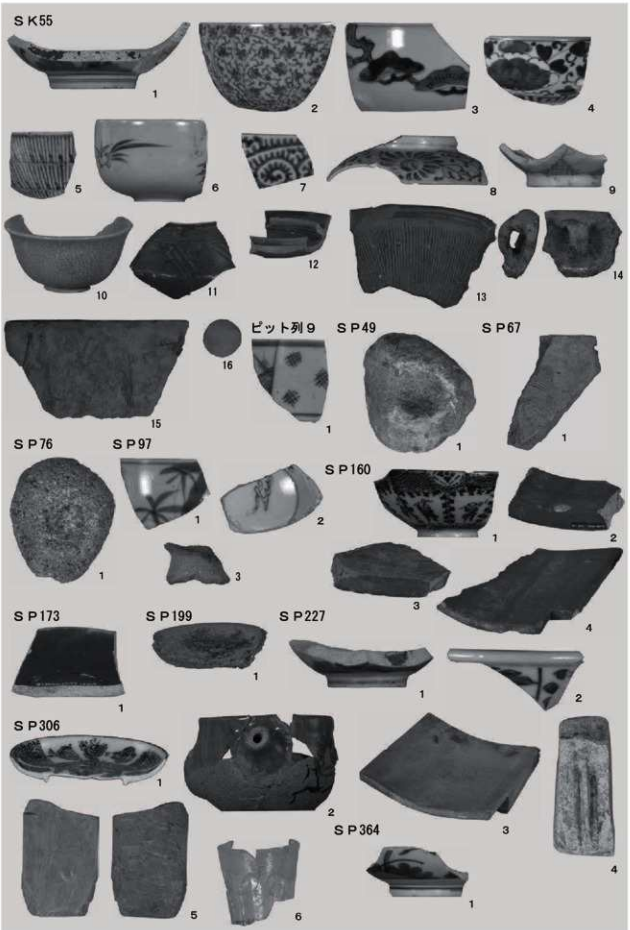
図版 52

SK24
SK25（埋甕）
SK26
SK31
SK33（埋桶）
SK35（埋桶）
SK36
SK38
SK40
SK41
SK42
SK43（井戸）
SK44
SK45（埋桶）
SK46

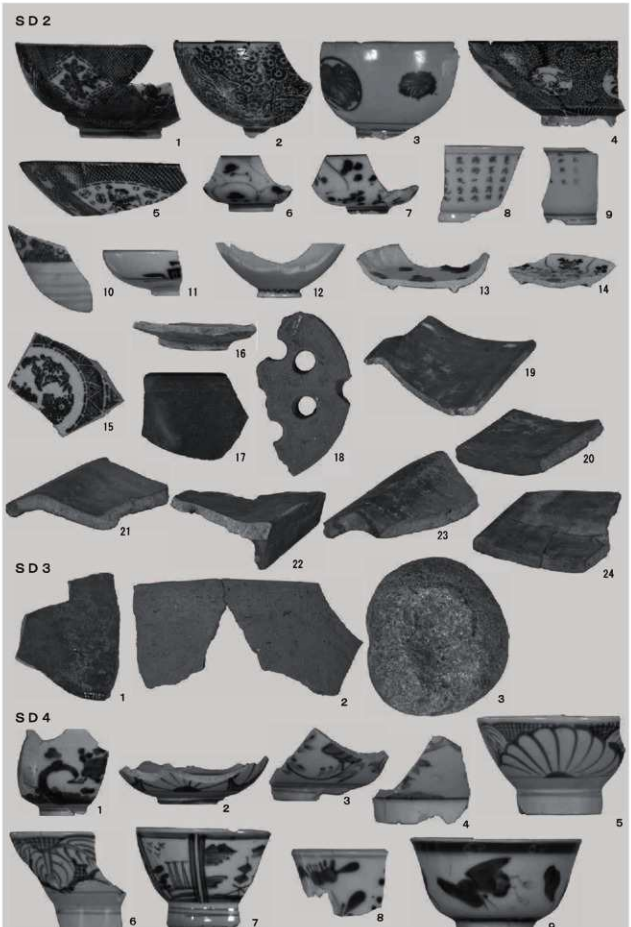
SK47
1
2
3
4
5
6
SK48
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

図版 54


SK50（井戸）
1
2
3
4
5
6
SK51
1
2
3
4
SK52
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

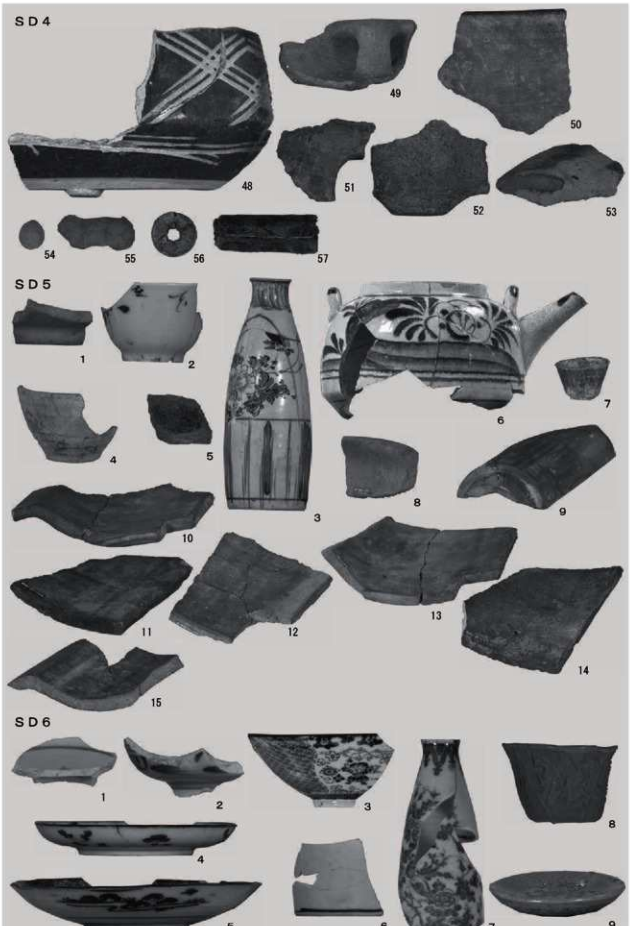

SK55
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
ピット列9
16
1
SP49
1
SP67
1
SP76
1
SP97
1
2
3
SP160
1
2
3
4
SP173
1
SP199
1
SP227
1
2
SP306
1
2
3
4
5
6
SP364
1

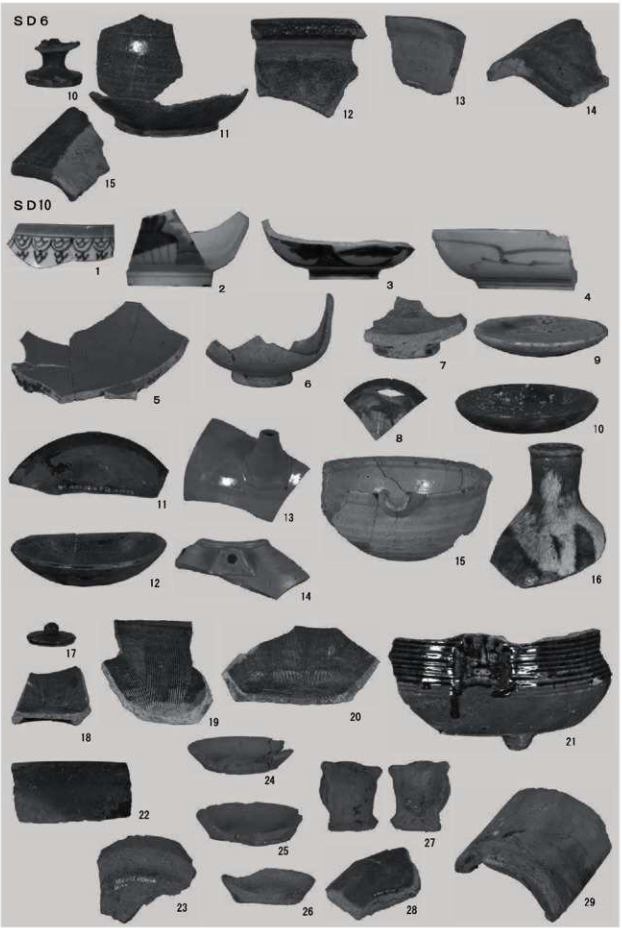
図版 56


SD2
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
SD3
1
2
3
SD4
1
2
3
4
5
6
7
8
9

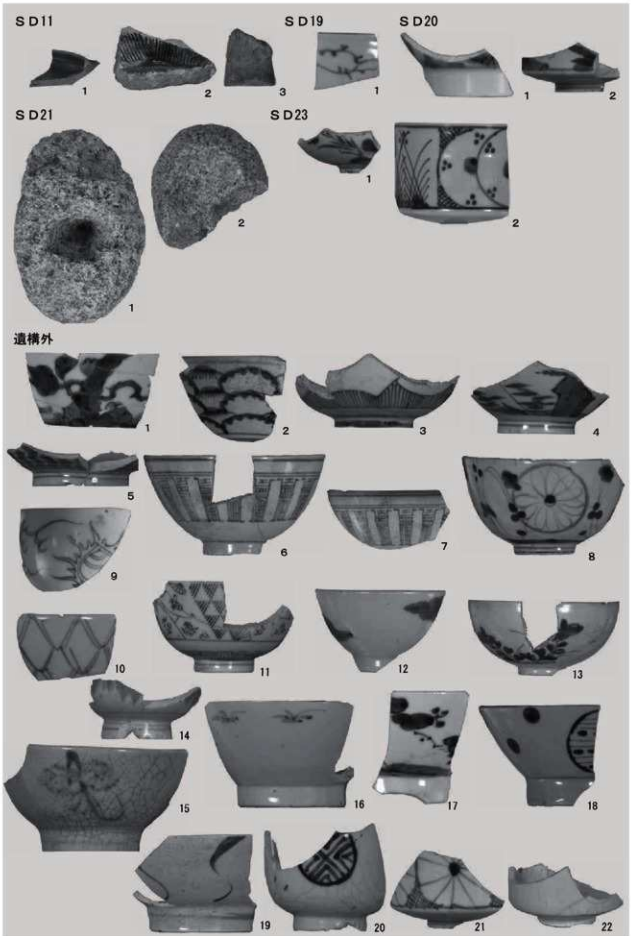
SD4
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47

図版 58


SD4
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
SD5
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
SD6
1
2
3
4
5
6
7
8
9


SD6
10
11
12
13
14
15
SD10
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29

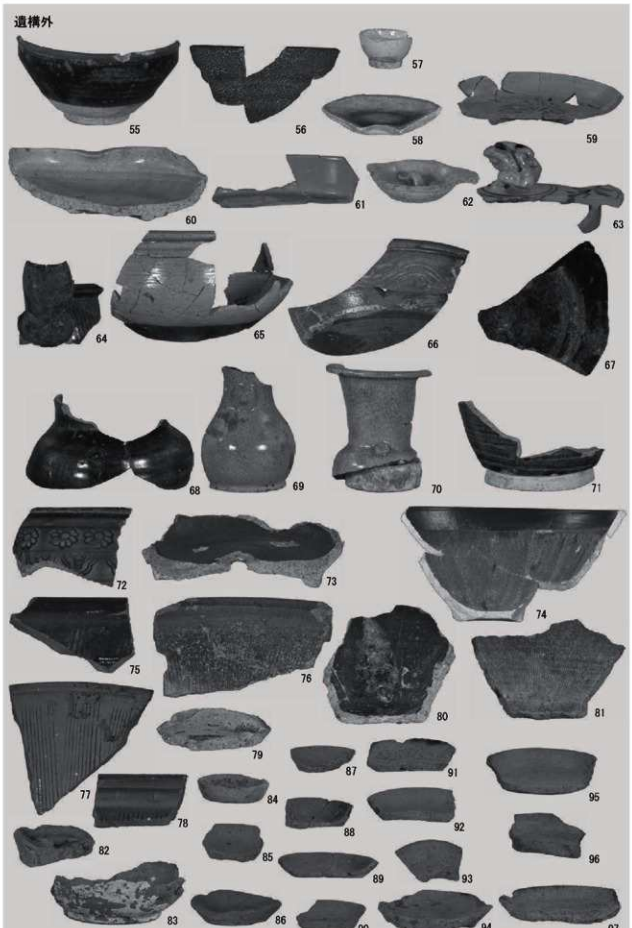
図版 60


SD11
1
2
3
SD19
1
SD20
1
2
SD21
1
2
SD23
1
2
遺構外
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

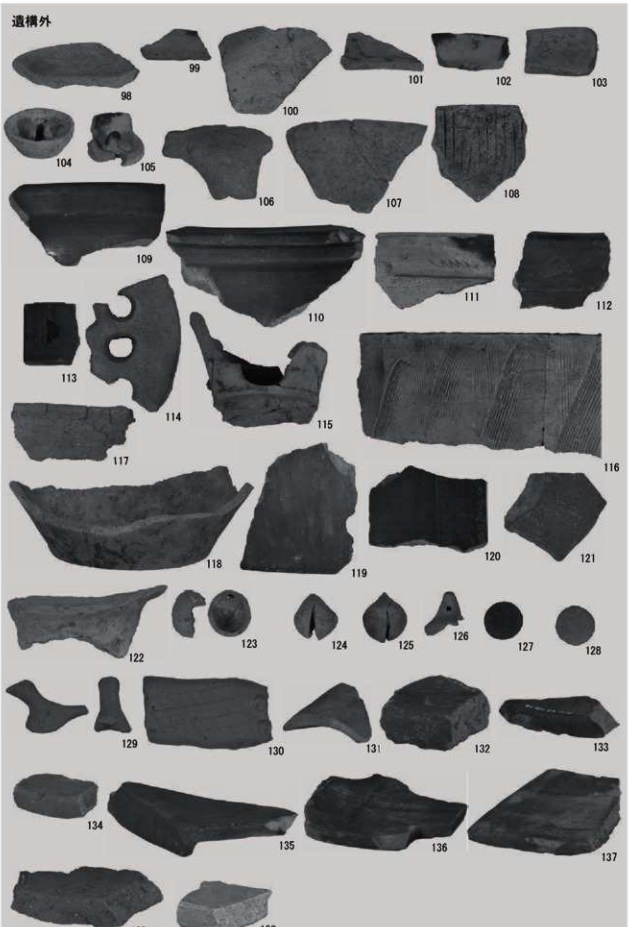
遺構外

23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54

図版 62


遺構外
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97

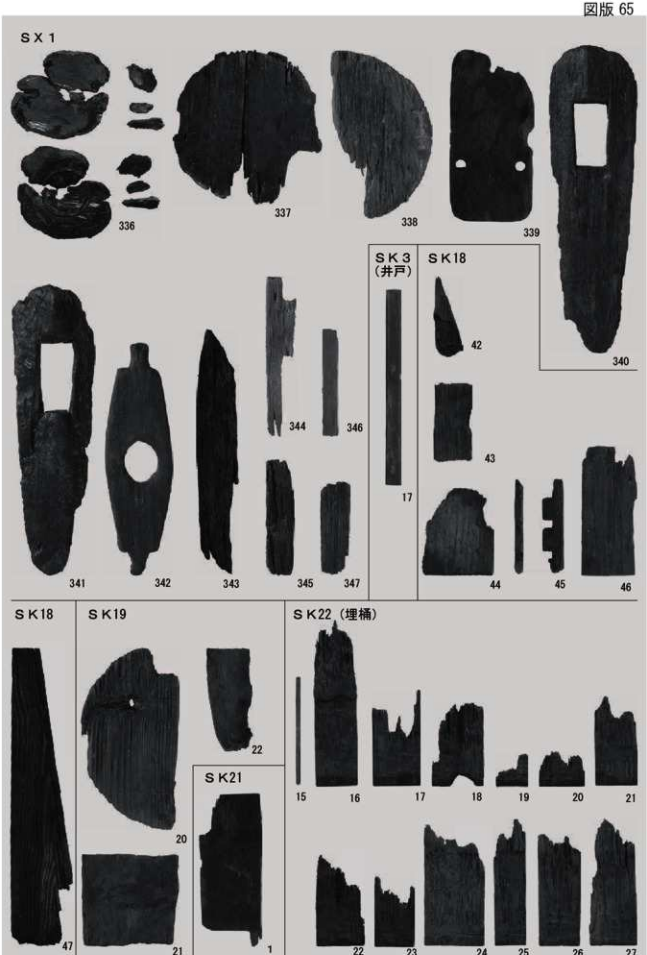
遺構外


98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139

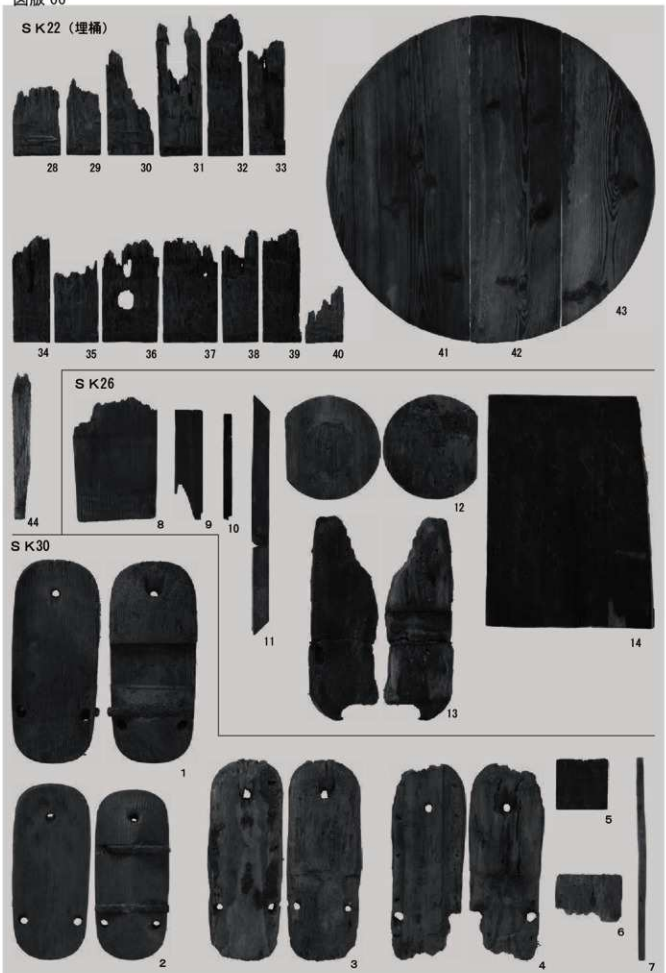
図版 64

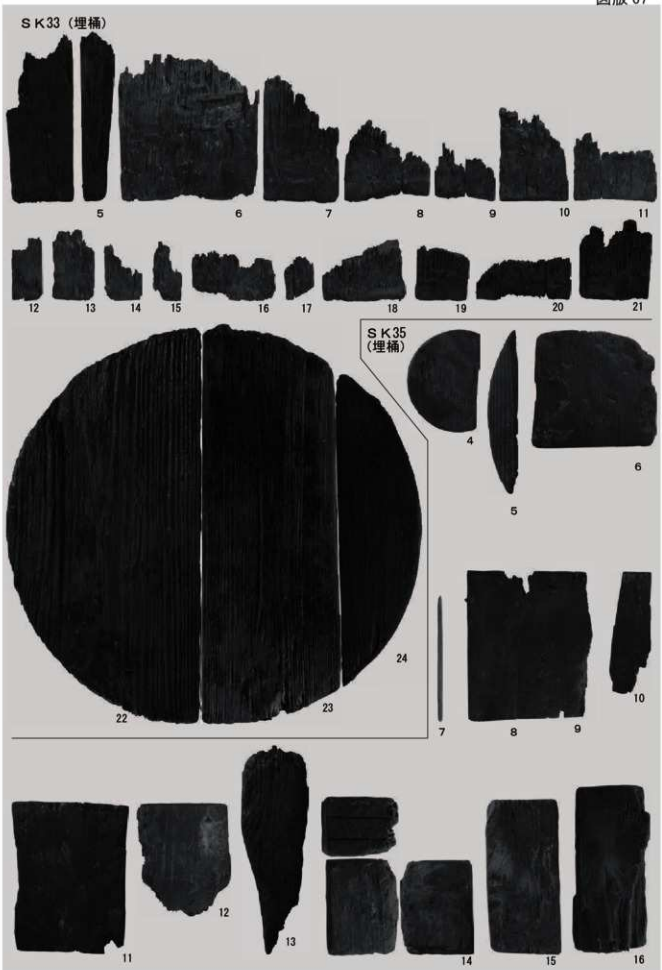
遺構外

140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165

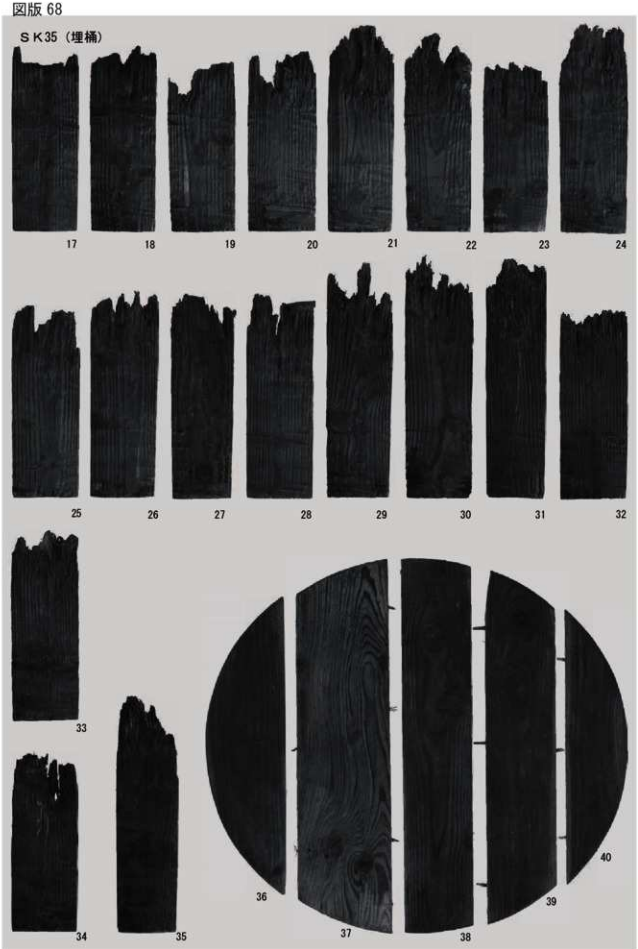

ＳＸ１
336
337
338
339
340
ＳＫ３
（井戸）
17
ＳＫ18
42
43
44
45
46
341
342
343
344
345
346
347
ＳＫ18
47
ＳＫ19
20
21
22
ＳＫ21
1
ＳＫ22（埋桶）
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27

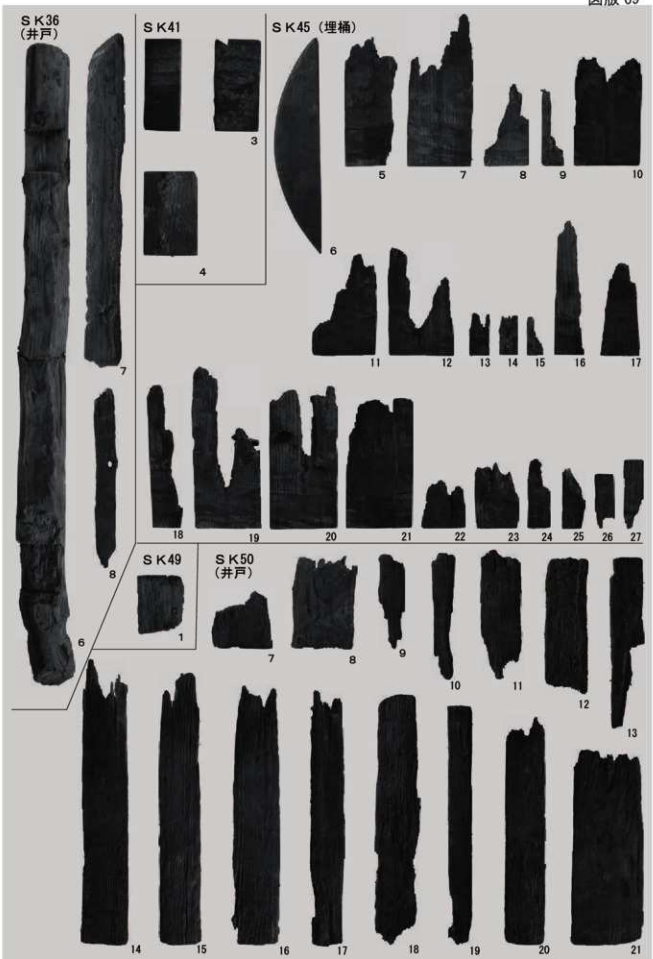
図版 66


ＳＫ22（埋桶）
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
ＳＫ26
44
8
9
10
11
12
13
14
ＳＫ30
1
2
3
4
5
6
7

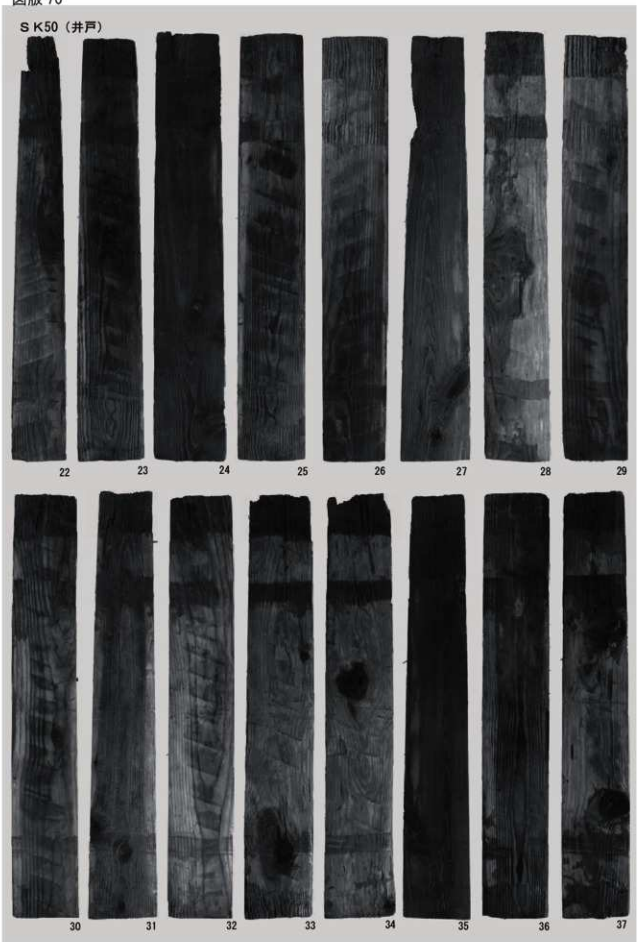

ＳＫ33（埋桶）
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
ＳＫ35
（埋桶）
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
22
23
24

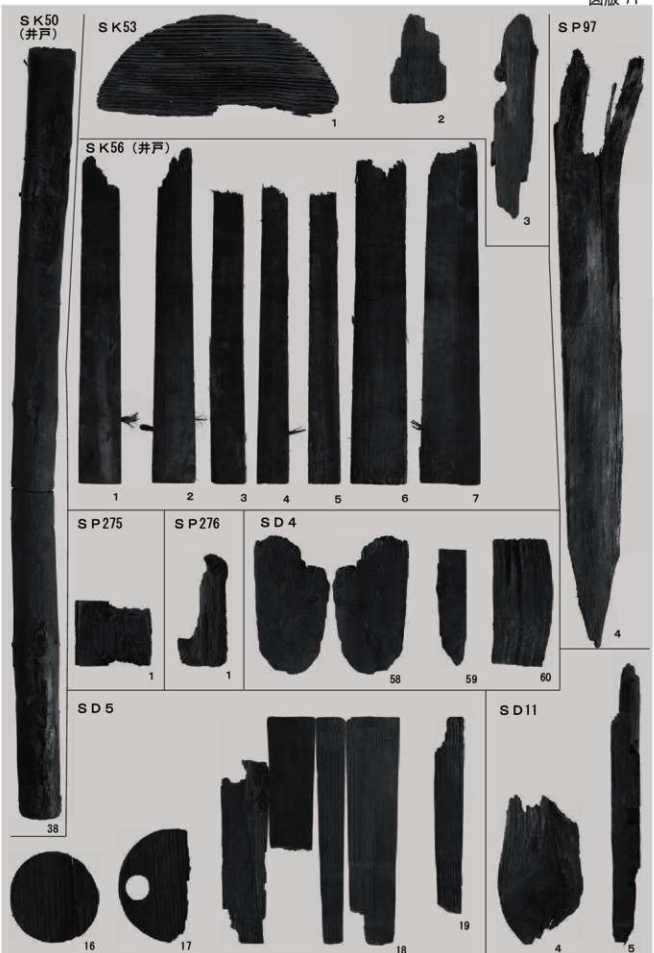
図版 68


ＳＫ35（埋桶）
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40


SK36
(井戸)
SK41
SK45 (埋桶)
SK49
SK50
(井戸)

図版 70




SK50
(井戸)
38
SK53
1
2
3
SK56 (井戸)
1
2
3
4
5
6
7
SP97
4
SP275
1
SP276
1
SD4
58
59
60
SD5
16
17
18
19
SD11
4
5

報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき
書　名	甲府城下町遺跡ⅩⅣ
副書名	甲府市相生２丁目 226 番地他　公共福祉施設建設に伴う旧相生小学校地点発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告 75
シリーズ番号	75
著者名	志村憲一・泉　英樹・小谷亮二
編集機関	甲府市教育委員会
所在地	〒400-8585　山梨県甲府市丸の内１丁目 18 番１号　TEL055-223-7324
発行年月日	平成 27（2015）年　3 月 13 日

ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経		(㎡)	
甲府城下町遺跡	山梨県甲府市相生２丁目 226 番地他	19201	253	35	138	試掘調査 2013.8.21 ～ 8.23 本調査 2013.11.11 ～ 2014.3.20	1,760	保健福祉センター建設
				65	56			
				56	75			

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲府城下町遺跡	城下町	近世 近代	遺物集中地点・建物跡・井戸・埋桶・土坑・ピット列・溝状遺構	磁器・陶器・土器・瓦・土製品・木製品・石製品・金属製品・骨角製品	地鎮具・鍛冶関連遺物が出土

要　約	本遺跡は、甲府市相生２丁目 226 番地他に所在し、甲府城下町遺跡の二の堀の外の武家屋敷地に該当する。発掘調査では、建物跡や井戸、埋桶などの遺構が検出され、江戸時代後半から近代にかけての遺物が出土した。地鎮具とみられる灯明受皿と水晶のセットや金属加工に使用されたと見られる陶器の碗形容器、フイゴ羽口などの鍛冶関連遺物も出土している。

甲府市文化財調査報告 75

甲府城下町遺跡ⅩⅣ

（甲府市相生２丁目 226 番地他）

－公共福祉施設建設に伴う旧相生小学校地点発掘調査報告書－

平成 27 年３月 13 日

発　行　甲府市

甲府市教育委員会

〒 400-8585　山梨県甲府市丸の内１丁目 18 番１号

TEL055(223)7324　FAX055(233)7331

編　集　甲府市教育委員会

昭和測量株式会社

〒 400-0032　山梨県甲府市中央３丁目 11 番 27 号

TEL055（235）4448　FAX055（235）5665

印　刷　株式会社　内田印刷所

〒 400-0032　山梨県甲府市中央２丁目 10 番 18 号

TEL055（233）0188　FAX055（233）0180